

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書

平成 27 年(2015 年)

愛媛県感染症情報センター

(愛媛県立衛生環境研究所)

はじめに

平成 27 年（2015 年）の愛媛県感染症発生動向調査事業をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

平素から当事業へのご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げますとともに、ご一読の上、ご助言、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という）に基づき、感染症の患者発生及び原因病原体を把握・分析することにより、感染症を予防し、流行拡大を防止することを目的としています。近年、健康危機管理における各種感染症対策の重要性が増大していることを鑑み、平成 26 年 11 月に感染症法が改正され、感染症に関する情報の収集体制の強化が図られました。改正法では、知事（緊急時は厚生労働大臣）は、全ての感染症の患者等に対し検体の採取等に応じること、また、医療機関等に対し保有する検体を提出すること等を要請できる旨が規定されました。法に基づいた病原体検査が開始されることとなり、新しい時代に入りました（平成 28 年 4 月 1 日より施行）。

本報告書に示すように、平成 27 年に愛媛県では、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌感染症が例年より多く発生し、インフルエンザ、手足口病等についても前年より多く発生しており、感染症問題は依然として最重要課題の一つです。また、平成 27 年の WHO 総会で、薬剤耐性に関するグローバルアクションプランが採択され、加盟各国は 2 年以内に薬剤耐性に関する国家行動計画を策定することを求められております。

このような感染症発生動向調査事業の重要性をご理解いただきますとともに、関係各位と感染症情報センターとのより一層の緊密な情報網の構築に努めてまいりますので、今後ともご協力ならびにご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 12 月

愛媛県立衛生環境研究所

所長 四宮博人

目 次

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要	1
指定届出機関一覧	4
2015年(平成27年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -	
報告週対応表	6
1 全数把握対象 ー 五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症	
(1) 一類感染症	7
(2) 二類感染症	7
(3) 三類感染症	7
(4) 四類感染症	9
(5) 五類感染症	13
(6) 新型インフルエンザ等感染症	21
表2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)	22
表2-1-2 2015年全数把握対象疾患発生状況(月別)	23
表2-1-3 2015年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)	24
表2-1-4 2015年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)	25
2 定点把握対象 五類感染症	
(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況	26
表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数	28
表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数	30
表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	32
表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数	33
表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり患者報告数	34
表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	35
(2) インフルエンザ定点対象疾患(週報)	36
(3) 小児科定点対象疾患(週報)	40
(4) 眼科定点対象疾患(週報)	66
(5) 基幹定点対象疾患(週報)	70
(6) STD定点対象疾患(月報)	78
(7) 基幹定点対象疾患(月報)	84
2015年(平成27年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -	
1 細菌検査状況	87
(1) 全数把握対象感染症	87
(2) 定点把握対象感染症	91
2 ウイルス検査状況	94
(1) 全数把握対象感染症	94
(2) 定点把握対象感染症	95

2015年(平成27年)結核登録者情報

1 概況	107
2 新登録患者の状況	107
(1) 患者数及び罹患率の動向	107
(2) 性・年齢階級別	108
(3) 保健所別	109
(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者数の動向	110
(5) 発見の遅れ	111
3 年末現在結核登録者の状況	112
表4-1 2015年新登録患者数 - 保健所別	113
表4-2 2015年新登録患者数 - 性、年齢階級別	113
表4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	114
表4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	114
表4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	114
表4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	114
表4-7 2015年新登録患者数 - 結核病類、性、年齢階級別	115
表4-8 2015年新登録肺結核患者数 - 職業、菌情報、保健所別	116
表4-9 2015年新登録患者数 - 発見方法別	117
表4-10 2015年新登録有症状肺結核患者数 - 発見の遅れの期間別	117
表4-11 2015年新登録患者数 - 化療内容、保健所別	118
表4-12 2015年年末現在登録者数 - 保健所別	120
表4-13 2015年年末現在登録者数 - 性、年齢階級別	120

参考資料

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱	121
愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱	132
愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領	134
感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律 第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について(届出基準等通知)	142

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

本事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号)に基づく施策として、「愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱」(平成13年1月施行)の定めにより実施しているもので、指定届出機関(定点)からの感染症の患者発生に関する情報(患者情報)及び疑似症の患者発生に関する情報(疑似症情報)と、感染症の病原体に関する情報(病原体情報)を迅速かつ的確に収集及び分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ確かな感染症対策の確立に資することを目的としている。

対象疾患は一類から五類感染症までの110疾患に、新型インフルエンザ等感染症及び疑似症の各2疾患を加えた114疾患である。このうち全医療機関を対象とする全数把握感染症は、一類から四類感染症までの62疾患と五類感染症のうち22疾患に、新型インフルエンザ等感染症2疾患を加えた86疾患で、定点が報告する定点把握感染症は、五類感染症のうち26疾患(週単位あるいは月単位で報告)に疑似症2疾患(患者発生時に直ちに報告)を加えた28疾患である。

1 全数把握の対象(86疾患)

(1) 一類感染症(7疾患)

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

(2) 二類感染症(7疾患)

急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)*、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)*

*:平成27年1月21日から届出対象(平成27年1月20日までは指定感染症として届出)

(3) 三類感染症(5疾患)

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス

(4) 四類感染症(43疾患)

E型肝炎、ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

(5) 五類感染症(22疾患)

アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、先天性風しん症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

(6) 新型インフルエンザ等感染症(2疾患)

新型インフルエンザ、再興型インフルエンザ

2 定点把握の対象(28 疾患)

(1) 五類感染症(26 疾患)

インフルエンザ定点の対象(1 疾患)

インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)

小児科定点の対象(11 疾患)

R S ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

眼科定点の対象(2 疾患)

急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎

STD 定点の対象(4 疾患)

性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症

基幹定点の対象(8 疾患)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)、クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

(2) 疑似症(2 疾患)*

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、発熱及び発しん又は水疱

*: いずれも当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く

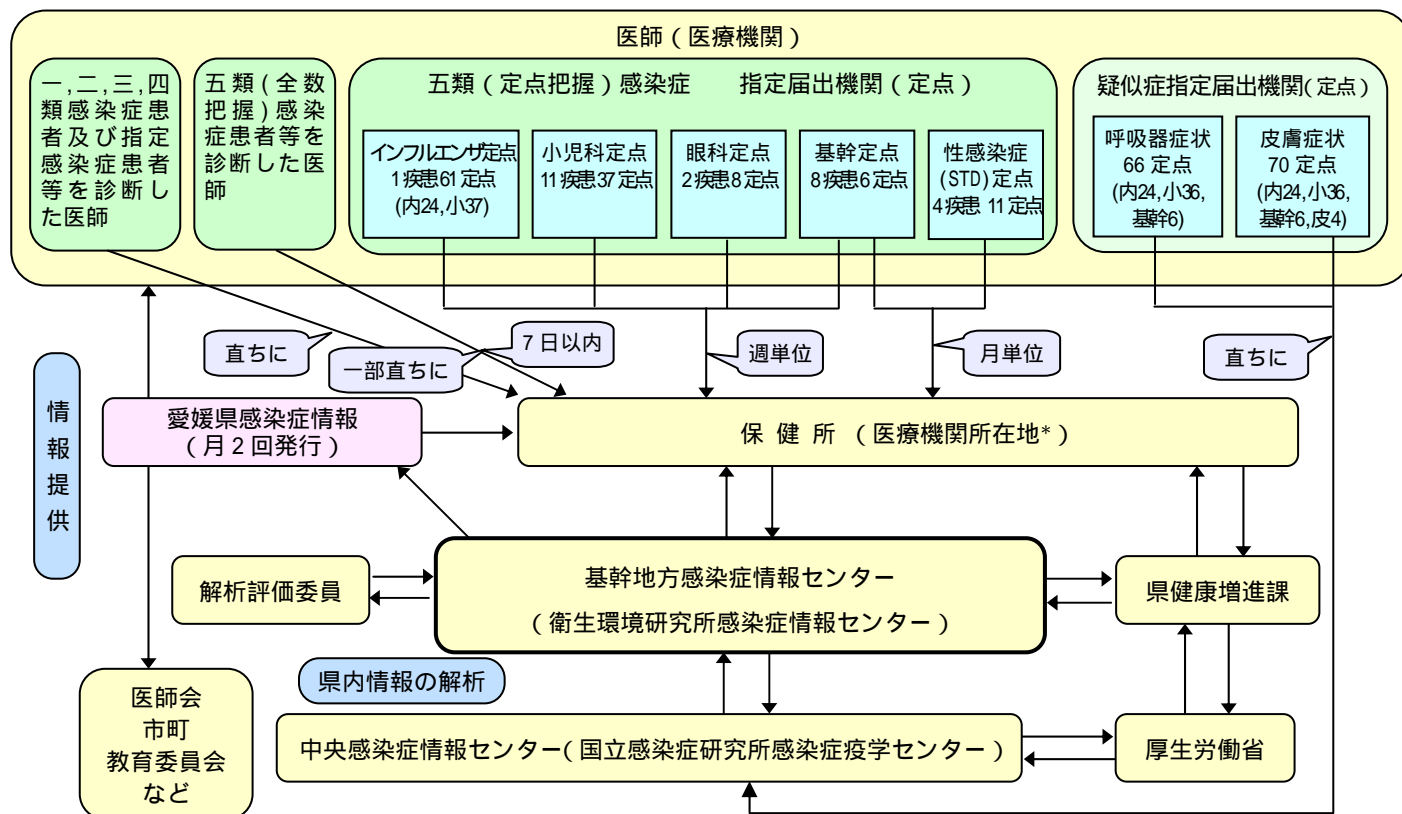
定点には患者定点と疑似症定点、病原体定点がある。患者定点はインフルエンザ定点(内科と小児科)、小児科定点、眼科定点、性感染症(STD)定点(皮膚科、泌尿器科、婦人科)、基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)の5種類であり、疑似症定点は第一号疑似症定点(内科と小児科)と第二号疑似症定点(内科、小児科、皮膚科)の2種類である。それぞれ、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されている。また、患者定点の中から病原体定点を設定し、病原体の分離等の検査情報を収集している。

表 保健所別定点数

保健所	患者定点					疑似症定点		病原体定点
	インフルエンザ	小児科	眼科	性感染症(STD)	基幹	第一号	第二号	
四国中央	5	3	—	1	1	6	6	2
西条	10	6	1	2	1	11	12	3
今治	8	5	1	1	1	9	10	3
松山市	17	11	3	4	—	17	17	4
中予	7	4	1	1	1	8	8	3
八幡浜	7	4	1	1	1	8	9	3
宇和島	7	4	1	1	1	7	8	2
合計	61	37	8	11	6	66	70	20

※ 小児科定点はインフルエンザ定点を兼ねる。

医療機関からの患者情報は保健所を通じて基幹地方感染症情報センター（衛生環境研究所感染症情報センター）へ集約され、中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター）へ報告するとともに関係機関へ週報単位で還元している。疑似症情報については中央感染症情報センターに集約された情報を随時解析し関係機関へ還元している。また月2回、解析評価委員による県内情報の解析・評価が行われ、その結果を「愛媛県感染症情報」として関係機関に提供している。これらの情報はホームページでも公開している。



* 但し、結核については患者等住所地

図 平成 27 年（2015 年）愛媛県における感染症発生動向調査事業のながれ

指定届出機関一覧(平成27年)

(平成27年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点
四国中央	インフルエンザ	川関高橋医院	四国中央市金生町下分257	
		矢野内科	四国中央市三島宮川4丁目6-71	
	小児科	川上こどもクリニック	四国中央市金生町山田井895-2	
		鈴木医院	四国中央市土居町小林1200	○
		ふじえだファミリークリニック	四国中央市中曾根町5074	
	STD	大西泌尿器科クリニック	四国中央市中曾根366-1	
基幹	四国中央病院	四国中央市川之江町2233	○	
西条	インフルエンザ	井石内科医院	新居浜市西原町1-1-65	
		土岐医院	西条市神拝甲538-6	○
		中萩診療所	新居浜市萩生1061	
		福田医院	西条市丹原町願連寺278	
	小児科	かとうクリニック	新居浜市船木甲4322-2	
		キッズクリニックパパ	西条市周布486-3	
		県立新居浜病院	新居浜市本郷3丁目1-1	
		しおだこどもクリニック	新居浜市中村松木2丁目8-18	
		高橋こどもクリニック	西条市朔日市313-5	○
		星加小児科内科ファミリークリニック	西条市大町612-1	
	眼科	鈴木眼科	新居浜市庄内町1丁目8-30	
	STD	西条市立周桑病院	西条市壬生川131	
		なめだ皮膚科医院	新居浜市一宮町2丁目3-48	
	基幹	住友別子病院	新居浜市王子町3-1	○
今治	インフルエンザ	重見内科医院	今治市国分3丁目13-45	
		消化器科久保病院	今治市内堀1丁目1-19	
		瀬戸内海病院	今治市北宝来町2丁目4-9	
	小児科	あおい小児科	今治市東村5丁目9-37	○
		喜多嶋診療所	今治市伯方町木浦甲3449	
		丹こどもクリニック	今治市末広町3丁目4-12	
		まつい小児科	今治市八町東2丁目4-41	
	みぶ小児科	今治市北宝来町3丁目1-27		
	眼科	高木眼科病院	今治市北宝来町2丁目3-1	○
	STD	今井皮膚泌尿器科医院	今治市共栄町2丁目1-24	
基幹	県立今治病院	今治市石井町4丁目5-5	○	
松山市	インフルエンザ	今村循環器科内科	松山市古川西2丁目3-23	
		沖永内科医院	松山市北斎院町85-1	○
		しげまつ内科クリニック	松山市居相1丁目10-20	
		永山内科	松山市北梅本町666-2	
		久野内科	松山市此花町8-24	
	矢野内科	松山市東長戸1丁目10-18		
	小児科	石丸小児科	松山市三番町6丁目5-1	○
		いとう小児科	松山市土居町805-1	
		加賀田小児科	松山市古川北1丁目21-28	
		くす小児科	松山市西長戸町274-2	
河野小児科		松山市久米窪田町781-3		

(平成27年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点
松山市	小児科	児玉小児科医院	松山市桑原4丁目13-24	○
		徳丸小児科	松山市古川北3丁目4-15	
		檜垣小児科内科医院	松山市北条辻415-3	
		平井こどもクリニック	松山市和気町1丁目714-3	
		まつうら小児科	松山市愛光町1-8	
		山田小児科医院	松山市余戸中2丁目15-30	
	眼科	一色眼科	松山市小坂5丁目7-7	
		たかのみどり眼科クリニック	松山市鷹子町236-1	
		吉田眼科	松山市道後町2丁目1-12	○
	STD	NTT西日本松山病院(産婦人科)	松山市喜与町1丁目7-1	
		ほこいし泌尿器科	松山市柳井町1丁目14-8	
		松山赤十字病院(泌尿器科)	松山市文京町1	
米本産婦人科医院		松山市松末2丁目17-23		
中予	インフルエンザ	きむら内科クリニック	伊予市灘町151	
		久万高原町立病院	上浮穴郡久万高原町久万65	
		辻井循環器科内科	東温市田窪2030	○
	小児科	いのうえ小児科	東温市野田2丁目485-1	○
		宇山小児科	伊予市米湊815-6	
		みかわクリニック	上浮穴郡久万高原町上黒岩2920	
		むかいだ小児科	伊予郡松前町恵久美792-1	
	眼科	いずみだ眼科	東温市田窪2228-1	
	STD	重信クリニック	東温市志津川246-6	
	基幹	愛媛大学医学部附属病院	東温市志津川	○
八幡浜	インフルエンザ	市立大洲病院	大洲市西大洲甲570	○
		西予市立野村病院	西予市野村町野村9-53	
		三瓶病院	西予市三瓶町朝立2-1-18	
	小児科	おおむら小児科	喜多郡内子町城廻846-30	
		ごとう小児科	大洲市東大洲74-2	
		みかんこどもクリニック	八幡浜市白浜1536-5	○
		山下小児科	西予市宇和町伊賀上1656-57	
	眼科	東大洲城戸眼科	大洲市東大洲149-2	
	STD	牧野皮フ科	八幡浜市広瀬2丁目1-43	
	基幹	市立八幡浜総合病院	八幡浜市大平1-638	○
宇和島	インフルエンザ	宇和島市立吉田病院	宇和島市吉田町北小路甲217	
		粉川ファミリークリニック	南宇和郡愛南町城辺甲86	
		田中循環器科内科	宇和島市堀端町29	
	小児科	県立南宇和病院	南宇和郡愛南町城辺甲2433-1	○
		桑折小児科	宇和島市中央町1丁目10-5	
		こばやし小児科	宇和島市長堀3丁目5-12	
		市立宇和島病院	宇和島市御殿町1-1	
	眼科	阿部眼科	宇和島市堀端町1-4	
	STD	秋山医院	宇和島市堀端町1-16	
	基幹	市立宇和島病院	宇和島市御殿町1-1	○

2015 年(平成 27 年)感染症発生動向調査結果

一患者情報一

2015年(平成27年)感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
1				1	2	3	4
2	5	6	7	8	9	10	11
3	12	13	14	15	16	17	18
4	19	20	21	22	23	24	25
5	26	27	28	29	30	31	

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
27			1	2	3	4	5
28	6	7	8	9	10	11	12
29	13	14	15	16	17	18	19
30	20	21	22	23	24	25	26
31	27	28	29	30	31		

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5							1
6	2	3	4	5	6	7	8
7	9	10	11	12	13	14	15
8	16	17	18	19	20	21	22
9	23	24	25	26	27	28	

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31						1	2
32	3	4	5	6	7	8	9
33	10	11	12	13	14	15	16
34	17	18	19	20	21	22	23
35	24	25	26	27	28	29	30
36	31						

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9							1
10	2	3	4	5	6	7	8
11	9	10	11	12	13	14	15
12	16	17	18	19	20	21	22
13	23	24	25	26	27	28	29
14	30	31					

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
36		1	2	3	4	5	6
37	7	8	9	10	11	12	13
38	14	15	16	17	18	19	20
39	21	22	23	24	25	26	27
40	28	29	30				

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
14			1	2	3	4	5
15	6	7	8	9	10	11	12
16	13	14	15	16	17	18	19
17	20	21	22	23	24	25	26
18	27	28	29	30			


10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
40				1	2	3	4
41	5	6	7	8	9	10	11
42	12	13	14	15	16	17	18
43	19	20	21	22	23	24	25
44	26	27	28	29	30	31	

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18					1	2	3
19	4	5	6	7	8	9	10
20	11	12	13	14	15	16	17
21	18	19	20	21	22	23	24
22	25	26	27	28	29	30	31

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44							1
45	2	3	4	5	6	7	8
46	9	10	11	12	13	14	15
47	16	17	18	19	20	21	22
48	23	24	25	26	27	28	29
49	30						

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
23	1	2	3	4	5	6	7
24	8	9	10	11	12	13	14
25	15	16	17	18	19	20	21
26	22	23	24	25	26	27	28
27	29	30					

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
49		1	2	3	4	5	6
50	7	8	9	10	11	12	13
51	14	15	16	17	18	19	20
52	21	22	23	24	25	26	27
53	28	29	30	31			

 「愛媛県感染症情報」発行日

2015年(平成27年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 一～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として届出票に記載されていたものを示す。

(1) 一類感染症

一類感染症 7 疾患(エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱)の届出はなかった。

(2) 二類感染症

結核

結核は 203 人の届出があり、前年(237 人)から 34 人減少した。病型は、患者 162 人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症) 39 人、感染症死亡者 1 人、感染症死亡疑い者 1 人であった。性別は男性 104 人、女性 99 人で、年齢は 10 歳未満 8 人、10 歳代 2 人、20 歳代 6 人、30 歳代 10 人、40 歳代 15 人、50 歳代 20 人、60 歳代 20 人、70 歳代 37 人、80 歳代以上 85 人であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染が 83 人、その他(不明を含む)が 120 人であった。感染地域は国内 196 人(うち、県内 176 人、県外 1 人、都道府県不明 19 人)、国外 5 人(うち、中華人民共和国 2 人、大韓民国 1 人、ベトナム 1 人、アメリカ合衆国 1 人)、国内または国外 2 人(都道府県及び渡航先不明 2 人)であった。

なお、結核の動向の詳細は、結核登録者情報システムでの集計に基づき、別章(2015年(平成27年)結核登録者情報)に掲載した。

その他 6 疾患(急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

なお、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)及び鳥インフルエンザ(H7N9)は、2015年1月21日から二類感染症に指定された。

(3) 三類感染症

細菌性赤痢

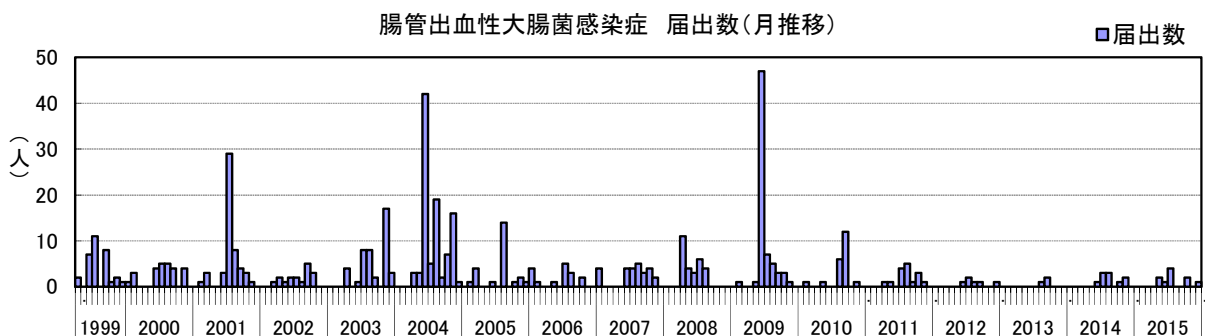
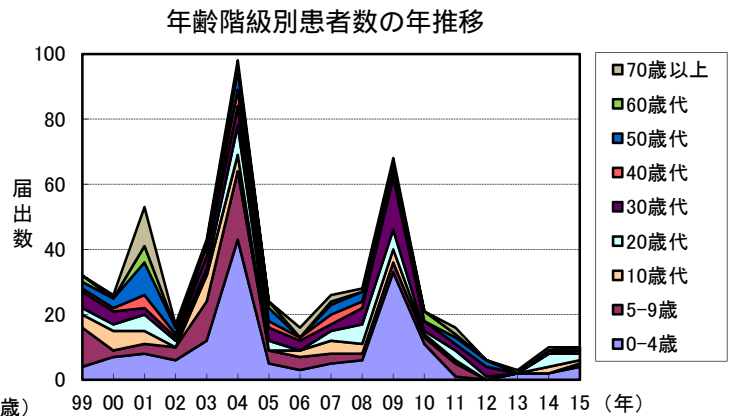
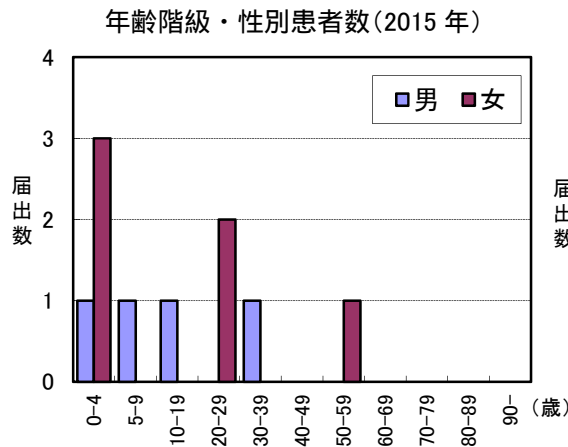
細菌性赤痢は 30 歳代男性 1 人(患者)の届出があった。検出された菌型はソンネで、感染地域は国外(インド)、感染経路は経口感染であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	菌型	感染地域
8月14日	33週	松山市	男	30歳代	発熱、下痢、腹痛	ソンネ	国外 (インド)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は6事例10人(患者6人、無症状病原体保有者4人)の届出があった。性別は男性4人、女性6人で、年齢は10歳未満5人、10歳代1人、20歳代2人、30歳代1人、50歳代1人であった。血清型及びVero毒素は、O157 VT1・VT2が4人、O26 VT1が3人、O145 VT2が2人、O157毒素型不明が1人であった。感染地域はすべて国内(県内8人、県外1人、都道府県不明1人)で、感染経路は経口感染が2人、不明が8人であった。溶血性尿毒素症候群(HUS)発症等、重症例の報告はなかった。

事例番号	診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	血清型	ベロ毒素
1	5月16日	20週	宇和島	女	10歳未満	水様性下痢、血便、発熱	O26	VT1
	5月25日	22週	宇和島	男	10歳未満	なし	O26	VT1
2	6月17日	25週	中予	男	10歳代	腹痛、血便、発熱	O157	毒素型不明
	7月10日	28週	今治	男	10歳未満	腹痛、水様性下痢、血便	O157	VT1・VT2
3	7月12日	28週	今治	女	10歳未満	なし	O157	VT1・VT2
	7月12日	28週	今治	女	50歳代	なし	O157	VT1・VT2
4	7月18日	29週	宇和島	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157	VT1・VT2
5	10月18日	42週	今治	女	20歳代	腹痛、軟便	O145	VT2
	10月23日	43週	今治	男	30歳代	なし	O145	VT2
6	12月1日	49週	宇和島	女	10歳未満	腹痛、水様性下痢、発熱	O26	VT1



その他 3 疾患 (コレラ、腸チフス、パラチフス) の届出はなかった。

(4) 四類感染症

E 型肝炎

E 型肝炎は 3 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢は 60 歳代 2 人、70 歳代 1 人であった。感染地域はすべて国内 (県内) で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染が 1 人、その他が 1 人、不明が 1 人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
1月 16日	3週	松山市	男	60歳代	肝機能異常	県内	不明
5月 15日	20週	中予	男	70歳代	発熱、黄疸、肝機能異常	県内	動物・蚊・昆虫等からの感染
5月 22日	21週	中予	女	60歳代	発熱、食欲不振、肝機能異常	県内	その他

A 型肝炎

A 型肝炎は 4 人の届出があった。性別は男性 3 人、女性 1 人で、年齢は 40 歳代 1 人、60 歳代 2 人、70 歳代 1 人であった。感染地域はすべて国内 (県内) で、感染経路はすべて経口感染であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
1月 8日	2週	松山市	男	70歳代	発熱、肝機能異常	県内	経口感染
2月 18日	8週	松山市	女	60歳代	全身倦怠感、黄疸、肝腫大、肝機能異常	県内	経口感染
3月 2日	10週	八幡浜	男	60歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常	県内	経口感染
11月 4日	45週	宇和島	男	40歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常	県内	経口感染

重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は 50 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は中予保健所管内で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であり、マダニ類による刺し口を確認した。なお、全国では 60 人の届出があった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	初診日	症状	感染地域 (保健所)	感染経路
5月 13日	20週	松山市	男	50歳代	4月 17日	発熱、頭痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、刺し口	中予	動物・蚊・昆虫等からの感染

デング熱

デング熱は30歳代女性1人の届出があり、感染地域は国外(インドネシア)で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

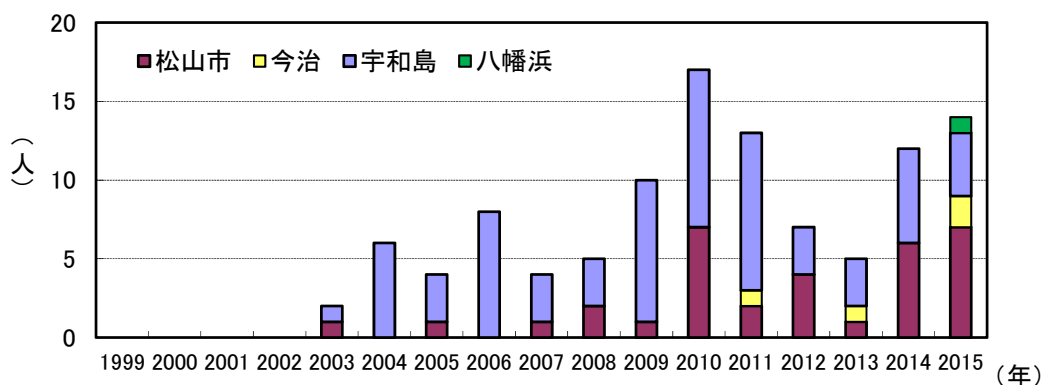
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
1月14日	3週	四国中央	女	30歳代	発熱(2日以上継続)、血小板減少、白血球減少、血清蛋白の低下	国外(インドネシア)	動物・蚊・昆虫等からの感染

日本紅斑熱

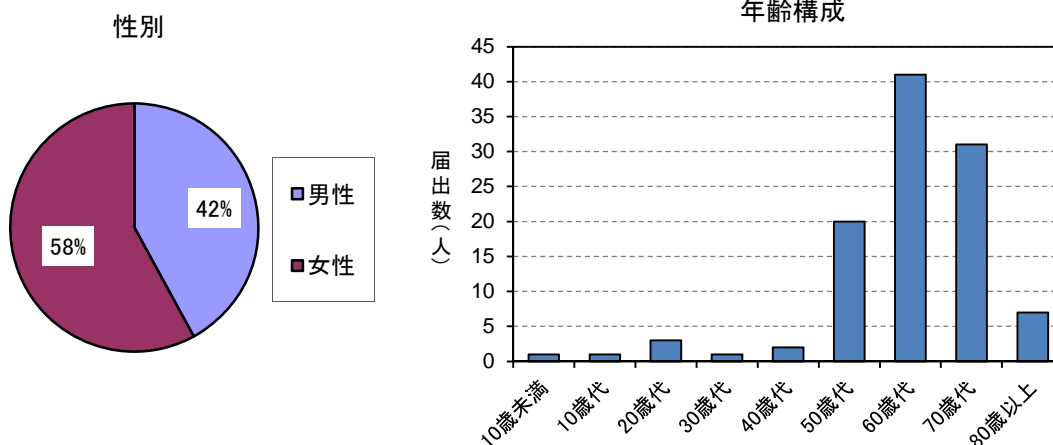
日本紅斑熱は14人の届出があった。性別は男性7人、女性7人で、年齢は20歳代1人、50歳代2人、60歳代4人、70歳代6人、80歳代1人であった。感染地域はいずれも県内(松山市保健所管内7人、宇和島保健所管内3人、今治保健所管内2人、八幡浜保健所管内2人)で、14人中11人にマダニ類による刺し口が確認された。感染症法施行(1999年4月)以降に届出された患者107人のうち、性別は男性45人(42.1%)、女性62人(57.9%)であり、年齢は50歳以上の壮高年者が99人(92.5%)を占めている。また、患者の届出は、宇和島保健所が69人(64.5%)と多く、次いで松山市保健所が33人(30.8%)、今治保健所が4人(3.7%)、八幡浜保健所が1人(0.9%)であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	初診日	症状	感染地域(保健所)	感染経路
4月23日	17週	松山市	男	70歳代	4月16日	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
5月13日	20週	宇和島	男	20歳代	4月20日	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、血小板減少	八幡浜	動物・蚊・昆虫等からの感染
5月22日	21週	松山市	男	50歳代	4月30日	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
5月26日	22週	松山市	女	70歳代	5月7日	発熱、頭痛、刺し口、発疹、全身倦怠感、血小板減少	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
6月1日	23週	松山市	女	70歳代	5月11日	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
6月11日	24週	松山市	男	70歳代	5月21日	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
6月12日	24週	今治	女	70歳代	5月20日	発熱、発疹、肝機能異常	今治	動物・蚊・昆虫等からの感染
6月12日	24週	今治	男	60歳代	5月25日	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	今治	動物・蚊・昆虫等からの感染
7月17日	29週	八幡浜	男	60歳代	7月1日	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、倦怠感、食思不振、不眠	八幡浜	動物・蚊・昆虫等からの感染
7月21日	30週	宇和島	男	60歳代	5月26日	発熱、頭痛、刺し口、発疹	宇和島	動物・蚊・昆虫等からの感染
7月21日	30週	宇和島	女	60歳代	6月11日	発熱、刺し口、発疹	宇和島	動物・蚊・昆虫等からの感染
9月17日	38週	宇和島	女	50歳代	8月27日	発熱、発疹、肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫等からの感染
9月18日	38週	松山市	女	80歳代	9月6日	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、嘔吐	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
10月19日	43週	松山市	女	70歳代	9月24日	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染

日本紅斑熱 保健所別届出数の年推移



感染症法施行(1999年4月)以降に届出された日本紅斑熱患者(107人)の内訳



マラリア症

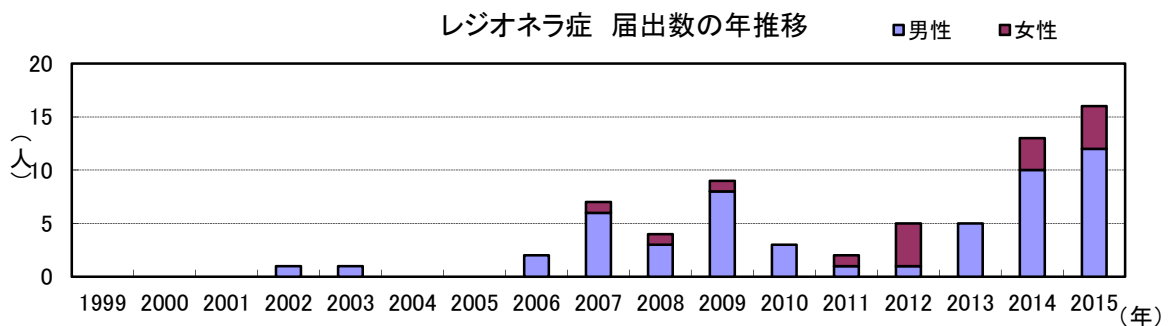
マラリアは 10 歳代男性 1 人の届出があった。病型は不明で、感染地域は国外(パキスタン)、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
10月 25日	43週	松山市	男	10歳代	不明	発熱、脾腫、血小板減少	国外(パキスタン)	動物・蚊・昆虫等からの感染

レジオネラ症

レジオネラ症は 16 人の届出があった。いずれも病型は肺炎型で、性別は男性 12 人、女性 4 人、年齢は 30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、50 歳代 3 人、70 歳代 5 人、80 歳代 4 人、90 歳代 2 人であった。感染地域は県内が 15 人(四国中央保健所管内 1 人、西条保健所管内 3 人、今治保健所管内 2 人、松山市保健所管内 5 人、中予保健所管内 1 人、八幡浜保健所管内 2 人、地域不明 1 人)、国外(マレーシア)が 1 人であった。感染経路は水系感染が 6 人、塵埃感染が 1 人、その他が 1 人、不明が 8 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域(保健所)	感染経路
2014年 12月 29日	1週	西条	男	70歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	西条	不明
2015年 1月 6日	2週	松山市	男	90歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎	松山市	不明
2月 20日	8週	中予	男	80歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、下痢、意識障害、肺炎	西条	水系感染
3月 3日	10週	松山市	男	70歳代	肺炎型	呼吸困難、肺炎	松山市	不明
3月 26日	13週	八幡浜	男	50歳代	肺炎型	発熱、肺炎	八幡浜	不明
3月 28日	13週	松山市	女	90歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	松山市	不明
6月 12日	24週	八幡浜	男	70歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、意識障害、肺炎	八幡浜	水系感染
9月 14日	38週	西条	男	80歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎	四国中央	不明
10月 6日	41週	中予	女	80歳代	肺炎型	発熱、肺炎	中予	不明
10月 13日	42週	宇和島	男	40歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎、頭痛	松山市	水系感染
10月 31日	44週	八幡浜	男	50歳代	肺炎型	発熱、肺炎	国外	その他
11月 4日	45週	中予	女	70歳代	肺炎型	呼吸困難、肺炎	県内	不明
11月 12日	46週	今治	男	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎、関節痛、下肢筋力低下	今治	水系感染
11月 27日	48週	西条	男	80歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎、関節痛	西条	水系感染
12月 14日	51週	松山市	女	30歳代	肺炎型	咳嗽	松山市	水系感染
12月 14日	51週	今治	男	50歳代	肺炎型	発熱、肺炎	今治	塵埃感染



その他 36 疾患 (ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺炎候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツ

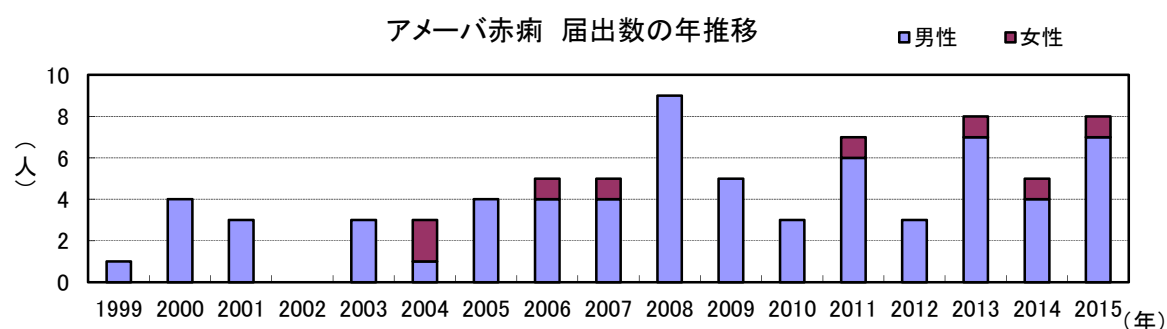
リヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキ―山紅斑熱)の届出はなかった。

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は 8 人の届出があり、病型はすべて腸管アメーバ症であった。性別は男性 7 人、女性 1 人で、年齢は 30 歳代 1 人、40 歳代 2 人、50 歳代 3 人、60 歳代 2 人であった。感染地域は国内(県内)が 7 人、国外(サウジアラビア)が 1 人で、感染経路は性的接触が 1 人、経口感染が 1 人、不明が 6 人であった。

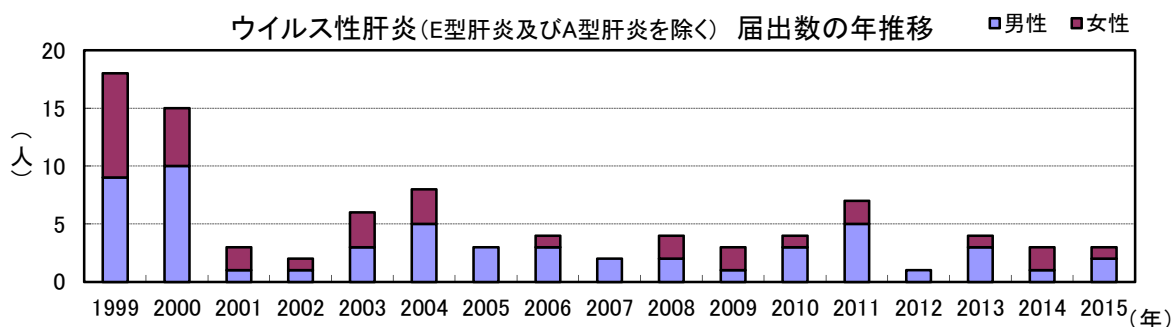
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
5月 8日	19週	今治	男	40歳代	腸管アメーバ症	粘血便	県内	性的接触
5月 20日	21週	松山市	男	60歳代	腸管アメーバ症	下痢、鼓腸、大腸粘膜異常所見	国外(サウジアラビア)	経口感染
6月 4日	23週	松山市	男	50歳代	腸管アメーバ症	下痢	県内	不明
6月 9日	24週	松山市	男	50歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見	県内	不明
6月 23日	26週	松山市	女	30歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、腹痛、大腸粘膜異常所見	県内	不明
9月 2日	36週	松山市	男	50歳代	腸管アメーバ症	なし	県内	不明
12月 21日	52週	松山市	男	40歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便	県内	不明
12月 24日	52週	八幡浜	男	60歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便	県内	不明



ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)

ウイルス性肝炎は 3 人の届出があり、病型は B 型が 2 人、その他(EB ウイルス)が 1 人であった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢は 10 歳代、20 歳代、50 歳代が各 1 人であった。感染地域はすべて国内(県内)で、感染経路は性的接触が 2 人、不明が 1 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
1月 22日	4週	松山市	女	20歳代	その他 (EBウイルス)	全身倦怠感、肝機能異常、 咽頭痛	県内	性的接触
2月 19日	8週	松山市	男	10歳代	B型	肝機能異常、黄疸	県内	不明
6月 17日	25週	中予	男	50歳代	B型	全身倦怠感、発熱、 肝機能異常	県内	性的接触



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

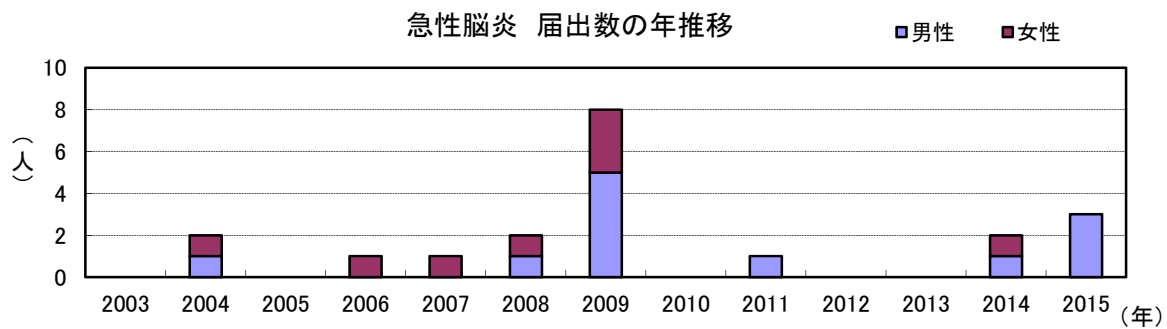
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 10 人の届出があった。性別は男性 5 人、女性 5 人で、年齢は 40 歳代 1 人、60 歳代 3 人、70 歳代 3 人、80 歳代 2 人、90 歳代 1 人であった。感染地域はすべて国内(県内)で、感染経路は以前からの保菌が 4 人、手術部位感染が 2 人、医療器具関連感染、以前からの保菌及び医療器具関連感染、その他、不明が各 1 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
6月 6日	23週	西条	男	40歳代	菌血症	県内	以前からの保菌
6月 18日	25週	四国中央	女	70歳代	その他	県内	手術部位感染
6月 28日	26週	四国中央	男	70歳代	化膿性爪周囲炎	県内	以前からの保菌
7月 30日	31週	四国中央	女	80歳代	腹膜炎	県内	医療器具関連感染
9月 6日	36週	松山市	男	60歳代	菌血症、腸閉塞、 骨盤内膿瘍	県内	手術部位感染
9月 21日	39週	四国中央	男	60歳代	尿路感染症	県内	以前からの保菌
9月 22日	39週	松山市	女	90歳代	尿路感染症、肺炎、 敗血症、発熱	県内	以前からの保菌
9月 25日	39週	今治	女	80歳代	肺炎	県内	不明
11月 3日	45週	中予	男	60歳代	敗血症	県内	以前からの保菌、 医療器具関連感染
11月 19日	47週	西条	女	70歳代	腹膜炎、敗血症	県内	その他 (腹腔内感染)

急性脳炎

急性脳炎は3人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢は10歳未満2人、10歳代1人であった。感染地域はいずれも国内(県内)で、感染経路は接触感染が1人、不明が2人であった。

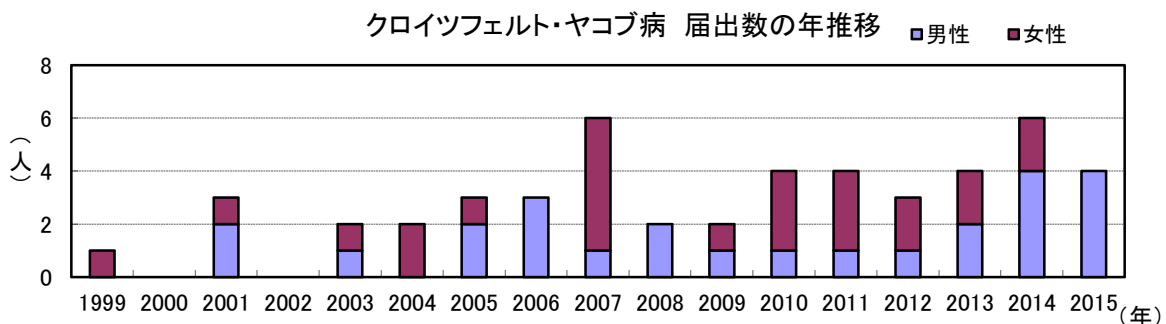
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
4月 24日	17週	松山市	男	10歳代	発熱、痙攣、意識障害	県内	不明
7月 26日	30週	松山市	男	10歳未満	発熱、痙攣、意識障害	県内	不明
8月 5日	32週	松山市	男	10歳未満	発熱、痙攣、髄液細胞数の増加、発疹	県内	接触感染



クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は4人の届出があり、病型はすべて孤発性で、診断の確実度は、ほぼ確実例が3人、疑い例が1人であった。性別はすべて男性で、年齢は60歳代1人、70歳代2人、80歳代1人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型(診断の確実度)	症状
2月 5日	6週	松山市	男	80歳代	孤発性(ほぼ確実)	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、視覚異常、記憶障害、精神・知能障害、筋強剛
9月 4日	36週	中予	男	70歳代	孤発性(ほぼ確実)	進行性認知症、錐体路症状、視覚異常
10月 23日	43週	中予	男	70歳代	孤発性(ほぼ確実)	進行性認知症、ミオクローヌス、視覚異常、無動性無言状態、記憶障害
11月 13日	46週	中予	男	60歳代	孤発性(疑い)	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、無動性無言状態、筋強剛

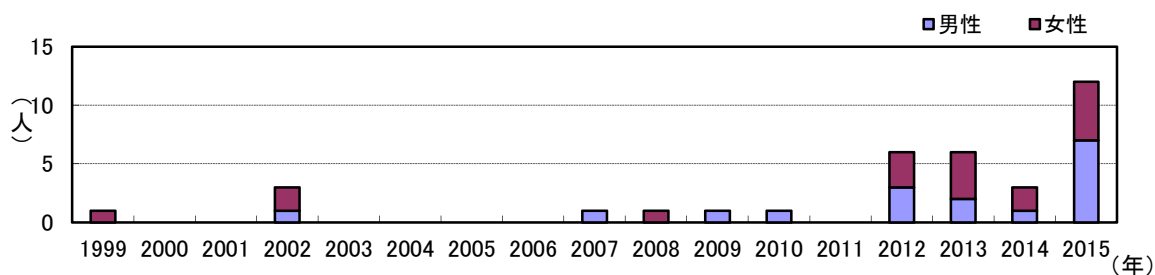


劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は12人の届出があった。性別は男性7人、女性5人で、年齢は30歳代1人、60歳代2人、70歳代5人、80歳代4人であった。感染地域はすべて国内(うち県内11人)で、感染経路は創傷感染が2人、その他が1人、不明が9人であった。検出された病原体の血清群はA群が4人、B群が2人、C群が1人、G群が5人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病原体	症状	感染地域	感染経路
1月 23日	4週	松山市	女	60歳代	B群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状、血球貧食症候群疑い	県内	その他(血行感染)
2月 1日	5週	中予	女	30歳代	A群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	国内	不明
3月 11日	11週	宇和島	男	70歳代	G群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状	県内	不明
3月 16日	12週	西条	男	70歳代	A群	ショック、DIC、軟部組織炎	県内	創傷感染
4月 13日	16週	宇和島	男	60歳代	A群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、中枢神経症状	県内	不明
4月 17日	16週	宇和島	女	80歳代	G群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	県内	不明
7月 7日	28週	宇和島	男	80歳代	G群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、中枢神経症状	県内	不明
8月 13日	33週	八幡浜	女	80歳代	C群	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	県内	不明
8月 14日	33週	松山市	男	70歳代	G群	ショック、肝不全、中枢神経症状、全身倦怠感、食欲低下、下痢	県内	不明
9月 28日	40週	松山市	女	70歳代	A群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群	県内	不明
10月 29日	44週	松山市	男	70歳代	B群	ショック、肝不全、腎不全、DIC	県内	創傷感染
11月 25日	48週	西条	男	80歳代	G群	ショック、DIC、中枢神経症状	県内	不明

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 届出数の年推移



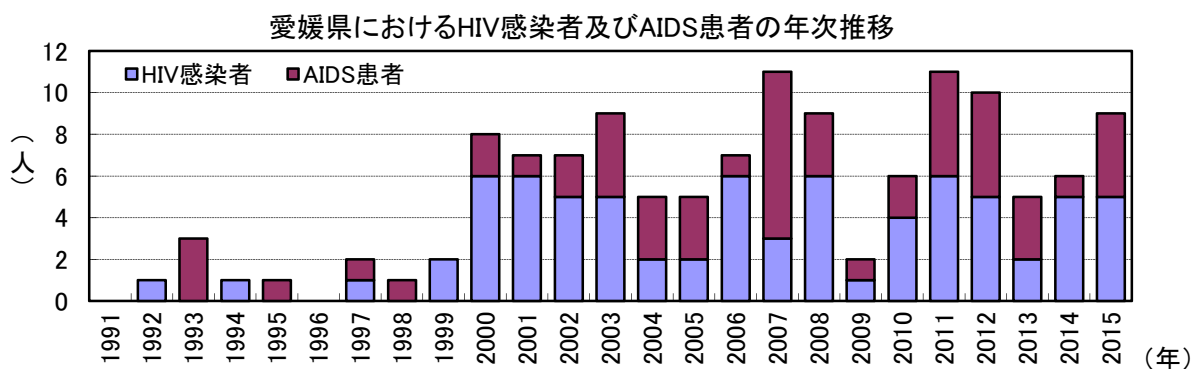
後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は9人の届出があり、病型は無症候性キャリアが5人、AIDSが4人であった。性別はすべて男性で、年齢は30歳代4人(無症候性キャリア)、40歳代5人(うち、AIDS4人、無症候性キャリア1人)であった。感染地域は国内が8人、国外(中華人民共和国)が1人で、感染経路は同性間性的接触が6人、異性間性的接触が2人、不明が1人であった。

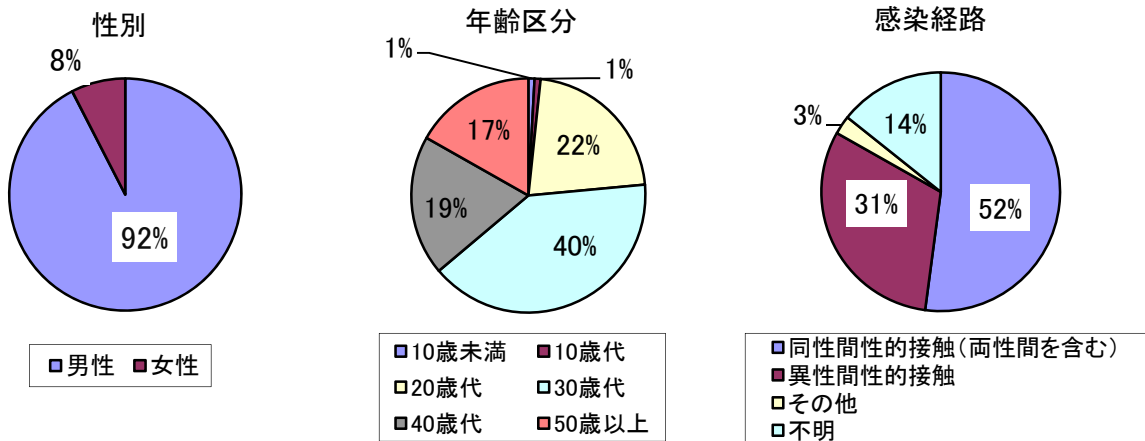
県内のHIV感染者(無症候性キャリア)及びAIDS患者数の年次推移をみると、1992年から1999年までは毎年1~2人程度で推移していたが、2000年以降は年間5~11人との多い状態が続いている。

1999年4月以降、感染症法に基づいて届出された119人のうち、性別は男性が110人と全体の92.4%を占めている。男性110人の年齢は、20歳代が25人(22.7%)、30歳代が45人(40.9%)、40歳代が20人(18.2%)、50歳代が13人(11.8%)であり、20~50歳代が103人(93.6%)と多い。感染経路は性的接触が99人(同性間(両性間を含む)62人、異性間37人)と83.2%を占め、感染地域は国内感染例が101人(84.9%)を占める。これらのことから、県内におけるHIV感染者及びAIDS患者は、20歳代から50歳代の男性を中心に、国内での性的接触によるものが多いと言える。特に、40歳以上では、AIDSを発症してはじめて感染が確認される割合が5割以上、50歳以上では8割以上に上ることから、発症前の検査で早期に発見することが重要である。

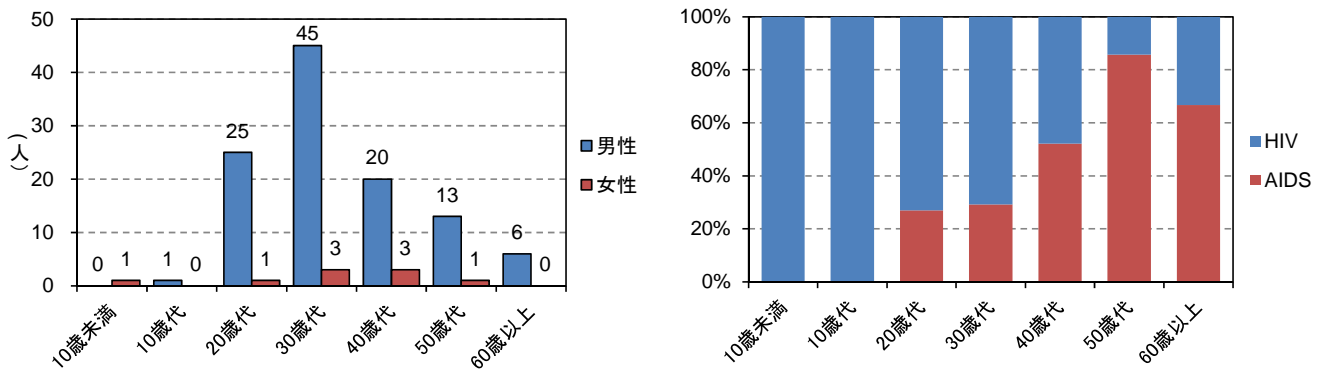
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
2月 9日	7週	中予	男	30歳代	無症候性キャリア	国内	同性間性的接触
5月 21日	21週	今治	男	30歳代	無症候性キャリア	国内	同性間性的接触
5月 21日	21週	中予	男	30歳代	無症候性キャリア	国内	同性間性的接触
5月 27日	22週	中予	男	40歳代	AIDS	国内	同性間性的接触
6月 29日	27週	松山市	男	40歳代	AIDS	国内	不明
6月 29日	27週	中予	男	40歳代	AIDS	国内	同性間性的接触
11月 19日	47週	中予	男	40歳代	AIDS	国外	異性間性的接触
12月 10日	50週	中予	男	40歳代	無症候性キャリア	国内	異性間性的接触
12月 17日	51週	中予	男	30歳代	無症候性キャリア	国内	同性間性的接触



1999年4月以降 感染症法に基づいて届出されたHIV感染者及びAIDS患者(119人)の内訳



1999年4月以降 感染症法に基づいて届出された HIV 感染者及び AIDS 患者の年齢分布(n=119)



侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ感染症は 10 歳未満男性 1 人の届出があった。感染地域は国内(県内)で、感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
3月12日	11週	西条	男	10歳未満	発熱、嘔吐、菌血症、腹痛	県内	飛沫・飛沫核感染

侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は 10 人の届出があった。性別は男性 6 人、女性 4 人で、年齢は 40 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 2 人、70 歳代 4 人、80 歳代 1 人、90 歳代 1 人であった。感染地域はすべて国内(うち県内 8 人)で、感染経路は飛沫・飛沫核感染が 2 人、不明が 8 人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
2月 13日	7週	西条	男	90歳代	発熱、全身倦怠感、呼吸困難	県内	不明
2月 19日	8週	松山市	男	80歳代	発熱、全身倦怠感、肺炎、 菌血症	県内	不明
3月 15日	11週	八幡浜	男	70歳代	発熱、全身倦怠感、意識障害、 菌血症	県内	不明
3月 21日	12週	中予	女	70歳代	全身倦怠感、菌血症	県内	飛沫・飛沫核感染
3月 26日	13週	宇和島	女	60歳代	発熱、咳、全身倦怠感、菌血症	国内	不明
4月 9日	15週	西条	女	70歳代	頭痛、全身倦怠感、意識障害、 項部硬直、髄膜炎、菌血症	県内	不明
7月 31日	31週	松山市	男	40歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、 菌血症	県内	飛沫・飛沫核感染
11月 14日	46週	松山市	男	50歳代	頭痛、発熱、嘔吐、項部硬直、 髄膜炎	県内	不明
12月 8日	50週	西条	女	70歳代	頭痛、発熱、意識障害、菌血症	県内	不明
12月 30日	53週	西条	男	60歳代	発熱、菌血症	国内	不明

水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）（入院例）

水痘（入院例）は10歳代男性1人の届出があった。感染地域は国内（県内）で、感染経路は不明であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
5月 28日	22週	松山市	男	10歳代	臨床診断例	発熱、発疹	県内	不明

梅毒

梅毒は6人の届出があった。性別は男性5人、女性1人で、年齢は20歳代1人、30歳代2人、50歳代1人、60歳代1人、80歳代1人であった。病型は無症候3人、早期顕症梅毒2人（I期1人、II期1人）、晩期顕症梅毒1人で、感染地域はすべて国内（うち県内4人）で、感染経路は性的接触が4人、不明が2人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
1月 27日	5週	松山市	女	20歳代	無症候	県内	性的接触
2月 9日	7週	中予	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触
6月 4日	23週	四国中央	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	不明
7月 31日	31週	中予	男	80歳代	無症候	県内	不明
12月 3日	49週	松山市	男	50歳代	無症候	県内	性的接触
12月 17日	51週	西条	男	60歳代	晩期顕症梅毒	国内	性的接触

播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は60歳代女性1人の届出があった。感染地域は国内（県内）で、感染原因・感染経路は免疫不全であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
8月 14日	33週	宇和島	女	60歳代	頭痛、発熱、皮疹	県内	免疫不全

破傷風

破傷風は60歳代男性及び50歳代女性の2人の届出があった。感染地域は国内（県内）で、感染経路は創傷感染が1人、針等鋭利なものの刺入による感染・創傷感染が1人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
4月 17日	16週	西条	女	50歳代	筋肉のこわばり、開口障害、 嚥下障害	県内	創傷感染
8月 6日	32週	今治	男	60歳代	筋肉のこわばり、開口障害、 嚥下障害、発語障害、 呼吸困難(痙攣性)	県内	針等の鋭利なものの刺入による感染・創傷感染

風しん

風しんは60歳代女性1人の届出があり、病型は検査診断例であった。感染地域は国内（県内）で、ワクチン接種歴は不明であった。本疾患が全数把握対象となった2008年以降、県内では毎年1~2人程度の患者数で推移してきたが、2013年は全国的に大きな流行となり、県内でも過去最高の発生であった。2015年の届出数は例年並みとなった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	ワクチン 接種歴
4月 13日	16週	松山市	女	60歳代	検査診断例	発疹、発熱	県内	不明

その他 8 疾患（クリプトスポリジウム症、ジアルジア症、侵襲性髄膜炎菌感染症、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症）の届出はなかった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ及び再興型インフルエンザの届出はなかった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 種類	疾病名	愛媛県						全国						
		2015	2014	2013	2012	2011	2010	2015	2014	2013	2012	2011	2010	
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎									1			1	2
	結核	203	237	208	220	290	298	24,523	26,629	27,052	29,317	31,483	26,866	
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*1}													
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*1}													
	コレラ							7	5	4	3	12	11	
	細菌性赤痢	1		1	3			156	158	143	214	300	235	
	腸管出血性大腸菌感染症	10	10	3	6	16	21	3,573	4,151	4,044	3,768	3,940	4,134	
	腸チフス							37	53	65	36	21	32	
四類	パラチフス			2				32	16	50	24	23	21	
	E型肝炎	3	1	1	1	1	1	212	154	127	121	61	66	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎	4	10		1	2	4	243	433	128	157	176	347	
	エキノコックス症							25	28	20	17	20	17	
	黄熱													
五類	オウム病							5	8	6	8	12	11	
	オムスク出血熱													
	回帰熱							4	1	1	1		1	
	キャサスル森林病													
	Q熱								1	6	1	1	2	
	狂犬病													
六類	コクシジオイデス症							3	2	4	2	2	1	
	サル痘													
	重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る) ^{*2}	1	11	8	-	-	-	60	61	48	-	-	-	
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
七類	炭疽													
	チクングニア熱 ^{*3}							17	16	14	10	10	-	
	つつが虫病		1		2		3	422	320	344	436	462	407	
	デング熱	1	2	1				293	341	249	221	113	244	
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)													
八類	ニパウイルス感染症													
	日本紅斑熱	14	12	5	7	13	17	215	241	175	171	190	132	
	日本脳炎							2	2	9	2	9	4	
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
九類	ブルセラ症							5	10	2		2	2	
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
	ボツリヌス症						1	1	1		3	6	1	
	マラリア	1				6		40	60	47	72	78	73	
十類	野兔病							2	1					
	ライム病							9	17	20	12	9	11	
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽							1		4		3	4	
	レジオネラ症	16 ^{*10}	13	5	5	2	3	1,592	1,248	1,124	899	818	751	
十一類	レプトスピラ症				2	1		33	48	29	30	26	22	
	ロッキーマウンテン山紅斑熱													
	アメーバ赤痢	8	5	8	3	7	3	1,109	1,134	1,047	932	814	843	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3	3	4	1	7	4	255	226	286	236	250	221	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*4}	10	1	-	-	-	-	1,671	314	-	-	-	-	
	急性脳炎 ^{*5}	3	2			1		511	459	369	371	258	242	
十二類	クリプトスポリジウム症							15	98	25	6	8	16	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	6	4	3	4	4	192	177	203	185	138	172	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12	3	6	6	1		415	268	203	242	197	122	
	後天性免疫不全症候群	9	6	5	10	11	6	1,431	1,538	1,586	1,438	1,535	1,553	
	ジアルジア症			2	2			81	68	82	72	65	77	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*6}	1	2	1	-	-	-	252	200	108	-	-	-	
十三類	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*6}		1		-	-	-	34	37	23	-	-	-	
	髄膜炎菌性髄膜炎 ^{*7}	-	-					-	-	2	15	12	7	
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*6}	10	12	7	-	-	-	2,403	1,825	1,001	-	-	-	
	水痘(入院例) ^{*4}	1	2	-	-	-	-	313	143	-	-	-	-	
	先天性風しん症候群								9	32	4	1		
	梅毒	6	8	1	3			2,690	1,661	1,228	875	827	621	
十四類	播種性クリプトコックス症 ^{*4}	1	1	-	-	-	-	120	37	-	-	-	-	
	破傷風	2	1	3	3		4	120	126	128	118	118	106	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				3	1		66	56	55	91	73	120	
	風しん	1	2	32	2	1		163	319	14,344	2,386	378	87	
	麻しん				2	4	3	35	462	229	283	439	447	
十五類	薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*4}							38	15	-	-	-	-	
	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*8}													
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*9}													
	計	325	352	307	285	368	374	43,426	43,177	54,667	42,779	42,891	38,031	

*1:2015年1月21日からの集計 *2:2013年3月4日からの集計 *3:2011年2月1日からの集計 *4:2014年9月19日からの集計 *5:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *6:2013年4月1日からの集計 *7:2013年3月31日までの集計(2013年4月1日以降、侵襲性髄膜炎菌感染症に変更) *8:2014年7月26日から2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *9:2013年5月6日から2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *10:診断日2014年12月29日(2015年第1週分)1例含む

表 2-1-2 2015年全数把握対象疾患発生状況(月別)

2015年1月1日～2015年12月31日

感染症 類型	疾病名	月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
一類	エボラ出血熱															
	クリミア・コンゴ出血熱															
	痘そう															
	南米出血熱															
	ペスト															
	マールブルグ病															
二類	ラッサ熱															
	急性灰白髄炎															
	結核		203	17	21	24	18	12	19	10	19	18	19	13	13	
	ジフテリア															
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)															
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*1}															
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)															
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*1}															
	コレラ															
	細菌性赤痢		1								1					
	腸管出血性大腸菌感染症		10					2	1	4			2		1	
	腸チフス															
四類	バラチフス															
	E型肝炎		3	1				2								
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)															
	A型肝炎		4	1	1	1								1		
	エキノコックス症															
	黄熱															
	オウム病															
	オムスク出血熱															
	回帰熱															
	キャサスル森林病															
	Q熱															
	狂犬病															
	コクシジオイデス症															
	サル痘															
	重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る)		1						1							
	腎症候性出血熱															
	西部ウマ脳炎															
	ダニ媒介脳炎															
	炭疽															
	チクングニア熱															
	つつが虫病															
	デング熱		1	1												
	東部ウマ脳炎															
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)															
	ニバウイルス感染症															
	日本紅斑熱		14					1	3	4	3		2	1		
	日本脳炎															
	ハンタウイルス肺症候群															
	Bウイルス病															
	鼻疽															
	ブルセラ症															
	ベネズエラウマ脳炎															
	ヘンドラウイルス感染症															
	発しんチフス															
ボツリヌス症																
マラリア		1											1			
野兔病																
ライム病																
リッサウイルス感染症																
リフトバレー熱																
類鼻疽																
レジオネラ症		16	2 ⁴	1	3				1			1	3	3	2	
レプトスピラ症																
ロッキーマウンテン紅斑熱																
五類	アメーバ赤痢		8					2	3			1			2	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)		3	1	1				1							
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		10						3	1		4		2		
	急性脳炎 ^{*2}		3					1		1	1					
	クリプトスポリジウム症															
	クロイツフェルト・ヤコブ病		4		1							1	1	1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		12	1	1	2	2				1	2	1	1	1	
	後天性免疫不全症候群		9		1				3	2					1	2
	ジアルジア症															
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1			1										
	侵襲性髄膜炎菌感染症															
	侵襲性肺炎球菌感染症		10		2	3	1				1			1	2	
	水痘(入院例)		1						1							
	先天性風しん症候群															
	梅毒		6	1	1					1	1					
	播種性クリプトコックス症		1									1				
	破傷風		2					1				1				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							1								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症															
	風しん		1				1									
麻しん																
薬剤耐性アシネトバクター感染症																
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ 再興型インフルエンザ															
指定感染症	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*3} 鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}															
	計		325	25	30	34	25	26	35	22	25	28	28	23	24	

(診断年月日による集計)

*1:2015年1月21日からの集計 *2:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *3:2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *4:診断日2014年12月29日(2015年第1週分)1例含む

表 2-1-3 2015年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

2015年1月1日～2015年12月31日

感染症 類型	疾病名	保健所	計	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	痘そう										
	南米出血熱										
	ペスト										
二類	マールブルグ病										
	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎										
	結核		203	17	26	23	64	13	35	25	
	ジフテリア										
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)										
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*1}										
	鳥インフルエンザ(H5N1)										
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*1}										
	コレラ										
四類	細菌性赤痢		1				1				
	腸管出血性大腸菌感染症		10			5		1		4	
	腸チフス										
	バラチフス										
	E型肝炎		3				1	2			
五類	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)										
	A型肝炎		4				2		1	1	
	エキノコックス症										
	黄熱										
	オウム病										
	オムスク出血熱										
	回帰熱										
	キャサスル森林病										
	Q熱										
	狂犬病										
	コクシジオイデス症										
	サル痘										
	重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る)		1				1				
	腎症候性出血熱										
	西部ウマ脳炎										
	ダニ媒介脳炎										
	炭疽										
	チクングニア熱										
	つつが虫病										
	デング熱		1	1							
	東部ウマ脳炎										
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)										
	ニバウイルス感染症										
	日本紅斑熱		14				2	7		1	4
	日本脳炎										
	ハンタウイルス肺症候群										
	Bウイルス病										
	鼻疽										
	ブルセラ症										
	ベネズエラウマ脳炎										
	ヘンドラウイルス感染症										
	発しんチフス										
	ボツリヌス症										
	マラリア		1					1			
	野兔病										
ライム病											
リッサウイルス感染症											
リフトバレー熱											
類鼻疽											
レジオネラ症		16			3 ^{*4}	2	4	3	3	1	
レプトスピラ症											
ロッキー山紅斑熱											
指定感染症	アメーバ赤痢		8			1	6			1	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)		3				2	1			
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		10	4	2	1	2	1			
	急性脳炎 ^{*2}		3				3				
	クリプトスポリジウム症										
	クロイツフェルト・ヤコブ病		4				1	3			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		12		2		4	1	1	4	
	後天性免疫不全症候群		9			1	1	7			
	ジアルジア症										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1		1						
	侵襲性髄膜炎菌感染症										
	侵襲性肺炎球菌感染症		10		4		3	1	1	1	
	水痘(入院例)		1				1				
	先天性風しん症候群										
	梅毒		6	1	1		2	2			
	播種性クリプトコックス症		1							1	
	破傷風		2		1	1					
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症										
	風しん		1				1				
麻しん											
薬剤耐性アシネトバクター感染症											
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ										
	再興型インフルエンザ										
指定感染症	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*3}										
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}										
	計		325	23	40	36	107	35	43	41	

(届出受理保健所による集計)

*1:2015年1月21日からの集計 *2:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *3:2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *4:診断日2014年12月29日(2015年第1週分)1例含む

2 定点把握対象 五類感染症

(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況

2015年(平成27年)における定点把握感染症の流行状況を、愛媛県内の流行規模で分類した。週報対象疾患は以下のとおりであった。なお、(イ)はインフルエンザ定点、(小)は小児科定点、(眼)は眼科定点、(基)は基幹定点からの報告疾患であることを示す。

例年と比較し、大きな流行となった疾患

RSウイルス感染症(小):2014/2015シーズンの患者報告数は、1,858人(定点当たり50.22人/シーズン)で、前シーズンに比べ1.3倍に増加し、2003年の調査開始以降、最も大きな流行規模となった。第36週(9月上旬)から増加が始まり、第9週(2月下旬)までの6カ月にわたり患者数の多い状態が続いた。地域別では東中予地区での報告が多くみられる中、今治保健所が最も多かった。年齢別では1歳以下の乳幼児が全体の63.7%を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(小):2015年の患者報告数は6,051人(定点当たり163.54人/年)で、前年に比べ1.9倍に増加し、1999年以降最大の発生規模であった。本年は、5月中旬から7月上旬、11月中旬から12月下旬に増加傾向であり、年間を通して中予保健所で多発した。年齢別では1~6歳の幼児が全体の62.5%を占めた。

例年と同程度の流行となった疾患

インフルエンザ(イ):2014/2015シーズンの患者報告数は18,131人(定点当たり297.23人/シーズン)で、例年並みの流行規模であった。9月から中予地区で散発し、11月に東予地区へ拡大した後、第47週(11月中旬)に県内全域で流行が始まった。第51週(12月中旬)に注意報レベル、年明けの第2週に警報レベルを超え、第3週(1月中旬)に定点当たり38.21人/週と流行のピークを迎えた。その後、第7週(2月中旬)まで注意報レベルが継続し、5月上旬に終息した。ウイルス型は、シーズンを通してAH3が検出された。

咽頭結膜熱(小):2015年の患者報告数は421人(定点当たり11.38人/年)で、前年に比べ0.4倍に減少した。年初から県内各地で散発したが、目立った流行ピークがないまま年間を通して低レベルで推移した。地域別では今治保健所が多く、年齢別では1~5歳までの幼児が全体の78.6%を占めた。

手足口病(小):2015年の患者報告数は3,236人(定点当たり87.46人/年)で、前年に比べ1.7倍に増加し、過去10年間で3番目に大きな発生規模であった。本年は、5月中旬から増加し始め、県内各地に広がり、第31週(7月下旬)に定点当たり5.03人/週と最高値を示した。地域別では四国中央保健所が最も多く、年齢別では1~3歳が71.2%を占めた。病原体はコクサッキーウイルスA6型が最も多く、次いでライノウイルスが検出された。

伝染性紅斑(小):2015年の患者報告数は457人(定点当たり12.35人/年)で、前年に比べ10.2倍に増加し、本年は流行期であると考えられた。今治保健所、松山市保健所では、年間を通して患者が発生した。年齢別では乳幼児から14歳まで幅広い年齢層にみられた。

百日咳(小):2015年の患者報告数は21人(定点当たり0.57人/年)で、前年に比べ0.5倍に減少した。地域別では西条保健所からの報告が52.4%を占め、年齢別では10歳未満が全体の71.4%を占めた。

ヘルパンギーナ(小):2015年の患者報告数は2,353人(定点当たり63.59人/年)で、前年に比べ1.4倍に増加し、過去10年で2番目に大きな発生規模であった。地域別では西条保健所、今治保健所、八幡浜保健所で他地区と比べ大きなピークを形成した。年齢別では1~4歳が全体の74.6%を占めた。

流行性耳下腺炎(小):2015年の患者報告数は734人(定点当たり19.84人/年)で、前年に比べ1.4倍に増加したが、過去10年では小規模な発生であった。地域別では中予保健所が多く、年齢別では

2～6歳が全体の64.9%を占めた。

流行性角結膜炎(眼): 2015年の患者報告数は709人(定点当たり88.63人/年)で、前年に比べ0.9倍に減少した。例年8月を中心とした夏季に増加傾向を示すが、本年は目立った流行ピークがないまま推移した。地域別では例年と同様今治保健所が最も多く、年齢別では20歳以上の成人が全体の70.7%を占めた。

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)(基): 2015年の患者報告数は17人(定点当たり2.83人/年)で、主に1月下旬から7月上旬にかけて発生がみられた。地域別では今治保健所が最も多く、年齢別では1～4歳が全体の58.8%を占めた。

例年と比較し、小さな流行となった疾患

感染性胃腸炎(小): 2014/2015シーズンの患者報告数は15,369人(定点当たり415.38人/シーズン)で、前シーズンの0.8倍とやや減少し、過去10シーズンで最も少ない発生規模であった。11月下旬より東予地区及び松山市保健所で増加し始め、その後県下に広がりがみられ、第52週(12月下旬)に定点当たり15.00人/週と最高値を示した。地域別にみると西条保健所、松山市保健所が多く、年齢別では1～6歳の幼児が全体の65.0%を占めた。病原体はシーズンを通してノロウイルスが多く検出され、10月から12月と2月から7月はサポウイルス、4月から6月はロタウイルスの割合が増加した。

水痘(小): 2014/2015シーズンの患者報告数は957人(定点当たり25.86人/シーズン)で、前シーズンに比べ0.4倍に減少し、1999年以降最も少ない発生規模であった。地域別では西条保健所、松山市保健所、中予保健所、八幡浜保健所で多く、年齢別では1～5歳の幼児が全体の72.2%を占めた。

突発性発しん(小): 2015年の患者報告数は1,324人(定点当たり35.78人/年)で、前年と同程度の発生であった。地域別では中予保健所が多く、年齢別では1歳以下が全体の91.8%を占めた。

マイコプラズマ肺炎(基): 2015年の患者報告数は45人(定点当たり7.50人/年)で、前年に比べ2.4倍に増加した。地域別では八幡浜保健所が多く、今治保健所が続いた。年齢別では14歳以下が全体の93.3%を占めた。

報告が少なかった疾患

急性出血性結膜炎(眼): 2015年の患者報告数は2人(定点当たり0.25人/年)で、前年と同様、少数の報告であった。本疾患は、2004年9～10月に宇和島地区で地域的な短期流行があって以降、県内各地でごく少数例の報告に留まっている。

細菌性髄膜炎(基): 2015年の患者報告数は3人(定点当たり0.50人/年)であった。西条保健所及び中予保健所からの報告で、病原体は肺炎レンサ球菌、リステリア菌、B群溶血性レンサ球菌が各1人であった。

無菌性髄膜炎(基): 2015年の患者報告数は3人(定点当たり0.50人/年)で、前年に比べ0.6倍に減少した。主に、4月下旬から5月中旬と7月下旬に発生し、西条保健所、中予保健所、宇和島保健所からの報告であった。病原体は結核菌1人、不明2人であった。

クラミジア肺炎(基): 2015年の患者報告はなく、前年から大きく減少した。

STD 定点対象疾患(月報)では、性器クラミジア感染症(105人)は2014年に比べて同程度の発生で、性器ヘルペスウイルス感染症(34人)、尖圭コンジローマ(18人)、淋菌感染症(52人)は減少した。

基幹定点対象疾患(月報)では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(145人)は2014年に比べ増加し、薬剤耐性緑膿菌感染症(3人)は横ばいで推移した。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はなかった。

表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数

週	期間	インフルエンザ 定点	小児科定点								
		インフルエンザ*1	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎 A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳
1	12/29 ~ 1/4	1,373	43	6	36	231	31	20	2	10	1
2	1/5 ~ 1/11	2,173	55	11	99	415	28	23	1	21	
3	1/12 ~ 1/18	2,331	35	2	84	383	12	9	2	18	
4	1/19 ~ 1/25	2,235	54	1	115	457	12	18	3	23	
5	1/26 ~ 2/1	1,640	56	6	107	368	12	15		12	
6	2/2 ~ 2/8	1,266	50	8	74	454	12	7	1	17	
7	2/9 ~ 2/15	762	43	3	96	364	9	4		26	
8	2/16 ~ 2/22	568	47	7	105	406	16	1	1	18	
9	2/23 ~ 3/1	429	45	4	135	398	8	6	5	22	
10	3/2 ~ 3/8	375	32	2	125	414	19	14	3	17	
11	3/9 ~ 3/15	354	33	3	105	448	9	13	2	27	
12	3/16 ~ 3/22	301	26	9	114	364	10	6	1	17	
13	3/23 ~ 3/29	202	29	2	109	283	9	5	2	21	
14	3/30 ~ 4/5	138	11	4	69	255	18	7	3	24	
15	4/6 ~ 4/12	85	17	5	68	239	7	7	2	31	
16	4/13 ~ 4/19	102	27	10	125	285	11	10	4	27	
17	4/20 ~ 4/26	100	14	8	128	286	8	4	6	23	
18	4/27 ~ 5/3	79	9	15	107	289	11	8	2	27	
19	5/4 ~ 5/10	38	2	10	84	173	6	8	4	19	
20	5/11 ~ 5/17	42	2	7	174	285	16	16	4	31	
21	5/18 ~ 5/24	39	3	5	180	316	6	41	4	40	1
22	5/25 ~ 5/31	36	5	11	219	357	15	61	13	24	1
23	6/1 ~ 6/7	26	4	8	164	353	12	48	5	35	1
24	6/8 ~ 6/14	4	3	11	223	480	12	74	6	40	2
25	6/15 ~ 6/21	4	4	9	193	396	10	82	6	32	2
26	6/22 ~ 6/28		1	18	141	409	20	124	18	32	1
27	6/29 ~ 7/5	2		15	163	340	12	127	10	31	
28	7/6 ~ 7/12			9	127	366	15	124	11	25	1
29	7/13 ~ 7/19	5	1	11	117	286	16	159	7	30	1
30	7/20 ~ 7/26	4	2	11	78	203	18	158	6	19	2
31	7/27 ~ 8/2	2	2	14	78	196	6	186	16	39	
32	8/3 ~ 8/9		2	9	86	215	22	180	6	30	
33	8/10 ~ 8/16	1	2	14	46	180	8	142	4	22	
34	8/17 ~ 8/23	1	4	10	53	181	25	120	9	45	1
35	8/24 ~ 8/30		8	10	74	171	10	173	3	30	
36	8/31 ~ 9/6	6	11	5	77	176	5	176	11	28	1
37	9/7 ~ 9/13	14	41	2	79	147	9	157	9	38	1
38	9/14 ~ 9/20	14	39	5	93	135	5	183	7	32	1
39	9/21 ~ 9/27	2	24	2	30	95	7	141	9	17	
40	9/28 ~ 10/4		32	2	95	165	10	123	5	28	
41	10/5 ~ 10/11	2	46	3	98	139	6	132	7	20	1
42	10/12 ~ 10/18	2	39	5	88	131	6	83	10	19	
43	10/19 ~ 10/25	3	44	1	122	180	8	75	10	29	
44	10/26 ~ 11/1	3	34	2	127	175	11	52	16	18	
45	11/2 ~ 11/8	5	45	9	138	209	4	44	14	26	
46	11/9 ~ 11/15	4	67	5	129	289	11	14	20	21	
47	11/16 ~ 11/22	5	110	11	163	292	13	21	24	32	2
48	11/23 ~ 11/29	5	142	7	109	302	13	14	25	27	
49	11/30 ~ 12/6	2	173	12	150	410	10	4	22	25	1
50	12/7 ~ 12/13	16	189	18	172	545	14	9	20	22	
51	12/14 ~ 12/20	9	228	22	149	642	20	5	29	18	
52	12/21 ~ 12/27	16	167	11	155	615	17	3	36	12	
53	12/28 ~ 1/3	20	107	11	76	279	17		11	7	
合計		14,845	2,209	421	6,051	16,172	657	3,236	457	1,324	21
男性		7,444	1,242	238	3,257	8,836	362	1,856	215	725	11
女性		7,401	967	183	2,794	7,336	295	1,380	242	599	10

*1:鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

(人)

		眼科定点		基幹定点					定点数			
ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	ロタウイルス胃腸炎*2	細菌性髄膜炎*3	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
1	4		1						61	37	8	6
	35		21						61	37	8	6
	12		12		1				61	37	8	6
1	7		8	1					61	37	8	6
1	14		7						61	37	8	6
2	12		18	1					61	37	8	6
2	10		21	1					61	37	8	6
1	22		14	2					61	37	8	6
6	10		22						61	37	8	6
2	20		22	1			1		61	37	8	6
3	19		17						61	37	8	6
3	11		7				1		61	37	8	6
3	22		11						61	37	8	6
4	8		14	2			1		61	37	8	6
10	6		14						61	37	8	6
5	19		17						61	37	8	6
17	7		7						61	37	8	6
15	14		14	3		1			61	37	8	6
18	10		7						61	37	8	6
32	7	1	7			1			61	37	8	6
59	15		9						61	37	8	6
49	15		11						61	37	8	6
50	13		5	1			2		61	37	8	6
100	9		10	2					61	37	8	6
179	12		10	1					61	37	8	6
236	11		13				1		61	37	8	6
231	10		13	1			2		61	37	8	6
285	12		11				1		61	37	8	6
264	16		11						61	37	8	6
164	15		10						61	37	8	6
158	13		10			1			61	37	8	6
118	11		9				1		61	37	8	6
76	12		11						61	37	8	6
65	10		18				2		61	37	8	6
48	12		12		1				61	37	8	6
47	14		14				3		61	37	8	6
30	10		18						61	37	8	6
22	28		10				2		61	37	8	6
13	11		7						61	37	8	6
12	20		8						61	37	8	6
9	18		18						61	37	8	6
2	8		25				2		61	37	8	6
1	20		28				9		61	37	8	6
3	14	1	25				2		61	37	8	6
1	13		9				2		61	37	8	6
	25		15				2		61	37	8	6
1	9		24				1		61	37	8	6
	16		13						61	37	8	6
3	14		20		1		2		61	37	8	6
1	18		23	1			2		61	37	8	6
	18		12				1		61	37	8	6
	12		10				5					
	11		6						61	37	8	6
2,353	734	2	709	17	3	3	45					
1,265	381	2	333	10	1	2	21					
1,088	353		376	7	2	1	24					

*3：インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数

週	期間	インフルエンザ 定点	小児科定点								
		インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽 頭 結 膜 熱	咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	12/29 ~ 1/4	22.51	1.16	0.16	0.97	6.24	0.84	0.54	0.05	0.27	0.03
2	1/5 ~ 1/11	35.62	1.49	0.30	2.68	11.22	0.76	0.62	0.03	0.57	
3	1/12 ~ 1/18	38.21	0.95	0.05	2.27	10.35	0.32	0.24	0.05	0.49	
4	1/19 ~ 1/25	36.64	1.46	0.03	3.11	12.35	0.32	0.49	0.08	0.62	
5	1/26 ~ 2/1	26.89	1.51	0.16	2.89	9.95	0.32	0.41		0.32	
6	2/2 ~ 2/8	20.75	1.35	0.22	2.00	12.27	0.32	0.19	0.03	0.46	
7	2/9 ~ 2/15	12.49	1.16	0.08	2.59	9.84	0.24	0.11		0.70	
8	2/16 ~ 2/22	9.31	1.27	0.19	2.84	10.97	0.43	0.03	0.03	0.49	
9	2/23 ~ 3/1	7.03	1.22	0.11	3.65	10.76	0.22	0.16	0.14	0.59	
10	3/2 ~ 3/8	6.15	0.86	0.05	3.38	11.19	0.51	0.38	0.08	0.46	
11	3/9 ~ 3/15	5.80	0.89	0.08	2.84	12.11	0.24	0.35	0.05	0.73	
12	3/16 ~ 3/22	4.93	0.70	0.24	3.08	9.84	0.27	0.16	0.03	0.46	
13	3/23 ~ 3/29	3.31	0.78	0.05	2.95	7.65	0.24	0.14	0.05	0.57	
14	3/30 ~ 4/5	2.26	0.30	0.11	1.86	6.89	0.49	0.19	0.08	0.65	
15	4/6 ~ 4/12	1.39	0.46	0.14	1.84	6.46	0.19	0.19	0.05	0.84	
16	4/13 ~ 4/19	1.67	0.73	0.27	3.38	7.70	0.30	0.27	0.11	0.73	
17	4/20 ~ 4/26	1.64	0.38	0.22	3.46	7.73	0.22	0.11	0.16	0.62	
18	4/27 ~ 5/3	1.30	0.24	0.41	2.89	7.81	0.30	0.22	0.05	0.73	
19	5/4 ~ 5/10	0.62	0.05	0.27	2.27	4.68	0.16	0.22	0.11	0.51	
20	5/11 ~ 5/17	0.69	0.05	0.19	4.70	7.70	0.43	0.43	0.11	0.84	
21	5/18 ~ 5/24	0.64	0.08	0.14	4.86	8.54	0.16	1.11	0.11	1.08	0.03
22	5/25 ~ 5/31	0.59	0.14	0.30	5.92	9.65	0.41	1.65	0.35	0.65	0.03
23	6/1 ~ 6/7	0.43	0.11	0.22	4.43	9.54	0.32	1.30	0.14	0.95	0.03
24	6/8 ~ 6/14	0.07	0.08	0.30	6.03	12.97	0.32	2.00	0.16	1.08	0.05
25	6/15 ~ 6/21	0.07	0.11	0.24	5.22	10.70	0.27	2.22	0.16	0.86	0.05
26	6/22 ~ 6/28		0.03	0.49	3.81	11.05	0.54	3.35	0.49	0.86	0.03
27	6/29 ~ 7/5	0.03		0.41	4.41	9.19	0.32	3.43	0.27	0.84	
28	7/6 ~ 7/12			0.24	3.43	9.89	0.41	3.35	0.30	0.68	0.03
29	7/13 ~ 7/19	0.08	0.03	0.30	3.16	7.73	0.43	4.30	0.19	0.81	0.03
30	7/20 ~ 7/26	0.07	0.05	0.30	2.11	5.49	0.49	4.27	0.16	0.51	0.05
31	7/27 ~ 8/2	0.03	0.05	0.38	2.11	5.30	0.16	5.03	0.43	1.05	
32	8/3 ~ 8/9		0.05	0.24	2.32	5.81	0.59	4.86	0.16	0.81	
33	8/10 ~ 8/16	0.02	0.05	0.38	1.24	4.86	0.22	3.84	0.11	0.59	
34	8/17 ~ 8/23	0.02	0.11	0.27	1.43	4.89	0.68	3.24	0.24	1.22	0.03
35	8/24 ~ 8/30		0.22	0.27	2.00	4.62	0.27	4.68	0.08	0.81	
36	8/31 ~ 9/6	0.10	0.30	0.14	2.08	4.76	0.14	4.76	0.30	0.76	0.03
37	9/7 ~ 9/13	0.23	1.11	0.05	2.14	3.97	0.24	4.24	0.24	1.03	0.03
38	9/14 ~ 9/20	0.23	1.05	0.14	2.51	3.65	0.14	4.95	0.19	0.86	0.03
39	9/21 ~ 9/27	0.03	0.65	0.05	0.81	2.57	0.19	3.81	0.24	0.46	
40	9/28 ~ 10/4		0.86	0.05	2.57	4.46	0.27	3.32	0.14	0.76	
41	10/5 ~ 10/11	0.03	1.24	0.08	2.65	3.76	0.16	3.57	0.19	0.54	0.03
42	10/12 ~ 10/18	0.03	1.05	0.14	2.38	3.54	0.16	2.24	0.27	0.51	
43	10/19 ~ 10/25	0.05	1.19	0.03	3.30	4.86	0.22	2.03	0.27	0.78	
44	10/26 ~ 11/1	0.05	0.92	0.05	3.43	4.73	0.30	1.41	0.43	0.49	
45	11/2 ~ 11/8	0.08	1.22	0.24	3.73	5.65	0.11	1.19	0.38	0.70	
46	11/9 ~ 11/15	0.07	1.81	0.14	3.49	7.81	0.30	0.38	0.54	0.57	
47	11/16 ~ 11/22	0.08	2.97	0.30	4.41	7.89	0.35	0.57	0.65	0.86	0.05
48	11/23 ~ 11/29	0.08	3.84	0.19	2.95	8.16	0.35	0.38	0.68	0.73	
49	11/30 ~ 12/6	0.03	4.68	0.32	4.05	11.08	0.27	0.11	0.59	0.68	0.03
50	12/7 ~ 12/13	0.26	5.11	0.49	4.65	14.73	0.38	0.24	0.54	0.59	
51	12/14 ~ 12/20	0.15	6.16	0.59	4.03	17.35	0.54	0.14	0.78	0.49	
52	12/21 ~ 12/27	0.26	4.51	0.30	4.19	16.62	0.46	0.08	0.97	0.32	
53	12/28 ~ 1/3	0.33	2.89	0.30	2.05	7.54	0.46		0.30	0.19	
合計		243.36	59.70	11.38	163.54	437.08	17.76	87.46	12.35	35.78	0.57
男性		122.03	33.57	6.43	88.03	238.81	9.78	50.16	5.81	19.59	0.30
女性		121.33	26.14	4.95	75.51	198.27	7.97	37.30	6.54	16.19	0.27

*1:鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

(人/定点当たり)

		眼科定点		基幹定点					定点数			
ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	ロタウイルス胃腸炎 ^{*2}	細菌性髄膜炎 ^{*3}	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
0.03	0.11		0.13	0.17					61	37	8	6
	0.95		2.63						61	37	8	6
	0.32		1.50		0.17				61	37	8	6
0.03	0.19		1.00						61	37	8	6
0.03	0.38		0.88						61	37	8	6
0.05	0.32		2.25						61	37	8	6
0.05	0.27		2.63						61	37	8	6
0.03	0.59		1.75						61	37	8	6
0.16	0.27		2.75						61	37	8	6
0.05	0.54		2.75				0.17		61	37	8	6
0.08	0.51		2.13						61	37	8	6
0.08	0.30		0.88				0.17		61	37	8	6
0.08	0.59		1.38	0.17					61	37	8	6
0.11	0.22		1.75	0.83			0.17		61	37	8	6
0.27	0.16		1.75	0.83					61	37	8	6
0.14	0.51		2.13	1.17					61	37	8	6
0.46	0.19		0.88	1.50					61	37	8	6
0.41	0.38		1.75	2.67		0.17			61	37	8	6
0.49	0.27		0.88	1.83					61	37	8	6
0.86	0.19	0.13	0.88	1.83		0.17			61	37	8	6
1.59	0.41		1.13	1.00					61	37	8	6
1.32	0.41		1.38	1.17					61	37	8	6
1.35	0.35		0.63	0.17			0.33		61	37	8	6
2.70	0.24		1.25	0.33					61	37	8	6
4.84	0.32		1.25	0.50					61	37	8	6
6.38	0.30		1.63				0.17		61	37	8	6
6.24	0.27		1.63	0.83			0.33		61	37	8	6
7.70	0.32		1.38				0.17		61	37	8	6
7.14	0.43		1.38						61	37	8	6
4.43	0.41		1.25						61	37	8	6
4.27	0.35		1.25			0.17			61	37	8	6
3.19	0.30		1.13				0.17		61	37	8	6
2.05	0.32		1.38						61	37	8	6
1.76	0.27		2.25				0.33		61	37	8	6
1.30	0.32		1.50		0.17				61	37	8	6
1.27	0.38		1.75				0.50		61	37	8	6
0.81	0.27		2.25						61	37	8	6
0.59	0.76		1.25				0.33		61	37	8	6
0.35	0.30		0.88						61	37	8	6
0.32	0.54		1.00						61	37	8	6
0.24	0.49		2.25						61	37	8	6
0.05	0.22		3.13				0.33		61	37	8	6
0.03	0.54		3.50				1.50		61	37	8	6
0.08	0.38	0.13	3.13				0.33		61	37	8	6
0.03	0.35		1.13				0.33		61	37	8	6
	0.68		1.88				0.33		61	37	8	6
0.03	0.24		3.00				0.17		61	37	8	6
	0.43		1.63						61	37	8	6
0.08	0.38		2.50	0.17	0.17		0.33		61	37	8	6
0.03	0.49		2.88				0.33		61	37	8	6
	0.49		1.50				0.17		61	37	8	6
	0.32		1.25				0.83		61	37	8	6
	0.30		0.75						61	37	8	6
63.59	19.84	0.25	88.63	2.83	0.50	0.50	7.50					
34.19	10.30	0.25	41.63	1.67	0.17	0.33	3.50					
29.41	9.54		47.00	1.17	0.33	0.17	4.00					

*3：インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

年齢区分	小児科定点											眼科定点				基幹定点			
	インフルエンザ 定点 イ*1 ンフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎 A 頭群 溶血性 レンサ 球菌	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	発疹性 発しん	百日咳	ヘルパンギナ	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	ロ*2 タウイルス 胃腸炎	細菌性*3 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎 (オウム病を 除く)
6ヶ月未満	63	277	4	1	110	2	25	1	26	4	20				4				
12ヶ月未満	158	359	27	15	878	23	328	5	551	2	208				10				
1歳	566	726	127	179	2,194	63	1,104	16	638		596	23			3				
2歳	665	386	67	335	1,869	65	733	26	78		443	63					1	12	12
3歳	789	253	67	611	1,937	90	467	53	20		425	80					1	2	
4歳	887	133	39	865	1,733	109	279	73	5	1	292	126							
5歳	886	40	31	938	1,489	84	150	91	2		179	108						1	
6歳	987	20	30	853	1,246	79	62	58	3	1	80	99	1						
7歳	833	7	8	624	856	41	21	53			47	88							
8歳	770	4	8	484	737	37	20	38	1	7	25	53							
9歳	810	1	4	353	600	28	12	19			19	34							
10~14歳	2,645	2	8	693	1,618	32	25	22		5	15	46							
15~19歳	557			29	188	2	1	1				2							
20~29歳*4	590	1	1	71	717	2	9	1		1	4	12					1		
30~39歳	930																		
40~49歳	805																		
50~59歳	596																		
60~69歳	504																		
70~79歳*5	343																		
80歳以上	461																		
合計	14,845	2,209	421	6,051	16,172	657	3,236	457	1,324	21	2,353	734		17	3	3	3	45	

*1: 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2: 2013年10月14日から対象疾患に追加。 *3: インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。
 *4: 小児科定点疾患については20歳以上の全患者数を"20~29歳"に計上。 *5: 眼科定点疾患については70歳以上の全患者数を"70~79歳"に計上。

表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数

月	STD定点 (定点数:11)						基幹定点 (定点数:6)								
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
1	9	5	4	2	2		9	8	1	5	4	1			
2	9	7	2	1	1		5	4	1	12	8	4			
3	6	5	1	4	3	1	6	6		15	7	8			
4	11	9	2	4	4		1	1		17	9	8			
5	10	6	4	5	4	1	2	2		14	9	5			
6	10	4	6	3	3		4	3	1	10	3	7			
7	11	8	3	4	3	1	4	3	1	7	5	2			
8	9	4	5	1	1	1	3	3		15	9	6	1	1	
9	8	4	4	2	2		5	5		12	8	4			
10	5	1	4	3	3	1	5	3	2	9	7	2	1	1	
11	10	4	6	3	3		3	2	1	13	8	5	1	1	
12	7	7		2	2	1	5	4	1	16	6	10			
合計	105	64	41	34	31	3	52	44	8	145	83	62	3	1	2

(人)

表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり患者報告数

月	STD定点 (定点数:11)												基幹定点 (定点数:6)								
	性器クラミジア感染症			性器ヘルペスウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症			メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			薬剤耐性緑膿菌感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女			
1	0.82	0.45	0.36	0.18	0.18	0.18	0.82	0.73	0.09	0.18	0.18	0.18	0.83	0.67	0.17						
2	0.82	0.64	0.18	0.09	0.09		0.45	0.36	0.09				2.00	1.33	0.67						
3	0.55	0.45	0.09	0.36	0.27	0.09	0.55	0.55		0.18	0.18	0.18	2.50	1.17	1.33						
4	1.00	0.82	0.18	0.36	0.36		0.09	0.09		0.18	0.18	0.18	2.83	1.50	1.33						
5	0.91	0.55	0.36	0.45	0.36	0.09	0.18	0.18		0.18	0.18	0.18	2.33	1.50	0.83						
6	0.91	0.36	0.55	0.27	0.27		0.36	0.27	0.09	0.27	0.18	0.09	1.67	0.50	1.17						
7	1.00	0.73	0.27	0.36	0.27	0.09	0.36	0.27	0.09	0.18	0.18	0.09	1.17	0.83	0.33						
8	0.82	0.36	0.45	0.09	0.09		0.27	0.27		0.18	0.09	0.09	2.50	1.50	1.00	0.17		0.17			
9	0.73	0.36	0.36	0.18	0.18		0.45	0.45					2.00	1.33	0.67						
10	0.45	0.09	0.36	0.27	0.27		0.45	0.27	0.18	0.18	0.09	0.18	1.50	1.17	0.33	0.17		0.17			
11	0.91	0.36	0.55	0.27	0.27		0.27	0.18	0.09				2.17	1.33	0.83	0.17		0.17			
12	0.64	0.64		0.18	0.18		0.45	0.36	0.09	0.09	0.09	0.09	2.67	1.00	1.67						
合計	9.55	5.82	3.73	3.09	2.82	0.27	4.73	4.00	0.73	1.64	1.36	0.27	24.17	13.83	10.33	0.50	0.17	0.33			

表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

年齢区分	STD定点 (定点数:11)						基幹定点 (定点数:6)								
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳										10	9	1			
1~4歳									11	9	2				
5~9歳									2	2					
10~14歳									6	1	5				
15~19歳	6	1	5	3	3	1	5	3	2						
20~24歳	21	11	10	4	3	1	12	12	1	1					
25~29歳	17	10	7	7	6	1	2	2							
30~34歳	16	12	4	3	3		6	5	1	1					
35~39歳	22	14	8	4	4	1	10	9	1	2	1	1			
40~44歳	9	3	6	3	3		5	3	2	3	3				
45~49歳	2	2		1	1		5	5		3	2	1			
50~54歳	4	4		2	1	1	4	2	2	1	1				
55~59歳	6	6		1	1		1	1		7	4	3			
60~64歳	2	1	1	1	1		2	2		1		1			
65~69歳				1	1					11	9	2			
70歳以上				4	4					86	41	45	3	1	2
合計	105	64	41	34	31	3	52	44	8	145	83	62	3	1	2

(人)

(2) インフルエンザ定点対象疾患(週報)

インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)

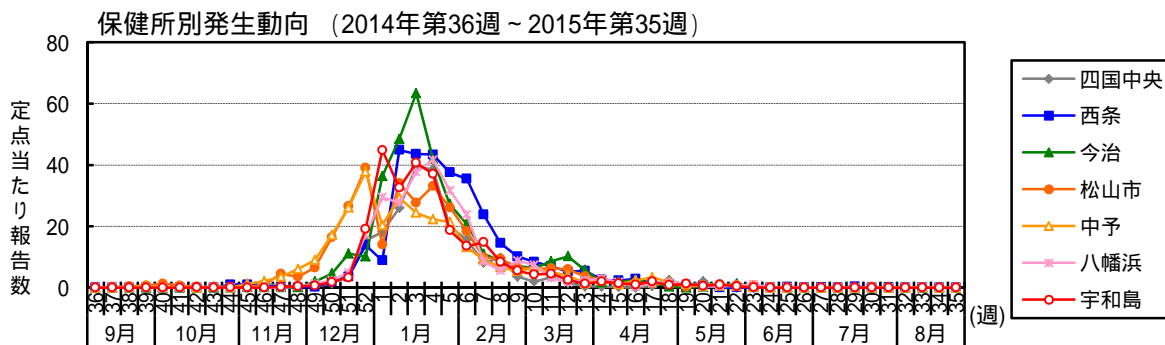
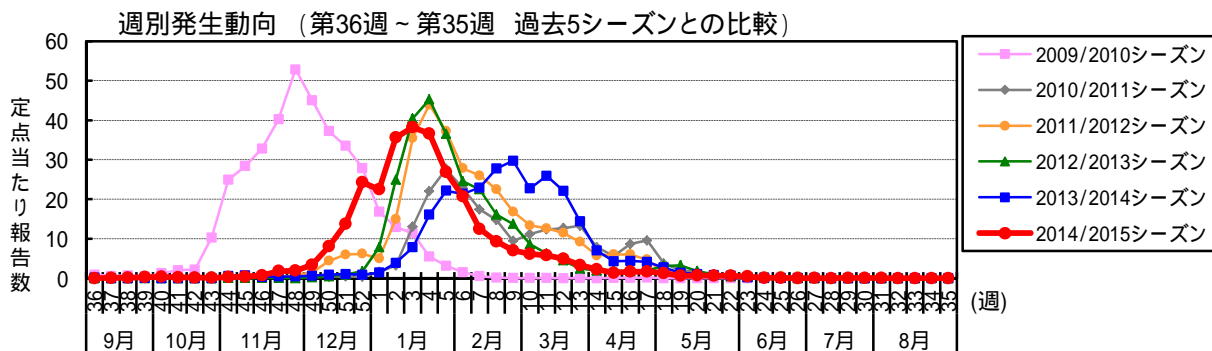
2014/2015シーズン(2014年第36週~2015年第35週)の患者報告数は18,131人(定点当たり297.23人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数16,561人、定点当たり報告数271.49人/シーズン)から1,570人増加した。9月から中予地区で散発し、11月に東予地区へ拡大した後、第47週(11月中旬)に流行開始の目安となる定点当たり1.0人/週を超えた。第51週には注意報レベル(定点当たり10人/週)を超え、県内全域で増加が始まった。第2週(1月上旬)に警報レベル(定点当たり30人/週)を超え、第3週(1月中旬)に定点当たり38.21人/週と流行のピークを迎えた。その後、第7週(2月中旬)まで注意報レベルが継続し、第19週(5月上旬)に1.0人/週を下回った。

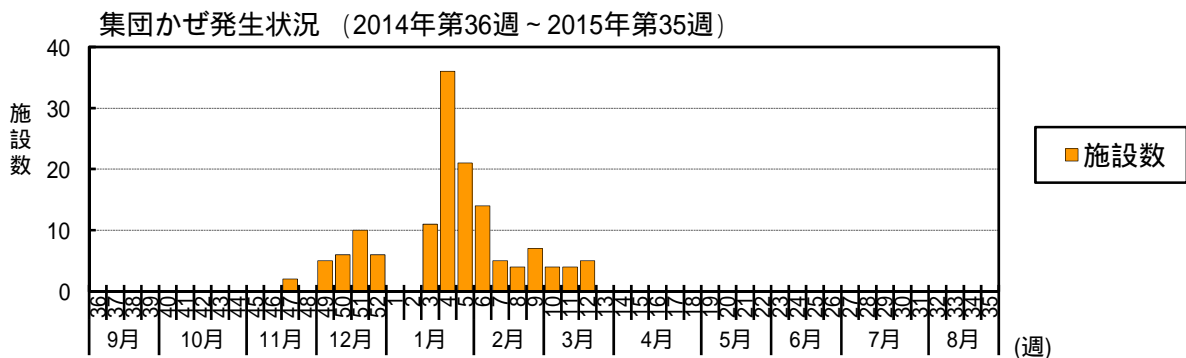
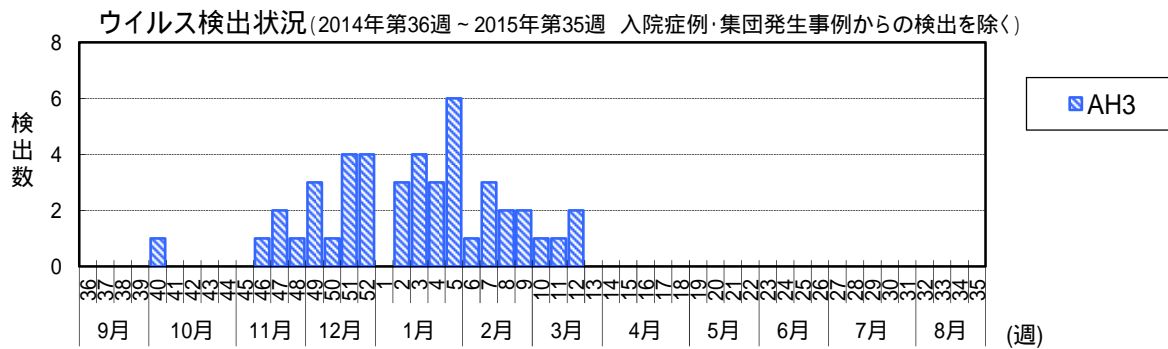
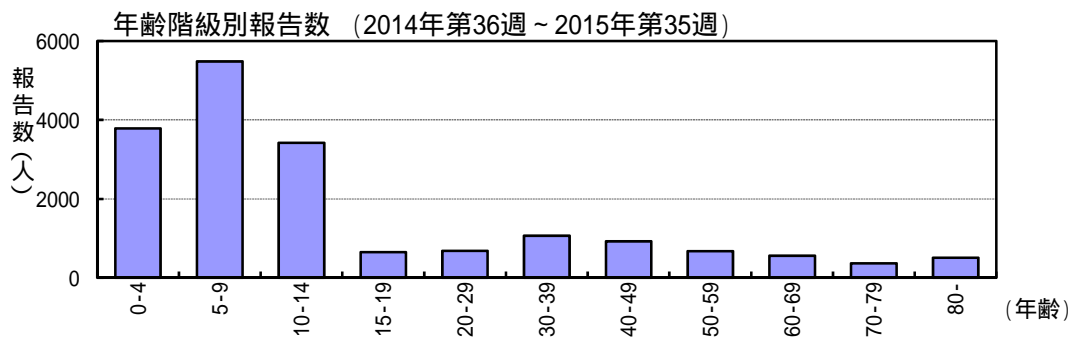
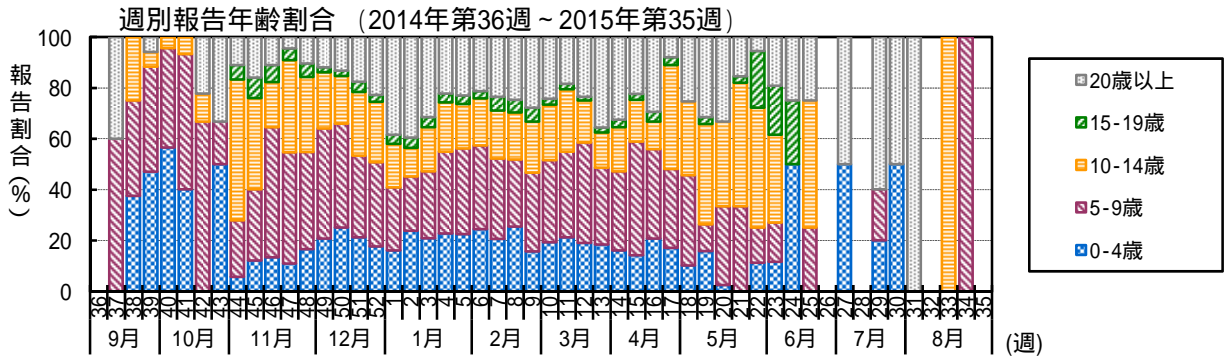
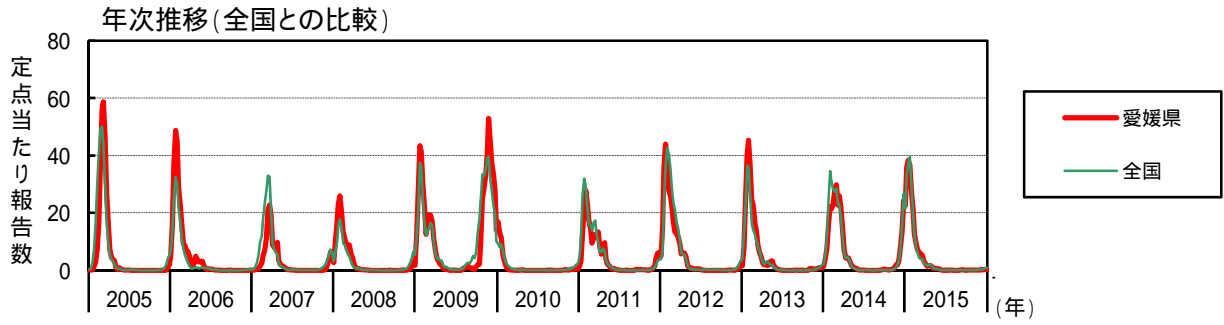
地域別の定点当たり報告数は、今治保健所の335.13人/シーズンが最も多く、西条保健所323.30人/シーズン、松山市保健所315.53人/シーズンと続いた。ピーク時の報告数が最も高かった保健所は、第3週の今治保健所(63.38人/週)であり、第2週の西条保健所(44.90人/週)、第1週の宇和島保健所(44.86人/週)が続いた。八幡浜保健所は第4週(41.71人/週)、四国中央保健所は第3週(39.40人/週)、松山市保健所は第52週(39.06人/週)、中予保健所は第52週(37.86人/週)に最高値を示し、県内各保健所におけるピークの時期は、12月下旬から1月中旬であった。

年齢別では、5~9歳が5,481人(30.2%)と最も多く、次いで0~4歳3,788人(20.9%)、10~14歳3,425人(18.9%)と続き、14歳以下の小児の割合が70.0%を占めた。

検出されたウイルス型は、シーズンを通して全てAH3であった。

学校等における集団がぜ発生報告数は、140施設/シーズンであり、前シーズンの155施設/シーズンと比べ減少した。学校(施設)の種別は、保育所・幼稚園20件、小学校90件、中学校21件、高等学校3件、その他6件で、措置の内訳は、休校・休園4件、学年閉鎖42件、学級閉鎖94件であった。





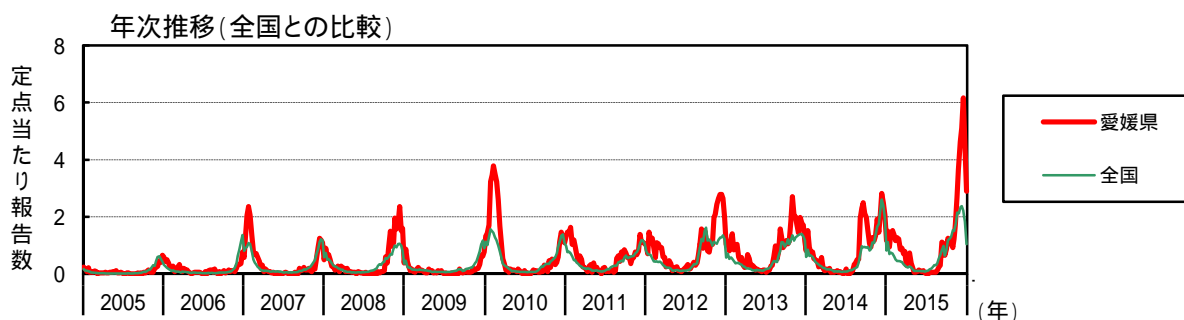
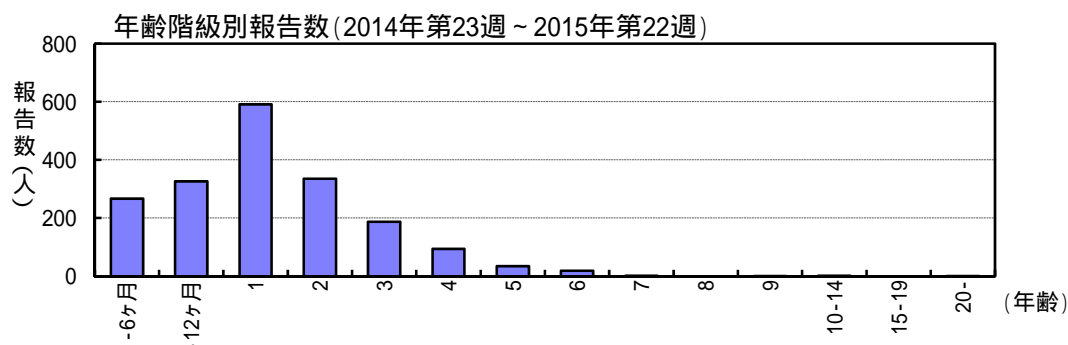
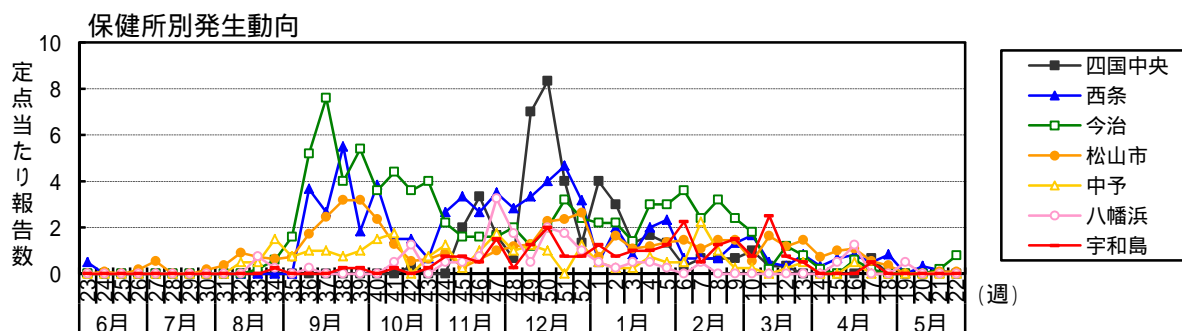
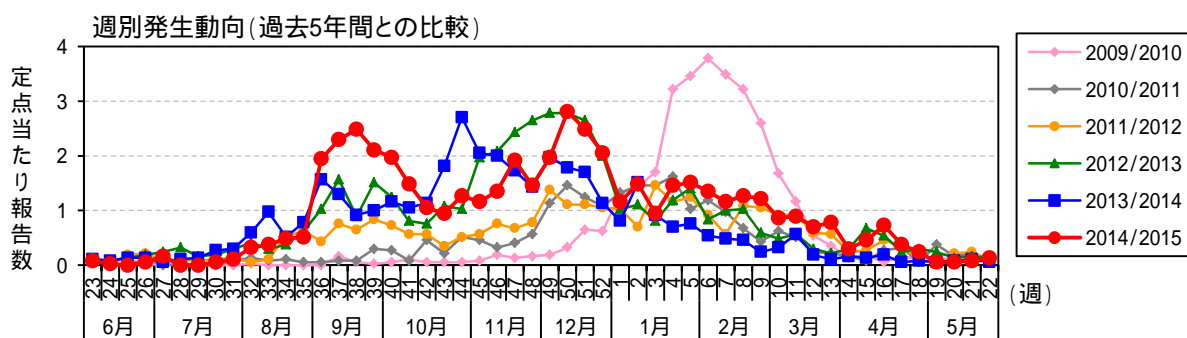
インフルエンザ [2014/2015シーズン(2014年第36週~2015年第35週)]

月週	患者報告数														定点当たり報告数								
	2014/2015シーズン 保健所別						愛媛県						全国										
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2014/2015	2013/2014	2012/2013	2014/2015	2013/2014	2012/2013	2014/2015	2013/2014	2012/2013	2014/2015	2013/2014	2012/2013				
36								180	68	979													
37				4			1	262	109	1,134													
38				7	1		5	202	114	894													
39				12	5		17	348	118	692													
40				22	1		23	337	153	447													
41				12	3		15	283	191	292													
42				6			9	222	122	253													
43				2	3		6	360	273	317													
44				5	1		18	769	401	371													
45				5	9		25	1,106	530	536													
46				16	15		18	1,822	4,085	5,807													
47				77	25		110	4,651	1,325	1,096													
48				61	43		115	9,414	2,155	1,533													
49				111	63		208	17,318	3,304	2,839													
50				37	120		13	36,549	4,085	5,807													
51				89	451		837	75,573	6,856	11,004													
52				81	664		1,481	131,755	9,377	16,414													
1				89	239		1,373	100,777	9,303	18,694													
2				388	579		2,173	164,796	27,284	59,779													
3				507	471		2,331	183,748	58,454	111,891													
4				336	564		2,235	195,714	123,020	180,431													
5				217	445		1,640	144,344	171,002	177,611													
6				166	313		1,266	94,390	153,212	131,866													
7				88	167		762	60,194	139,623	80,854													
8				145	70		568	40,923	135,916	68,800													
9				102	57		429	29,145	141,033	60,781													
10				51	102		375	21,383	113,840	51,279													
11				69	108		354	19,703	113,079	40,184													
12				82	101		301	19,023	92,253	33,333													
13				55	46		202	13,029	60,052	21,611													
14				14	44		138	10,603	30,367	13,885													
15				15	15		85	7,744	20,722	9,894													
16				20	27		102	10,210	23,014	14,240													
17				15	12		100	9,974	19,867	15,195													
18				9	3		79	6,951	12,281	11,543													
19				4	5		38	3,506	5,398	9,458													
20				3	13		42	2,919	4,081	9,249													
21				5	18		50	2,503	2,760	6,020													
22				10	14		36	1,957	1,721	3,471													
23				3	13		26	1,232	841	2,077													
24				1	2		4	846	649	1,240													
25				3	4		4	633	512	823													
26							3	535	351	632													
27				1	1		2	516	334	451													
28							1	453	220	357													
29				1	1		5	482	205	232													
30				4	4		4	383	127	140													
31				1	1		2	316	136	103													
32							1	269	107	96													
33							1	233	103	72													
34							1	254	83	65													
35								314	125	83													
合計	1,084	3,233	2,681	5,364	2,025	1,883	1,861	14,311,53	1,492,567	1,181,724	216.80	323.30	335.13	315.53	289.29	269.00	265.86	297.23	271.49	276.69	290.62	301.66	239.27

(3) 小児科定点対象疾患(週報)

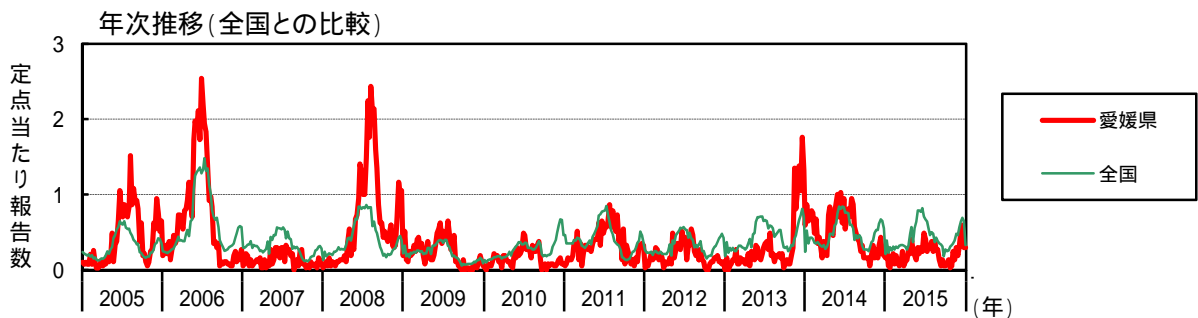
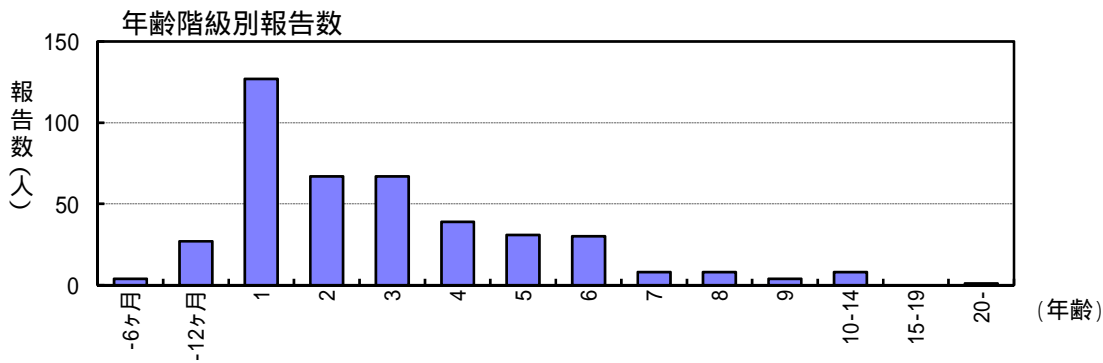
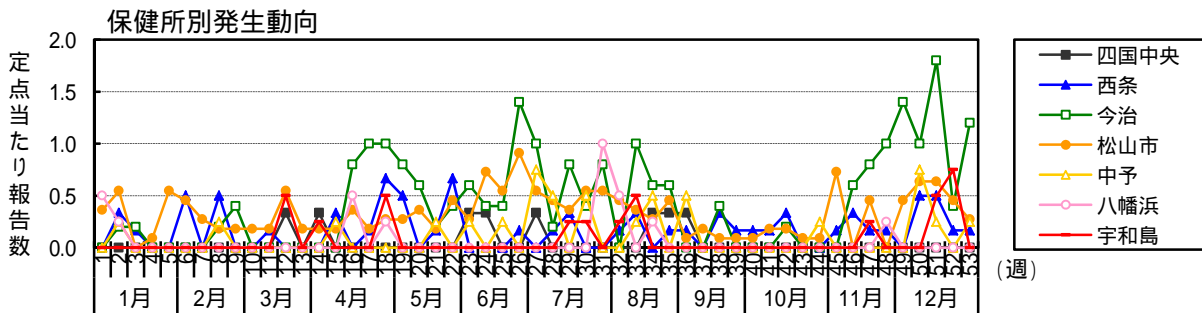
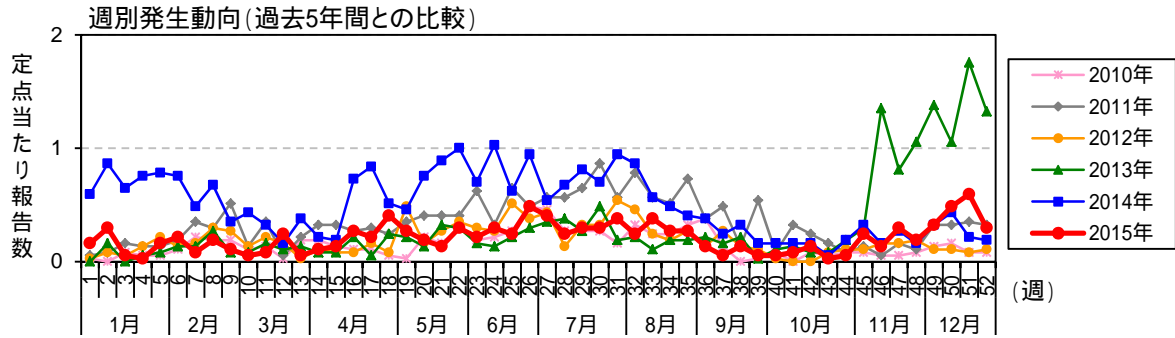
RSウイルス感染症

2014/2015 シーズン(2014年第23週~2015年第22週)の患者報告数は、1,858人(定点当たり50.22人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数1,450人、定点当たり報告数39.19人/シーズン)の1.3倍に増加し、2003年の調査開始以降、最も大きな流行規模となった。第36週(9月上旬)から西条保健所、今治保健所、松山市保健所で増加が始まり、その後県内各地に広がり、第9週(2月下旬)までの6カ月にわたり患者数の多い状態が続いた。第50週(12月中旬)の104人/週(定点当たり2.81人/週)が本シーズンの最高値であった。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所の87.40人/シーズンが最も多く、西条保健所69.83人/シーズン、松山市保健所52.45人/シーズン、四国中央保健所44.67人/シーズン、中予保健所27.50人/シーズン、宇和島保健所25.50人/シーズン、八幡浜保健所19.75人/シーズンの順であり、東中予地区での報告が多くみられた。年齢別の患者報告数は、1歳未満が593人(31.9%)、1歳が591人(31.8%)、2歳が335人(18.0%)と多く、1歳以下の乳幼児が1,184人と全体の63.7%を占めた。



咽頭結膜熱

2015年の患者報告数は421人(定点当たり11.38人/年)で、前年(患者報告数963人、定点当たり26.03人/年)の0.4倍に減少した。年初から県内各地で散発したが、目立った流行ピークがないまま年間を通して低レベルで推移し、第51週(12月中旬)の定点当たり0.59人/週が最高値であった。今治保健所では、4月中旬から8月下旬と11月中旬から12月下旬にかけて報告数が増加した。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所22.80人/年が最も多く、次いで松山市保健所17.36人/年、西条保健所9.00人/年、中予保健所6.00人/年、宇和島保健所4.00人/年、八幡浜保健所3.50人/年、四国中央保健所2.67人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1~5歳までの幼児が331人と全体の78.6%を占めた。

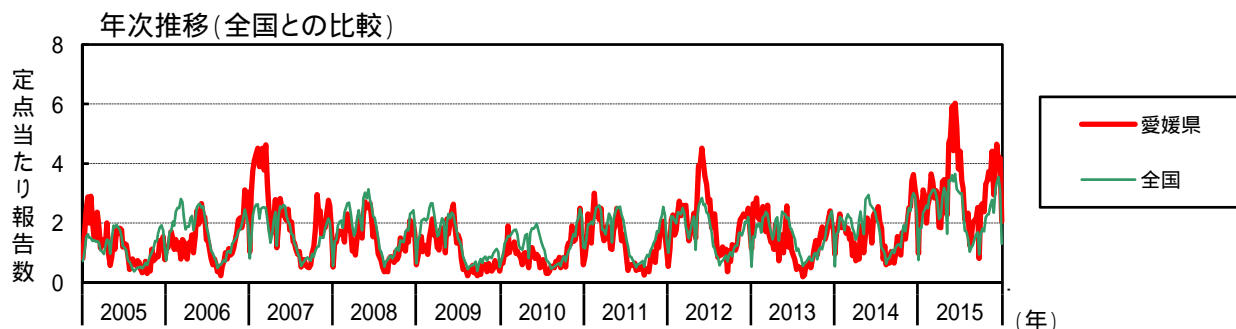
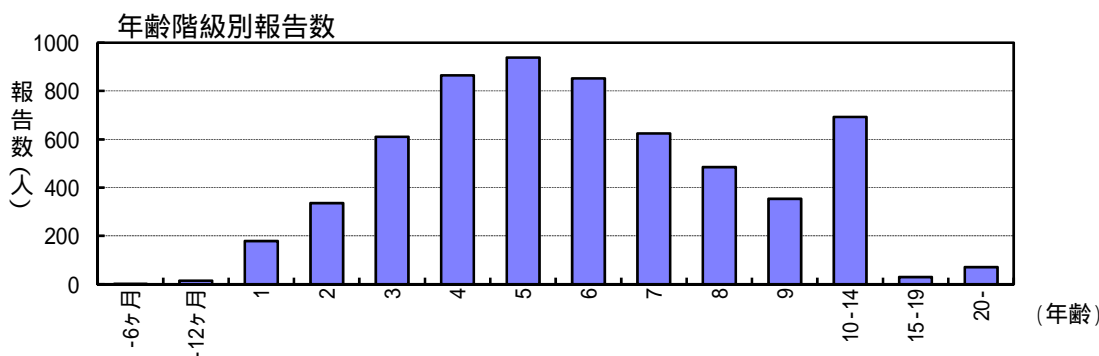
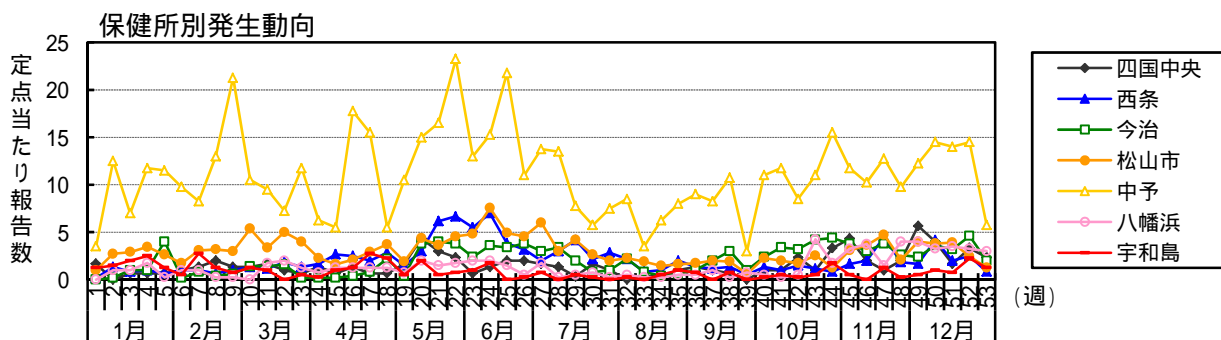
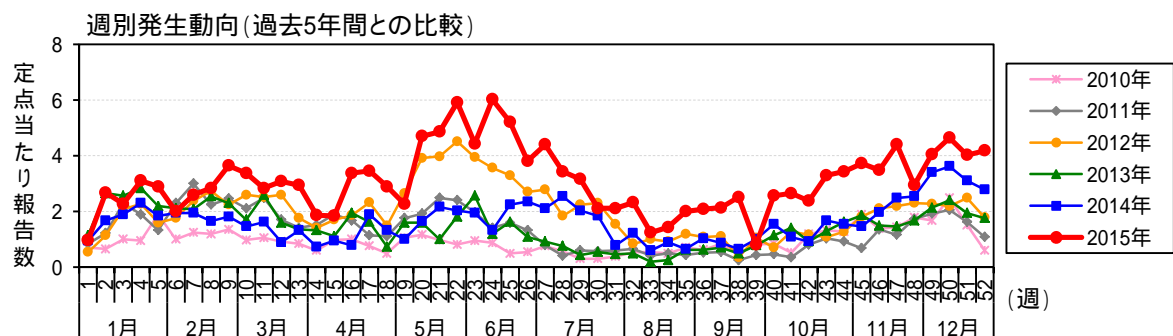


咽頭結膜熱

月 週	患者報告数										定点当たり報告数									
	2015年 保健所別					愛媛県					2015年 保健所別					愛媛県				
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	
1		2	1	4	1	2	6	22	6	534	0.33	0.20	0.36	0.50	0.16	0.59	0.21	0.24	0.18	
2		1	1	6	1	1	11	32	1,244	1,149	0.17	0.20	0.55	0.25	0.30	0.86	0.39	0.52	0.37	
3		1	1	1	1	1	2	24	721	711				0.05	0.65	0.23	0.35	0.23	0.23	
4				1			1	28	961	918				0.03	0.76	0.30	0.43	0.29	0.29	
5				6			6	29	813	836				0.16	0.78	0.26	0.43	0.26	0.26	
6		3	5	5	5	5	8	28	969	920	0.50		0.45	0.22	0.76	0.31	0.41	0.29	0.29	
7			3	3	3	3	3	18	856	791	0.50	0.20	0.27	0.08	0.49	0.14	0.27	0.36	0.25	
8		3	1	2	1	1	7	25	975	780	0.50	0.40	0.18	0.25	0.19	0.68	0.31	0.35	0.25	
9			2	2			4	13	909	921			0.18	0.11	0.35	0.08	0.29	0.37	0.29	
10				2			2	16	999	997			0.18	0.05	0.43	0.32	0.34	0.32	0.32	
11		1		2			3	12	1,035	998	0.17		0.18	0.08	0.32	0.16	0.33	0.32	0.32	
12	1			6			9	6	1,037	956	0.33		0.55	0.24	0.16	0.11	0.33	0.31	0.30	
13				2			2	14	1,002	918			0.18	0.05	0.38	0.14	0.32	0.33	0.29	
14	1			2			4	8	970	847	0.33		0.18	0.25	0.11	0.22	0.08	0.28	0.27	
15		2		2			5	7	854	925	0.33		0.18	0.14	0.19	0.08	0.27	0.31	0.29	
16				4			10	27	1,038	1,109			0.36	0.27	0.73	0.22	0.33	0.37	0.35	
17		1		5			8	31	1,510	1,275	0.17	0.80	0.18	0.50	0.22	0.84	0.05	0.48	0.41	
18		4		5			15	19	1,765	1,511	0.67	1.00	0.27	0.25	0.41	0.51	0.24	0.48	0.30	
19		3	4	3			10	17	1,443	1,493	0.50	0.80	0.27	0.25	0.27	0.46	0.22	0.37	0.47	
20			3	4			7	28	1,764	1,555	0.17	0.60	0.36	0.25	0.19	0.76	0.14	0.56	0.49	
21		1	1	2	1		5	33	2,010	2,018	0.17	0.20	0.18	0.25	0.14	0.89	0.32	0.64	0.64	
22		4	2	5			11	37	2,494	2,364	0.67	0.40	0.27	0.40	0.30	1.00	0.70	0.70	0.70	
23	1		3	3	1		8	26	2,505	2,222	0.33	0.60	0.27	0.25	0.22	0.70	0.16	0.84	0.70	
24	1		2	8			11	38	2,427	2,234	0.33	0.40	0.73	0.40	0.30	1.03	0.14	0.77	0.71	
25			2	6	1		9	23	2,578	2,254		0.40	0.55	0.25	0.24	0.62	0.22	0.82	0.84	
26		1	7	10			18	35	2,254	2,631	0.17	1.40	0.91	0.49	0.95	0.30	0.71	0.83	0.65	
27	1		5	6	3		15	20	2,129	2,397	0.33	1.00	0.55	0.75	0.41	0.54	0.35	0.67	0.66	
28		1	1	5	2		9	25	2,036	2,410	0.17	0.20	0.45	0.50	0.24	0.68	0.38	0.64	0.76	
29		2	4	4			11	30	1,757	1,735	0.33	0.80	0.36	0.25	0.30	0.81	0.27	0.56	0.65	
30			2	6	2		11	26	1,444	1,880		0.40	0.55	0.50	0.30	0.70	0.49	0.46	0.59	
31			4	6			14	35	1,564	1,838		0.80	0.55	1.00	0.38	0.95	0.19	0.50	0.58	
32		1	5	5			15	20	2,129	2,397	0.17	0.80	0.45	0.50	0.24	0.86	0.22	0.48	0.55	
33		2	5	4	1		14	21	1,114	1,205	0.33	1.00	0.36	0.25	0.38	0.57	0.11	0.37	0.40	
34	1		3	3	2		10	18	1,346	1,436	0.33	0.60	0.27	0.50	0.27	0.49	0.19	0.43	0.47	
35	1	1	3	5			10	15	1,185	1,308	0.33	0.60	0.45	0.25	0.27	0.41	0.19	0.38	0.42	
36	1	1	1	1	2		5	14	1,116	1,443	0.17	0.60	0.45	0.50	0.14	0.38	0.22	0.35	0.46	
37		2	2	2			2	9	1,338	1,669	0.33	0.40	0.09	0.50	0.05	0.24	0.16	0.34	0.53	
38		2	1	1			5	12	978	1,244	0.33	0.33	0.09	0.25	0.14	0.32	0.22	0.31	0.32	
39		1	1	1			2	6	856	932		0.17	0.09	0.25	0.05	0.16	0.03	0.18	0.30	
40		1	1	1			2	6	841	909	0.17	0.20	0.09	0.25	0.05	0.16	0.11	0.27	0.29	
41		1	2	2			3	6	796	838	0.17	0.20	0.18	0.25	0.08	0.16	0.14	0.25	0.31	
42		2	1	1			5	6	810	792	0.33	0.20	0.18	0.25	0.14	0.16	0.08	0.26	0.25	
43				1			2	3	983	937			0.09	0.05	0.05	0.08	0.31	0.30	0.28	
44				1	1		2	7	1,056	1,174			0.09	0.25	0.05	0.19	0.19	0.33	0.33	
45		1	8	8			9	12	1,091	1,228	0.17	0.60	0.73	0.25	0.24	0.32	0.30	0.35	0.32	
46	2	2	3	5			5	6	1,240	1,325	0.33	0.60	0.45	0.25	0.14	0.16	0.16	0.35	0.39	
47	1	1	4	5			11	10	1,513	1,456	0.17	0.80	0.45	0.25	0.30	0.27	0.81	0.48	0.42	
48		1	5	5			7	6	1,443	1,686	0.17	1.00	0.45	0.25	0.19	0.16	1.05	0.46	0.53	
49			7	5			12	12	1,803	1,948	0.17	1.40	0.45	0.25	0.32	0.32	1.38	0.57	0.62	
50		3	5	7	3		18	16	2,017	2,105	0.50	1.00	0.64	0.75	0.49	0.43	1.05	0.64	0.67	
51		3	9	7	1		22	8	2,188	2,053	0.50	1.80	0.64	0.25	0.59	0.22	1.76	0.69	0.81	
52		1	2	5	1		11	7	2,047	1,722	0.17	0.40	0.45	0.25	0.30	0.19	1.32	0.65	0.70	
53		1	6	3	1		11	11	1,027	1,027	0.17	1.20	0.27	0.25	0.30	0.19	1.32	0.65	0.55	
合計	8	54	114	191	24	14	421	963	72,150	72,972	2.67	9.00	17.36	6.00	11.38	26.03	22.93	25.12	23.22	

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2015年の患者報告数は6,051人(定点当たり163.54人/年)で、前年(患者報告数3,182人、定点当たり86.00人/年)の1.9倍に増加し、1999年以降最大の発生規模であった。本疾患は、例年初夏と晩秋冬季に多発する傾向を示し、本年も同様に、5月中旬から7月上旬、11月中旬から12月下旬に増加傾向であった。中予保健所で年間を通して多発し、県全体では第24週(6月中旬)に定点当たり6.03人/週と最高値を示した。さらに、第50週(12月上旬)に定点当たり4.65人/週と晩秋冬季のピークを形成した。地域別の定点当たり報告数は、中予保健所が583.00人/年と突出して多く、次いで松山市保健所160.55人/年、西条保健所113.33人/年、今治保健所109.60人/年、四国中央保健所81.67人/年、八幡浜保健所73.50人/年、宇和島保健所46.50人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、5歳が938人(15.5%)と最も多く、次いで4歳が865人(14.3%)、6歳が853人(14.1%)で1~6歳の幼児が全体の62.5%を占めた。

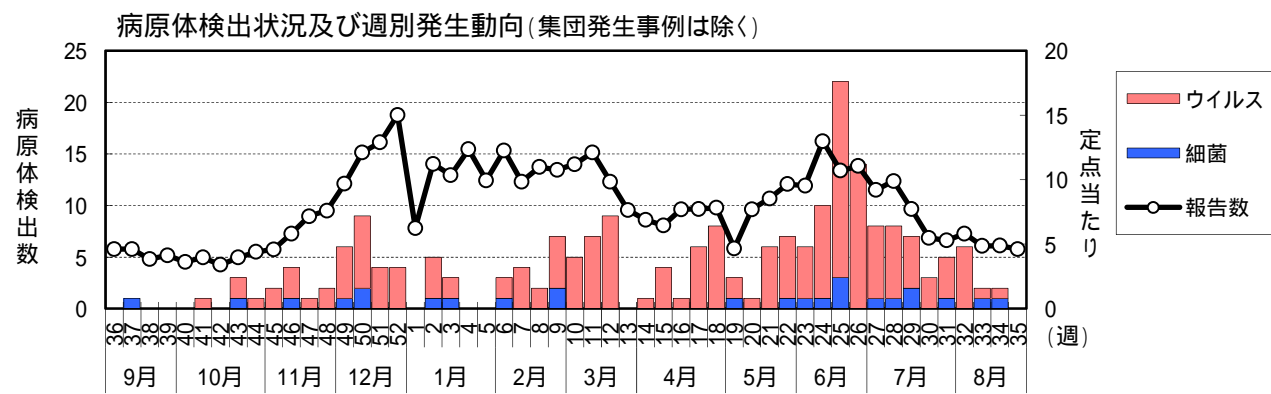
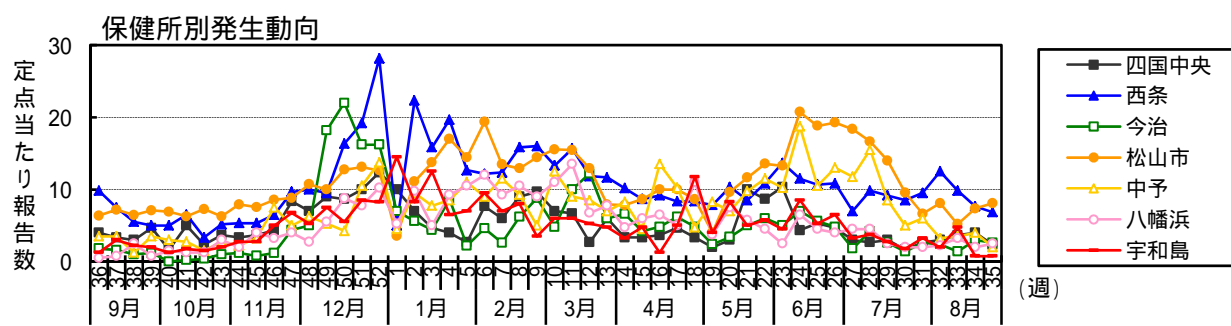
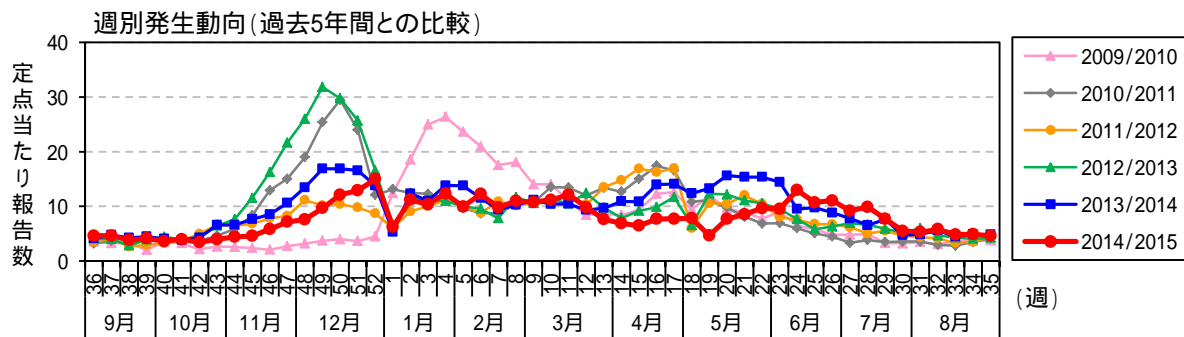


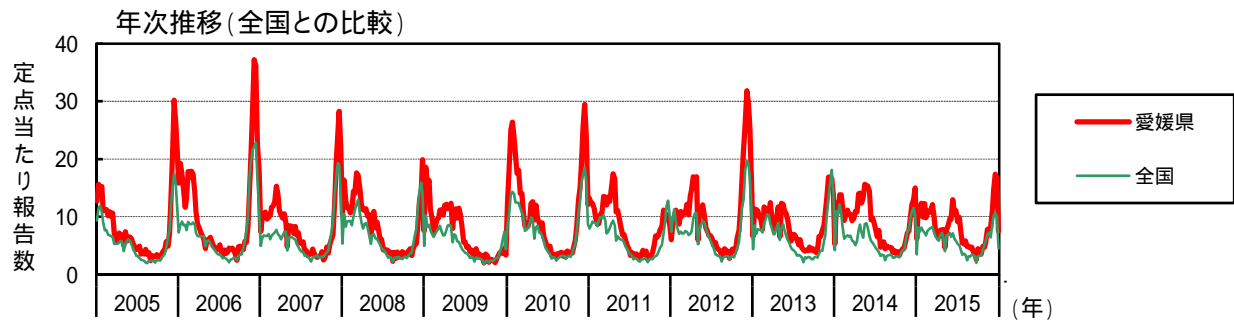
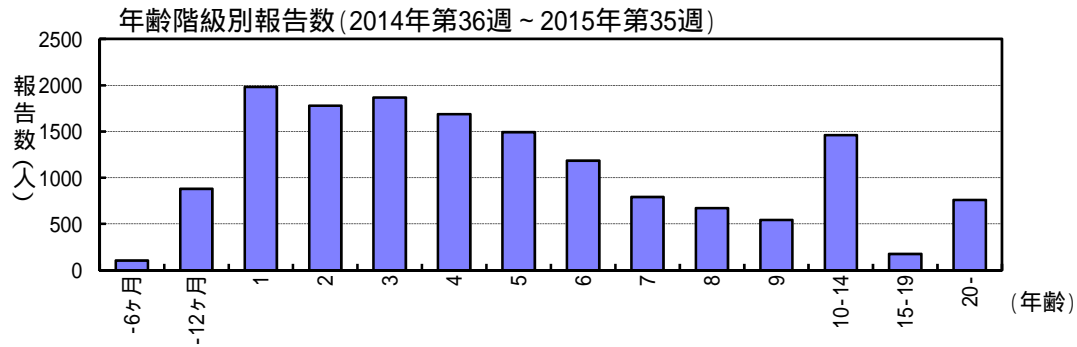
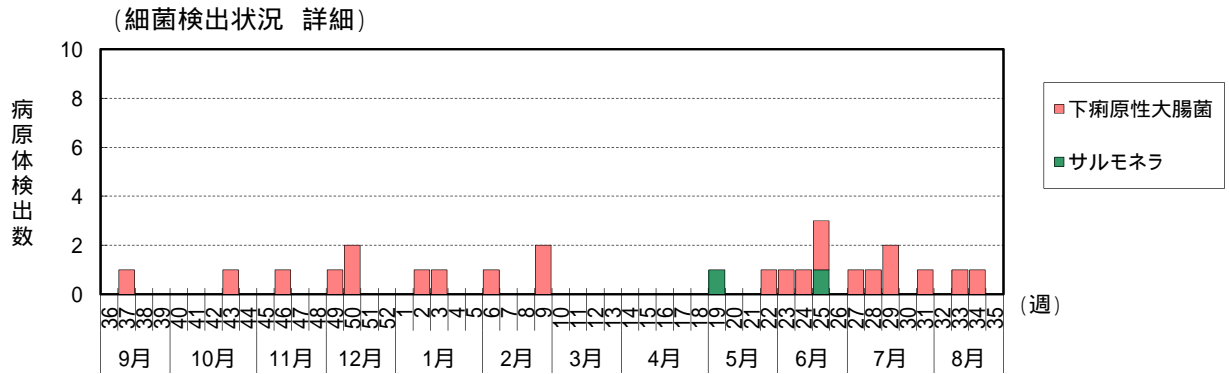
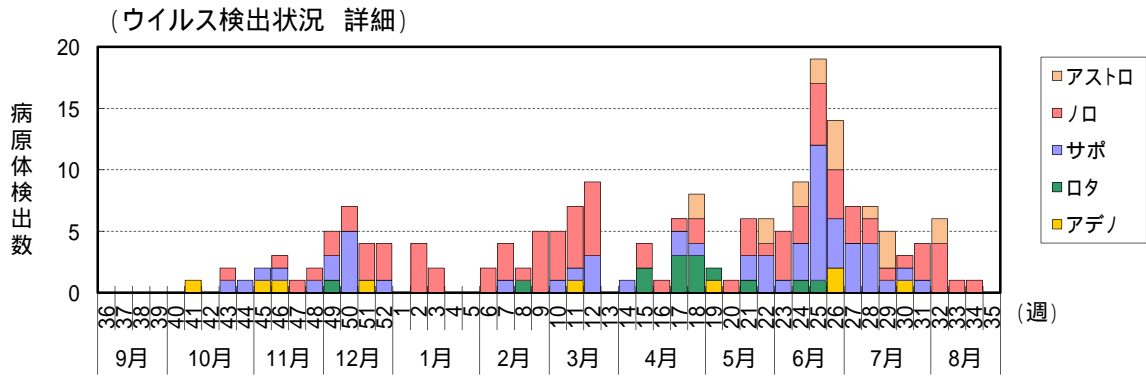
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

月 週	患者報告数										定点当たり報告数																			
	2015年 保健所別					愛媛県					全国					2015年 保健所別					愛媛県					全国				
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013		
1	5	1	11	14	5	36	35	42	2,226	1,577	1,588																			
2	8	8	30	50	6	99	62	98	5,815	5,111	4,816																			
3	2	5	32	28	4	84	70	95	5,324	4,767																				
4	2	6	38	47	7	10	115	85	7,380	6,954	6,110																			
5	2	4	20	29	46	1	107	68	8,149	7,708	6,805																			
6	3	6	1	19	39	4	74	72	8,149	6,458	6,260																			
7	4	6	4	34	33	4	96	72	7,878	5,509	5,286																			
8	6	4	2	35	52	1	105	61	9,105	6,729	6,931																			
9	4	6	3	33	85	3	135	67	9,489	7,232	7,058																			
10	4	8	7	59	42	5	125	54	9,846	6,921	7,469																			
11	5	7	7	37	38	4	105	60	9,841	6,787	7,183																			
12	3	11	8	55	29	8	114	33	9,287	5,779	6,145																			
13	2	8	1	44	47	5	109	49	8,488	5,282	5,309																			
14	4	10	1	25	25	3	69	27	49	6,717	4,533	4,564																		
15	2	16	1	18	22	5	68	35	41	6,980	5,048	5,075																		
16	4	15	2	23	71	5	125	29	72	9,092	6,712	6,630																		
17	2	12	4	32	62	5	111	128	70	10,051	7,482	6,864																		
18	2	17	11	41	22	5	107	49	27	9,507	6,096	4,350																		
19	5	9	2	21	42	3	84	37	59	5,198	5,152	5,933																		
20	13	18	19	48	60	8	174	61	59	10,858	8,790	7,522																		
21	9	37	20	40	66	6	180	80	37	10,748	9,046	7,327																		
22	7	40	19	50	93	3	219	75	67	11,356	9,280	7,238																		
23	2	33	12	53	52	8	164	72	95	10,718	8,282	6,782																		
24	4	42	18	83	61	8	223	49	44	11,526	8,059	6,850																		
25	6	23	17	54	87	6	193	83	60	9,891	7,787	5,775																		
26	6	19	19	50	44	2	141	87	40	9,635	7,459	5,621																		
27	5	12	15	66	55	7	163	78	34	9,416	6,721	5,057																		
28	4	18	17	33	54	1	127	94	28	9,460	6,282	4,578																		
29	1	25	10	46	31	2	117	75	16	7,829	5,278	3,341																		
30	5	13	4	29	23	3	78	68	20	5,493	3,617	3,564																		
31	3	17	5	22	30	1	78	29	17	5,377	3,436	2,991																		
32	13	5	11	25	34	2	86	45	18	4,628	3,003	2,562																		
33	1	5	4	21	14	1	46	22	7	3,152	1,897	1,657																		
34	1	6	2	16	25	1	53	33	9	3,600	2,444	1,988																		
35	3	12	3	18	32	2	74	24	23	3,894	2,603	2,133																		
36	4	8	5	19	36	2	77	38	23	4,583	3,118	2,450																		
37	3	7	10	22	33	4	79	32	26	5,079	3,445	2,697																		
38	2	8	15	21	43	1	93	24	18	5,254	3,119	2,325																		
39	3	8	5	7	12	3	30	37	29	2,969	3,728	2,289																		
40	3	8	12	25	44	2	95	57	42	5,101	3,986	3,023																		
41	3	6	17	22	47	1	98	40	52	5,675	4,008	3,127																		
42	7	9	16	19	34	2	88	34	34	5,412	3,753	2,414																		
43	3	7	21	28	44	17	122	62	48	6,927	5,261	3,473																		
44	10	5	22	14	62	7	127	57	60	7,185	6,023	3,717																		
45	13	10	19	34	47	13	138	54	69	7,213	5,375	3,491																		
46	6	12	15	40	41	15	129	73	55	8,182	6,858	4,285																		
47	3	27	19	52	51	6	163	92	54	8,746	7,820	4,706																		
48	6	11	13	23	39	16	109	94	62	7,404	7,575	6,002																		
49	17	10	12	44	49	16	150	126	79	9,865	8,922	6,569																		
50	12	25	18	42	58	13	172	134	89	10,559	9,449	7,134																		
51	5	12	16	43	56	14	149	115	72	11,201	9,089	7,504																		
52	10	15	23	27	58	13	155	103	65	9,833	7,268	5,497																		
53	7	5	10	14	23	12	76	40	29	4,029	2,333	1,676																		
合計	245	680	548	1,766	2,332	294	6,051	3,182	2,782	401,274	304,272	253,953																		
										81.67	113.33	109.60	160.55	583.00	73.50	46.50	127.55	96.78	80.83											

感染性胃腸炎

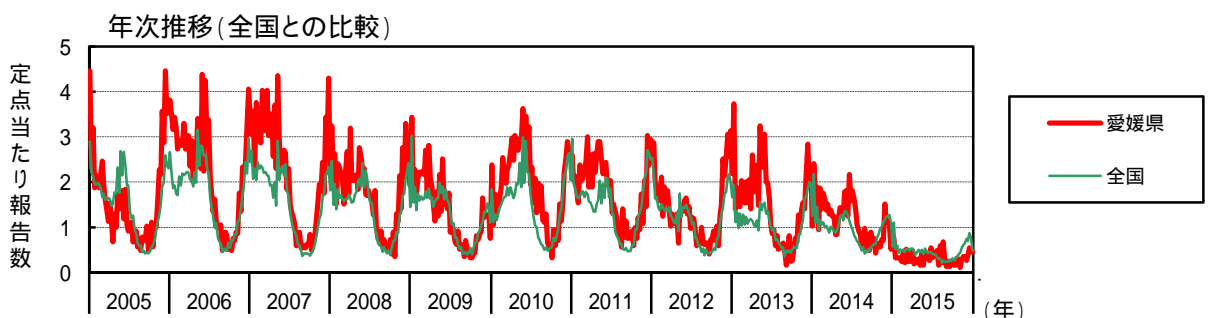
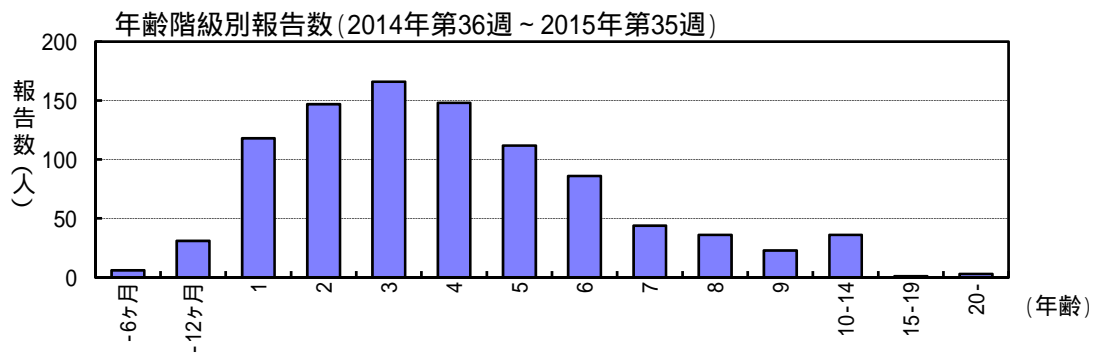
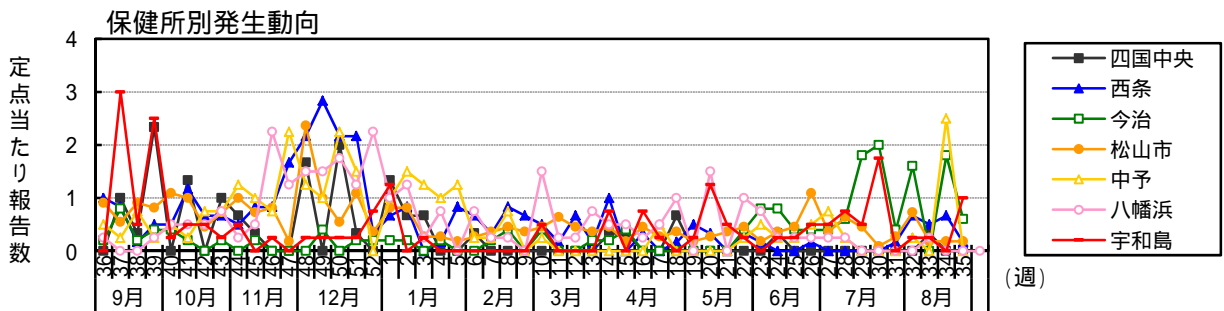
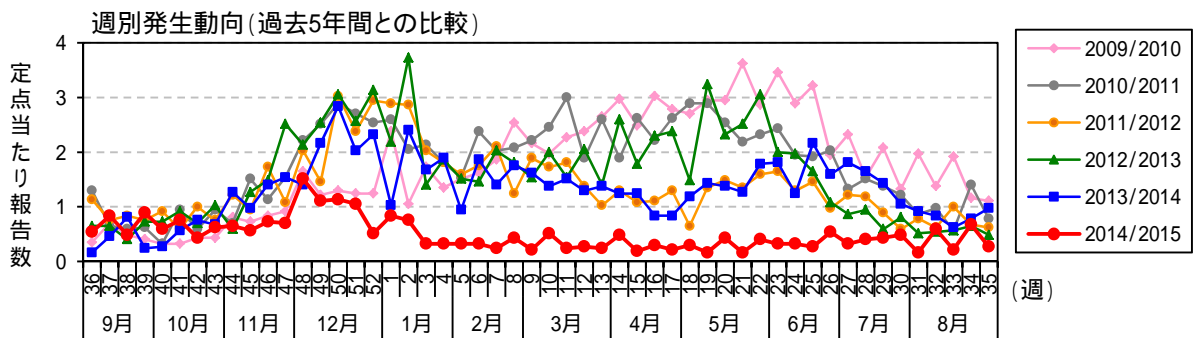
2014/2015 シーズン(2014年第36週~2015年第35週)の患者報告数は15,369人(定点当たり415.38人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数18,563人、定点当たり501.70人/シーズン)の0.8倍とやや減少し、過去10シーズンで最も少ない発生規模であった。本疾患は例年12月から患者数が急増し、年末の急峻なピークと3~4月の穏やかなピークの2峰性の動向を示す。本シーズンは、11月下旬より東予地区及び松山市保健所で増加し始め、その後県下に広がりが見られ、第52週(12月下旬)に定点当たり15.00人/週と最高値を示した。地域別の定点当たり報告数は、松山市保健所567.55人/シーズンと、それに次ぐ西条保健所551.83人/シーズンが多く、中予保健所382.50人/シーズン、八幡浜保健所277.00人/シーズン、四国中央保健所270.00人/シーズン、今治保健所263.20人/シーズン、宇和島保健所262.75人/シーズンが続いた。乳幼児から成人まで全年齢層にわたって報告があったが、1歳が1,981人(12.9%)と最も多く、1~6歳の幼児が9,985人と全体の65.0%を占めた。病原体は、シーズンを通してノロウイルスが多く検出され、10月から12月と2月から7月はサポウイルス、4月から6月はロタウイルスの割合が増加した。





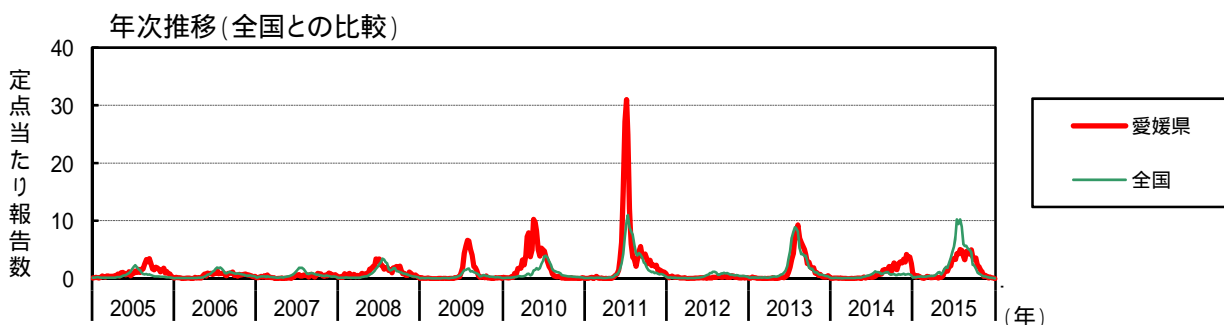
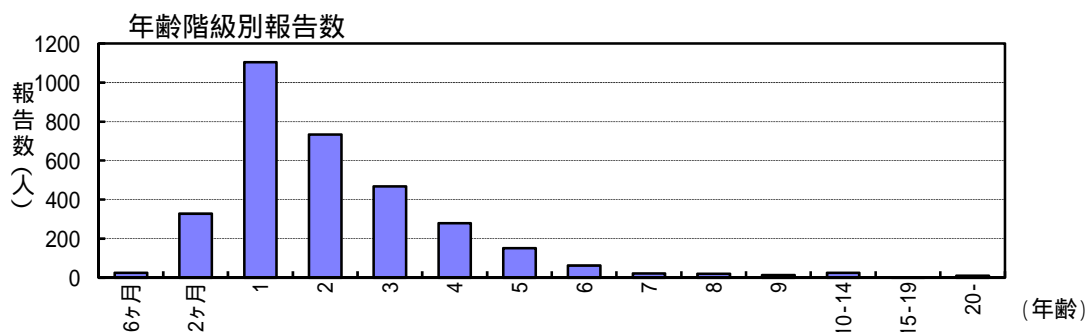
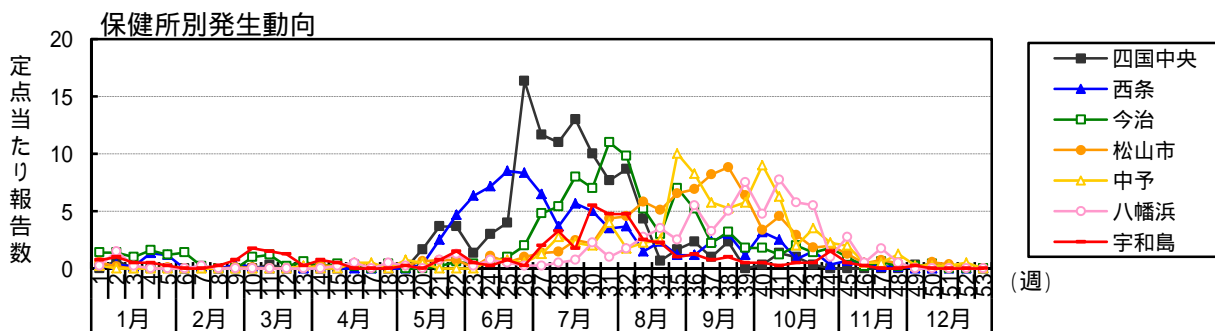
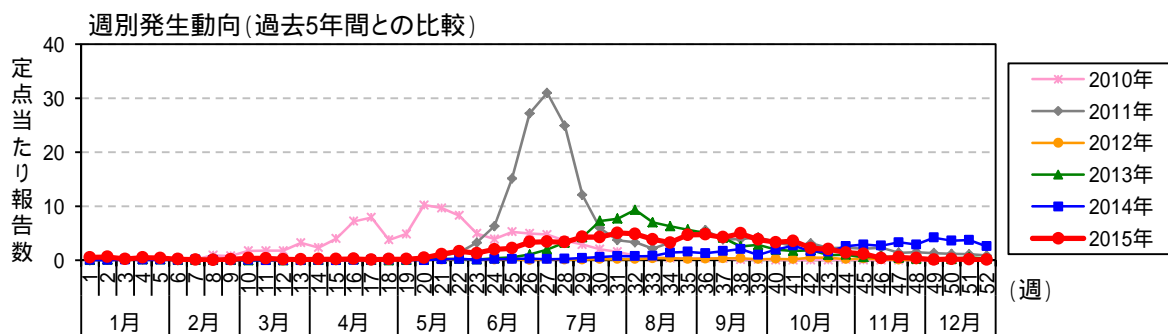
水痘

2014/2015 シーズン(2014年第36週~2015年第35週)の患者報告数は957人(定点当たり25.86人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数2,522人、定点当たり68.16人/年)の0.4倍に減少し、1999年以降最も少ない発生規模であった。本疾患は、例年冬季のピークと、春から初夏にかけてのなだらかなピークの二峰性の動向を示す。本シーズンは、第48週(11月下旬)から第51週(12月中旬)に、定点当たり1.05人/週~1.51人/週を推移し、第48週(11月下旬)に定点当たり1.51人/シーズンと冬季のピークを形成したが、その他の時期は散發程度の発生であった。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所30.67人/シーズン、八幡浜保健所30.00人/シーズン、中予保健所28.75人/シーズン、松山市保健所28.45人/シーズン、宇和島保健所22.00人/シーズン、今治保健所17.80人/シーズン、四国中央保健所16.00人/シーズンの順であった。年齢別の患者報告数は、3歳が最も多く166人(17.3%)、次いで4歳が148人(15.5%)、2歳が147人(15.4%)で1~5歳の幼児が691人と全体の72.2%を占めた。



手足口病

2015年の患者報告数は3,236人(定点当たり87.46人/年)で、前年(患者報告数1,898人、定点当たり51.30人/年)の1.7倍に増加し、過去10年間で3番目に大きな発生規模であった。本疾患は、例年4月から9月にかけて流行地域を移動しながら3~4カ月間流行するが、本年は第21週(5月中旬)に四国中央保健所、西条保健所で増加し始め、その後、6月下旬に今治保健所、7月上旬に宇和島保健所でも増加し、各地に広がった。県全体では、第31週(7月下旬)に定点当たり5.03人/週と最高値を示した。地域別の定点当たり報告数は、四国中央保健所112.67人/年、今治保健所101.60人/年、西条保健所92.33人/年、松山市保健所90.18人/年、中予保健所87.00人/年、八幡浜保健所74.25人/年、宇和島保健所49.75人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1歳が1,104人(34.1%)と最も多く、1~3歳の幼児が2,304人と全体の71.2%を占めた。病原体は、コクサッキーウイルスA6型が最も多く、次いでライノウイルスが検出された。その他に、コクサッキーウイルスA9型、コクサッキーウイルスA16型もみられた。

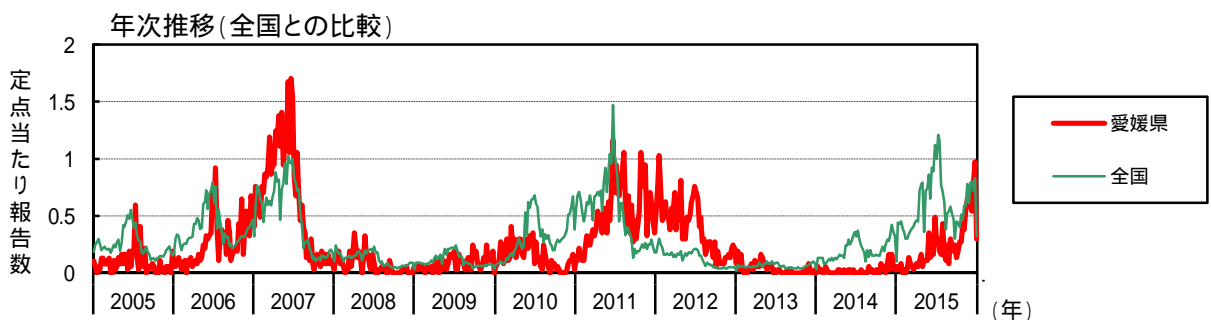
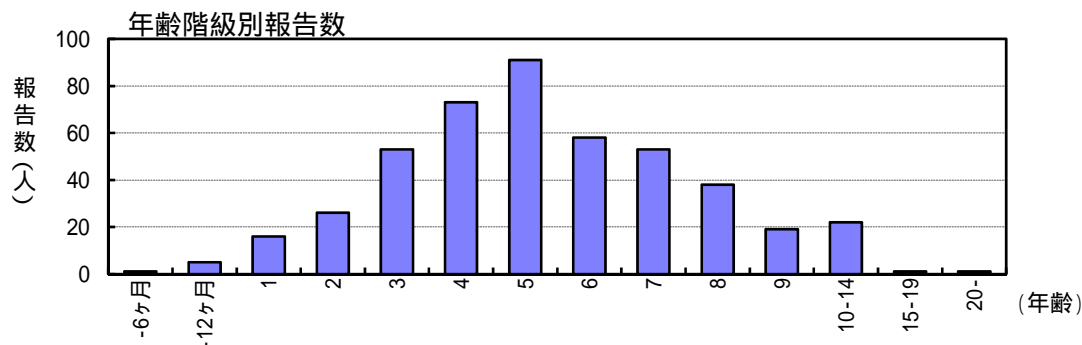
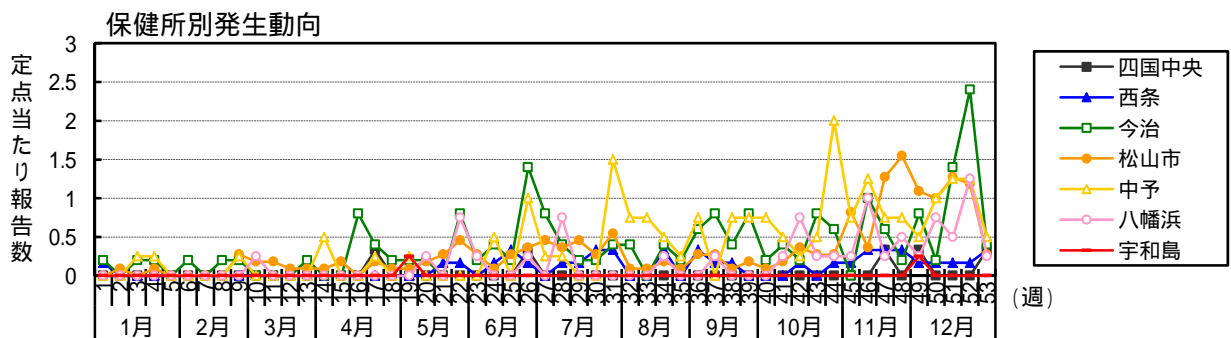
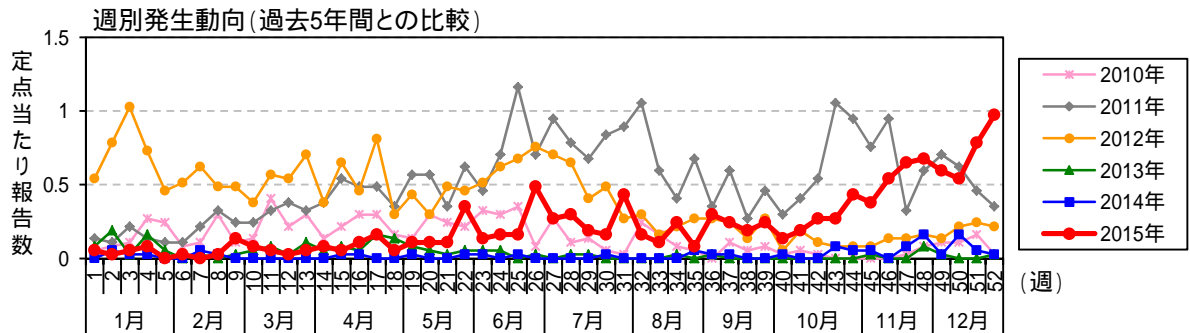


手足口病

月	患者報告数													定点点数報告数												
	2015年 保健所別						愛媛県						全国													
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013							
1																										
2																										
3																										
4																										
5																										
6																										
7																										
8																										
9																										
10																										
11																										
12																										
13																										
14																										
15																										
16																										
17																										
18																										
19																										
20																										
21																										
22																										
23																										
24																										
25																										
26																										
27																										
28																										
29																										
30																										
31																										
32																										
33																										
34																										
35																										
36																										
37																										
38																										
39																										
40																										
41																										
42																										
43																										
44																										
45																										
46																										
47																										
48																										
49																										
50																										
51																										
52																										
53																										
合計	338	554	508	992	348	297	199	3,236	1,898	3,043	381,720	83,694	303,339	112.67	92.33	101.60	90.18	87.00	74.25	49.75	87.46	51.30	82.24	121.34	26.62	96.54

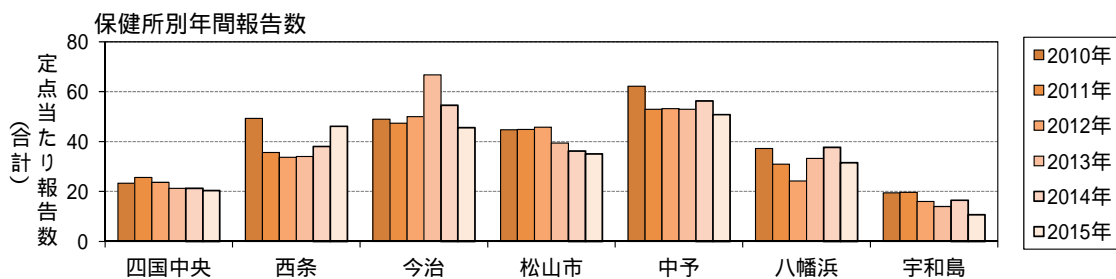
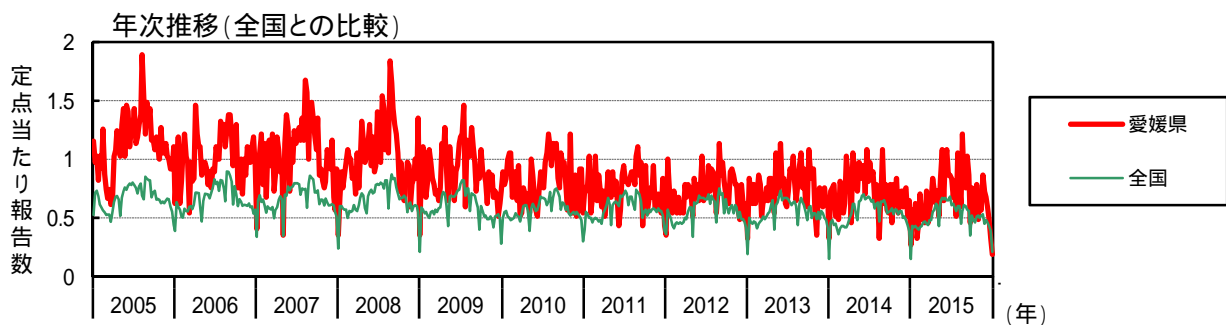
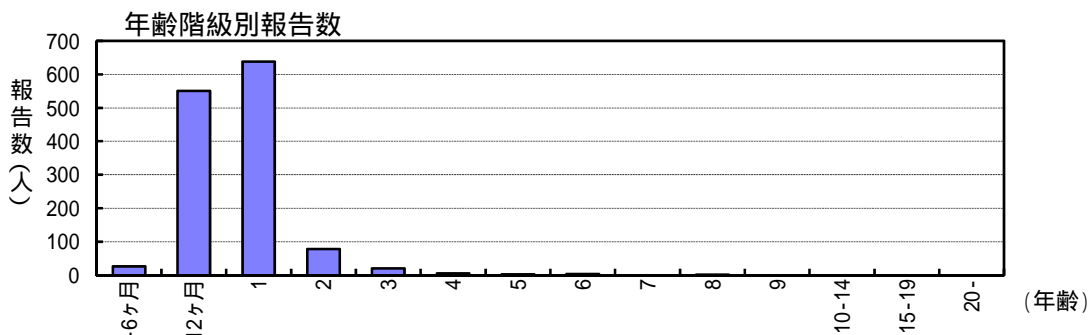
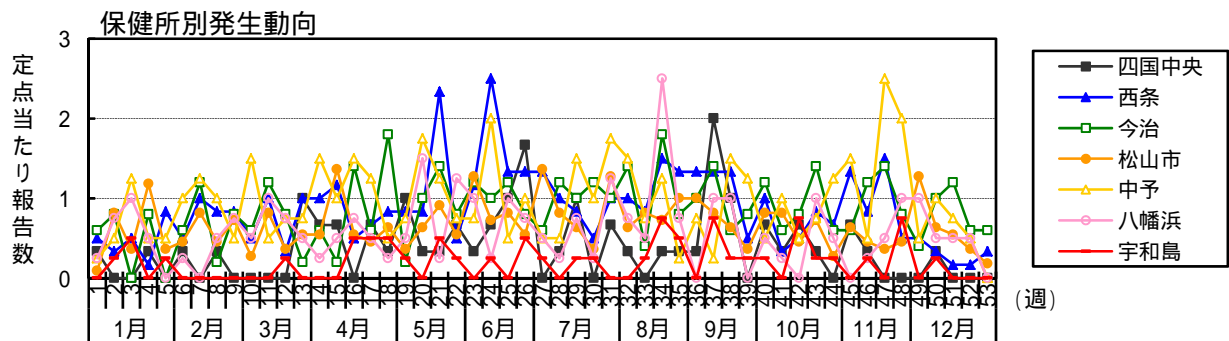
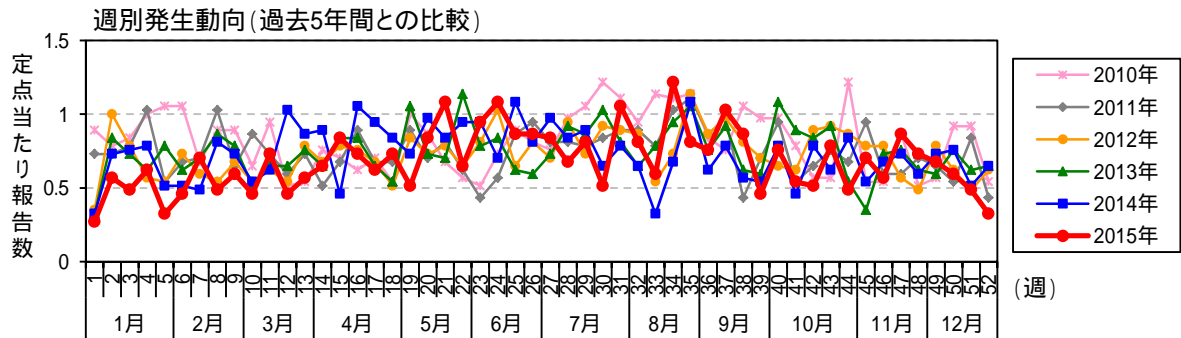
伝染性紅斑

2015年の患者報告数は457人(定点当たり12.35人/年)で、前年(患者報告数45人、定点当たり1.22人/年)の10.2倍に増加した。本疾患は、1992年、1997年、2001～2002年、2006～2007年、2011～2012年と4、5年おきに流行期を迎えており、本年は流行期であると考えられた。今治保健所、松山市保健所では、年間を通して患者発生がみられた。第44週(10月下旬)に中予保健所で多発した後、11月中旬からは今治保健所及び松山市保健所で増加した。第52週(12月下旬)に定点当たり報告数0.97人/週となりピークを迎えた。地域別定点当たり報告数は、中予保健所21.75人/年、今治保健所21.00人/年、松山市保健所16.91人/年と多く、八幡浜保健所9.50人/年、西条保健所5.67人/年、四国中央保健所1.67人/年、宇和島保健所0.50人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、5歳が91人(19.9%)と最も多かったが、乳幼児から14歳まで幅広い年齢層にみられた。



突発性発しん

2015年の患者報告数は1,324人(定点当たり35.78人/年)で、前年(患者報告数1,405人、定点当たり37.97人/年)と同程度の発生であった。本疾患は夏季にやや増加する傾向があるが、本年は第34週(8月中旬)に定点当たり報告数1.22人/週と最高値を示したものの、年間を通じて大きな変動を示さずに推移した。地域別の定点当たり報告数は、中予保健所50.75人/年、次いで西条の46.17人/年、今治保健所45.60人/年、松山市保健所35.09人/年、八幡浜保健所31.50人/年、四国中央保健所20.33人/年、宇和島保健所10.75人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、6~12ヶ月が551人(41.6%)、1歳が638人(48.2%)で、1歳以下が1,215人と全体の91.8%を占めた。

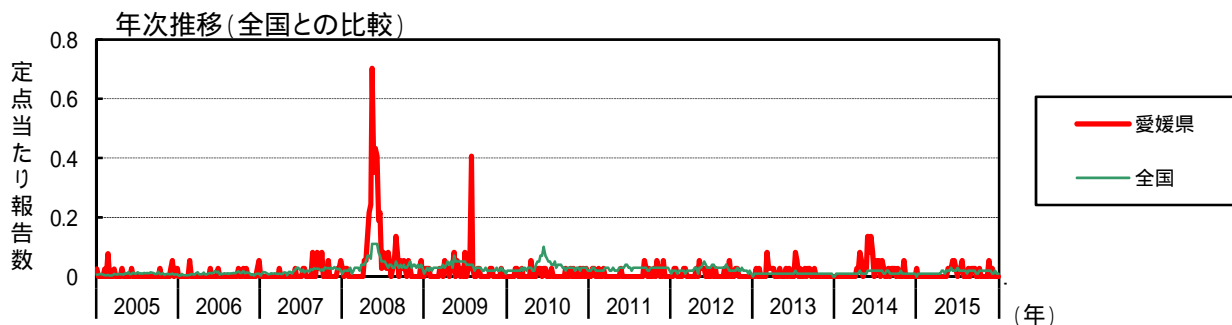
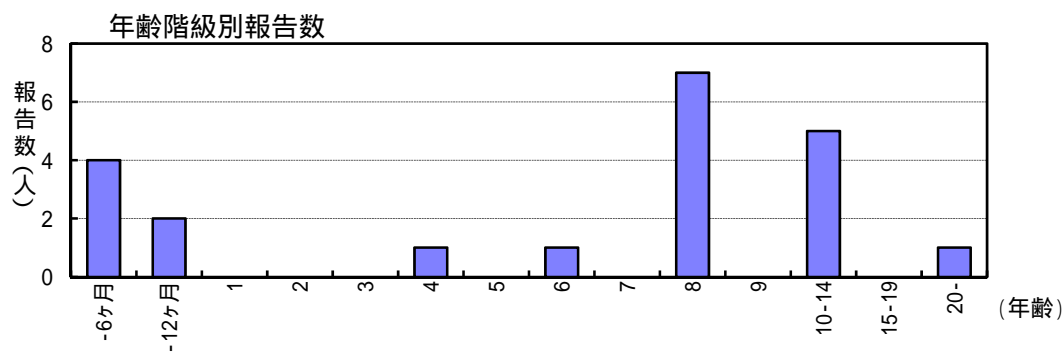
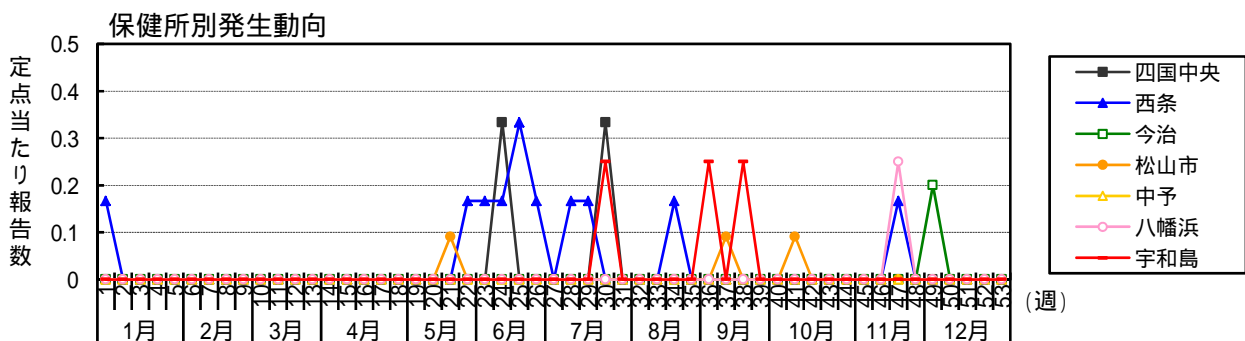
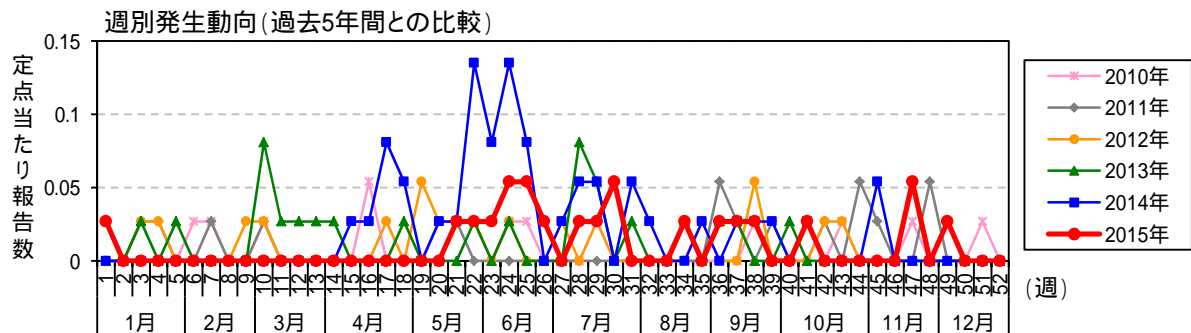


突発性発しん

月 週	患者報告数												定点当り報告数						
	2015年 保健所別							愛媛県					全国						
	四国中央	西 奈	今 治	松 山市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013			
1	1	3	3	1	1	1	1	10	12	12	440	437	576	0.33	0.33	0.33			
2	2	2	4	9	2	3	1	21	27	31	1,351	1,462	1,567	0.33	0.33	0.33			
3	3	3	4	4	5	4	2	18	28	27	1,315	1,508	1,458	0.50	0.50	0.50			
4	4	1	4	13	2	2	1	23	29	23	1,349	1,390	1,422	0.33	0.33	0.33			
5	5	5	4	4	2	2	1	12	19	29	1,302	1,417	1,473	0.83	0.83	0.83			
6	1	3	3	5	4	1	1	17	19	23	1,254	1,304	1,457	0.33	0.33	0.33			
7	6	6	6	9	5	1	26	26	18	26	1,313	1,134	1,303	1.00	1.00	1.00			
8	1	5	1	5	4	2	18	30	30	32	1,347	1,284	1,422	0.33	0.33	0.33			
9	5	5	4	8	2	3	22	22	27	29	1,440	1,369	1,477	0.83	0.83	0.83			
10	10	3	3	3	6	2	17	20	20	19	1,468	1,363	1,518	0.50	0.50	0.50			
11	11	6	6	9	2	4	27	23	24	24	1,419	1,335	1,592	1.00	1.00	1.00			
12	2	2	4	4	3	3	17	38	24	24	1,397	1,314	1,538	0.33	0.33	0.33			
13	3	6	6	6	3	2	21	32	28	28	1,521	1,411	1,609	1.00	1.00	1.00			
14	2	6	3	6	6	1	24	24	33	24	1,521	1,571	1,705	0.67	0.67	0.67			
15	2	7	1	15	4	2	31	31	17	31	1,736	1,689	1,736	0.67	0.67	0.67			
16	3	3	7	6	6	3	27	39	31	31	1,787	1,955	1,941	0.50	0.50	0.50			
17	2	4	3	5	5	2	23	35	24	24	1,969	1,960	2,035	0.67	0.67	0.67			
18	1	5	9	7	2	1	27	27	35	24	1,915	1,689	1,889	0.33	0.33	0.33			
19	3	5	1	4	3	2	19	19	27	39	1,345	1,526	1,921	1.00	1.00	1.00			
20	1	5	5	7	7	6	31	36	27	27	2,025	2,004	2,004	0.33	0.33	0.33			
21	1	14	7	10	5	1	40	40	31	26	2,099	2,042	2,145	0.33	0.33	0.33			
22	2	3	4	6	3	5	24	24	35	42	2,085	2,174	2,293	0.67	0.67	0.67			
23	1	7	6	14	3	4	35	35	35	29	2,116	2,193	2,046	0.33	0.33	0.33			
24	2	15	5	8	8	1	40	40	26	31	2,036	2,070	2,105	0.67	0.67	0.67			
25	3	8	6	9	2	4	32	40	31	26	2,066	2,108	2,101	1.00	1.00	1.00			
26	5	8	4	6	4	3	32	32	30	22	2,135	2,133	2,101	1.67	1.67	1.67			
27	8	3	3	15	2	2	31	31	36	27	1,931	2,119	2,067	1.33	1.33	1.33			
28	1	6	6	9	2	1	25	31	24	24	1,879	1,975	1,868	0.33	0.33	0.33			
29	3	5	5	7	6	3	30	30	33	32	1,866	2,055	1,907	1.00	1.00	1.00			
30	3	6	6	4	4	1	19	19	24	38	1,758	1,841	1,976	0.50	0.50	0.50			
31	2	6	5	14	7	5	39	39	29	30	1,899	1,945	2,022	0.67	0.67	0.67			
32	1	6	7	7	6	3	30	30	24	24	1,875	1,975	1,868	0.33	0.33	0.33			
33	5	2	2	9	3	2	22	22	12	29	1,360	1,413	1,326	0.33	0.33	0.33			
34	1	9	9	8	5	10	3	45	25	35	1,752	1,886	1,937	0.33	0.33	0.33			
35	1	8	4	11	1	3	30	30	40	39	1,916	2,018	2,111	0.33	0.33	0.33			
36	1	8	5	11	3	3	28	28	23	28	1,886	2,054	1,990	0.33	0.33	0.33			
37	6	8	7	9	1	4	38	38	29	34	1,804	1,929	1,911	2.00	2.00	2.00			
38	3	8	3	7	6	4	32	32	21	23	1,734	1,698	1,724	1.00	1.00	1.00			
39	3	3	4	4	5	4	17	17	20	22	1,103	1,742	1,505	0.50	0.50	0.50			
40	2	6	6	9	2	2	28	28	29	40	1,637	1,772	1,856	0.67	0.67	0.67			
41	1	2	3	9	4	1	20	20	17	33	1,526	1,807	1,895	0.33	0.33	0.33			
42	2	3	4	5	2	2	3	19	29	31	1,450	1,684	1,563	0.67	0.67	0.67			
43	1	5	7	8	3	4	29	29	23	34	1,609	1,802	1,718	0.33	0.33	0.33			
44	4	4	3	3	3	2	18	18	31	20	1,637	1,806	1,687	0.67	0.67	0.67			
45	2	8	3	7	6	6	26	26	20	13	1,563	1,675	1,538	0.67	0.67	0.67			
46	1	5	6	5	2	1	21	21	25	27	1,636	1,752	1,723	0.33	0.33	0.33			
47	9	9	7	4	10	2	32	32	27	28	1,669	1,754	1,538	1.00	1.00	1.00			
48	3	3	4	5	8	4	27	27	22	23	1,425	1,568	1,757	0.50	0.50	0.50			
49	49	3	2	14	2	4	25	27	22	22	1,512	1,622	1,694	0.50	0.50	0.50			
50	1	2	5	7	4	2	22	28	28	28	1,453	1,504	1,590	0.33	0.33	0.33			
51	6	1	6	6	3	2	18	19	23	23	1,375	1,376	1,499	0.17	0.17	0.17			
52	1	1	3	4	2	2	12	12	24	24	1,233	1,222	1,293	0.33	0.33	0.33			
53	2	2	3	2	2	2	7	7	7	7	647	647	647	0.33	0.33	0.33			
合計	61	277	228	386	203	126	43	1,324	1,405	1,437	84,957	87,992	89,476	20.33	46.17	45.60			
											35.09	50.75	50.75	31.50	10.75	38.84			
											27.00	37.97	37.97	27.00	27.99	28.48			

百日咳

2015年の患者報告数は21人(定点当たり0.57人/年)で、前年(患者報告数40人、定点当たり1.08人)の0.5倍に減少した。2010年以降2013年まで地域的な流行はみられていなかったが、本年は、前年と同様に西条保健所からの報告が多く、11人と52.4%を占めた。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所1.83人/年、宇和島保健所0.75人/年、四国中央保健所0.67人/年、松山市保健所0.27人/年、八幡浜保健所0.25人/年、今治保健所0.20人/年であり、中予保健所からの報告はなかった。年齢別の患者報告数は、8歳が7人(33.3%)、10~14歳が5人(23.8%)、6か月未満が4人(19.0%)と多く、10歳未満が15人と全体の71.4%を占めた。

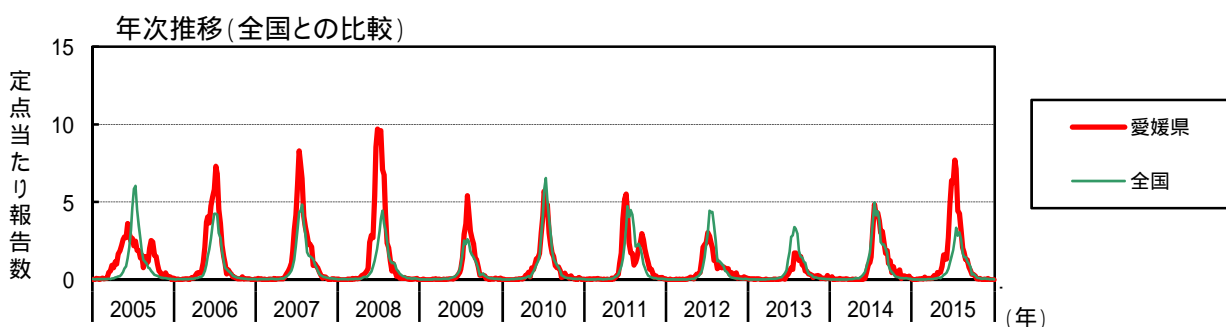
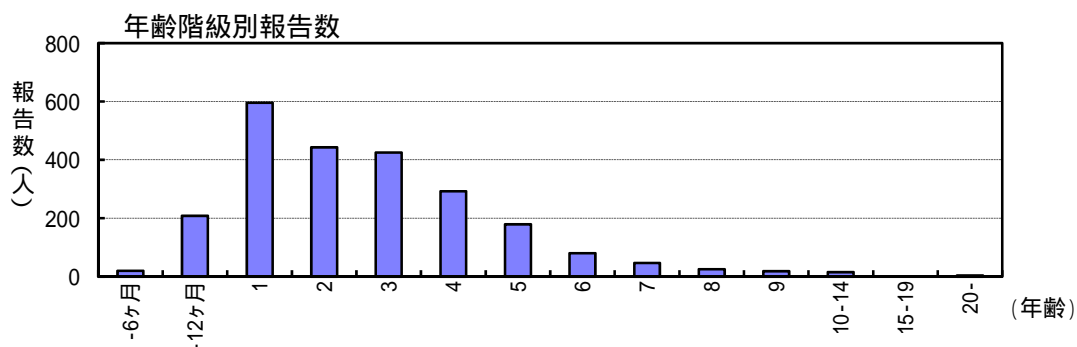
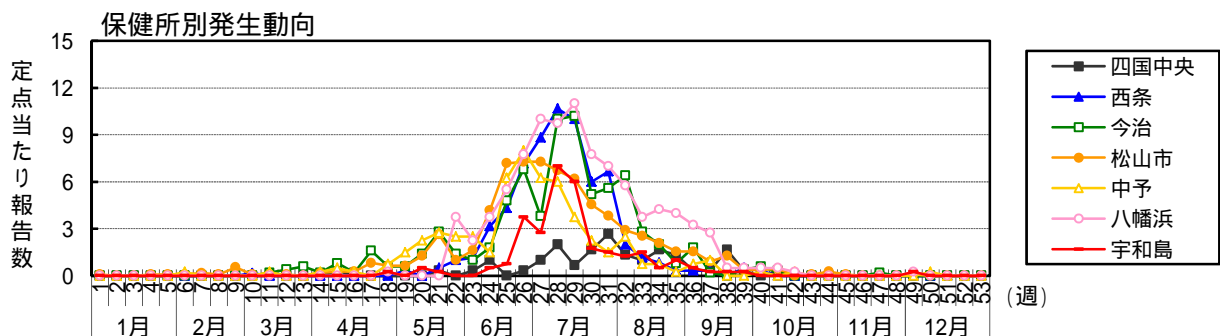
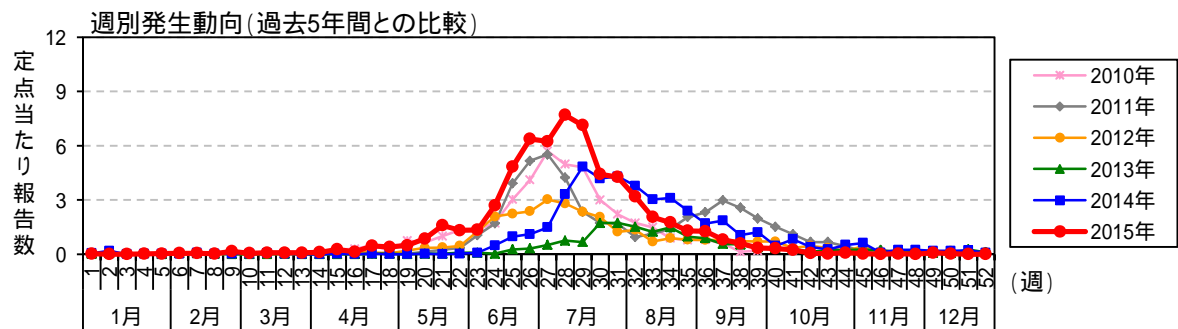


百日咳

月	週	患者報告数										定点当たり報告数																
		2015年 保健所別					愛媛県					2015年 保健所別					愛媛県											
		四国中央	西 奈	今 治	松 山市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013								
1	1	1						10	2	10							0.03				0.00	0.00	0.00					
2	2							26	35	38											0.01	0.01	0.01					
3	3							23	33	31	1										0.01	0.01	0.01					
4	4							23	20	30	1										0.01	0.01	0.01					
5	5							39	27	30	1										0.01	0.01	0.01					
6	6							38	22	35											0.01	0.01	0.01					
7	7							21	23	33											0.01	0.01	0.01					
8	8							29	25	39											0.01	0.01	0.01					
9	9							20	32	30											0.01	0.01	0.01					
10	10							34	28	36	3										0.01	0.01	0.01					
11	11							43	26	24	1										0.03	0.03	0.03					
12	12							31	34	36	1										0.03	0.03	0.03					
13	13							41	34	35	1										0.03	0.03	0.03					
14	14							39	30	29	1										0.03	0.03	0.03					
15	15							47	34	33	1										0.03	0.03	0.03					
16	16							42	45	26	1										0.01	0.01	0.01					
17	17							51	49	33	3										0.08	0.08	0.08					
18	18							70	41	23	2										0.05	0.05	0.05					
19	19							30	31	27											0.01	0.01	0.01					
20	20							59	39	33	1										0.03	0.03	0.03					
21	21				1			53	26	30	1										0.02	0.02	0.02					
22	22							63	71	31	1										0.03	0.14	0.03					
23	23							89	74	37	1										0.03	0.08	0.03					
24	24							68	63	35	2										0.05	0.14	0.03					
25	25	1						67	53	23	2										0.05	0.08	0.02					
26	26							75	55	31	1										0.03	0.03	0.02					
27	27							92	66	30	1										0.03	0.03	0.02					
28	28							68	65	71	2										0.03	0.05	0.08					
29	29							50	53	34	1										0.03	0.05	0.05					
30	30					1		59	50	44	2										0.05	0.08	0.02					
31	31							73	48	34	2										0.03	0.05	0.03					
32	32							70	41	41	1										0.02	0.02	0.02					
33	33							39	44	24	1										0.01	0.01	0.01					
34	34							47	51	38	1										0.02	0.02	0.02					
35	35							72	56	36	1										0.02	0.02	0.02					
36	36							68	44	32	1										0.03	0.03	0.03					
37	37				1			70	47	40	1										0.02	0.02	0.01					
38	38							71	39	28	1										0.03	0.03	0.03					
39	39							38	37	37	1										0.03	0.03	0.03					
40	40							42	39	29	1										0.01	0.01	0.01					
41	41							56	37	27	1										0.02	0.01	0.01					
42	42							55	34	37	1										0.02	0.01	0.01					
43	43							72	56	29											0.02	0.02	0.01					
44	44							52	40	37											0.02	0.02	0.01					
45	45							61	34	26	2										0.02	0.01	0.01					
46	46							74	34	35											0.02	0.01	0.01					
47	47							69	40	28	2										0.02	0.01	0.01					
48	48							62	26	30											0.02	0.01	0.01					
49	49							46	28	30	1										0.01	0.01	0.01					
50	50							32	32	26											0.01	0.01	0.01					
51	51							48	37	29											0.02	0.01	0.01					
52	52							41	36	12											0.01	0.01	0.01					
53	53							17	17	12											0.01	0.01	0.01					
合計		2	11	1	3	1	3	2,675	2,066	1,662	22	40	21	2,675	2,066	1,662	0.67	1.83	0.20	0.27	0.25	0.75	0.57	1.08	0.59	0.85	0.66	0.53

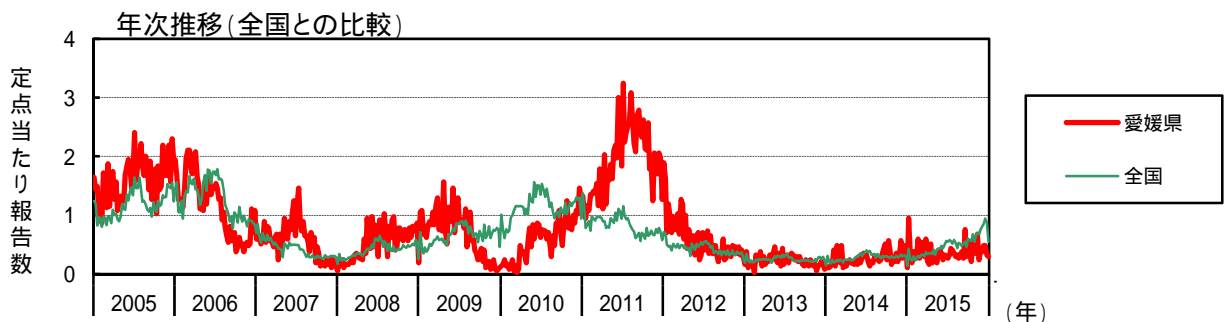
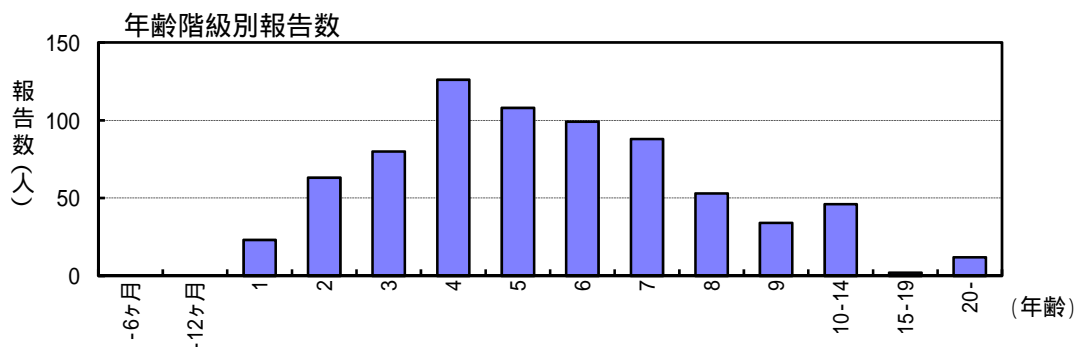
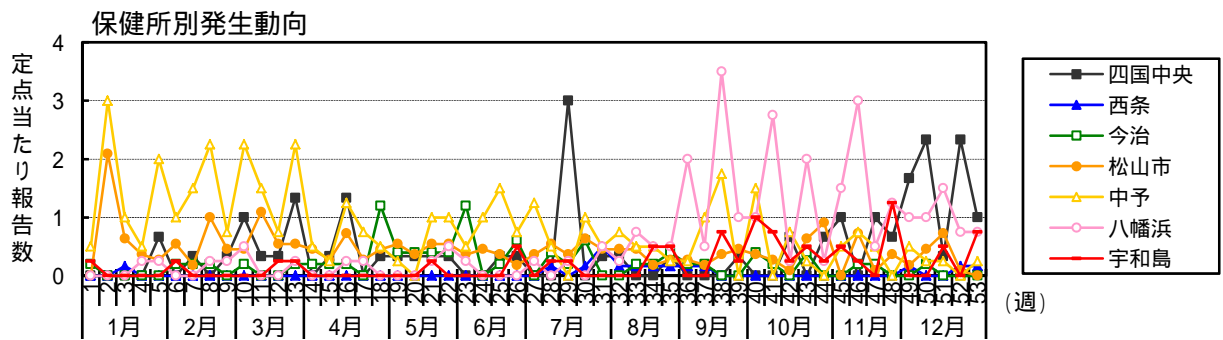
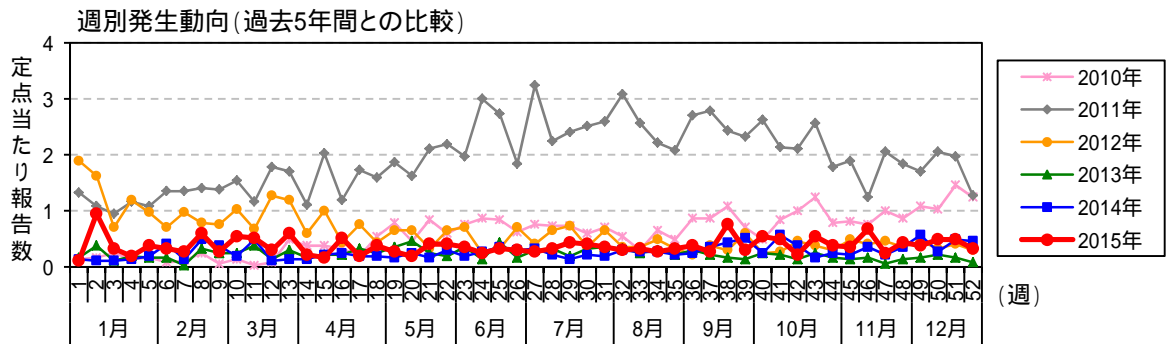
ヘルパンギーナ

2015年の患者報告数は2,353人(定点当たり63.59人/年)で、前年(患者報告数1,627人、定点当たり43.97人/年)の1.4倍に増加し、過去10年で2番目に大きな発生規模であった。5月上旬から中予保健所、5月中旬から今治保健所、松山市保健所で増加し始め、その後県内各地区に広がった。県全体では第28週(7月上旬)に定点当たり7.70人/週と流行のピークを迎えた。特に、西条保健所では第28週に定点当たり10.67人/週、今治保健所、八幡浜保健所では第29週にそれぞれ定点当たり10.20人/週、11.00人/週と他地区と比べ大きなピークを形成した。地域別の定点当たり報告数は、八幡浜保健所で95.00人/年と最も多く、次いで今治保健所75.40人/年、松山市保健所72.55人/年、西条保健所65.83人/年、中予保健所56.00人/年、宇和島保健所30.75人/年、四国中央保健所18.67人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1歳が596人(25.3%)と最も多く、1~4歳が1,756人と全体の74.6%を占めた。



流行性耳下腺炎

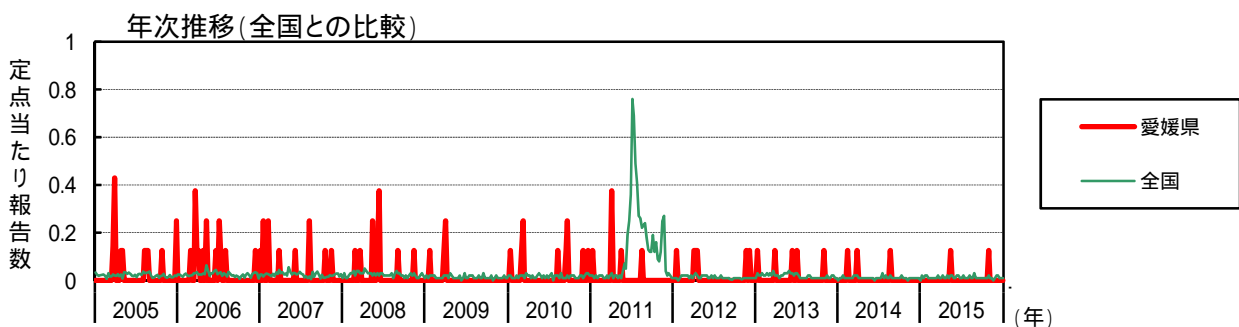
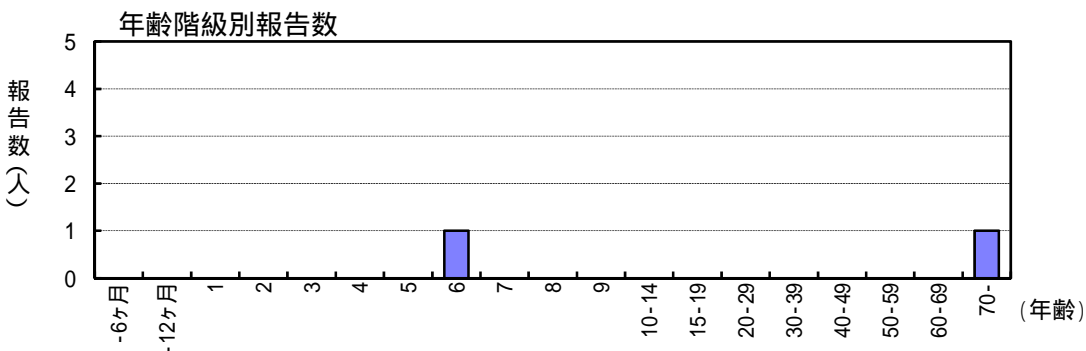
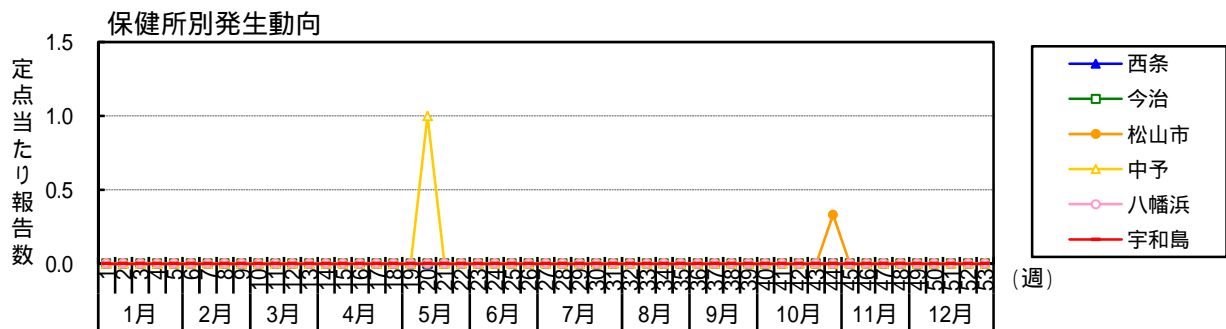
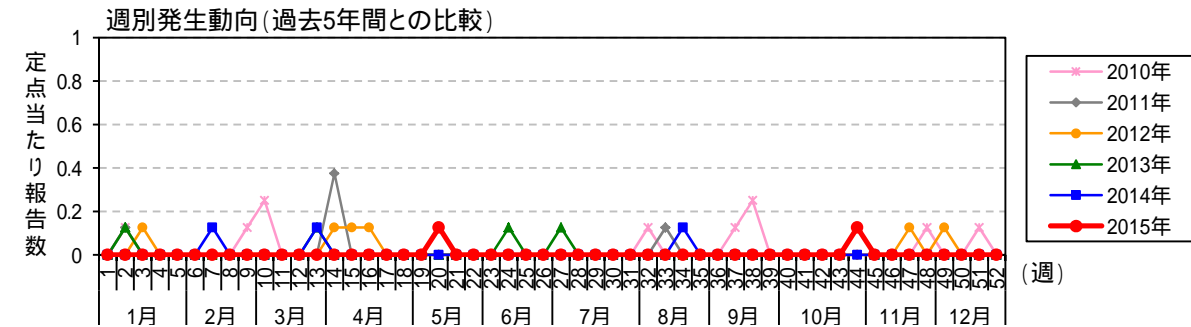
2015年の患者報告数は734人(定点当たり19.84人/年)で、前年(患者報告数523人、定点当たり14.14人/年)の1.4倍に増加した。本疾患は3~4年周期で流行する特徴があり、2010年に始まった前回の流行は2012年前半で終息している。2013年以降再び患者数がやや増加しているが、本年は過去10年で小規模な発生となった。地域別の定点当たり報告数は、中予保健所で42.25人/年と最も多く、次いで八幡浜保健所30.75人/年、四国中央保健所24.33人/年、松山市保健所23.64人/年、今治保健所10.60人/年、宇和島保健所10.25人/年、西条保健所2.50人/年の順であった。患者の年齢は、幼児から成人まで幅広い年齢層にわたっていたが、4歳が126人(17.2%)と最も多く、2~6歳が476人と全体の64.9%を占めた。



(4) 眼科定点対象疾患(週報)

急性出血性結膜炎

2015年の患者報告数は2人(定点当たり0.25人/年)で、前年(患者報告数3人、定点当たり0.38人/年)と同様、少数の報告であった。本疾患は、2004年9~10月に宇和島地区で地域的な短期流行があって以降、県内各地でごく少数例の報告に留まっている。地域別の報告数は、松山市保健所及び中予保健所が各1人で、患者の年齢は、6歳及び70歳以上が各1人であった。

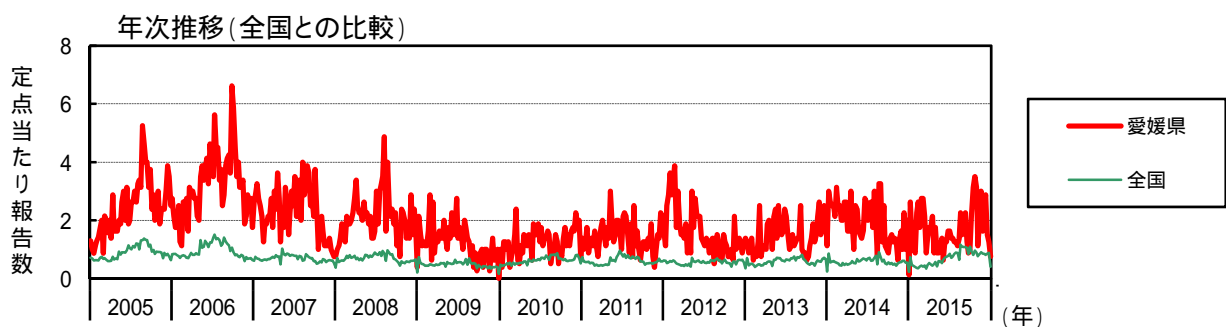
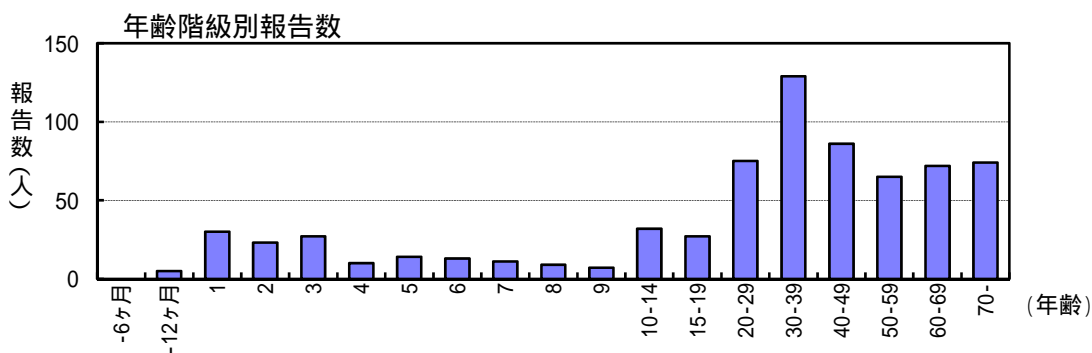
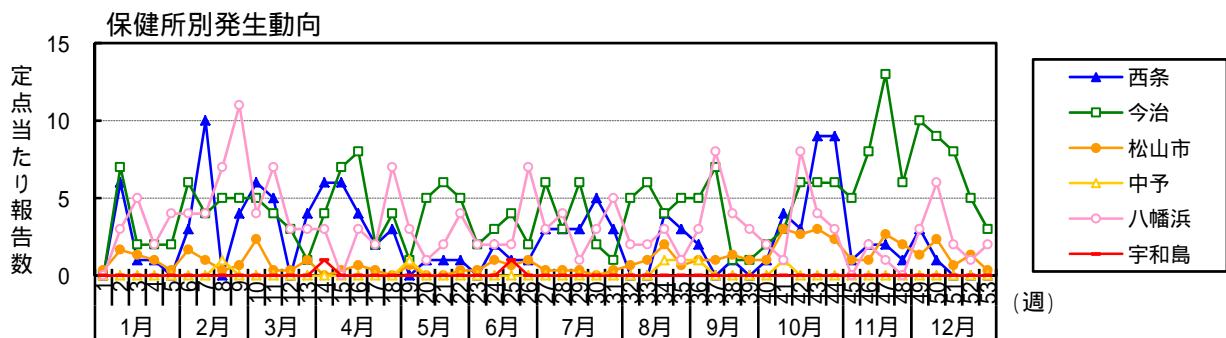
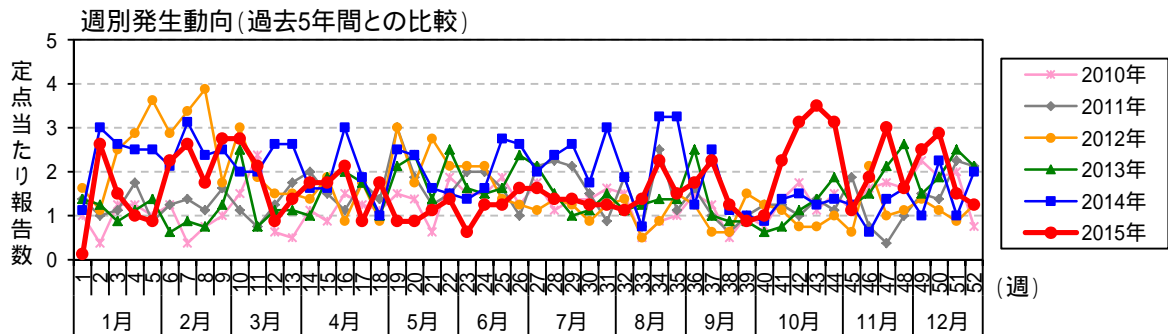


急性出血性結膜炎

月	患者報告数											定点当たり報告数							
	2015年 保健所別						愛媛県					全国							
	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2014	2013	2012	2014	2013	2012	
1																			0.01
2																			0.03
3																			0.02
4																			0.02
5																			0.02
6																			0.01
7																			0.01
8																			0.02
9																			0.03
10																			0.01
11																			0.01
12																			0.02
13																			0.04
14																			0.02
15																			0.02
16																			0.01
17																			0.01
18																			0.01
19																			0.02
20																			0.03
21																			0.03
22																			0.03
23																			0.04
24																			0.03
25																			0.03
26																			0.01
27																			0.01
28																			0.02
29																			0.01
30																			0.01
31																			0.01
32																			0.01
33																			0.01
34																			0.02
35																			0.01
36																			0.01
37																			0.01
38																			0.01
39																			0.01
40																			0.01
41																			0.01
42																			0.01
43																			0.01
44																			0.01
45																			0.01
46																			0.01
47																			0.02
48																			0.01
49																			0.01
50																			0.02
51																			0.01
52																			0.01
53																			0.01
合計																			0.61
																			0.72
																			0.63
																			0.38
																			0.25
																			1.00
																			0.33
																			0.33
																			1.00
																			0.63
																			0.72
																			0.61
																			0.99

流行性角結膜炎

2015年の患者報告数は709人(定点当たり88.63人/年)で、前年(患者報告数807人、定点当たり100.88人/年)の0.9倍に減少した。例年8~9月に患者数の増加がみられるが、本年は、1月上旬から3月中旬と10月上旬から12月上旬に患者数が増加したものの、目立った流行ピークがないまま推移した。今治保健所と八幡浜保健所では、年間を通じ報告数が多かった。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所で241.00人/年と例年と同様最も多く、次いで八幡浜保健所172.00人/年、西条保健所131.00人/年、松山市保健所52.33人/年、中予保健所6.00人/年、宇和島保健所2.00人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、30歳代が129人(18.2%)と多く、20歳以上の成人が501人と全体の70.7%を占めた。



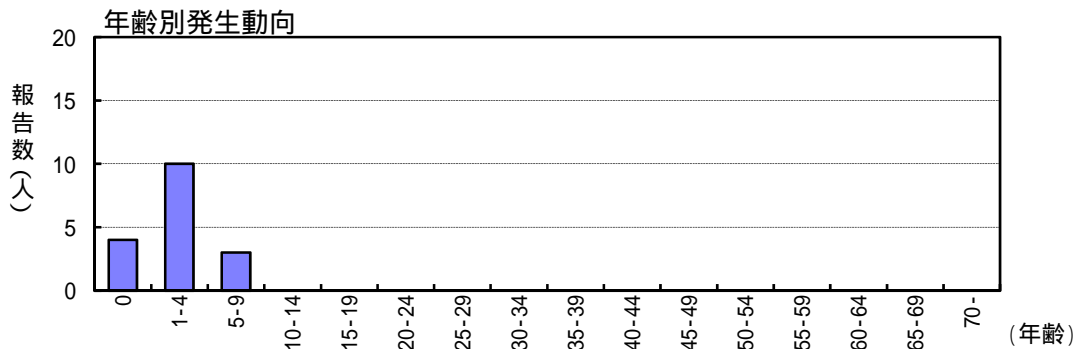
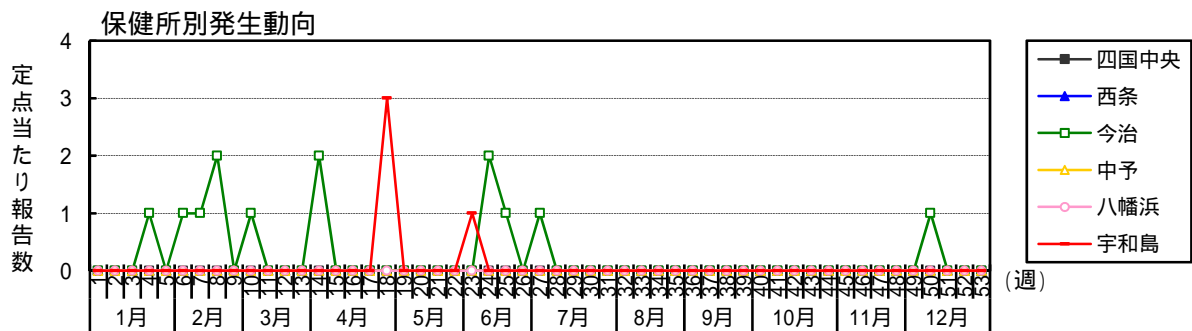
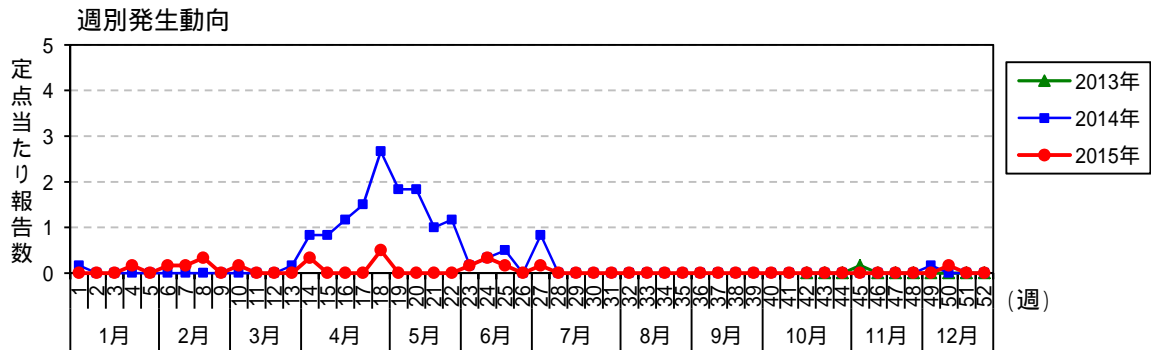
流行性角結膜炎

月 週	患者報告数										定点当り報告数										
	2015年 保健所別					愛媛県					全国										
	西 条	今 治	松 山 市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	西 条	今 治	松 山 市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	2015	2014	2013	2015	2014	2013			
1	6	7	5	1	3	1	1	21	1	3		6.00	7.00	0.33	3.00	0.13	1.13	1.38	0.23		
2	1	2	4	5	2	4	2	12	2	5		1.00	2.00	1.67	3.00	2.63	3.00	1.25	0.85		
3	4	2	3	2	1	2	2	8	2	2		1.00	2.00	1.33	5.00	1.50	2.63	0.88	0.46		
4	1	2	3	2	1	2	2	7	2	2		1.00	2.00	1.00	2.00	1.00	2.50	1.13	0.57		
5	3	6	5	5	2	4	4	18	4	4	1	3.00	6.00	1.67	4.00	0.88	2.50	1.38	0.59		
6	10	4	3	4	2	4	4	21	25	7		10.00	4.00	1.00	4.00	2.25	2.13	0.63	0.36		
7	4	5	1	1	7	7	7	14	25	7		4.00	5.00	0.33	7.00	2.63	3.13	0.88	0.35		
8	4	5	2	2	11	11	22	22	20	10		4.00	5.00	0.67	11.00	2.75	2.50	0.40	0.43		
9	6	5	7	4	4	4	22	22	20	10		6.00	5.00	0.67	4.00	2.75	2.50	0.43	0.48		
10	5	4	1	7	7	7	17	17	16	20		5.00	5.00	2.33	4.00	2.75	2.00	0.40	0.44		
11	5	4	1	7	3	3	17	17	16	6		5.00	4.00	0.33	7.00	2.13	2.00	0.43	0.48		
12	4	3	1	3	3	3	7	7	21	9		3.00	3.00	0.33	3.00	0.88	2.63	0.46	0.45		
13	4	1	3	3	3	3	11	11	21	9		4.00	1.00	1.00	3.00	1.38	2.63	0.46	0.51		
14	6	4	4	3	3	1	14	14	13	8	1	6.00	4.00	0.67	3.00	1.75	1.63	0.47	0.50		
15	6	7	1	1	7	7	14	14	13	15		6.00	7.00	0.33	3.00	1.75	1.63	0.48	0.56		
16	4	8	2	2	3	2	17	17	24	16		4.00	8.00	0.67	3.00	2.13	3.00	0.43	0.58		
17	2	2	1	1	2	2	7	7	15	14		2.00	2.00	0.33	2.00	0.88	1.88	0.49	0.57		
18	3	4	4	4	7	7	14	14	8	8		3.00	4.00	1.00	7.00	1.75	1.00	0.59	0.42		
19	1	1	2	1	3	3	7	7	20	17		1.00	1.00	0.67	3.00	0.88	2.50	0.51	0.64		
20	1	5	6	6	1	1	7	7	19	19		1.00	5.00	1.00	1.00	0.88	2.38	0.66	0.64		
21	1	6	1	6	2	2	9	9	13	11		1.00	6.00	1.00	2.00	1.13	1.63	0.58	0.71		
22	1	5	1	5	4	4	11	11	12	20		1.00	5.00	0.33	4.00	1.38	1.50	0.59	0.69		
23	2	2	1	2	2	2	5	5	11	13		2.00	2.00	0.33	2.00	0.63	1.38	0.64	0.69		
24	2	3	3	3	2	2	10	10	13	12		2.00	3.00	1.00	2.00	1.25	1.63	0.71	0.68		
25	1	4	2	2	2	2	10	10	22	13	1	1.00	4.00	0.67	2.00	1.25	2.75	0.66	0.60		
26	1	2	3	3	7	7	13	13	21	19		1.00	2.00	1.00	7.00	1.63	2.63	0.77	0.58		
27	3	6	1	1	3	3	13	13	16	17		3.00	6.00	0.33	3.00	1.63	2.00	0.84	0.65		
28	3	3	1	1	4	4	11	11	19	12		3.00	3.00	0.33	4.00	1.38	2.38	0.71	0.64		
29	3	6	1	1	3	3	11	11	21	8		3.00	6.00	0.33	1.00	1.38	2.63	0.60	0.61		
30	5	2	2	2	3	3	10	10	14	9		5.00	2.00	1.00	3.00	1.25	1.75	0.84	0.69		
31	3	1	1	1	5	5	10	10	24	12		3.00	1.00	0.33	5.00	1.25	3.00	0.62	0.68		
32	9	5	2	2	2	2	9	9	15	9		5.00	5.00	0.67	2.00	1.13	1.88	0.77	0.75		
33	6	6	3	3	2	2	11	11	6	10		6.00	6.00	1.00	2.00	1.38	0.75	0.64	0.61		
34	4	4	6	6	1	1	12	12	26	11		4.00	4.00	2.00	3.00	2.25	3.25	0.73	0.73		
35	3	5	2	2	1	1	12	12	26	11		3.00	5.00	0.67	1.00	1.50	3.25	1.09	0.74		
36	2	5	3	3	3	3	14	14	10	20		2.00	5.00	1.00	3.00	1.75	1.25	0.58	0.76		
37	1	7	3	3	4	4	18	18	20	8		1.00	7.00	1.00	8.00	2.25	2.50	1.07	0.81		
38	1	1	4	4	4	4	10	10	9	7		1.00	1.00	1.33	4.00	1.25	1.13	1.04	0.86		
39	7	1	3	3	3	3	7	7	8	7		1.00	1.00	1.00	3.00	0.88	1.00	0.88	0.61		
40	1	2	3	3	2	2	8	8	7	5		1.00	2.00	1.00	2.00	1.00	0.88	1.09	0.55		
41	4	11	3	3	1	1	18	18	11	6		4.00	3.00	3.00	1.00	2.25	1.38	0.92	0.49		
42	3	6	8	8	8	8	25	25	12	9		3.00	6.00	2.67	3.13	3.13	1.50	0.81	0.47		
43	9	6	9	9	4	4	28	28	10	11		9.00	6.00	3.00	4.00	3.50	1.25	0.95	0.53		
44	9	6	7	7	3	3	25	25	11	15		9.00	6.00	2.33	3.00	3.50	1.38	0.88	0.50		
45	1	5	3	3	5	5	9	9	10	10		1.00	5.00	1.00	1.00	1.13	1.25	0.76	0.43		
46	2	8	3	3	2	2	15	15	5	12		2.00	8.00	1.00	2.00	1.88	0.63	0.83	0.56		
47	2	13	8	8	1	1	24	24	11	17		2.00	13.00	2.67	1.00	3.00	1.38	0.89	0.61		
48	1	6	6	6	13	13	13	13	13	21		1.00	6.00	2.00	1.00	1.63	1.63	0.85	0.56		
49	3	10	4	4	3	3	20	20	8	12		3.00	10.00	1.33	3.00	2.50	1.00	0.84	0.57		
50	1	9	7	7	6	6	23	23	18	15		1.00	9.00	2.33	6.00	2.88	2.25	1.88	0.60		
51	5	2	2	2	2	2	12	12	8	20		8.00	8.00	0.67	2.00	1.50	1.00	0.85	0.71		
52	10	5	4	4	1	1	10	10	16	17		5.00	5.00	1.33	1.00	1.25	2.00	0.87	0.54		
53	3	3	1	1	2	2	6	6	17	17		3.00	3.00	0.33	2.00	0.75	2.00	0.40	0.66		
合計	131	241	157	6	172	2	709	807	616	25,037	20,606	131.00	241.00	52.33	172.00	88.63	100.88	77.00	36.44	29.62	30.21

(5) 基幹定点対象疾患(週報)

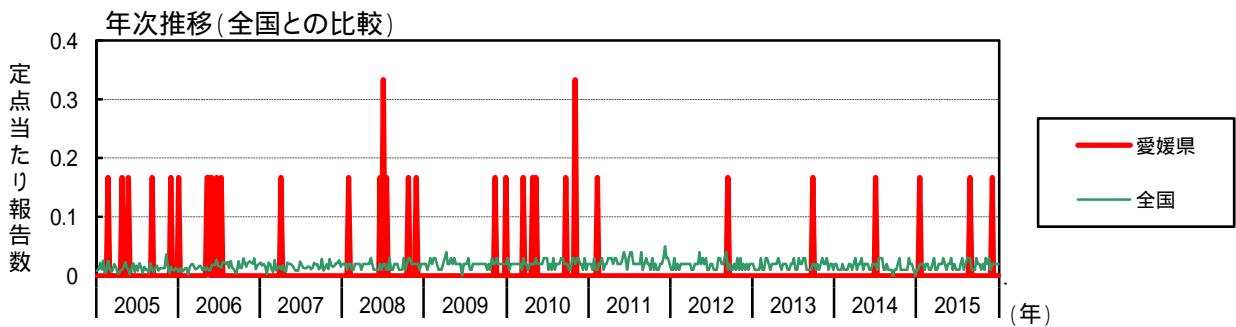
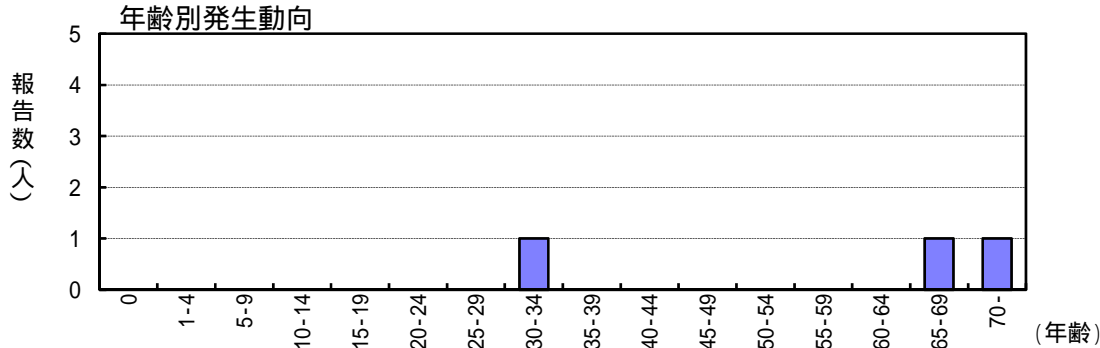
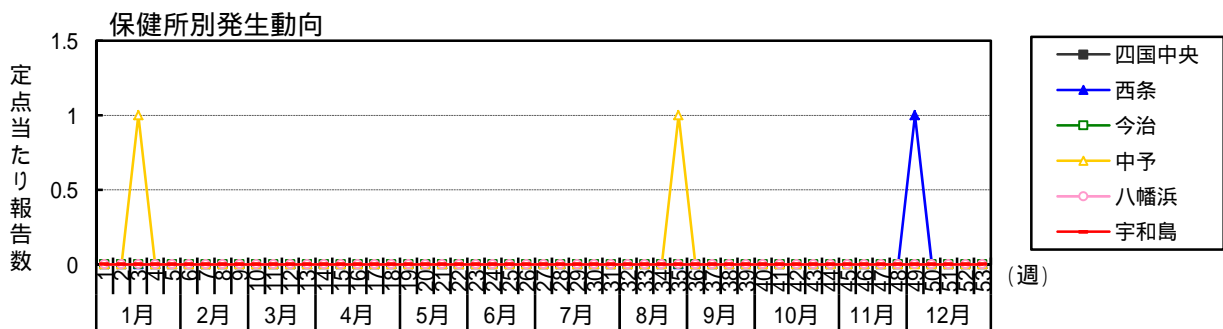
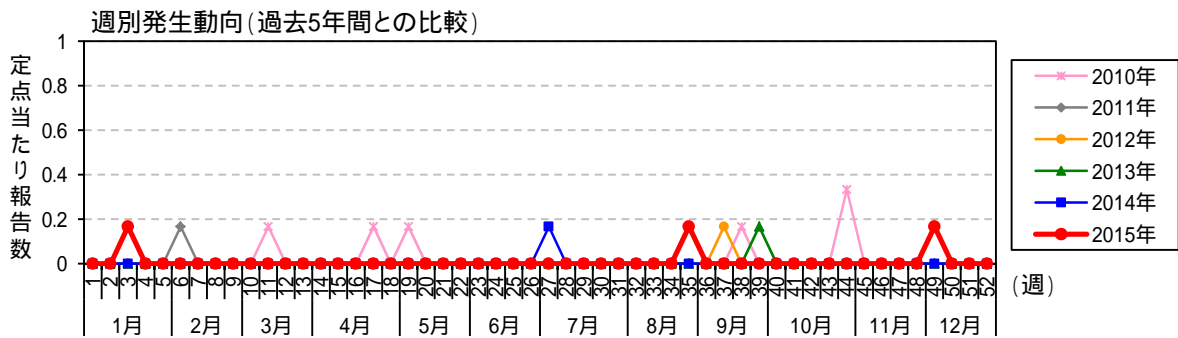
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)(ロタウイルス胃腸炎)

2015年の患者報告数は17人(定点当たり2.83人/年)で、主に1月下旬から7月上旬にかけて発生がみられた。地域別の患者報告数は、今治保健所で13人と最も多く全体の76.5%を占め、その他、宇和島保健所4人であった。年齢別の患者報告数は、1~4歳が10人と全体の58.8%を占めた。



細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）

2015年の患者報告数は3人（定点当たり0.50人/年）であった。地域別の患者報告数は中予保健所2人、西条保健所1人であった。年齢は30～34歳、65～69歳、70歳以上が各1人であった。病原体は、肺炎レンサ球菌、リステリア菌、B群溶血性レンサ球菌が各1人であった。



細菌性髄膜炎

月週	患者報告数										定点当たり報告数				
	2015年					愛媛県					全国				
	四国中央	西条	今治	中予	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	
1										7	11	9	0.01	0.02	0.02
2										5	9	6	0.01	0.02	0.01
3										9	7	6	0.02	0.01	0.01
4			1			1				9	7	5	0.02	0.01	0.01
5										9	7	7	0.02	0.01	0.01
6										3	9	12	0.01	0.02	0.03
7										8	7	3	0.02	0.01	0.01
8										7	3	7	0.01	0.01	0.01
9										4	5	15	0.01	0.01	0.03
10										6	8	16	0.01	0.02	0.03
11										8	11	11	0.02	0.02	0.02
12										11	12	4	0.02	0.01	0.01
13										6	8	8	0.01	0.02	0.02
14										4	13	9	0.01	0.03	0.02
15										7	6	10	0.01	0.01	0.02
16										6	11	11	0.01	0.02	0.02
17										9	9	12	0.02	0.02	0.03
18										10	12	8	0.02	0.03	0.02
19										6	3	4	0.01	0.01	0.01
20										6	9	8	0.01	0.02	0.02
21										6	8	8	0.01	0.02	0.02
22										11	11	10	0.02	0.02	0.02
23										10	6	6	0.02	0.01	0.01
24										4	5	7	0.01	0.01	0.01
25										9	10	8	0.02	0.02	0.02
26										3	9	10	0.01	0.02	0.02
27										3	8	13	0.01	0.02	0.03
28									1	4	6	4	0.01	0.01	0.01
29										10	13	7	0.02	0.03	0.01
30										14	12	14	0.03	0.03	0.03
31										5	12	8	0.01	0.03	0.02
32										9	6	8	0.02	0.01	0.02
33										12	4	13	0.03	0.01	0.03
34										12	11	13	0.03	0.02	0.03
35										12	6	6	0.03	0.01	0.01
36										6	5	5	0.01	0.01	0.01
37										7	5	3	0.01	0.01	0.01
38										5	2	4	0.01	0.00	0.01
39										10	3	10	0.02	0.01	0.02
40										9	4	9	0.02	0.01	0.02
41										8	10	3	0.02	0.02	0.01
42										5	13	11	0.01	0.03	0.02
43										10	6	4	0.02	0.01	0.01
44										5	4	11	0.01	0.01	0.02
45										9	5	14	0.02	0.01	0.03
46										10	5	10	0.02	0.01	0.02
47										13	3	8	0.03	0.01	0.02
48										4	12	15	0.01	0.03	0.03
49										9	10	4	0.02	0.02	0.01
50										7	11	11	0.01	0.02	0.02
51										5	6	9	0.01	0.01	0.02
52										7	1	6	0.01	0.00	0.01
53										9	9	9	0.02	0.02	0.02
合計										402	391	445	0.50	0.17	0.17
										3	1	1	0.17	0.17	0.84
										1	2		0.84	0.82	0.94

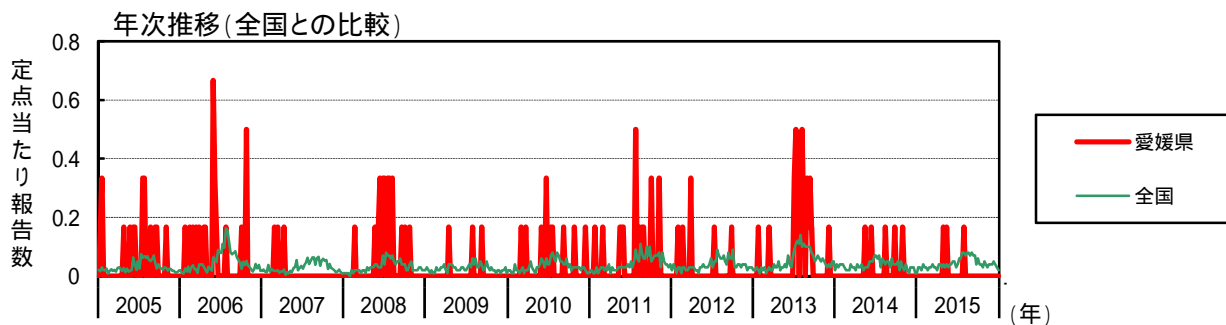
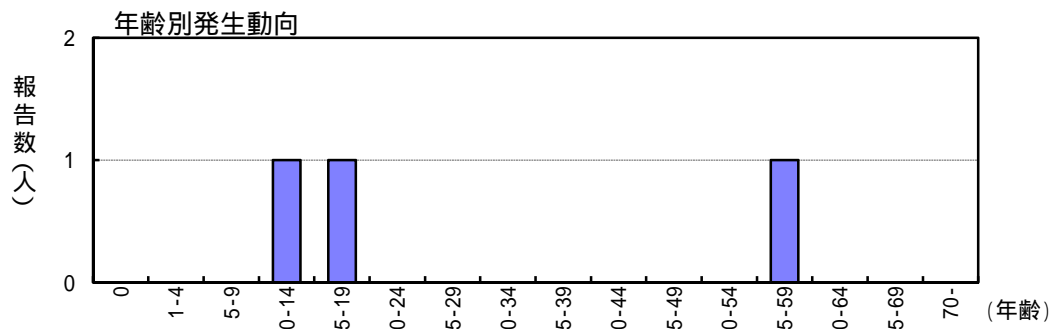
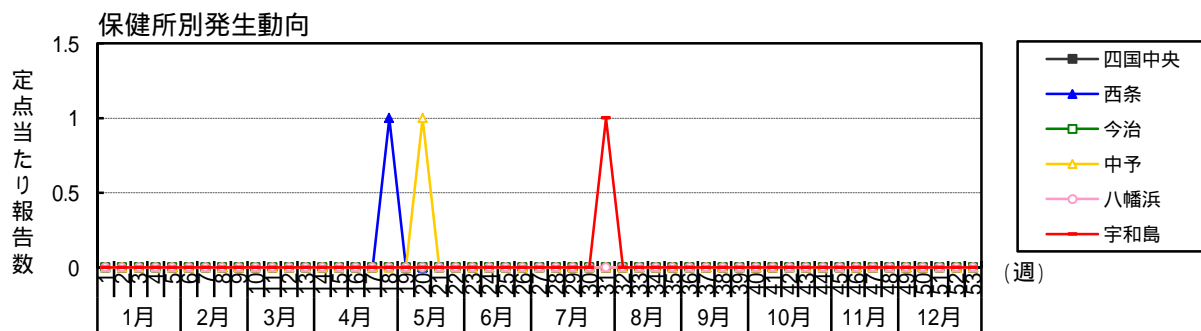
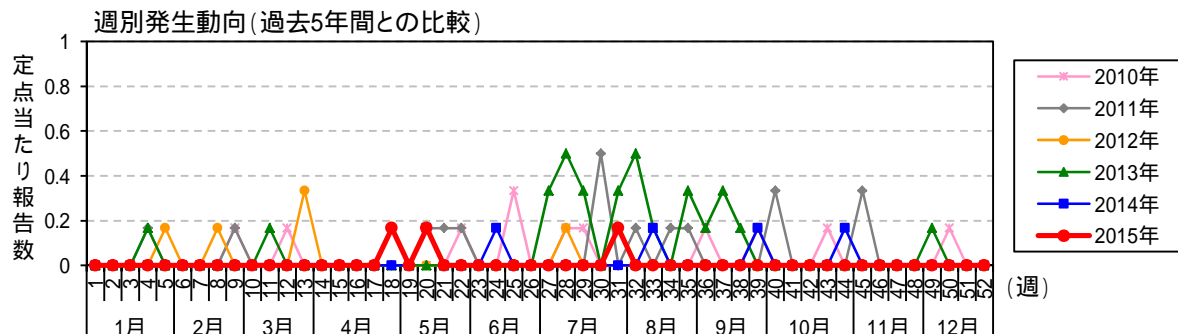
ロタウイルス胃腸炎

月週	患者報告数										定点当たり報告数				
	2015年					愛媛県					全国				
	四国中央	西条	今治	中予	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
32															
33															
34															
35															
36															
37															
38															
39															
40															
41															
42															
43															
44															
45															
46															
47															
48															
49															
50															
51															
52															
53															
合計															

注)ロタウイルス胃腸炎は2013年10月14日から対象疾患に追加。

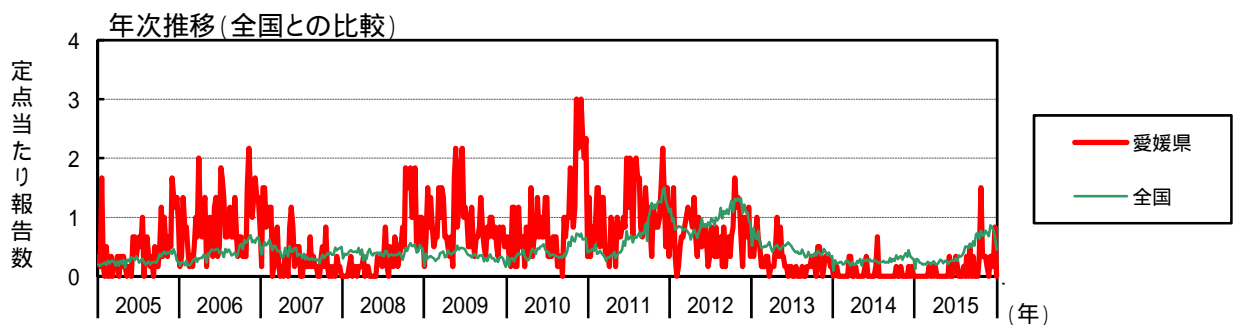
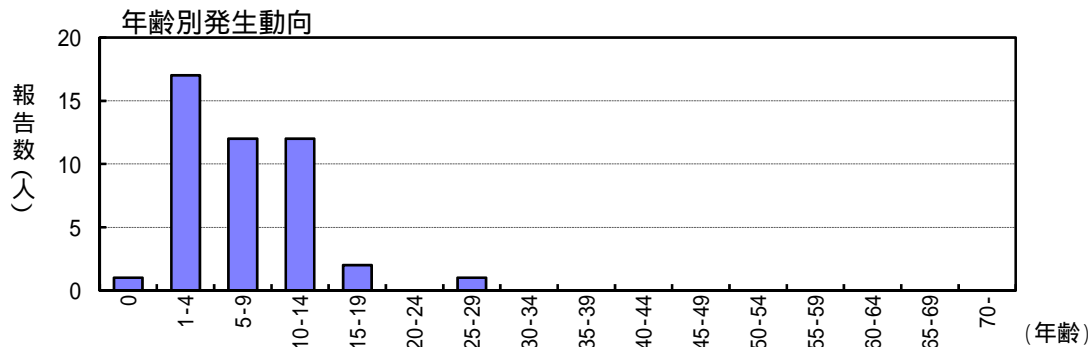
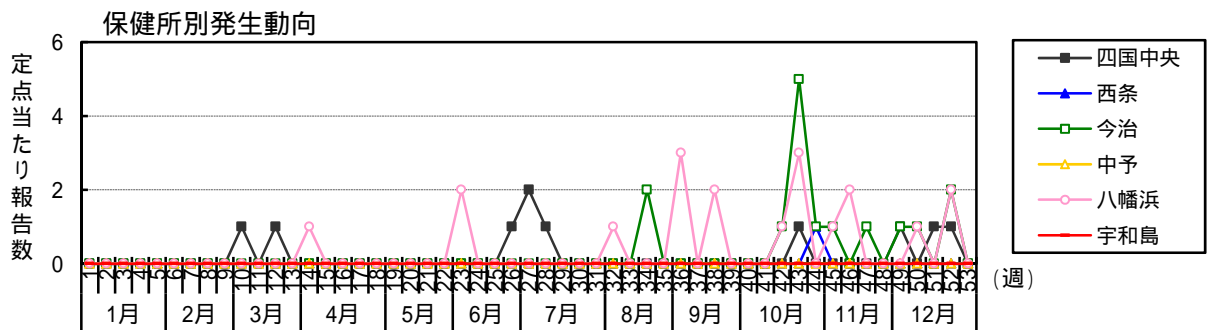
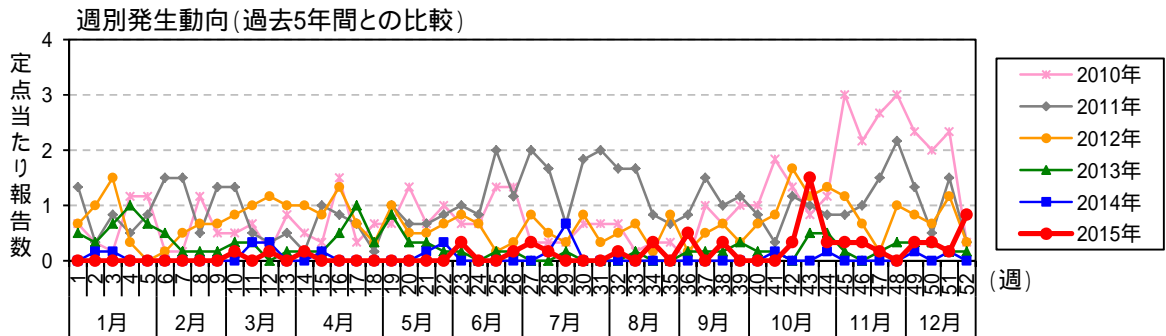
無菌性髄膜炎

2015年の患者報告数は3人(定点当たり0.50人/年)で、前年(患者報告数5人、定点当たり0.83人/年)の0.6倍に減少した。発生は、4月下旬から5月中旬と7月下旬にみられた。地域別の患者報告数は、西条保健所、中予保健所、宇和島保健所で各1人であった。年齢別の患者報告数は、10~14歳、15~19歳、55~59歳が各1人であった。病原体は、結核菌1人、不明2人であった。



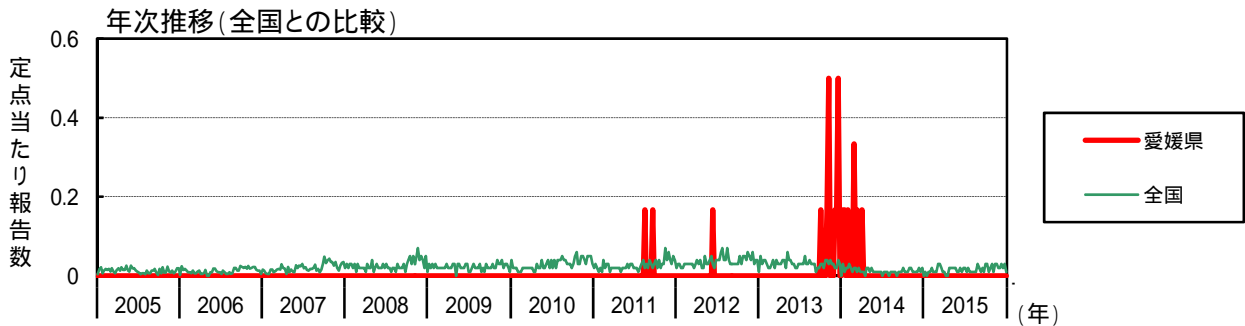
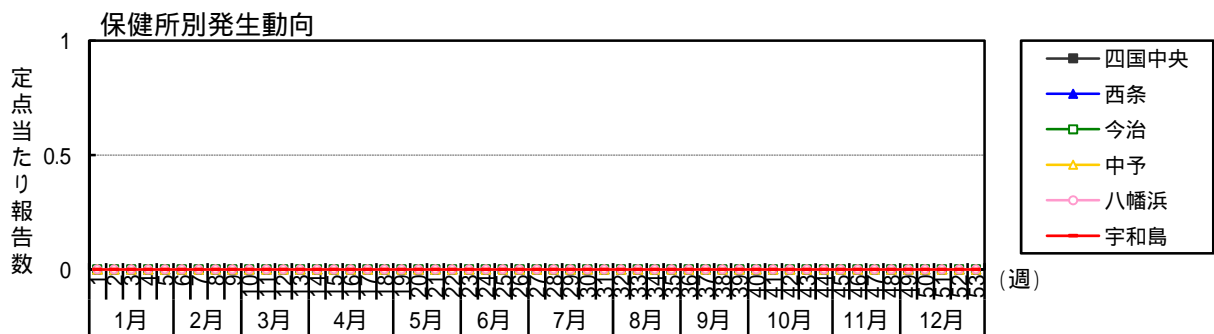
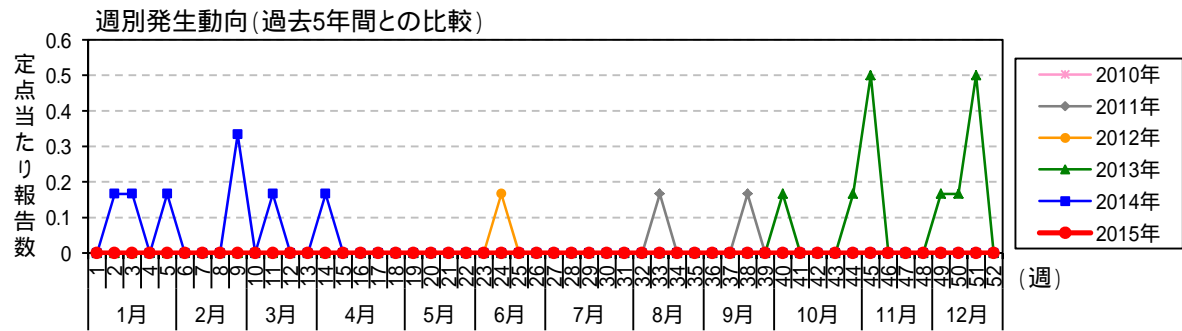
マイコプラズマ肺炎

2015年の患者報告数は45人(定点当たり7.50人/年)で、前年(患者報告数19人、定点当たり3.17人/年)の2.4倍に増加した。地域別の患者報告数は、八幡浜保健所が19人と最も多く、次いで今治保健所15人、四国中央保健所10人、西条保健所1人であった。年齢別の患者報告数は、1~4歳が17人(37.8%)と多く、14歳以下が42人と93.3%を占めた。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2015年の患者報告はなく、前年(患者報告数7人、定点当たり1.17人/年)から大きく減少した。1999年の感染症法施行以降、2004年に4人、2013年に10人、2014年に7人の報告があった以外は、年間0~2人と少数の報告で推移している。



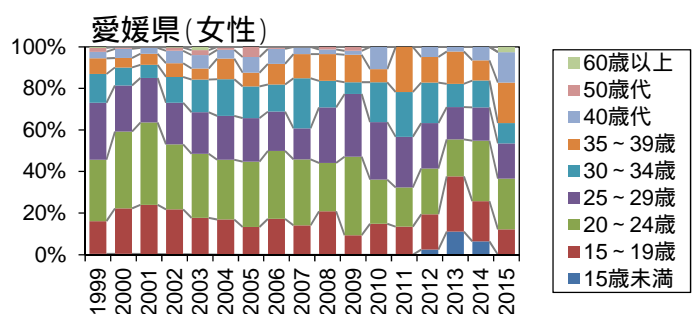
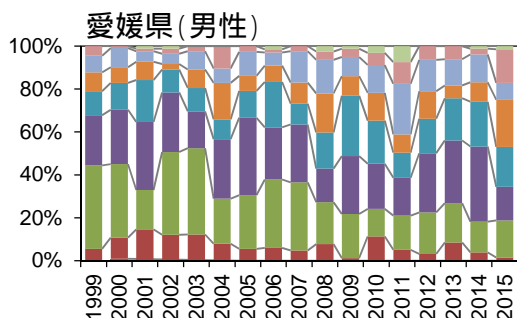
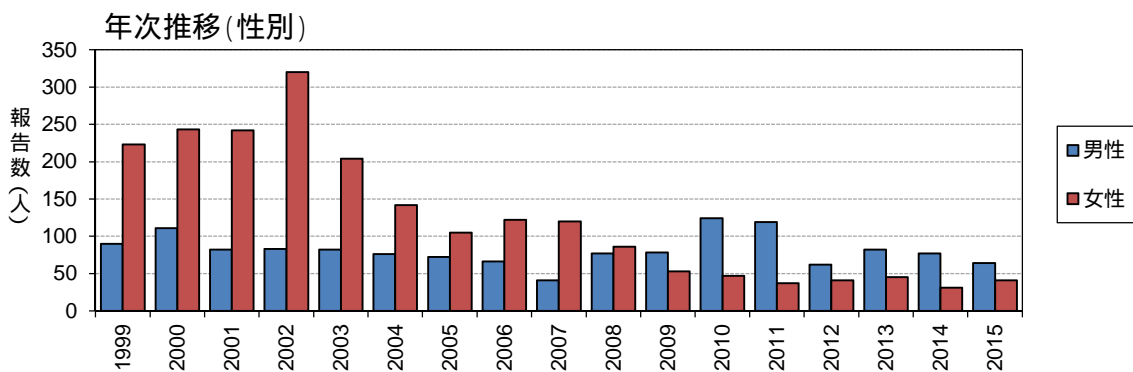
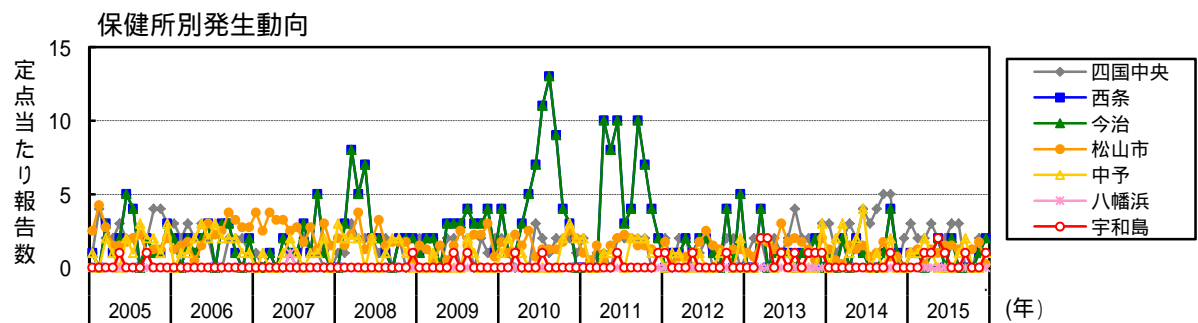
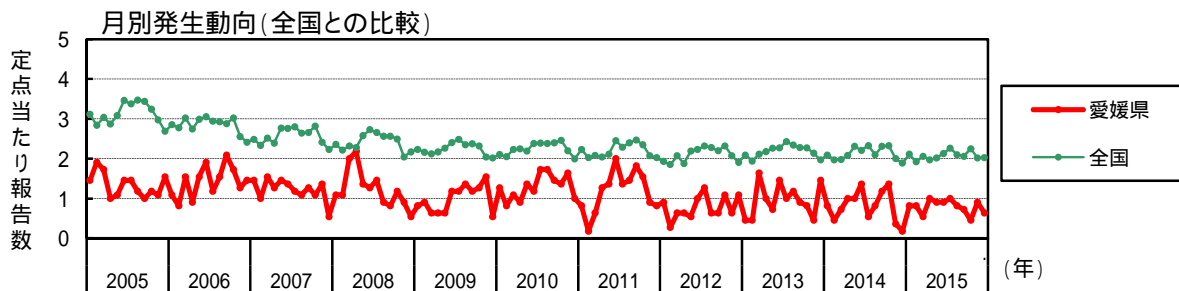
クラミジア肺炎(オウム病は除く)

月	週	患者報告数										定点当たり報告数									
		2015年					全国					愛媛県			全国						
		四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013					
1	1						1				2	1	5				0.00	0.01			
2	2										5	14	22				0.03	0.05			
3	3						1				2	4	13				0.01	0.03			
4	4						1				6	10	17				0.01	0.02			
5	5						1				4	11	18				0.01	0.04			
6	6										11	14	15				0.02	0.03			
7	7										3	8	9				0.01	0.02			
8	8										5	7	11				0.01	0.02			
9	9						2				6	10	12				0.01	0.03			
10	10										14	10	18				0.03	0.04			
11	11						1				14	4	11				0.03	0.01			
12	12										8	11	18				0.02	0.04			
13	13										7	7	12				0.01	0.03			
14	14						1				5	5	15				0.01	0.03			
15	15										2	5	12				0.01	0.03			
16	16										2	1	20				0.00	0.04			
17	17										10	8	19				0.02	0.04			
18	18										8	11	11				0.01	0.03			
19	19										8	4	26				0.02	0.01			
20	20										10	11	17				0.02	0.04			
21	21										8	6	20				0.02	0.01			
22	22										3	4	16				0.01	0.03			
23	23										5	4	13				0.01	0.03			
24	24										9	3	9				0.02	0.01			
25	25										4	5	8				0.01	0.02			
26	26										9	7	16				0.02	0.01			
27	27										8	2	14				0.02	0.00			
28	28										4	6	13				0.01	0.03			
29	29										8	4	16				0.02	0.01			
30	30										5	4	22				0.01	0.05			
31	31										5	2	13				0.01	0.00			
32	32										7	3	14				0.01	0.03			
33	33										7	3	17				0.01	0.04			
34	34										5	4	12				0.01	0.03			
35	35										12	6	12				0.03	0.01			
36	36										11	2	14				0.02	0.00			
37	37										5	6	6				0.01	0.01			
38	38										8	7	10				0.02	0.01			
39	39										5	7	10				0.01	0.02			
40	40										16	8	16				0.03	0.02			
41	41										13	3	14				0.03	0.01			
42	42										6	5	11				0.01	0.01			
43	43										11	4	20				0.02	0.01			
44	44										1	13	9				0.03	0.02			
45	45										3	11	14				0.01	0.02			
46	46										16	7	20				0.03	0.01			
47	47										13	5	13				0.03	0.01			
48	48										9	3	14				0.02	0.01			
49	49										1	8	5				0.02	0.01			
50	50										1	15	8				0.03	0.02			
51	51										3	11	7				0.02	0.01			
52	52										12	9	16				0.03	0.02			
53	53										5	5	16				0.01	0.03			
合計											7	10	411	325	749		1.17	1.67	0.86	0.68	1.59

(6)STD 定点対象疾患(月報)

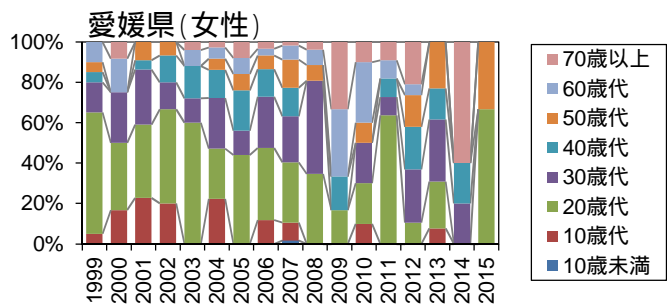
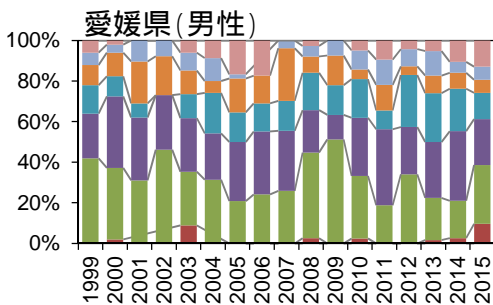
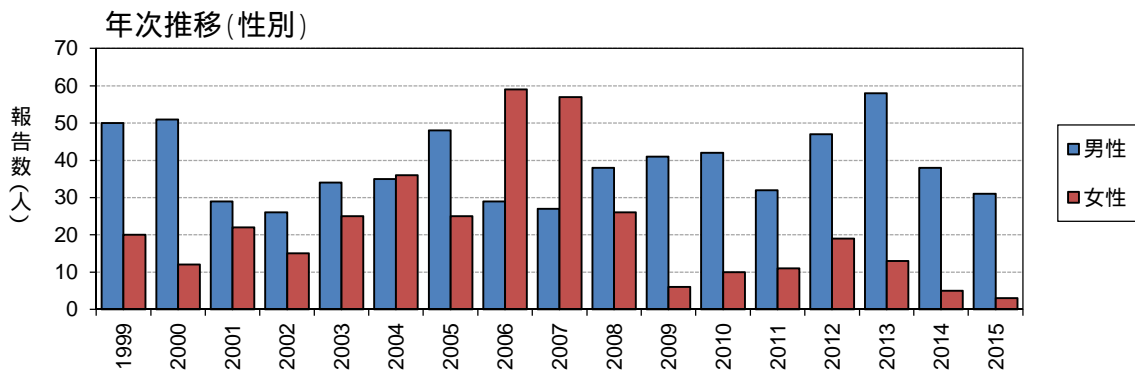
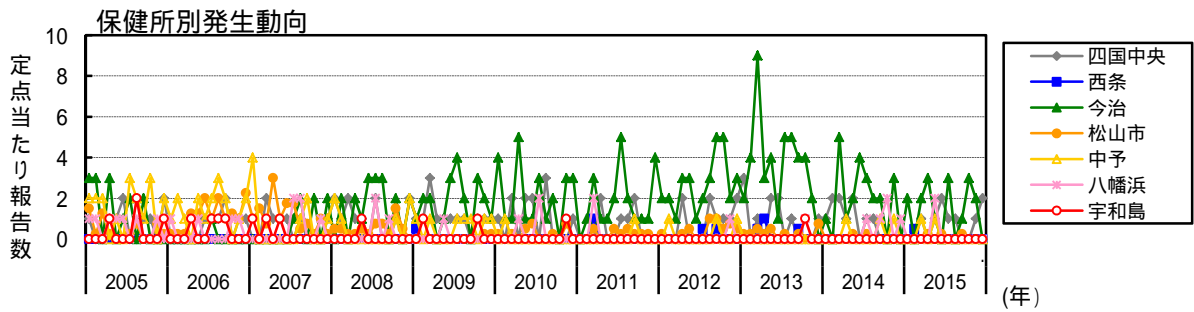
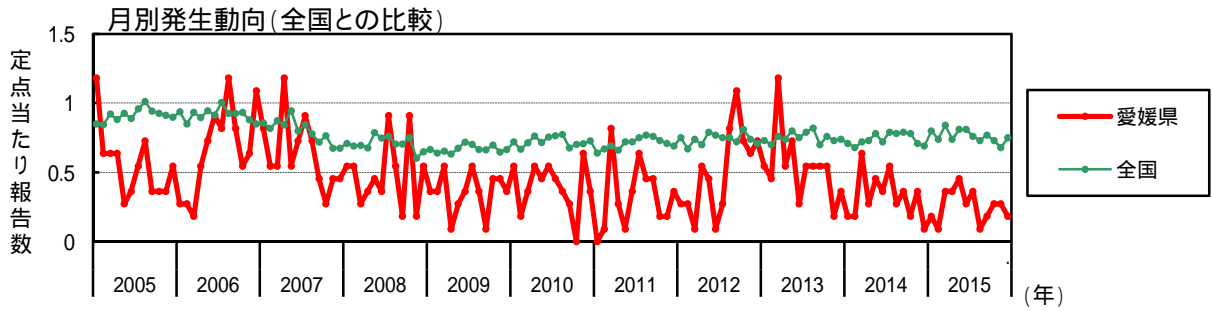
性器クラミジア感染症

2015年の患者報告数は105人(定点当たり9.55人/年)で、前年(患者報告数108人、定点当たり9.82人/年)と同程度の発生であった。性別は、男性64人(61.0%)、女性41人(39.0%)であり、前年(男性77人、女性31人)と比べ、女性の報告数が増加した。2009年以降、男性の患者数が女性の患者数を上回った状況が継続している。年齢別では、男性は30歳代が26人(40.6%)と最も多く、次いで20歳代21人(32.8%)からの報告が多かった。女性では20歳代が17人(41.5%)と最も多く、次いで30歳代12人(29.3%)からの報告が多かった。女性では近年若年層の割合が増加する傾向が続いていたが、2015年は19歳以下の割合が5人(12.2%)と前年(25.8%)より半減した。



性器ヘルペスウイルス感染症

2015年の患者報告数は34人(定点当たり3.09人/年)で、前年(患者報告数43人、定点当たり3.91人/年)の0.8倍と減少した。県内の患者報告数は、2006年の88人(定点当たり8.00人/年)をピークに減少傾向が続いている。性別は男性31人、女性3人で、前年(男性38人、女性5人)と比較して男性、女性ともに報告数が減少した。年齢別の患者報告数は、男性では20歳代~40歳代が20人(64.5%)を占め、女性では20歳代が2人、50歳代が1人であった。



性器クラミジア感染症

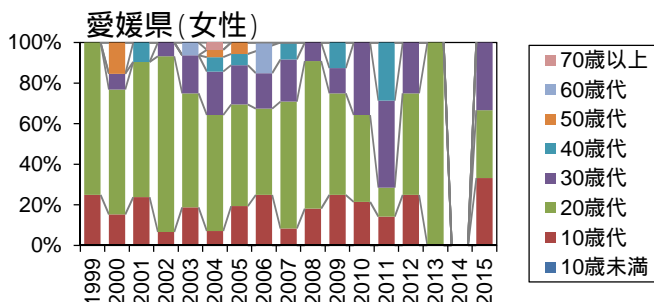
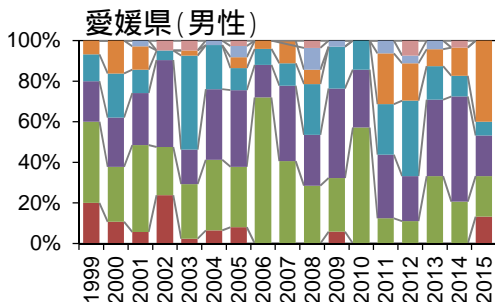
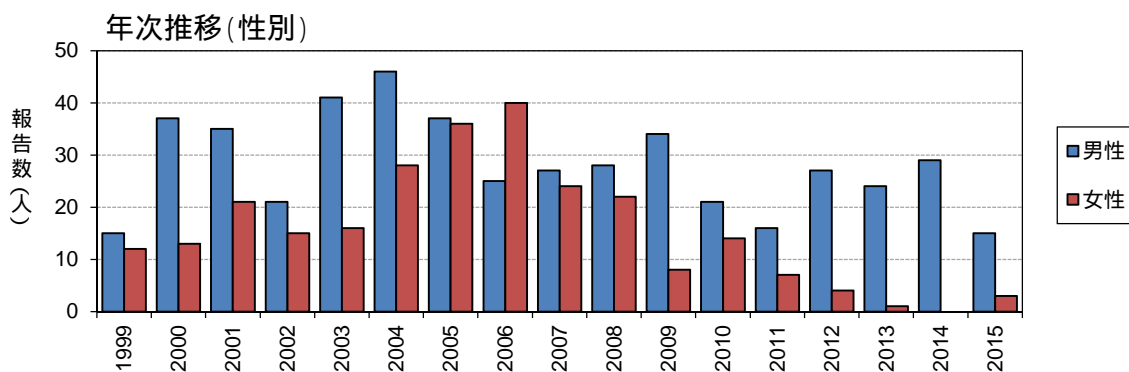
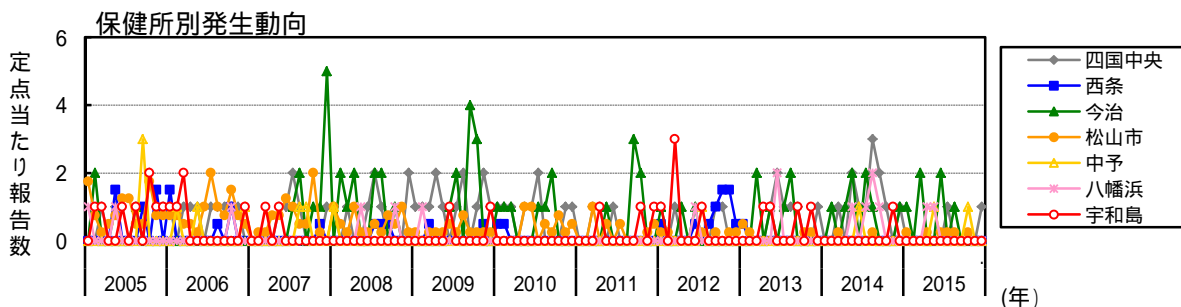
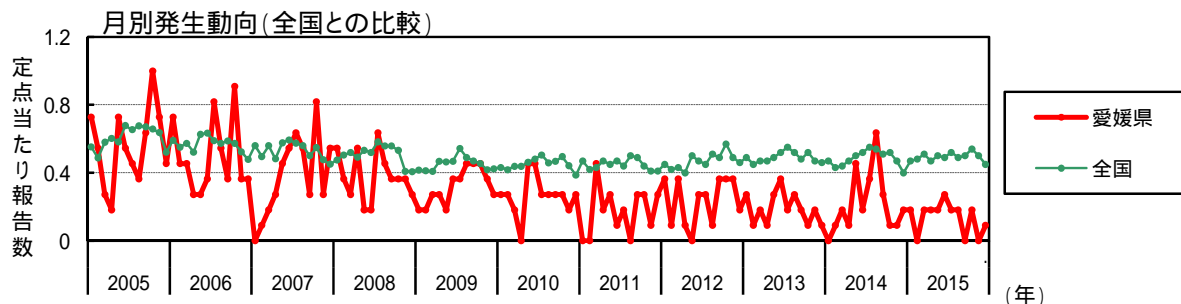
月	患者報告数										定点当たり報告数												
	2015年 保健所別					愛媛県					2015年 保健所別						愛媛県						
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013				
1	3	1	1	4	1		9	9	5	2,061	2,043	2,027	3.00	1.00	1.00	1.00	0.82	0.82	0.45	2.11	2.09	2.09	
2	2	1	1	5	1		9	5	5	1,888	1,918	1,886	2.00	1.00	1.25	1.00	0.82	0.45	0.45	1.92	1.97	1.94	
3	2	2	1	1	2	1	6	8	18	1,992	1,935	2,049	2.00	2.00	0.25	2.00	1.00	0.55	0.73	1.64	2.06	1.98	2.11
4	3	1	1	5	1	1	11	11	11	1,939	2,025	2,126	3.00	1.00	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00	1.97	2.08	2.18	
5	2	2	2	4		2	10	11	8	1,979	2,264	2,201	2.00	2.00	1.00		2.00	0.91	1.00	0.73	2.02	2.31	2.26
6	2	1	2	6		1	10	15	16	2,086	2,160	2,216	2.00	0.50	1.50		1.00	0.91	1.36	1.45	2.13	2.21	2.27
7	3	2	2	6			11	6	11	2,225	2,272	2,369	3.00	3.00	1.50		1.00	1.00	0.55	1.00	2.26	2.33	2.43
8	3	1	4	5	1		9	9	13	2,069	2,050	2,290	3.00	1.25	1.00		0.82	0.82	1.18	2.10	2.10	2.10	2.34
9			1	4	2	1	8	13	10	2,021	2,257	2,219		1.00	2.00		0.73	1.18	0.91	2.06	2.31	2.28	
10				5			5	15	9	2,208	2,256	2,215		1.25			0.45	1.36	0.82	2.25	2.33	2.27	
11	2	1	2	7			10	4	5	1,988	1,949	2,083	2.00	1.00	1.75		0.91	0.36	0.45	2.02	2.00	2.14	
12	2	2	2	1	1	1	7	2	16	1,994	1,831	1,925	2.00	2.00	0.25	1.00	0.64	0.18	1.45	2.03	1.89	1.97	
合計	24	2	10	53	9	7	105	108	127	24,450	24,960	25,606	24.00	1.00	13.25	9.00	9.55	9.82	11.55	24.95	25.60	26.29	

性器ヘルペスウイルス感染症

月	患者報告数										定点当たり報告数											
	2015年 保健所別					愛媛県					2015年 保健所別						愛媛県					
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013			
1			2				2	2	6	777	691	704					0.18	0.18	0.55	0.80	0.71	0.73
2		1					1	2	5	729	667	677	0.50				0.09	0.18	0.45	0.74	0.68	0.70
3	1		2		1		4	7	13	810	701	735	1.00		1.00		0.36	0.64	1.18	0.84	0.72	0.76
4			3	1			4	3	6	730	715	718		3.00	0.25		0.36	0.27	0.55	0.74	0.73	0.74
5	1		1		1	2	5	5	8	794	768	783	1.00	1.00	1.00		0.45	0.45	0.73	0.81	0.78	0.80
6	2			1			3	4	3	790	706	732	2.00		0.25		0.27	0.36	0.27	0.81	0.72	0.75
7	1		3				4	6	6	745	768	771	1.00				0.36	0.55	0.55	0.76	0.79	0.79
8	1						1	3	6	715	758	798	1.00				0.09	0.27	0.55	0.73	0.78	0.82
9			1	1			2	4	6	756	766	687		1.00	0.25		0.18	0.36	0.55	0.77	0.79	0.70
10			3				3	2	6	715	754	741		3.00			0.27	0.18	0.55	0.73	0.78	0.76
11	1		2				3	4	2	673	694	707	1.00				0.27	0.36	0.18	0.68	0.71	0.73
12	2						2	1	4	740	665	725	2.00				0.18	0.09	0.36	0.75	0.69	0.74
合計	9	1	17	3	2	2	34	43	71	8,974	8,653	8,778	9.00	0.50	17.00	0.75	3.09	3.91	6.45	9.16	8.87	9.01

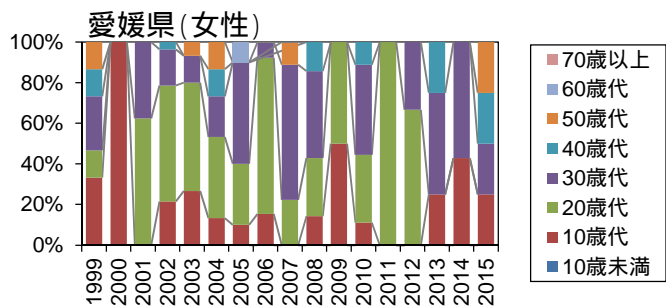
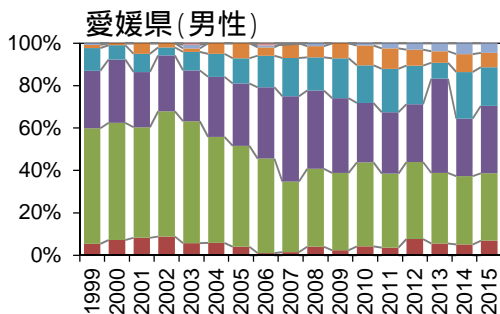
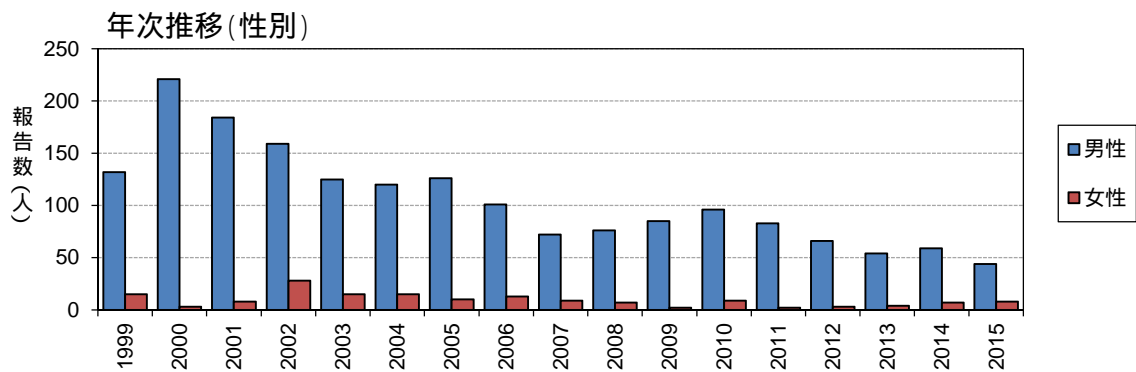
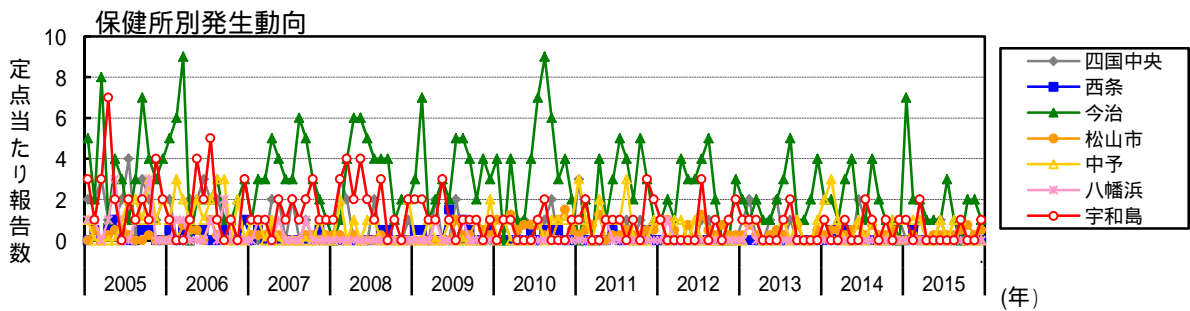
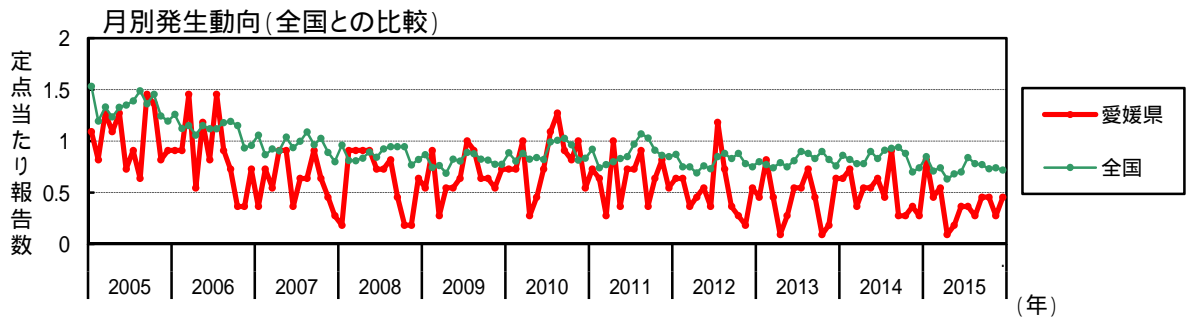
尖圭コンジローマ

2015年の患者報告数は18人(定点当たり1.64人/年)で、前年(患者報告数29人、定点当たり2.64人/年)の0.6倍に減少した。県内の患者報告数は、2004年の74人(定点当たり6.73人/年)をピークに減少傾向が続いていたが、2012年以降増減があり、2015年は、前年と比較し減少した。性別は男性15人、女性3人で、2010年以降女性の報告数は減少していたが、増加に転じた。年齢別の患者報告数は、男性では50歳代6人(40.0%)が最も多く、20歳代、30歳代が各3人(20.0%)と続き、女性では10歳代、20歳代、30歳代が各1人であった。



淋菌感染症

2015年の患者報告数は52人(定点当たり4.73人/年)で、前年(患者報告数66人、定点当たり6.00人/年)の0.8倍に減少した。県内の患者報告数は、2000年の224人(定点当たり20.36人/年)をピークに減少傾向が続き、2007年以降は定点当たり10人/年以下で推移している。性別は男性44人、女性8人で、前年(男性59人、女性7人)と同様に男性の割合が多かった。年齢別の患者報告数は、男性では20歳代、30歳代がともに14人(31.8%)と最も多く、40歳代8人(18.2%)と続き、20~40歳代が全体の81.8%を占めた。女性では10歳代、30歳代、40歳代、50歳代が各2人であった。



尖圭コンジローマ

月	患者報告数												定点当たり報告数																							
	2015年 保健所別						愛媛県						全国						2015年 保健所別						愛媛県						全国					
	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013					
1		1	1				2		3	460	463	479						1.00	0.25				0.18							0.27	0.47	0.49				
2								1	1	473	423	437																	0.09	0.09	0.43	0.45				
3		2					2	2	2	498	433	455						2.00										0.18	0.18	0.44	0.47					
4			1		1		2	1	1	465	461	453							0.25		1.00							0.18	0.09	0.47	0.47					
5				1	1		2	5	3	489	487	481								1.00							0.18	0.45	0.50	0.50	0.49					
6		2	1				3	2	4	476	513	510						2.00	0.25								0.27	0.18	0.36	0.49	0.52					
7	1		1				2	4	2	511	541	537						1.00	0.25								0.18	0.36	0.18	0.52	0.55					
8		1	1				2	7	3	478	529	504						1.00	0.25								0.18	0.64	0.27	0.49	0.54	0.52				
9								3	2	488	493	469																0.27	0.18	0.50	0.51	0.48				
10			1	1			2	1	1	530	501	507							0.25	1.00							0.18	0.09	0.09	0.54	0.52					
11								1	2	492	459	460															0.09	0.18	0.50	0.47	0.47					
12	1						1	2	1	446	384	451															0.09	0.18	0.09	0.40	0.46					
合計	2	6	6	2	2		18	29	25	5,806	5,687	5,743						6.00	1.50	2.00	2.00	1.64				2.00	2.64	2.27	5.92	5.83	5.90					

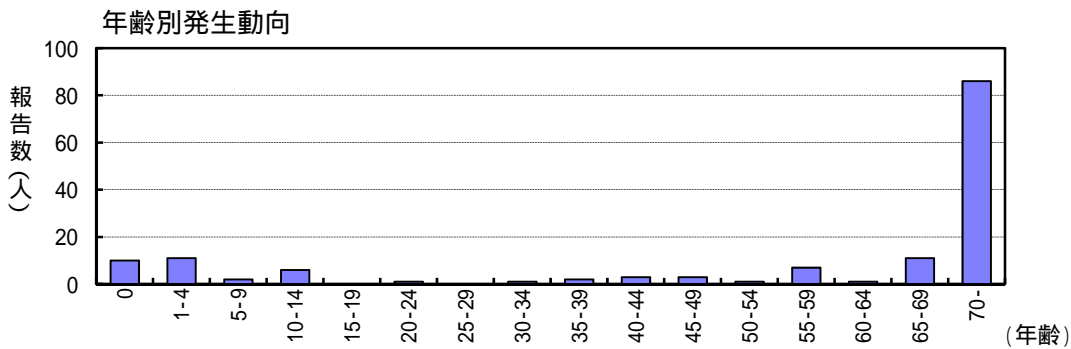
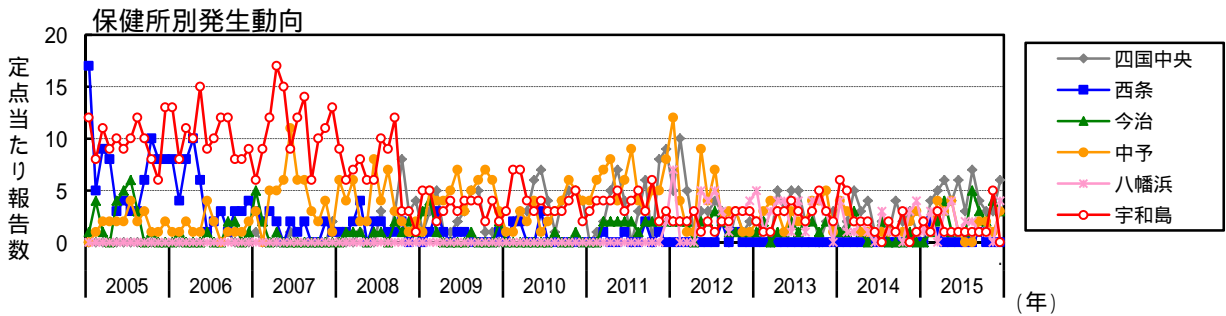
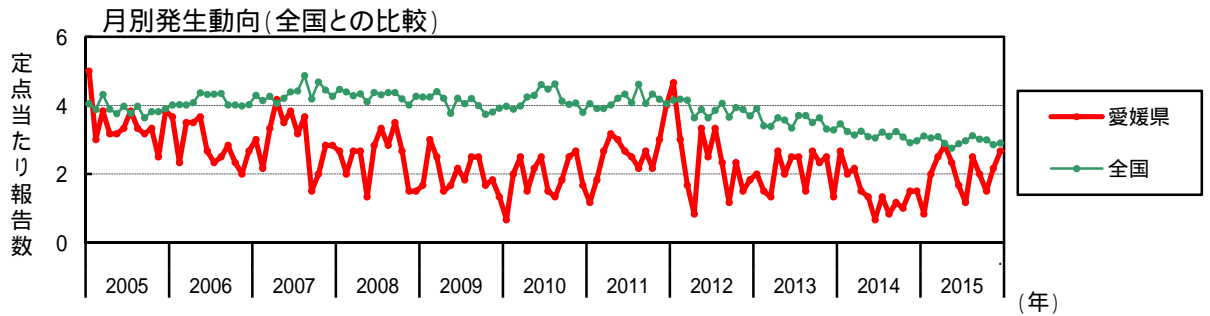
淋菌感染症

月	患者報告数												定点当たり報告数																							
	2015年 保健所別						愛媛県						全国						2015年 保健所別						愛媛県						全国					
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	2015	2014	2013					
1			7	1	1	1	9	7	5	827	839	773						7.00				1.00									0.82	0.64	0.45	0.80		
2		1	2	1	1		5	8	9	695	797	744					0.50	2.00	0.25	1.00										0.45	0.73	0.82	0.77			
3	1		2		1	2	6	4	5	713	764	717						2.00			2.00								0.55	0.36	0.45	0.74				
4			1				1	6	1	622	757	767						1.00											0.09	0.55	0.09	0.78				
5			1	1			2	6	3	665	877	735						1.00	0.25									0.18	0.55	0.27	0.68	0.90	0.75			
6	1		1	1	1		4	7	6	685	810	788						1.00	0.25	1.00								0.36	0.64	0.55	0.70	0.83	0.81			
7			3	1			4	5	6	824	889	880						3.00	0.25									0.36	0.45	0.55	0.84	0.91	0.90			
8			1	1	1		3	10	8	765	904	865						1.00	0.25	1.00								0.27	0.91	0.73	0.78	0.93	0.88			
9		1		2	1		5	3	5	759	916	805					0.50		0.50	1.00	1.00							0.45	0.27	0.45	0.77	0.94	0.83			
10			2	3			5	3	1	713	852	874						2.00	0.75									0.45	0.27	0.09	0.73	0.88	0.90			
11			2	1			3	4	2	724	684	800						2.00	0.25									0.27	0.36	0.18	0.74	0.70	0.82			
12	1		1	2			5	3	7	706	716	740						1.00	0.50									0.45	0.27	0.64	0.72	0.74	0.76			
合計	3	2	23	13	6	5	52	66	58	8,698	9,805	9,488						3.00	1.00	23.00	3.25	6.00	4.73	8.88	10.06	5.27	6.00	5.27	8.88	10.06	9.74					

(7) 基幹定点対象疾患(月報)

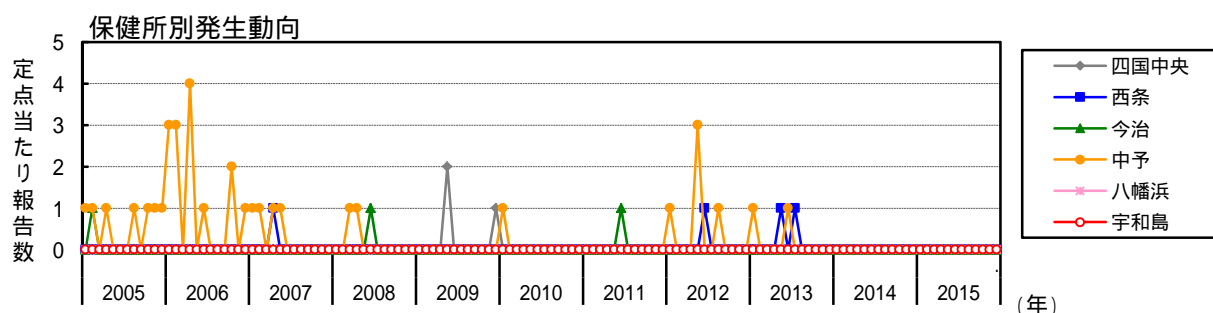
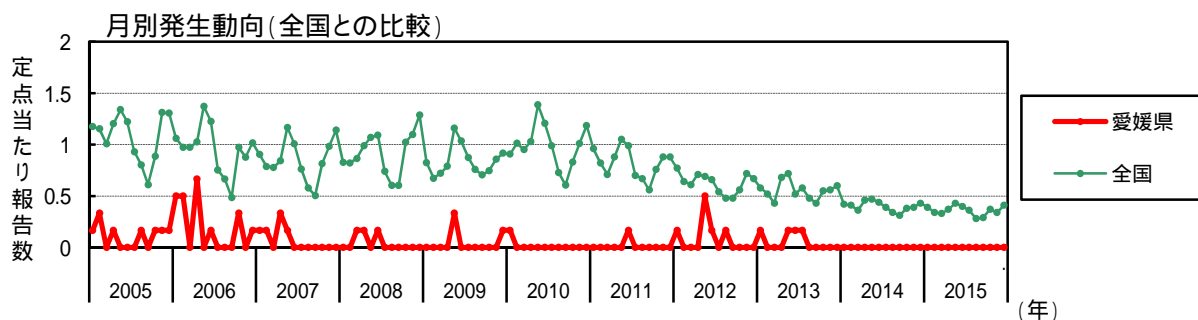
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2015年の患者報告数は145人(定点当たり24.17人/年)で、前年(患者報告数106人、定点当たり17.67人/年)の1.4倍に増加し、例年(過去10年平均29.00人/年)と同程度の発生であった。性別は男性83人、女性62人で男性が57.2%を占めた。高齢者に多くみられ、特に70歳以上が86人と全体の59.3%を占めた。



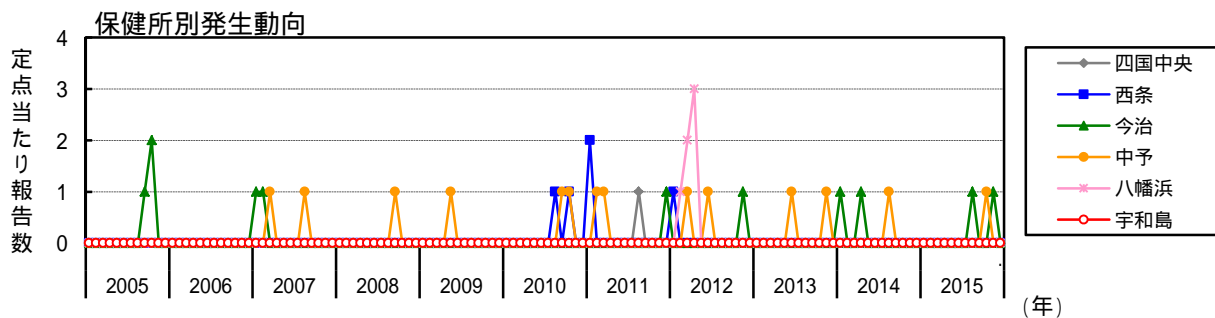
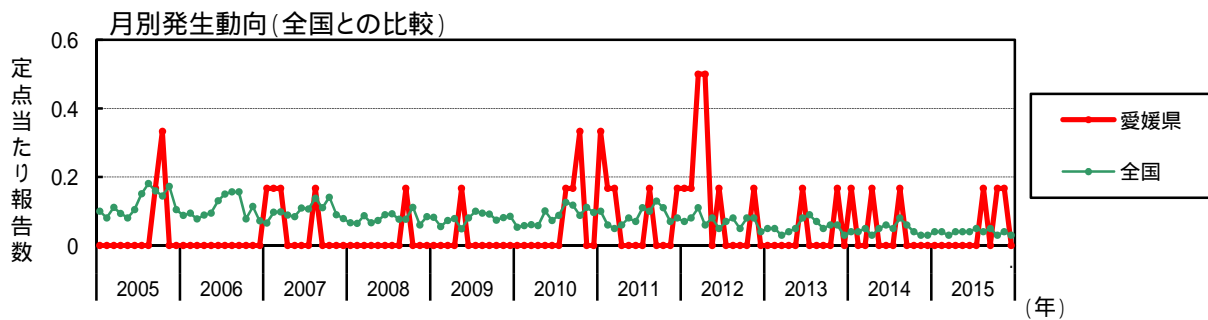
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2015年に県内での患者報告はなかった。県内の患者報告数は、2006年の14人(定点当たり2.33人/年)以降減少し、年間6人以下の少数報告で推移している。



薬剤耐性緑膿菌感染症

2015年の患者報告数は3人(定点当たり0.50人/年)であった。年齢及び性別は70歳以上の男性1人、女性2人であった。県内の患者報告数は、2003年の15人以降、年間10人以下の少数報告で推移している。



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

月	患者報告数										定点当たり報告数													
	2015年 保健所別						愛媛県			全国			2015年 保健所別						愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013
1				2	1	2	5	16	12	1,488	1,652	1,850				2.00	1.00	2.00	0.83	2.67	2.00	3.11	3.46	3.91
2	4	2	1	1	3	1	12	12	9	1,454	1,552	1,605	4.00	2.00	1.00	1.00	3.00	1.00	2.00	2.00	1.50	3.05	3.24	3.40
3	5	1	2	4		3	15	13	8	1,481	1,499	1,602	5.00	1.00	2.00	4.00		3.00	2.50	2.17	1.33	3.09	3.13	3.39
4	6		4	3	3	1	17	9	16	1,383	1,558	1,742	6.00		4.00	3.00	3.00	1.00	2.83	1.50	2.67	2.89	3.25	3.64
5	4		1	4	4	1	14	8	12	1,317	1,482	1,697	4.00		1.00	4.00	4.00	1.00	2.33	1.33	2.00	2.75	3.09	3.57
6	6		1	1	1	1	10	4	15	1,383	1,464	1,591	6.00		1.00	1.00	1.00	1.00	1.67	0.67	2.50	2.88	3.06	3.34
7	3		1		2	1	7	8	15	1,427	1,544	1,765	3.00		1.00		2.00	1.00	1.17	1.33	2.50	2.97	3.22	3.70
8	7		5		2	1	15	5	9	1,498	1,486	1,767	7.00		5.00		2.00	1.00	2.50	0.83	1.50	3.12	3.11	3.70
9	4	1	3	2	1	1	12	7	16	1,445	1,562	1,668	4.00	1.00	3.00	2.00	1.00	1.00	2.00	1.17	2.67	3.01	3.25	3.50
10	3		2	2	1	1	9	6	14	1,428	1,473	1,735	3.00		2.00	2.00	1.00	1.00	1.50	1.00	2.33	2.99	3.08	3.64
11	3		4	1		5	13	9	15	1,362	1,392	1,570	3.00		4.00	1.00		5.00	2.17	1.50	2.50	2.85	2.91	3.31
12	6		3	3	4		16	9	8	1,391	1,418	1,563	6.00		3.00	3.00	4.00		2.67	1.50	1.33	2.90	2.97	3.28
合計	51	4	27	23	22	18	145	106	149	17,057	18,082	20,155	51.00	4.00	27.00	23.00	22.00	18.00	24.17	17.67	24.83	35.61	37.83	42.43

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

月	患者報告数										定点当たり報告数														
	2015年 保健所別						愛媛県			全国			2015年 保健所別						愛媛県			全国			
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	
1									1	189	200	273										0.17	0.39	0.42	0.58
2										160	197	244											0.34	0.41	0.52
3										159	172	203											0.33	0.36	0.43
4										175	219	326											0.37	0.46	0.68
5									1	205	227	340										0.17	0.43	0.47	0.72
6									1	190	210	250										0.17	0.40	0.44	0.52
7									1	173	186	275										0.17	0.36	0.39	0.58
8										134	160	230											0.28	0.33	0.48
9										137	148	207											0.29	0.31	0.43
10										177	181	261											0.37	0.38	0.55
11										163	185	267											0.34	0.39	0.56
12										195	207	285											0.41	0.43	0.60
合計									4	2,057	2,292	3,161										0.67	4.29	4.79	6.65

薬剤耐性緑膿菌感染症

月	患者報告数										定点当たり報告数																
	2015年 保健所別						愛媛県			全国			2015年 保健所別						愛媛県			全国					
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2015	2014	2013	2015	2014	2013			
1										1		18	20	25									0.17		0.04	0.04	0.05
2												17	19	23										0.04	0.04	0.05	
3												16	23	15										0.03	0.05	0.03	
4										1		17	15	18								0.17		0.04	0.03	0.04	
5												17	24	25										0.04	0.05	0.05	
6												1	17	28	39							0.17		0.04	0.06	0.08	
7												23	26	42										0.05	0.05	0.09	
8			1				1	1		20	36	34			1.00				0.17	0.17			0.04	0.08	0.07		
9										23	29	24												0.05	0.06	0.05	
10				1			1			16	19	30				1.00			0.17				0.03	0.04	0.06		
11			1				1		1	18	16	30			1.00				0.17		0.17		0.04	0.03	0.06		
12										15	13	14											0.03	0.03	0.03		
合計			2	1			3	3	2	217	268	319			2.00	1.00			0.50	0.50	0.33	0.45	0.56	0.67			

2015 年(平成 27 年)感染症発生動向調査結果
一病原体検査結果一

2015年(平成27年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -

1 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

細菌性赤痢

県内で細菌性赤痢患者の届出があった場合には、当所で患者から分離された菌株の確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法による型別を実施し、ソンネについてはMulti-locus variable-number tandem repeat analysis (MLVA)を実施している。当所では赤痢菌の血清型別試験、細胞侵入性遺伝子(*invE*、*ipaH*)のPCR検査、薬剤感受性試験を実施している。薬剤感受性試験はCLSIの抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、セフトキシム(CTX)、セフトジジム(CAZ)、イミペネム(IPM)、メロペネム(MEPM)、アズトレオナム(AZT)、セフェピム(CFPM)、ピペラシリン(PIPC)アミカシン(AMK)、シプロフロキサシン(CPFX)、ミノサイクリン(MINO)、セフメタゾール(CMZ)スルファキサゾール(Su)の12薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあった細菌性赤痢患者1名から分離された赤痢菌は、ソンネ相で、*invE*、*ipaH*遺伝子の保有が確認された。薬剤感受性試験の結果、CPFXに耐性を示した。また、MLVA型はSsV15-052であり他県に一致する株はなかった(表1)。

表1 愛媛県における赤痢菌分離株(2015年)

診断月日	保健所名	感染地域	菌型(血清型)	<i>invE</i>	<i>ipaH</i>	耐性薬剤	MLVA型 ¹⁾
8/14	松山市	インド	<i>Shigella sonnei</i> I相	+	+	CPFX	SsV15-052

1) MLVA(Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)は、ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与されたMLVA型。

腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症患者及び無症状病原体保有者の届出があった場合には、当所で分離された菌株について確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではEHEC O157、O26、O111についてはMLVA法による型別を実施し、その他のEHECについてはPFGE法による型別を実施し、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak(散在的集団発生)”を監視している。当所では、分離株の生化学的性状、O抗原及びH抗原の血清型別、ベロ毒素(VT)の型別、薬剤感受性試験に加え、PFGE法及びEHEC O157、O26、O111についてはMLVA法を実施し、EHEC O157については迅速に検査可能であるIS(Insertion Sequence)-Printing System(東洋紡)を実施している。薬剤感受性試験はCLSIの抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、CTX、CAZ、IPM、MEPM、

AZT、CFPM、PIPC、AMK、CPFX、MINO、CMZ、Su の 12 薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあった EHEC 感染症患者及び無症状病原体保有者 10 名から分離された EHEC について解析を行った(表 2)。分離株の O 血清型別は O26 が 3 株、O157 が 5 株、O145 が 2 株であった。H 型別及び VT 型別を併せた分類では、O26:H11 VT1 が 3 株、O157:H7 VT1&2 が 4 株、O157:H- VT1&2 が 1 株、O145:H- VT2 が 2 株であった。

事例 1(患者感染者 2 名、O26:H11 VT1)は、家族内での発生であった。PFGE 型(O26-15-01、O26-15-02)の PFGE パターンは 2 バンド違いであり、きわめて関連があると判断できる。国立感染症研究所が実施した MLVA 型(15m2071)は同じパターンを示した。

事例 3(患者感染者 3 名、O157:H7 VT1 & 2)は、家族内での発生であった。PFGE 型(O157-15-02)及び国立感染症研究所が実施した MLVA 型(15m0115)は同じパターンを示した。

事例 4(患者感染者 1 名、O157:H- VT1 & 2)は、MLVA 型が他県の菌株と一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例 5(患者感染者 2 名、O145:H- VT2)は、家族内での発生であった。PFGE 型(O145-15-01)は同じパターンを示した。

薬剤感受性試験の結果、10 株は全ての薬剤に対して感受性であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者の届出があった場合には、当所で患者から分離された菌株について Lancefield の分類により群別を実施している。A 群溶血性レンサ球菌については T 血清型別を実施し、B 群溶血性レンサ球菌については血清型別を実施し、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所では、A 群溶血性レンサ球菌については、M 血清型別及び *emm* 遺伝子型、発熱毒素遺伝子の検査を実施し、C 群・G 群溶血性レンサ球菌については *emm* 遺伝子型別を実施している。

県内で届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者 12 名の患者から分離された溶血性レンサ球菌について解析を行った。分離株は A 群溶血性レンサ球菌 4 株、B 群溶血性レンサ球菌 2 株、C 群溶血性レンサ球菌 1 株、G 群溶血性レンサ球菌 5 株であった。A 群溶血性レンサ球菌については T12M12、*emm12.7*、*speB*、*speF*陽性、*speA*、*speC*陰性が 1 株、T11M 型別不能、*emm11.0*、*speB*、*speC*、*speF*陽性 *speA* 陰性が 1 株、T3M3、*emm3.95*、*speA*、*speB*、*speF*陽性、*speC*陰性が 1 株、T1M1、*emm1.0*、*speA*、*speB*、*speF*陽性、*speC*陰性が 1 株であった。B 群溶血性レンサ球菌 2 株は血清型別 V 型であった。C 群溶血性レンサ球菌 1 株の *emm* 遺伝子型は *stC1400.11*であった。G 群溶血性レンサ球菌 5 株の *emm* 遺伝子型は *stG245.0*、*stG10.0*、*stG6792.3*、*stG653.0*、*stC74a.0*であった(表 3)。

表2 愛媛県における腸管出血性大腸菌感染症分離株(2015年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT型別	病原因子	耐性薬剤	PFGE型 ¹⁾	MLVA型 ²⁾	ISコード ³⁾	分離株数
					O	H							
1	5/16 ~5/25	宇和島	家族内	2 (1)	26	11	1	eaeA	-	026-15-01	15m2071		1
										026-15-02	15m2071		1
2	6/17	中予	散発	1	157	7	1,2	eaeA	-	0157-15-01	15m0114	757554-611657	1
3	7/10 ~7/12	今治	家族内	3 (2)	157	7	1,2	eaeA	-	0157-15-02	15m0115	317577-431756	3
4	7/18	宇和島	散発	1	157	-	1,2	eaeA	-	0157-15-03	15m0061	615457-521656	1
5	10/18 ~10/23	今治	家族内	2 (1)	145	-	2	eaeA	-	0145-15-01			2
6	12/1	宇和島	散発	1	26	11	1	eaeA	-	026-15-03	15m2158	615457-521656	1
計				10 (4)									10

1)PFGE型：バンドが1本でも異なれば、違ったサブタイプ名となる。

2) MLVA(Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)は、ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与された MLVA 型。同一の MLVA 型は同一の名前で表記し、分離年、m、番号で示し、SLV (single locus variant)の関係にある MLVA 型については分離年、c、番号となる。

3) IS(Insertion sequence:大腸菌ゲノムの内部を移動する配列)と4種の病原因子の有無を、マルチプレックス PCR で検出することにより、菌のタイピングを行う検査法である。

表3 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症分離株(2015年)

診断月日	保健所名	菌種	血清型	<i>emm</i> 遺伝子型別	発熱毒素遺伝子
1/23	松山市	B 群溶血性レンサ球菌	V		
2/1	中予	A 群溶血性レンサ球菌	T12M12	<i>emm12.7</i>	<i>speB, speF</i> 陽性 <i>speA, speC</i> 陰性
3/11	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG245.0</i>	
3/16	西条	A 群溶血性レンサ球菌	T11M 型別不能	<i>emm11.0</i>	<i>speB, speC, speF</i> 陽性 <i>speA</i> 陰性
4/13	宇和島	A 群溶血性レンサ球菌	T3M3	<i>emm3.95</i>	<i>speA, speB, speF</i> 陽性 <i>speC</i> 陰性
4/17	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG10.0</i>	
7/7	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG6792.3</i>	
8/13	八幡浜	C 群溶血性レンサ球菌		<i>stC1400.11</i>	
8/14	松山市	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG653.0</i>	
9/28	松山市	A 群溶血性レンサ球菌	T1M1	<i>emm1.0</i>	<i>speA, speB, speF</i> 陽性 <i>speC</i> 陰性
10/29	松山市	B 群溶血性レンサ球菌	V		
11/25	西条	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stC74a.0</i>	

(2) 定点把握対象感染症

感染性胃腸炎

検査対象病原体は主として赤痢菌、病原大腸菌、サルモネラ属菌、病原性ビブリオ、カンピロバクター及びセレウス菌とし、通常 5 種類の選択分離培地上に発育した典型的な集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験により同定している。

大腸菌は市販免疫血清で血清型別を実施すると共に、11 種類 (*eaeA*、*astA*、*aggR*、*bfpA*、*invE*、*elt*、*esth*、*ipaH*、EAF、CVD432、*stx*) の病原因子関連遺伝子の有無を PCR 法で確認し、腸管出血性大腸菌 (EHEC)、腸管侵入性大腸菌 (EIEC)、腸管毒素原性大腸菌 (ETEC)、腸管病原性大腸菌 (EPEC) 及び腸管凝集付着性大腸菌 (EAggEC) に分類した。

小児を中心に 413 検体の糞便について病原菌検索を行なった。その結果、病原大腸菌 25 株、サルモネラ属菌 2 株、カンピロバクター 4 株の計 31 株が分離された。年間の病原細菌検出率は 7.5% (31/413) であった (表 4、表 5)。

カンピロバクターはすべて *Campylobacter jejuni* であり、Penner の耐熱性抗原による血清型別は D 群が 1 株、型別不能が 3 株であった。

大腸菌は、PCR の結果、腸管病原性大腸菌 (EPEC) の 7 株が *eaeA* 陽性、2 株が *eaeA*、*astA* 陽性であった。腸管凝集付着性大腸菌 (EAggEC) の 13 株が *aggR*、CVD432 陽性、3 株が *aggR*、CVD432、*astA* 陽性であった。

サルモネラ属菌は、*S. Enteritidis* が 1 株、*S. Thompson* が 1 株であった。

その他、セレウス菌、赤痢菌、病原性ビブリオ等は分離されなかった。

表4 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(年別)

病原細菌		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
病原大腸菌	腸管毒素原性大腸菌	OUT	2	2			
	腸管病原性大腸菌	O8				1	
		O20			1		
		O26					1
		O55	1				1
		O63		1	1		
		O86a		1			
		O103		1			1
		O121		1			
		O128	2		2	1	1
		O145	1	2			
		O153		1	1		
	O UT	10	6	13	10	5	
	腸管凝集付着性大腸菌	O78	1		2		
		O86a	1		3		
		O111	1	1			7
		O126	2	6	6		3
		O127a	1	4	6		
		O UT	5	2	9	1	6
	小計		25	28	46	13	25
<i>Campylobacter jejuni</i>		6	2	1		4	
<i>Salmonella</i> Thompson (O7)			1	1		1	
<i>Salmonella</i> Manhattan (O8)			1				
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)		5	2		2	1	
<i>Bacillus cereus</i>		1			1		
計		38	34	48	16	31	
検出数/検体数(%)		(9.7)	(6.4)	(9.4)	(4.1)	(7.5)	
検査検体数		391	531	510	392	413	

表5 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(2015年)

病原細菌		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腸管病原性 大腸菌	O26								1					1
	O55											1		1
	O103							1						1
	O128							1						1
	OUT						2		1	2				5
	小計						2	2	2	2		1		9
腸管凝集附着 性大腸菌	O111		2				3	1			1	1		8
	O126		1										1	2
	OUT	2				1		1		1			1	6
	小計	2	3			1	3	2		1	1	1	2	16
<i>Campylobacter</i> <i>jejuni</i>	D										1			1
	UT											2	1	3
	小計										1	2	1	4
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)					1									1
<i>Salmonella</i> Thompson (O7)						1								1
計	2	3	0	0	2	6	4	2	3	2	4	3		31
検出数/検体数(%)	(8.3)	(10.3)			(5.7)	(9.7)	(9.1)	(5.3)	(14.3)	(9.1)	(16.0)	(7.7)		(7.5)
検査検体数	24	29	30	44	35	62	44	38	21	22	25	39		413

2 ウイルス検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

全数把握対象感染症が発生した場合には、当所で遺伝子検査によるウイルス検査を実施するとともに、必要に応じて国立感染症研究所へ検体を送付し、確認検査を依頼している。本年、保健所からの依頼により受け付けた検体は、全血(血液・血清)が20検体、咽頭ぬぐい液が3検体、糞便が4検体、尿が2検体であった。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

県内でSFTS疑い患者が発生した場合には、当所で遺伝子検査を実施した後、陽性の場合には国立感染症研究所に検体を送付し、確認検査を実施した。本年、保健所から依頼のあったSFTS疑い患者検体は全血(血液・血清)19検体であり、そのうち1検体からSFTSウイルスが検出された(図1)。

A型肝炎

本年、保健所から検査依頼のあったA型肝炎患者検体は糞便4検体であり、2検体からA型肝炎ウイルスが検出された(図1)。

風しん

風しん疑い患者1名から採取された咽頭ぬぐい液及び尿から、風しんウイルスは検出されなかった。

麻しん

麻しん疑い患者1名から採取された咽頭ぬぐい液及び尿から、麻しんウイルスは検出されなかった。

デング熱

デング熱疑い患者血液1検体について、イムノクロマト(IC)法による簡易検査を実施したところ、デング熱ウイルスは検出されなかった。

中東呼吸器症候群(MERS)

MERS疑い患者の咽頭ぬぐい液1検体について、当所で遺伝子検査を実施したところ、MERSコロナウイルスは検出されなかった。

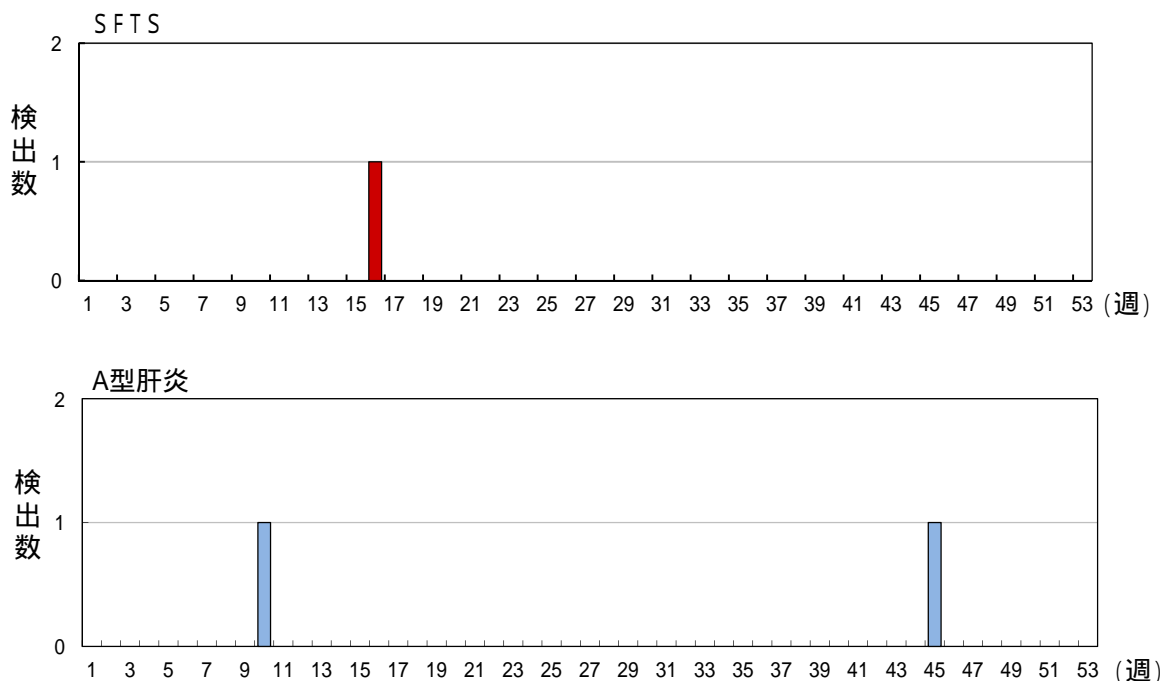


図1 週別ウイルス検出数(全数把握対象感染症)

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点はインフルエンザ定点 12(内科 4、小児科 8)、小児科定点 8、基幹定点 6、眼科定点 2 の医療機関が設定されている。病原体検査対象疾患のうちウイルス性疾患は、インフルエンザ定点のインフルエンザ、小児科定点の咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、眼科定点の流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、基幹定点の無菌性髄膜炎である。これらの医療機関から、病原体検査要領に基づいて採取された検体について、ウイルス学的検査を実施した。

検査材料:臨床材料は、2015年1月から12月の間に採取された。当所に搬入された呼吸器感染症等患者検体は、試験に供するまで-80℃で冷凍保存した。また、感染性胃腸炎患者便は、検査に供するまで-30℃で冷凍保存した。

検査方法:呼吸器感染症等患者検体からのウイルス分離には FL、RD-18s、Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期は MDCK 細胞を併用した。また必要に応じて PCR 法、リアルタイム PCR 法、IC 法を実施した。感染性胃腸炎起因ウイルス検索には、電子顕微鏡法(EM)、PCR 法、リアルタイム PCR 法を実施した。EM で検出されたロタウイルスは、IC 法で型別した。ノロウイルス遺伝子の検出には、COGF/R プライマーと TaqMan プローブを用いた影山らのリアルタイム PCR 法を実施した。サボウイルス遺伝子の検出は、岡田らのプライマー(1st SV-13F・14F/13R・14R、nested SV-F22/R2)を用いた nested PCR で行った。アストロウイルス遺伝子の検出には、左近らの PCR 法を実施した後、陽性のものについては、ダイレクトシーケンス法で同定した。

病原体定点種類別検体数

2015年に病原体定点から受け付けた検体数は 637 検体であり、病原体定点種類別診断名別の受け付け状況を表 1 に示した。

インフルエンザ定点等からのインフルエンザの検体数は 34 検体であった。その内訳は小児科定点から 28 検体、基幹定点から 5 検体、内科定点から 1 検体であり、82.4%が小児科定点からの検体であった。小児科定点からの検体数(インフルエンザ検体数を除く)は 580 検体で、対象疾患別では感染性胃腸炎が最も多く 388 検体、手足口病 40 検体、ヘルパンギーナ 6 検体、不明発疹症 27 検体であった。眼科定点からの検体数は 16 検体であり、すべて流行性角結膜炎であった。基幹定点からの検体数(インフルエンザ検体数を除く)は 7 検体で、すべて無菌性髄膜炎だった。年間を通して検体採取のなかった医療機関は、インフルエンザ定点 3 施設、基幹定点 5 施設、眼科定点 1 施設、小児科定点 3 施設であった。

2015年に流行のみられた疾患であるインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病などにおいて、それぞれの検体からウイルスを検出し、患者情報の裏付けをすることができた。サーベイランスの対象疾患に該当しない診断名である上気道炎、下気道炎、不明熱、不明発疹症などの検体数がかなりの比重を占めているが、これらの検体からもウイルスが検出されており、定点対象疾患の発生動向をみる上で、貴重な病原体情報を得ることができた。

定点医療機関からは、概ね、一年間に流行する疾患の動向を捉えるために必要な検体数が得られているものと考えられたが、医療機関や地域によって検体数にばらつきがあることから、対象とする疾患の地域的な流行をより正確に把握するためには、県内全域からの平準化された検体採取が望まれる。

表1 定点医療機関からの臨床診断名別検体受付状況(2015年)

保健所名	種別	インフルエンザ	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	上気道炎	下気道炎	不明熱	不明発疹症	合計
四国中央	小児科	6		11				2			9	28
	基幹											0
西条	インフルエンザ	1										1
	小児科	1	4	6	2	1					3	17
	基幹											0
今治	小児科		5	8	1							14
	眼科											0
	基幹											0
中予	インフルエンザ											0
	小児科											0
	基幹											0
八幡浜	インフルエンザ											0
	小児科											0
	基幹											0
宇和島	小児科											0
	基幹	5				7						12
松山市	インフルエンザ											0
	小児科	21	379	15	3			8	50	58	15	549
	眼科						16					16
合計		34	388	40	6	8	16	10	50	58	27	637

呼吸器感染症等患者検体からの検出

呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 2 に、臨床診断名別ウイルス検出状況を表 3 に示した。252 検体(定点以外の医療機関からの検体を含む)についてウイルス検出を実施した結果、132 検体からウイルスが検出された(検出率 52.4%)。2 種類のウイルスが検出された重複感染例が 3 例あった。

ウイルス別検出状況

インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスは、1 月～3 月、7 月に検出された。検出された 29 件すべて AH3 であり、本年(2014/2015 シーズン)の流行は、AH3 によるものであった。また、検出された 29 件はすべて、臨床的にインフルエンザと診断された検体からの検出であった。

表 2 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況(2015 年)

ウイルス型		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コクサッキーA群	CA6					3	2	8	5	2	2	1		23
	CA9							1	1			1		3
	CA10				2	2	7	6						17
	CA16	1			1		5	1		1				9
コクサッキーB群	CB4			1				1						2
	CB5							1						1
エコー	Echo18											1		1
	Echo25								1	1				2
ライノ					2	4	6	4	2	2	1			21
インフルエンザ	AH3	16	8	4				1						29
RS										1		1		2
単純ヘルペス	HSV-1									1				1
アデノ	Ad1			1									1	2
	Ad2	3	1						1					5
	Ad3						1						1	2
	Ad4	2					1		2					5
	Ad54							1			4	2		7
	Ad56								1		1			2
	AdNT			1										1
合計		22	9	7	3	7	20	26	15	8	9	7	2	135
検査数		33	22	14	10	13	34	39	24	15	17	14	17	252

表3 臨床診断名別ウイルス検出状況 (2015年)

ウイルス型		インフルエンザ	手足口病	ヘルペス	流行性角結膜炎	上気道炎	下気道炎	不明熱	不明発疹症	合計
コクサッキーA群	CA6		18						5	23
	CA9		2						1	3
	CA10			3		1		11	2	17
	CA16		5					1	3	9
コクサッキーB群	CB4					1		1		2
	CB5						1			1
エコー	Echo18							1		1
	Echo25							1	1	2
ライノ			13	2		1			5	21
インフルエンザ	AH3	29								29
RS							2			2
単純ヘルペス	HSV 1						1			1
アデノ	Ad1						2			2
	Ad2						2	3		5
	Ad3				2					2
	Ad4				3			2		5
	Ad54				7					7
	Ad56				2					2
	AdNT				1					1
合計		29	38	5	15	3	8	20	17	135

エンテロウイルス

エンテロウイルスは、小児における急性気道疾患の重要な原因ウイルスであり、毎年夏季に流行がみられる。本年も6月～7月を中心に検出された。コクサッキーウイルス A (CA)6 型が 23 件と最も多く、5月～11月に検出された。次に多かったのがライノウイルスであり、5月～11月に 21 件検出された。

手足口病患者検体からは、CA6 型が 18 件、ライノウイルスが 13 件、CA16 型が 5 件、CA9 型が 2 件検出され、本年の手足口病の主な原因ウイルスは CA6 型とライノウイルスであった。また不明発疹症患者検体からは、CA6 型、CA9 型、CA10 型、CA16 型、エコーウイルス(Echo)25 型、ライノウイルスが検出され、多様なウイルスによって引き起こされていたことが分かった。不明熱患者検体からは CA10 型が 11 件と最も多く検出された。その他、ヘルパンギーナ患者検体から CA10 型が 3 件、ライノウイルスが 2 件、上気道炎患者検体から CA10 型、コクサッキーウイルス B (CB)4 型、ライノウイルスが各 1 件検出された。下気道炎から CB 5 型が 1 件された。

RS ウイルス

RS ウイルスは、下気道炎患者検体から 9 月と 11 月に各 1 件と、散発的に検出された。

単純ヘルペスウイルス

単純ヘルペスウイルス 1 型は、下気道炎患者検体から 9 月に 1 件検出された。

アデノウイルス

アデノウイルスは、型別できなかつた 1 件を含め合計 24 件検出された。内訳は、1 型が 2 件、2 型が 5 件、3 型が 2 件、4 型が 5 件、54 型が 7 件、56 型が 2 件で、年間を通じて多様な血清型が検出された。流行性角結膜炎患者検体からの検出が 15 件と最も多く、そのうちアデノウイルス 54 型が 7 件と最も多かった。

臨床材料別ウイルス検出数

臨床検体 252 検体から検出されたウイルス 135 件の臨床材料別ウイルス検出状況を表 4 に示した。

咽頭ぬぐい液(咽頭ぬぐい液・うがい液)は 179 検体であり、鼻腔ぬぐい液(鼻腔ぬぐい液・鼻汁)は 49 検体であった。咽頭ぬぐい液から検出されたウイルスは、80 件(検出率 44.7%)、鼻腔ぬぐい液からは 40 件(81.6%)検出された。結膜ぬぐい液からは 15 件のウイルスが検出され、その検出率は 93.8%であり、臨床材料別にみた検出率は最も高かった。

髄液 6 検体と便(便・直腸ぬぐい液)2 検体からは、ウイルスは検出されなかった。

表4 臨床材料別ウイルス検出状況(2015年)

臨床材料別		咽頭ぬぐい液	鼻腔ぬぐい液	結膜ぬぐい液	髄液	便	合計
検体数		179	49	16	6	2	252
検出数		80	40	15	0	0	135
検出率(%)		44.7	81.6	93.8	0.0	0.0	53.6
コクサッキーA群	CA6	19	4				23
	CA9	2	1				3
	CA10	17					17
	CA16	8	1				9
コクサッキーB群	CB4	2					2
	CB5	1					1
エコー	Echo18	1					1
	Echo25	1	1				2
ライノ		15	6				21
インフルエンザ	AH 3	2	27				29
RS		2					2
単純ヘルペス	HSV-1	1					1
アデノ	Ad1	2					2
	Ad2	5					5
	Ad3			2			2
	Ad4	2		3			5
	Ad54			7			7
	Ad56			2			2
	AdNT			1			1

週別ウイルス検出数

インフルエンザ

図 2 に、2014/2015 シーズンのインフルエンザ患者発生数とウイルス検出数の推移を示した。今シーズンは、AH3 のみが検出され、AH3 が流行の主体であった。

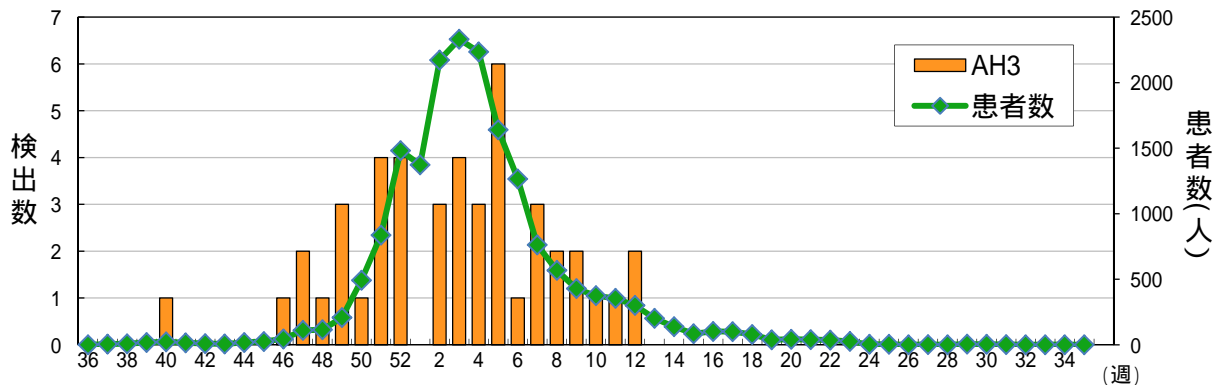


図 2 週別の患者発生数とインフルエンザウイルスの検出数の推移 (2014/2015 シーズン)

その他

図 3 には呼吸器感染症等から検出されたウイルスの週別検出数を示した。

エンテロウイルス(CA、CB、Echo、ライノウイルス)は、主に24週から32週に検出され、検出数が最も多かったのは28週であった。CAは、CA16型が最も早く検出され、次いでCA10型が、次にCA6型の検出数が増加した。最終的にCA6型が20週から49週まで検出され、最も長い期間検出された。CA9型は、CAの流行後半に数件検出された。ライノウイルスは、20週から検出され始め、最も検出数が多かったのは32週であり、47週まで検出された。

アデノウイルスは、年間を通じて散発的に検出された。最も検出数の多かったアデノウイルス54型は、そのほとんどが41週から47週に検出された。

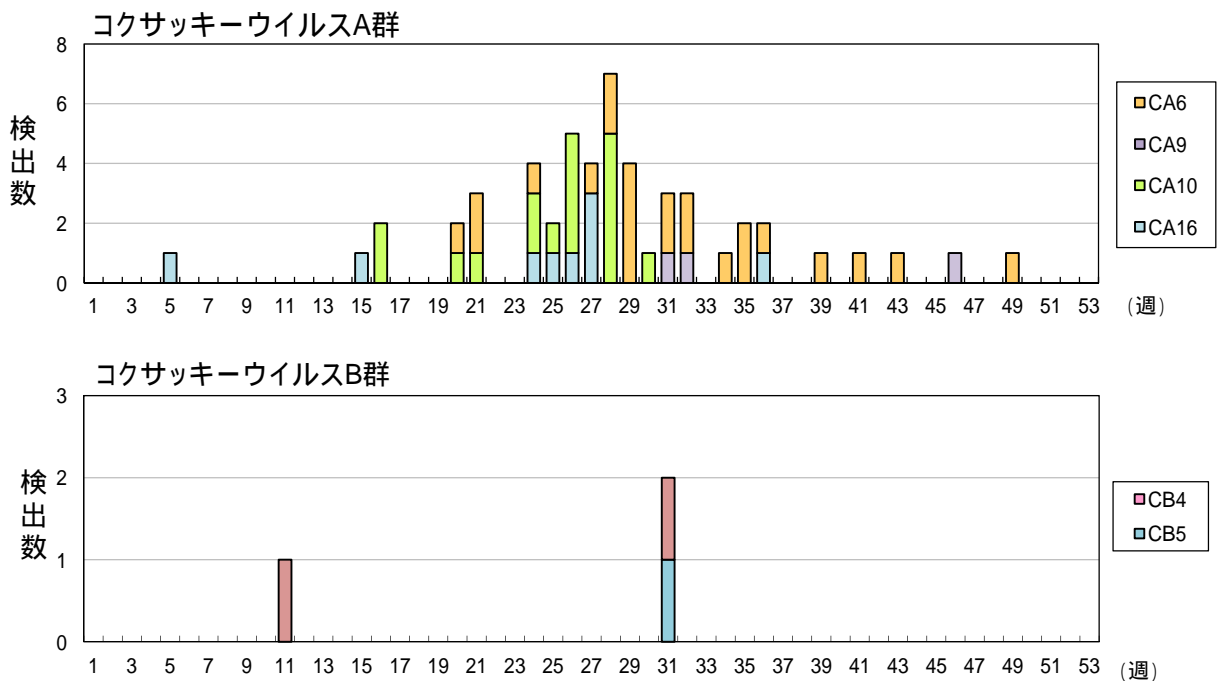


図 3 週別ウイルス検出数 (定点把握対象感染症)

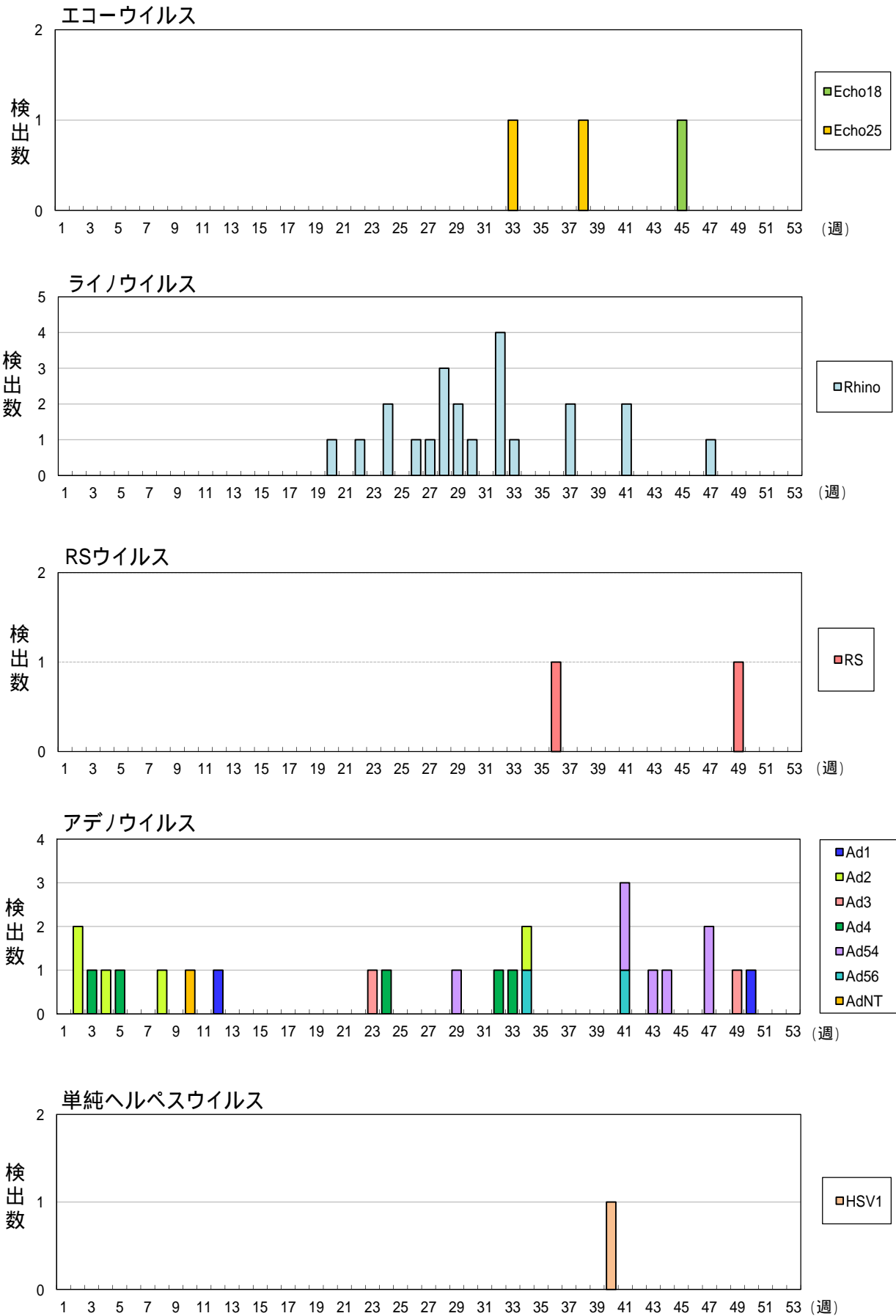


図3 週別ウイルス検出数 (定点把握対象感染症)

年齢別ウイルス検出数

インフルエンザウイルスの年齢別検出数を表5に示した。

AH3が検出された29件のうち、0～4歳、5～9歳での検出数が各10件と最も多く、10歳未満での検出が全体の69.0%を占めた。次に多かったのが40歳以上で5件であった。

エンテロウイルス(CA、CB、Echo、ライノウイルス)、単純ヘルペスウイルス、RSウイルス、アデノウイルスの年齢別検出数を表6に示した。今年の手足口病の主病因と考えられたCA6型とライノウイルスの検出は、1～2歳が最も多く、CA6型の87.0%、ライノウイルスの71.4%を占めた。アデノウイルスは、20歳以上からの検出が11件と最も多く、全て流行性角結膜炎からの検出であった。

表5 インフルエンザウイルスの年齢別検出数(2015年)

年齢区分	AH3
	検出数
0～4	10
5～9	10
10～14	3
15～19	
20～29	
30～39	1
40	5
合計	29

表6 エンテロウイルス等の年齢別検出数(2015年)

年齢区分	コクサッキーA群				コクサッキーB群		エコー		ライノ	単純ヘルペス HSV-1	RS	アデノ						
	CA6	CA9	CA10	CA16	CB4	CB5	Echo18	Echo25				Ad1	Ad2	Ad3	Ad4	Ad54	Ad56	AdNT
<1	1		1	2				1	4		1	1						
1～2	20	2	8	5	1	1		1	15	1	1	1	3				1	
3～4	1	1	4	1	1			1					1	1			1	
5～6	1		1	1					1								1	
7～9			3						1								1	1
10～19																		1
20														2	3	3	2	1
合計	23	3	17	9	2	1	1	2	21	1	2	2	5	2	5	7	2	1

感染性胃腸炎患者検体からの検出

感染性胃腸炎患者検体 388 検体を検査したところ、200 件のウイルスが検出され、検出率は 51.5%であった。このうち、ウイルスの月別検出状況を表 7 及び図 4 に、また、検出された各ウイルスの月別検出率(検出数/検査数)を図 5 に、ウイルス別の患者年齢別検出割合を図 6 に示した。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

2015 年に検出されたウイルス数は、ノロウイルス(NoV)が 106 件(GI:40 件、GII:66 件)と最も多く、次いでサポウイルス(SaV)が 48 件、ロタウイルスが 22 件、アストロウイルスが 18 件、アデノウイルスが 6 件であった。NoV GIの検出数は、本年は例年と比較して非常に多かった(2014 年 3 件、2013 年 17 件)。その他のウイルスの検出数は、昨年とあまり変わらなかった。

検出されたウイルスに占める割合は、NoV が 53.0%、SaV が 24.0%、ロタウイルスが 11.0%、アストロウイルスが 9.0%、アデノウイルスが 3.0%であった。

月別のウイルス検出数は、6 月が 50 件と最も多く、次に多かったのが 12 月の 28 件であった。1 月、8 月～11 月のウイルス検出数は 10 件以下であり、9 月が最も検出数が少なかった。NoV は、GI が 5 月～8 月に多数検出された。NoV GII は 2 月、3 月に多く検出されたが、その後減少し 8 月～10 月は検出されず、11 月以降再び検出数の増加が認められ、12 月が最も検出数が多かった。SaV は、6 月、7 月に検出数が多かった。ロタウイルスは、4 月に最も多く検出された。アストロウイルスは、4 月～8 月に検出され、6 月の検出数が最も多かった。アデノウイルスは、散発的に検出された。

感染症胃腸炎患者検体からのウイルスの検出は、通常夏季には減少するが、本年は 6 月に検出数が最も多く、その主な原因となったのは、NoV GI と SaV であった。

ウイルスの重複感染が確認された事例は 16 例あった。2 種類のウイルスが検出された事例は 14 例であり、SaV と NoV GI の重複感染例が 3 例、SaV とアストロウイルスが 3 例、SaV と NoV G が 2 例、SaV とロタウイルスが 2 例、SaV とアデノウイルスが 1 例、ロタウイルスと NoV G が 1 例、ロタウイルスとアデノウイルスが 1 例、アデノウイルスとアストロウイルスが 1 例であった。また、3 種類のウイルスが検出された事例は 2 例あり、SaV と NoV GI とロタウイルスの重複感染例が 1 例、SaV と NoV GI とアストロウイルスが 1 例であった。重複感染例では、SaV が検出された事例が最も多かった(81.3%)。

表 7 感染性胃腸炎患者からのウイルス月別検出状況(2015 年)

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
NoV GI		1		1	4	18	7	7		1	1		40
NoV GII	6	10	15	5	1		1				5	23	66
SaV		1	5	4	5	20	10		1		1	1	48
ロタ		1		8	2	2				5		4	22
アストロ				2	2	8	4	2					18
アデノ			2		1	2	1						6
検出数	6	13	22	20	15	50	23	9	1	6	7	28	200
陰性	16	10	10	24	21	20	21	26	18	14	17	9	206
検査数	22	23	29	40	33	63	43	35	19	20	24	37	388
検出率(%)	27.3	56.5	75.9	50.0	45.5	79.4	53.5	25.7	5.3	30.0	29.2	75.7	51.5

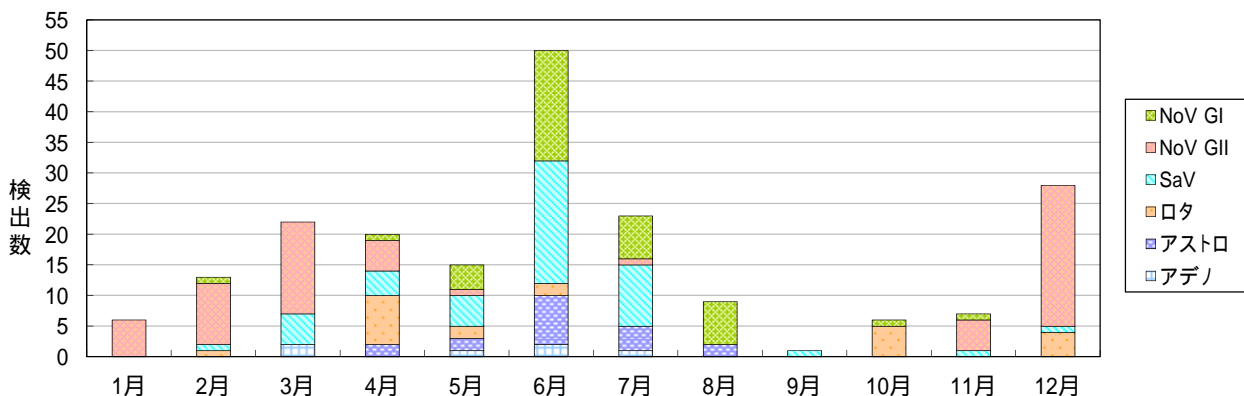


図4 感染性胃腸炎患者からのウイルスの月別検出数 (2015年)

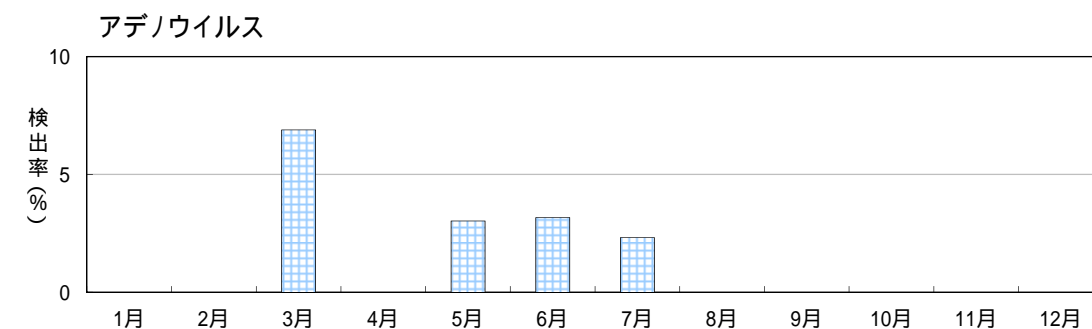
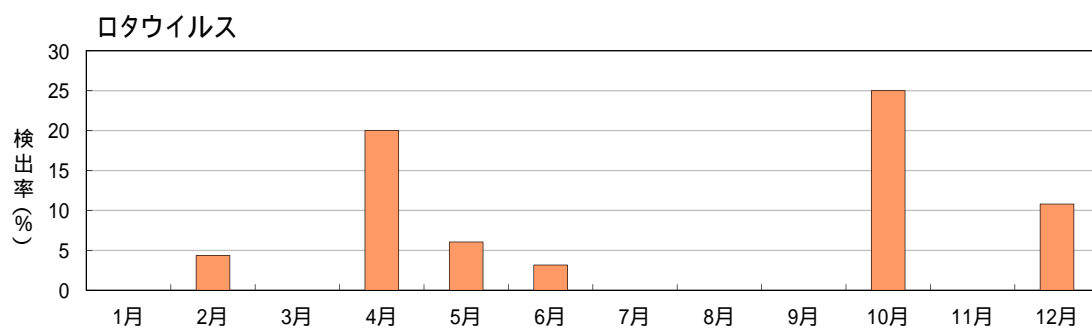
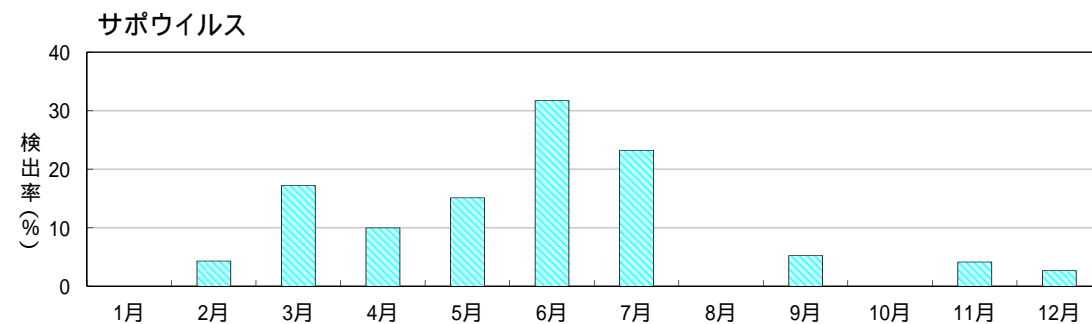
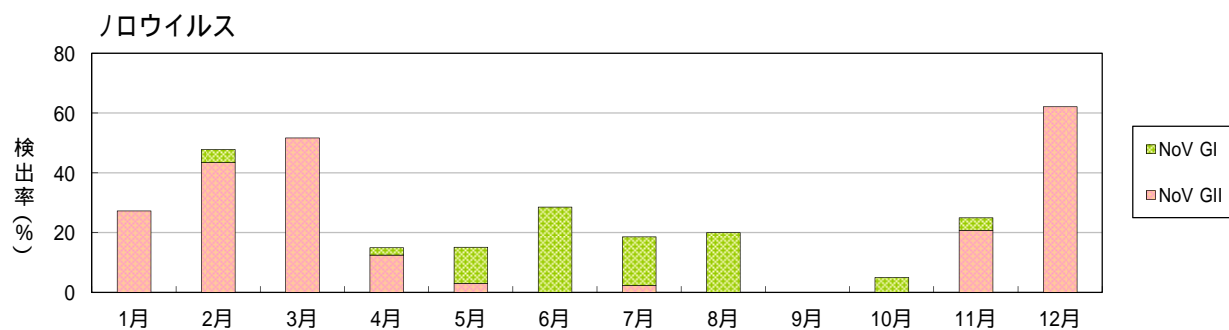


図5 感染性胃腸炎起因ウイルスの月別検出率 (2015年)

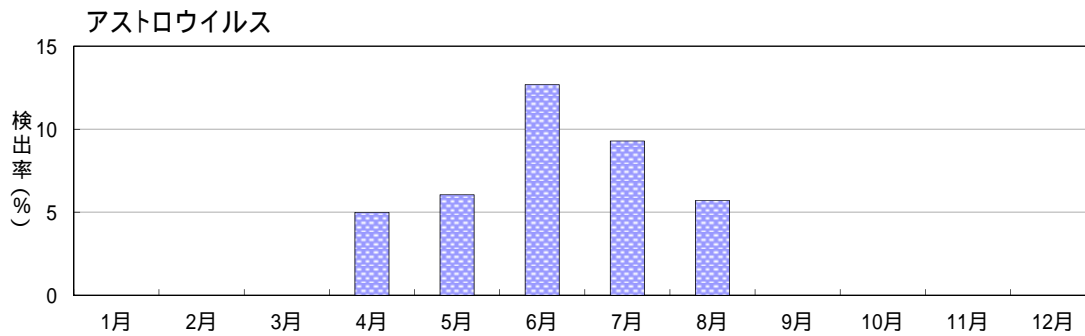


図5 感染性胃腸炎起因ウイルスの月別検出率 (2015年)

胃腸炎起因ウイルス年齢別分布

胃腸炎起因ウイルスは主に6歳以下の乳幼児から検出され、1～2歳からの検出が最も多かった(37.5%)。NoVとSaVは、7～9歳、10歳以上の学童児からも検出された。検出されたウイルスは、いずれも乳児及び若年幼児の主要な胃腸炎起因ウイルスであるが、学童期児童・生徒等からも検出され、広汎な年齢層において重要な胃腸炎起因ウイルスであると考えられた。

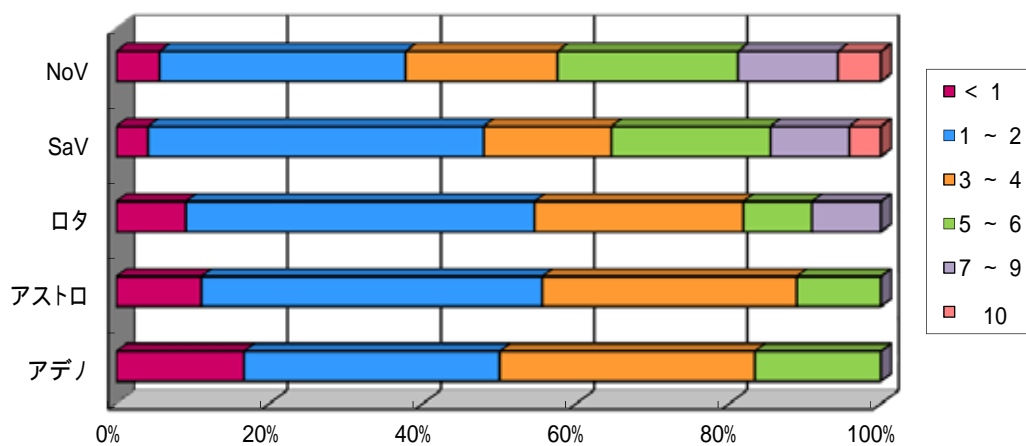


図6 感染性胃腸炎起因ウイルス年齢別検出割合 (2015年)

2015 年 (平成 27 年) 結核登録者情報

2015年(平成27年)結核登録者情報

1 概況

2015年の結核新登録患者数は167人であり、前年(188人)と比較して減少した。結核罹患率(人口10万対率)は12.1で、一般に結核低まん延の指標とされる「罹患率人口10万あたり10以下」に近づきつつある。新登録患者における高齢者(70歳以上)の割合は71.9%であり、全国(58.9%)よりも高齢者の占める割合が高い。県内の年齢階級別罹患率の推移をみると、ここ数年ほとんどの年代で減少傾向が続いているが、19歳以下と40歳代では前年よりも増加した。保健所別の罹患率は四国中央保健所、八幡浜保健所、宇和島保健所で高く、前年との比較では四国中央保健所、今治保健所、八幡浜保健所で増加し、西条保健所、松山市保健所、中予保健所、宇和島保健所では減少した。特に、顕著に減少したのは、中予保健所であった。排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数は前年から減少した。喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(4.5)は全国値(5.6)より下回っている。新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合は依然として高く、半数以上(53.8%)を占めている。患者が発病してから初診までに2ヶ月以上経過している割合(受診の遅れ)は、本年は17.3%で前年と比較して増加した。また、初診から診断までに1ヶ月以上経過している割合(診断の遅れ)も、2010年以降20%前後の状態が続いており、前年の15.1%から本年は17.1%と増加した。2015年末現在、結核登録患者数は380人(結核登録率27.4)、活動性結核患者数は100人(有病率7.2)であり、前年と比較して減少し、過去最低となった。

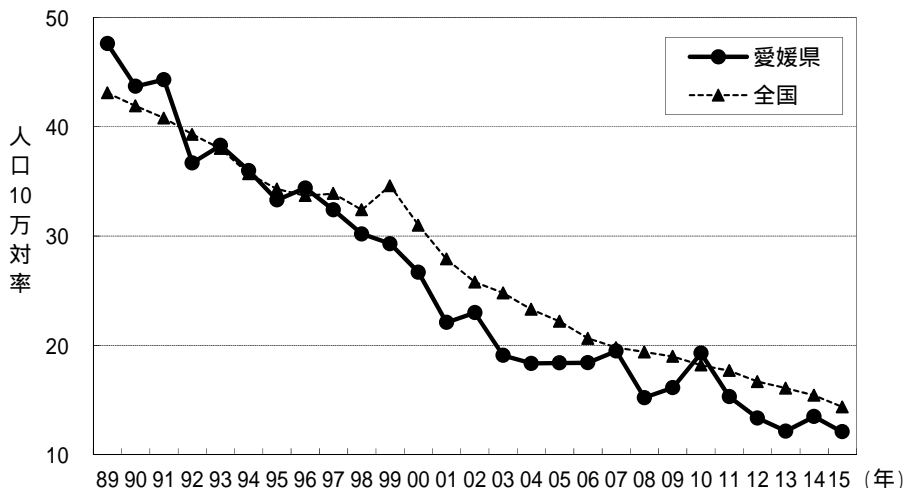
2 新登録患者の状況

(1) 患者数及び罹患率の動向

県内で2015年に新たに結核患者として登録された患者数(新登録患者数)は167人で、前年の188人から21人減少した。2015年の結核罹患率(人口10万人あたりの新登録患者数)は12.1で、前年(同13.5)に比べ1.4減少した。県内の罹患率は、2008年に15.2まで低下したが、2年続けて増加し、2010年には19.3と全国値を上回った。その後、3年続けて減少した後、昨年は13.5と増加に転じたが、本年は12.1と減少し、過去最低となった。

全国の結核罹患率は、結核緊急事態宣言が出された1999年以降減少傾向が続いており、2007年以降減少傾向に鈍化がみられてはいるものの、毎年着実に減少している。都道府県別の罹患率は、低い順に山形(7.3)、長野(8.3)、宮城(8.4)、秋田(8.4)と続き、本県は18位(12.1)であり、昨年(19位、13.5)とほぼ同じ順位であった。

結核罹患率の推移

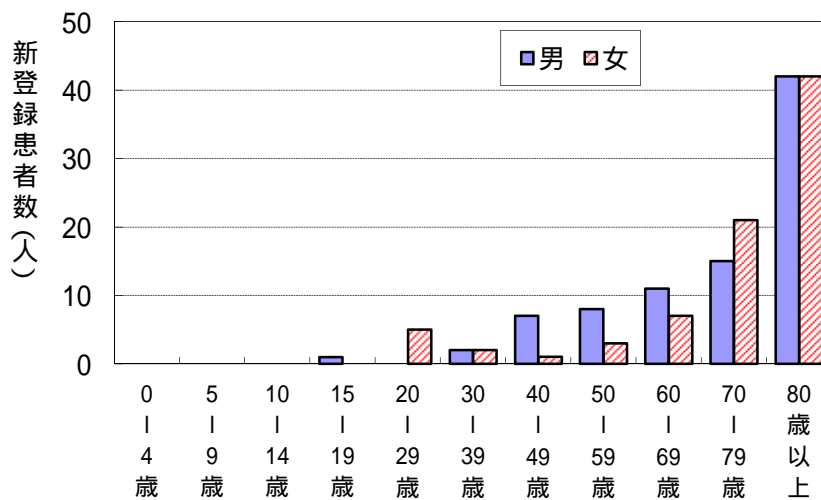


(2) 性・年齢階級別

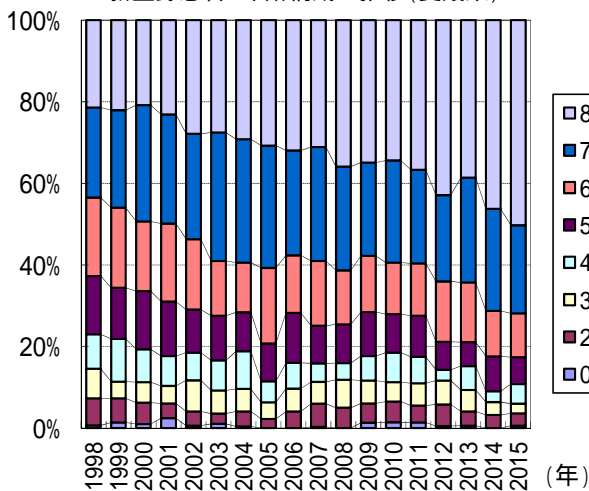
2015年の新登録患者数の性別は、男性86人、女性81人で、男性と女性がほぼ同じ割合であった。前年(男性96人、女92人)に比べ、男性は10人、女性は11人減少した。

年齢構成は70歳以上が120人(前年比14人減)で、新登録患者の71.9%を占めており、全国(58.9%)と比較して高齢者の占める割合が高い傾向がみられる。年齢階級別の罹患率を比較すると、全国では20歳~50歳代の罹患率は7.1~9.0といずれも8前後で大きな差はないが、60歳以上では年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっている。県内では20歳代~40歳代の罹患率は2.7~4.6と低いが、50歳以上では年齢とともに罹患率が高くなる傾向を示している。県内の年齢階級別罹患率の推移をみると、ここ数年ほとんどの年代で概ね減少傾向が続いているが、19歳以下と40歳代では前年よりも増加した。

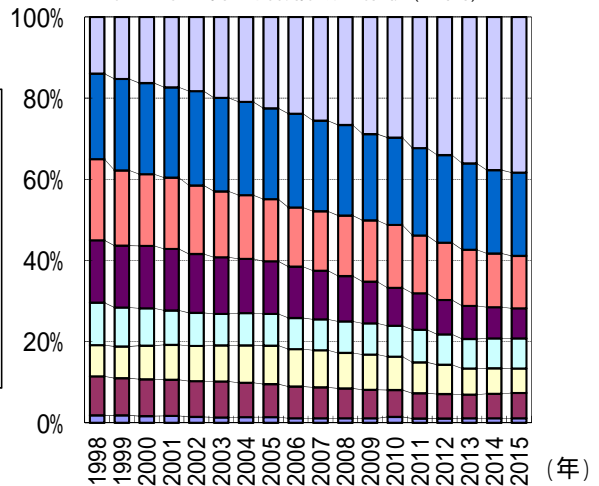
新登録患者 性・年齢階級別



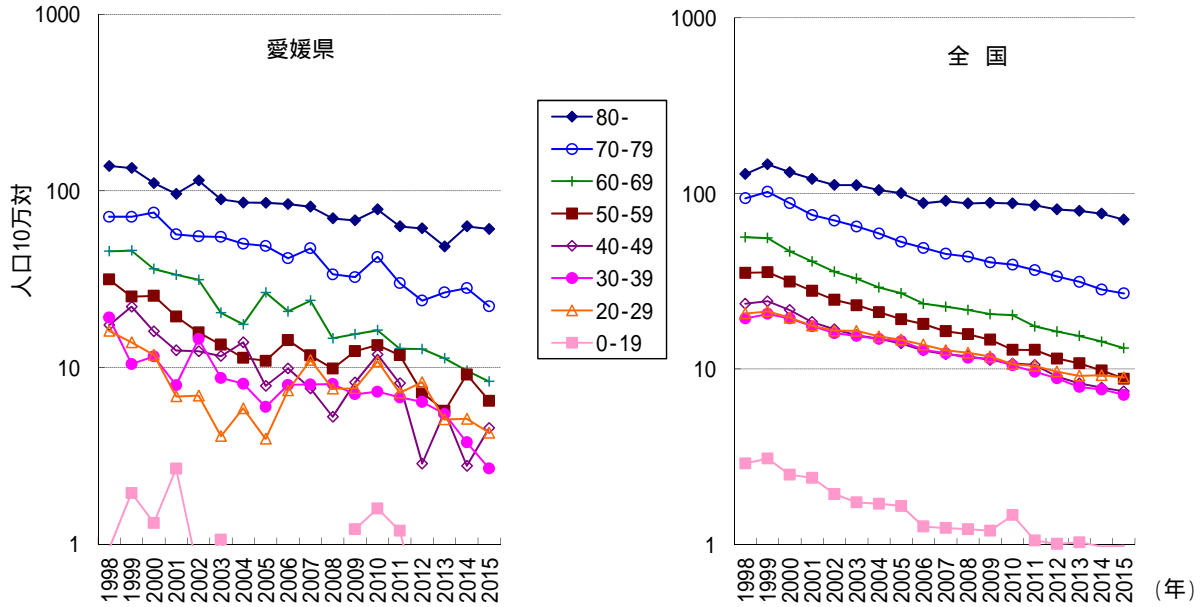
新登録患者 年齢構成の推移(愛媛県)



新登録患者 年齢構成の推移(全国)



新登録患者 年齢階級別罹患率の推移

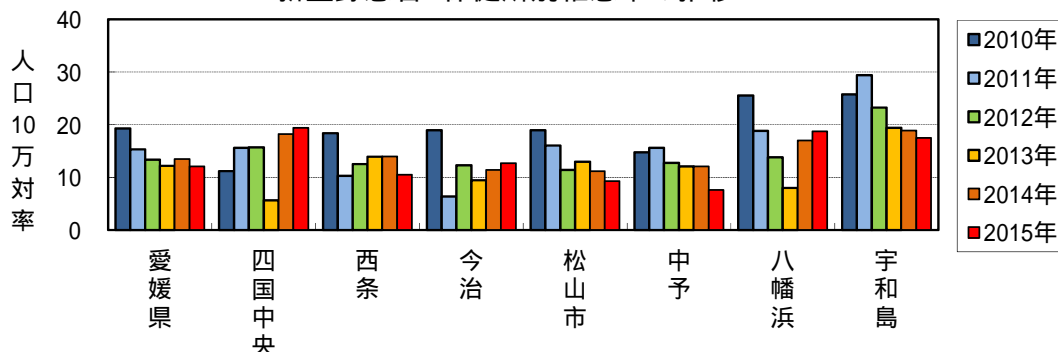


(3) 保健所別

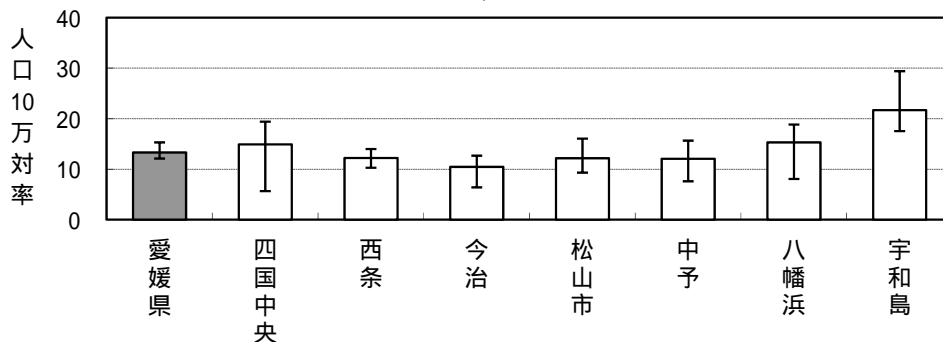
2015年の保健所別の罹患率を比較すると、高い順に、四国中央保健所 19.4 (対前年比 1.2 増)、八幡浜保健所 18.7 (同 1.7 増)、宇和島保健所 17.5 (同 1.4 減)、今治保健所 12.7 (同 1.3 増)、西条保健所 10.5 (同 3.5 減)、松山市保健所 9.3 (同 1.9 減)、中予保健所 7.6 (同 4.5 減)であった。前年との比較では、四国中央保健所、今治保健所、八幡浜保健所の3保健所が増加し、西条保健所、松山市保健所、中予保健所、宇和島保健所では減少した。

保健所別の過去5年間(2011~2015年)の罹患率の平均は、宇和島保健所の21.7を最高に、八幡浜保健所の15.3、四国中央保健所14.9、西条保健所12.2、松山市保健所12.2、中予保健所12.0、今治保健所10.4の順に続き、南予で高い傾向であった。

新登録患者 保健所別罹患率の推移



新登録患者 保健所別罹患率(過去5年間の平均値、最大値、最小値)



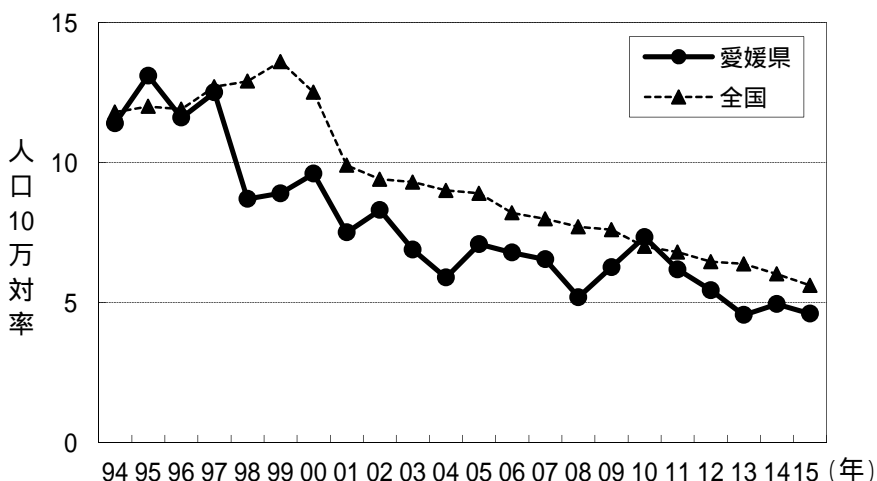
(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者数の動向

新登録患者のうち、排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数は 63 人で、前年の 69 人から 6 人減少した。罹患率は 4.5 で、前年の 4.9 から 0.4 減少した。喀痰塗抹陽性肺結核罹患率の年次推移をみると、2008 年から 2010 年にかけて増加した後、2011 年以降は 3 年連続で減少した後、2014 年は増加に転じ、本年は再び減少した。一方、全国の喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は 5.6 で、前年の 6.0 より 0.4 低下し、1999 年をピークに減少傾向が続いている。

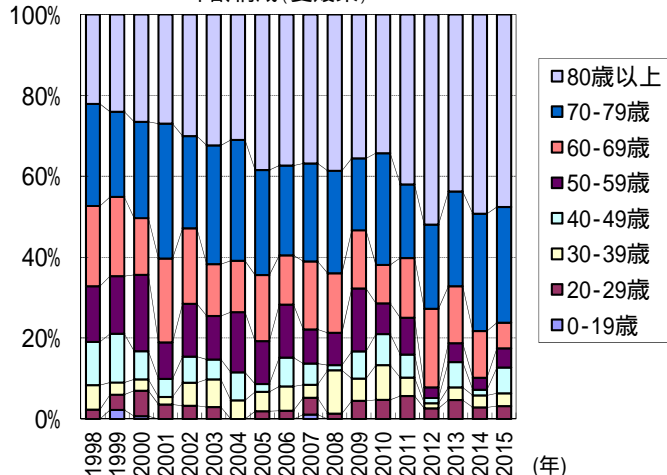
新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合は依然として高く、2015 年は 53.8%(前年 48.3%)と半数以上を占めている。

喀痰塗抹陽性肺結核患者の年齢構成は、全国的には高齢者の割合が増加する傾向にある。本県における 70 歳以上の高齢者の割合は、1998 年では全体の 47.3%であったが、年々増加し、2015 年には 76.2%であった。高齢者の排菌患者は症状が出にくく、診断の遅れにより感染が拡大する可能性があるため、早期発見、早期治療が重要である。

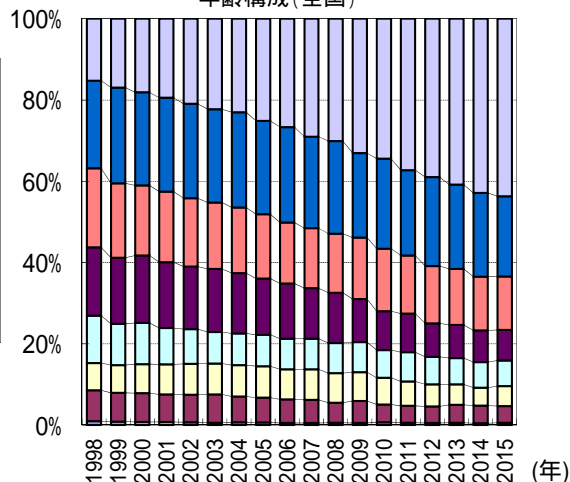
喀痰塗抹陽性肺結核罹患率の推移



新登録塗抹陽性肺結核患者
年齢構成(愛媛県)



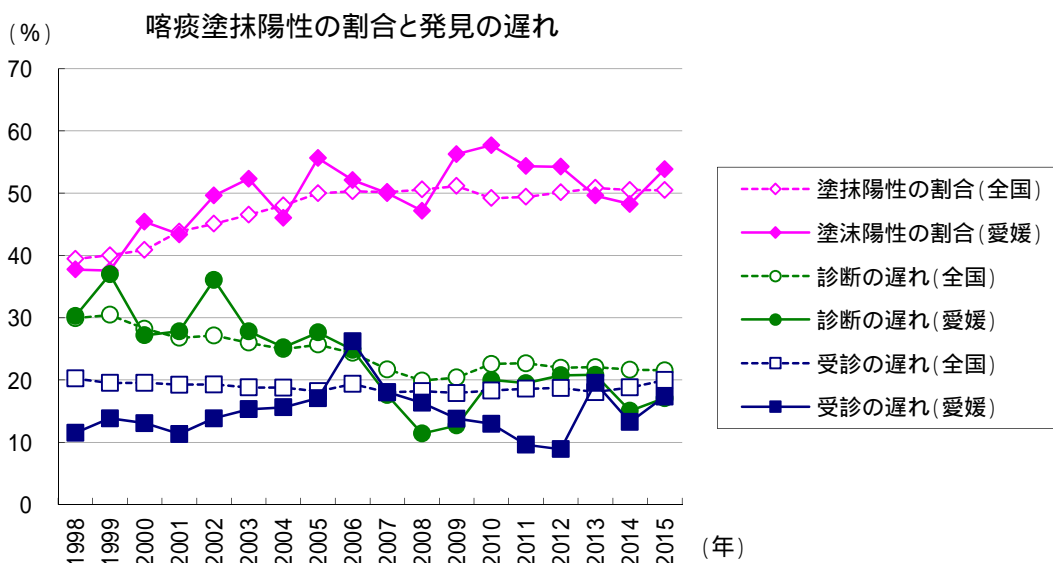
新登録塗抹陽性肺結核患者
年齢構成(全国)



(5) 発見の遅れ

新登録有症状肺結核患者において、発病から初診までに要する期間が2ヶ月以上の割合を「受診の遅れ」の指標とした場合、全国では18~20%でほぼ横ばいで推移している。本県では、2006年の26.2%をピークに減少が続き、2012年には8.9%まで低下したが、その後増減し、本年は17.3%と昨年から増加した。

一方、初診から診断(登録)までに要する期間が1ヶ月以上の割合を「診断の遅れ」の指標とした場合、全国では2007年以降20%程度と横ばいで推移している。本県では、2008年、2009年は12%程度に低下し、2010年以降は20%前後と全国と同じレベルで推移していたが、2014年に15.1%と減少した後、本年は17.1%と増加した。



塗抹陽性の割合：新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合

受診の遅れ：新登録有症状肺結核患者のうち、発病～初診の期間が2ヶ月以上の場合

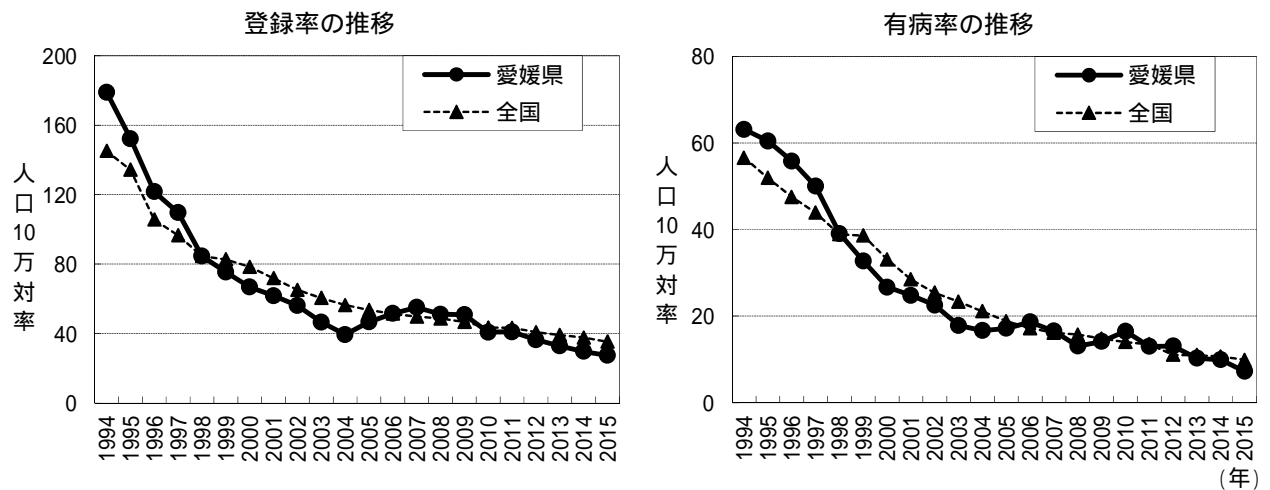
診断の遅れ：新登録有症状肺結核患者のうち、初診～診断(登録)の期間が1ヶ月以上の割合

3 年末現在結核登録者の状況

2015 年末の愛媛県における結核登録患者数は 380 人で、前年の 414 人より 34 人減少した。結核登録率(人口 10 万人当たりの年末現在結核登録者)は 27.4 で、前年の 29.7 から 2.3 減少した。全国の登録率は 35.3 であり、前年の 37.6 から 2.3 減少した。

年末現在の活動性結核患者数(年末時点で結核の治療を受けている、あるいは治療の必要がある患者数)は 100 人で、前年の 138 人より 38 人減少した。有病率(人口 10 万人当たりの年末現在活動性結核患者数)は 7.2 で、前年の 9.9 から 2.7 減少した。全国の有病率は 9.9 で、前年の 10.6 より 0.7 減少している。

県内の登録率の年次推移をみると、2004 年までは順調に減少していたが、2005 年から 2007 年にかけて増加し、2006 年には全国値を上回った。その後は再び減少傾向を示し、本年は過去最低となった。県内の有病率は、2004 年まで順調に減少した後、2005 年から 2012 年にかけては増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移していたが、2013 年以降 3 年連続で減少し、本年は過去最低となった。



登録率：人口 10 万人当たりの年末現在結核登録者数
 有病率：人口 10 万人当たりの年末現在活動性結核患者数

表 4-1 2015 年 新登録患者数 - 保健所別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結核 活動性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他		
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県 総数	167	117	63	59	4	46	8	50	42
四国中央	17	11	7	7		2	2	6	
西 条	24	16	14	14		2		8	2
今 治	21	18	10	10		7	1	3	6
松 山 市	48	23	12	12		8	3	25	17
中 予	10	8	5	5		3		2	3
八 幡 浜	27	23	5	4	1	16	2	4	8
宇 和 島	20	18	10	7	3	8		2	6

*潜在性結核感染症:結核の無症状病原体保有者のうち医療を必要とするもの

表 4-2 2015 年 新登録患者数 - 性、年齢階級別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	総 数	肺 結 核 活 動 性			そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他	肺 外 結核 活動性	
			総 数	初 回 治 療	再 治 療				
愛媛県 総数	167	117	63	59	4	46	8	50	42
男	86	64	37	35	2	24	3	22	20
女	81	53	26	24	2	22	5	28	22
0-4歳									6
男									3
女									3
5-9歳									2
男									1
女									1
10-14歳									
男									
女									
15-19歳	1							1	1
男	1							1	1
女									
20-29歳	5	5	2	2		2	1		2
男									
女	5	5	2	2		2	1		2
30-39歳	4	4	2	2		2			6
男	2	2	2	2					4
女	2	2				2			2
40-49歳	8	7	4	3	1	2	1	1	7
男	7	6	3	3		2	1	1	2
女	1	1	1		1				5
50-59歳	11	8	3	2	1	5		3	9
男	8	6	2	1	1	4		2	4
女	3	2	1	1		1		1	5
60-69歳	18	12	4	4		6	2	6	4
男	11	7	3	3		3	1	4	3
女	7	5	1	1		3	1	2	1
70-79歳	36	26	18	17	1	7	1	10	3
男	15	13	10	10		3		2	1
女	21	13	8	7	1	4	1	8	2
80歳以上	84	55	30	29	1	22	3	29	2
男	42	30	17	16	1	12	1	12	1
女	42	25	13	13		10	2	17	1

表 4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2015年		2014年		2013年		2012年		2011年		2010年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	167	12.1	188	13.5	171	12.2	189	13.4	218	15.3	276	19.3
四国中央	17	19.4	16	18.2	5	5.6	14	15.7	14	15.6	10	11.2
西 条	24	10.5	32	14.0	32	13.9	29	12.5	24	10.3	43	18.4
今 治	21	12.7	19	11.4	16	9.5	21	12.3	11	6.4	33	18.9
松 山 市	48	9.3	58	11.2	67	13.0	59	11.4	83	16.1	98	19.0
中 予	10	7.6	16	12.1	16	12.1	17	12.7	21	15.6	20	14.8
八 幡 浜	27	18.7	25	17.0	12	8.0	21	13.8	29	18.8	40	25.5
宇 和 島	20	17.5	22	18.9	23	19.4	28	23.2	36	29.4	32	25.7

表 4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2015年		2014年		2013年		2012年		2011年		2010年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4					1	0.6					1	0.4
5-9									1	0.5	1	0.4
10-14									1	0.5		
15-19	1	0.6					1	0.5	1	0.5	2	0.7
20-29	5	3.0	6	3.2	6	3.5	10	5.3	9	4.1	14	5.1
30-39	4	2.4	6	3.2	9	5.3	11	5.8	12	5.5	13	4.7
40-49	8	4.8	5	2.7	10	5.8	5	2.6	14	6.4	20	7.2
50-59	11	6.6	16	8.5	10	5.8	13	6.9	22	10.1	26	9.4
60-69	18	10.8	21	11.2	25	14.6	28	14.8	28	12.8	35	12.7
70-79	36	21.6	47	25.0	44	25.7	40	21.2	50	22.9	69	25.0
80-	84	50.3	87	46.3	66	38.6	81	42.9	80	36.7	95	34.4

小数点第2位を四捨五入して掲載

表 4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2015年		2014年		2013年		2012年		2011年		2010年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	63	4.5	69	4.9	64	4.6	77	5.4	88	6.2	105	7.3
四国中央	7	8.0	7	8.0	1	1.1	6	6.7	4	4.5	6	6.7
西 条	14	6.1	9	3.9	9	3.9	11	4.7	11	4.7	11	4.7
今 治	10	6.1	10	6.0	7	4.1	7	4.1	4	2.3	14	8.0
松 山 市	12	2.3	23	4.5	29	5.6	24	4.6	32	6.2	35	6.8
中 予	5	3.8	4	3.0	4	3.0	7	5.2	8	5.9	6	4.4
八 幡 浜	5	3.5	5	3.4	3	2.0	7	4.6	9	5.8	20	12.8
宇 和 島	10	8.8	11	9.4	11	9.3	15	12.5	20	16.3	13	10.5

表 4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2015年		2014年		2013年		2012年		2011年		2010年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4												
5-9												
10-14												
15-19												
20-29	2	3.2	2	2.9	3	4.7	2	2.6	5	5.7	5	4.8
30-39	2	3.2	2	2.9	2	3.1	1	1.3	4	4.5	9	8.6
40-49	4	6.3	1	1.4	4	6.3	1	1.3	5	5.7	8	7.6
50-59	3	4.8	2	2.9	3	4.7	2	2.6	8	9.1	8	7.6
60-69	4	6.3	8	11.6	9	14.1	15	19.5	13	14.8	10	9.5
70-79	18	28.6	20	29.0	15	23.4	16	20.8	16	18.2	29	27.6
80-	30	47.6	34	49.3	28	43.8	40	51.9	37	42.0	36	34.3

表 4-7 2015 年 新登録患者数 - 結核病類、性、年齢階級別

	新登録患者数	肺結核		肺外結核										
		肺結核	気管支結核	粟粒結核	結核性胸膜炎	他のリンパ節結核	結核性髄膜炎	腸結核	脊椎結核	腎・尿路結核	皮膚結核	耳の結核	結核性腹膜炎	その他の臓器の結核
愛媛県 総数	167	121	2	9	24	9	3	4	5	1	1	1	1	2
男	86	66	1	4	12	3		4			1		1	
女	81	55	1	5	12	6	3		5	1		1		2
0-4歳														
男														
女														
5-9歳														
男														
女														
10-14歳														
男														
女														
15-19歳	1							1						
男	1							1						
女														
20-29歳	5	5												
男														
女	5	5												
30-39歳	4	4												
男	2	2												
女	2	2												
40-49歳	8	8						1						
男	7	7						1						
女	1	1												
50-59歳	11	8			2	1	1				1			
男	8	6			2						1			
女	3	2				1	1							
60-69歳	18	12		1	2	1		1	1					
男	11	7		1	2			1						
女	7	5				1			1					
70-79歳	36	26	1	1	5	1	1		2					2
男	15	13			2									
女	21	13	1	1	3	1	1		2					2
80歳以上	84	58	1	7	15	6	1	1	2	1		1	1	
男	42	31	1	3	6	3		1					1	
女	42	27		4	9	3	1		2	1		1		

注：結核病類は重複あり

表 4-8 2015 年 新登録肺結核患者数 - 職業、菌情報、保健所別

	総 数		接客業等		看護師・保健師		医師		その他の医療職	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数	63	54		1	1	1				
四国中央	7	4								
西 条	14	2			1					
今 治	10	8								
松 山 市	12	11								
中 予	5	3								
八 幡 浜	5	18				1				
宇 和 島	10	8		1						

	教員・保母		小中学生等児童		高校生以上の 生徒学生等		その他 常用勤労者		その他 臨時雇・日雇	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数					1	1	1	9	5	
四国中央							1	1		
西 条									2	
今 治								1		
松 山 市					1	1		4	3	
中 予										
八 幡 浜								2		
宇 和 島								1		

	その他 自営業・自由業		家事従事者		乳幼児		無職・その他		不明	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数		6	1				54	36		
四国中央							6	3		
西 条			1				10	2		
今 治		1					10	6		
松 山 市		1					8	5		
中 予		1					5	2		
八 幡 浜		3					5	12		
宇 和 島							10	6		

表 4-9 2015 年 新登録患者数 - 発見方法別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性					肺 外 結 核 活 動 性		
		総 数	嗜 痰 塗 抹 陽 性		そ の 他 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他			
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県 総数	167	117	63	59	4	46	8	50	42
健康診断	10	10	4	4		5	1		29
個別健康診断	1	1	1	1					1
定期健康診断	9	9	3	3		5	1		
学校健診	2	2	1	1			1		
住民健診	2	2				2			
職場健診	4	4	2	2		2			
施設健診	1	1				1			
接触者健康診断									26
家族健診									9
その他									17
その他の集団検診									2
医療機関	155	107	59	55	4	41	7	48	13
受診	89	60	39	35	4	17	4	29	9
他疾患入院中	28	18	9	9		9		10	1
他疾患通院中	38	29	11	11		15	3	9	3
その他	1							1	
不明									
登録中の健康診断	1							1	

表 4-10 2015 年 新登録有症状肺結核患者数 - 発見の遅れの期間別

	肺 結 核 活 動 性					
	総 数	嗜 痰 塗 抹 陽 性			そ の 他 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他
		総 数	初 回 治 療	再 治 療		
発病～初診の期間						
総数	91	56	54	2	32	3
2週未満	40	23	23		16	1
2週以上1月未満	9	5	5		3	1
1月以上2月未満	13	8	8		5	
2月以上3月未満	8	6	5	1	2	
3月以上6月未満	2	1	1		1	
6月以上	3	3	2	1		
不明・該当せず	16	10	10		5	1
初診～診断の期間						
総数	91	56	54	2	32	3
2週未満	49	36	34	2	10	3
2週以上1月未満	19	11	11		8	
1月以上2月未満	7	1	1		6	
2月以上3月未満	4	2	2		2	
3月以上6月未満	1				1	
6月以上	2	1	1		1	
不明・該当せず	9	5	5		4	
発病～診断の期間						
総数	91	56	54	2	32	3
2週未満	19	14	14		4	1
2週以上1月未満	19	11	11		7	1
1月以上2月未満	16	8	8		8	
2月以上3月未満	11	7	6	1	4	
3月以上6月未満	7	3	3		4	
6月以上	4	3	2	1	1	
不明・該当せず	15	10	10		4	1

表 4-11 2015 年 新登録患者数 - 化療内容、保健所別(その1)

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結核 活動性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性		そ の 他 の 結 核 菌 性	菌 陰 性 ・ そ の 他			
		総 数	初 回 治 療	再 治 療	結 核 菌 性 陽				
愛媛県									
総数	167	117	63	59	4	46	8	50	42
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	72	55	30	29	1	22	3	17	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上	1							1	
他INH、RFP含む3剤以上	84	54	29	28	1	20	5	30	
INH及びRFPの2剤	1	1				1			
その他の2剤	1	1				1			
その他の3剤以上	2	2	2	1	1				
INH単独	1	1				1			42
その他単独									
不明・化療なし	5	3	2	1	1	1		2	
四国中央									
総数	17	11	7	7		2	2	6	
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	6	5	3	3		1	1	1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	9	5	4	4			1	4	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤	1	1				1			
その他の3剤以上									
INH単独									
その他単独									
不明・化療なし	1							1	
西条									
総数	24	16	14	14		2		8	2
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	10	9	8	8		1		1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	13	6	5	5		1		7	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上	1	1	1	1					
INH単独									2
その他単独									
不明・化療なし									
今治									
総数	21	18	10	10		7	1	3	6
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	7	6	4	4		2		1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上	1							1	
他INH、RFP含む3剤以上	13	12	6	6		5	1	1	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									6
その他単独									
不明・化療なし									

INH: イソニアジド、RFP: リファンピシン、PZA: ピラジナミド、EB: エタンブロール、SM: ストレプトマイシン

表 4-11 2015年 新登録患者数 - 化療内容、保健所別(その2)

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性	初 回 治 療	再 治 療	そ の 他 の 結 核 菌 陽	菌 陰 性 ・ そ の 他		
松山市									
総数	48	23	12	12		8	3	25	17
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	28	17	8	8		7	2	11	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	19	6	4	4		1	1	13	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									17
その他単独									
不明・化療なし	1							1	
中予									
総数	10	8	5	5		3		2	3
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	2	2	1	1		1			
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	7	5	4	4		1		2	
INH及びRFPの2剤	1	1				1			
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									3
その他単独									
不明・化療なし									
八幡浜									
総数	27	23	5	4	1	16	2	4	8
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	12	10	3	2	1	7		2	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	13	11	2	2		7	2	2	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独	1	1				1			8
その他単独									
不明・化療なし	1	1				1			
宇和島									
総数	20	18	10	7	3	8		2	6
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	7	6	3	3		3		1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	10	9	4	3	1	5		1	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上	1	1	1		1				
INH単独									6
その他単独									
不明・化療なし	2	2	2	1	1				

INH: イソニアジド、RFP: リファンピシン、PZA: ピラジナミド、EB: エタンブール、SM: ストレプトマイシン

表 4-12 2015 年 年末現在登録者数 - 保健所別

	総数	活 動 性 結 核								不活動性結核	活動性不明	(別掲) 潜在性結核感染症	
		総数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 核 活 動 性			治療中	観察中
			総数	登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性			登 録 時 其 他 の 結 核 菌 陽 性	登 録 時 菌 陰 性 其 他					
				総数	初 回 治 療	再 治 療							
愛媛県 総数	380	100	69	35	32	3	26	8	31	272	8	24	85
四国中央	28	9	6	4	4		1	1	3	19			3
西 条	65	13	9	9	9				4	50	2	1	15
今 治	39	16	14	5	5		6	3	2	21	2	6	5
松 山 市	129	31	15	7	7		6	2	16	94	4	11	40
中 予	32	5	4	2	2		2		1	27		2	4
八 幡 浜	44	14	10	1		1	7	2	4	30		3	6
宇 和 島	43	12	11	7	5	2	4		1	31		1	12

表 4-13 2015 年 年末現在登録者数 - 性、年齢階級別

	総数	活 動 性 結 核								不活動性結核	活動性不明	(別掲) 潜在性結核感染症		
		総数	総数	肺 結 核 活 動 性								肺 外 核 活 動 性	治療中	観察中
				喀 痰 塗 抹 陽 性			登 録 時 其 他 の 結 核 菌 陽 性	登 録 時 菌 陰 性 其 他						
				総数	初 回 治 療	再 治 療								
愛媛県 総数	380	100	69	35	32	3	26	8	31	272	8	24	85	
男	191	49	36	17	16	1	16	3	13	136	6	11	41	
女	189	51	33	18	16	2	10	5	18	136	2	13	44	
0-4歳												3	9	
男												2	7	
女												1	2	
5-9歳	1									1		2	2	
男												1	1	
女	1									1		1	1	
10-14歳														
男														
女														
15-19歳	1									1			1	
男	1									1			1	
女														
20-29歳	12	2	2				2			9	1	2	3	
男	4									3	1		1	
女	8	2	2				2			6		2	2	
30-39歳	20	1	1	1	1					19		4	11	
男	9	1	1	1	1					8		4	2	
女	11									11			9	
40-49歳	19	5	5	1		1	3	1		14		5	21	
男	12	3	3				2	1		9		1	7	
女	7	2	2	1		1	1			5		4	14	
50-59歳	32	7	4	2	2		2		3	23	2	5	18	
男	19	5	3	1	1		2		2	12	2	2	10	
女	13	2	1	1	1				1	11		3	8	
60-69歳	53	15	11	3	3		5	3	4	38		1	8	
男	31	8	6	2	2		3	1	2	23			7	
女	22	7	5	1	1		2	2	2	15		1	1	
70-79歳	81	20	15	11	10	1	2	2	5	57	4	2	11	
男	38	6	5	4	4		1		1	29	3	1	5	
女	43	14	10	7	6	1	1	2	4	28	1	1	6	
80歳以上	161	50	31	17	16	1	12	2	19	110	1		1	
男	77	26	18	9	8	1	8	1	8	51				
女	84	24	13	8	8		4	1	11	59	1			

参 考 资 料

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱

第一 目的

感染症の患者発生状況に関する情報（以下「患者情報」という。）、疑似症発生状況に関する情報（以下「疑似症情報」という。）及び感染症の病原体に関する情報（以下「病原体情報」という。）を迅速かつ的確に収集し、及び分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表する感染症発生動向調査事業（以下「事業」という。）を実施することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ的確な感染症対策の確立に資することを目的とする。

第二 対象感染症

事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

一 全数把握の対象

1 一類感染症

- (1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱
(5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

2 二類感染症

- (8) 急性灰白髄炎 (9) 結核 (10) ジフテリア
(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。） (12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSCORONAウイルスであるものに限る。） (13) 鳥インフルエンザ（H5N1） (14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

3 三類感染症

- (15) コレラ (16) 細菌性赤痢 (17) 腸管出血性大腸菌感染症 (18) 腸チフス
(19) パラチフス

4 四類感染症

- (20) E型肝炎 (21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）
(22) A型肝炎 (23) エキノコックス症 (24) 黄熱 (25) オウム病 (26) オムスク出血熱
(27) 回帰熱 (28) キャサヌル森林病 (29) Q熱 (30) 狂犬病 (31) コクシジオイデス症
(32) サル痘 (33) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFVウイルスであるものに限る。） (34) 腎症候性出血熱 (35) 西部ウマ脳炎 (36) ダニ媒介脳炎
(37) 炭疽 (38) チクングニア熱 (39) つつが虫病 (40) デング熱 (41) 東部ウマ脳炎
(42) 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。） (43) ニパウイルス感染症
(44) 日本紅斑熱 (45) 日本脳炎 (46) ハンタウイルス肺症候群 (47) Bウイルス病
(48) 鼻疽 (49) ブルセラ症 (50) ベネズエラウマ脳炎 (51) ヘンドラウイルス感染症
(52) 発しんチフス (53) ボツリヌス症 (54) マラリア (55) 野兔病 (56) ライム病
(57) リッサウイルス感染症 (58) リフトバレー熱 (59) 類鼻疽 (60) レジオネラ症
(61) レプトスピラ症 (62) ロッキー山紅斑熱

5 五類感染症

- (63) アメーバ赤痢 (64) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
(65) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (66) 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) (67) クリプトスポリジウム症 (68) クロイツフェルト・ヤコブ病
(69) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (70) 後天性免疫不全症候群 (71) ジアルジア症
(72) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (73) 侵襲性髄膜炎菌感染症
(74) 侵襲性肺炎球菌感染症 (75) 水痘 (患者が入院を要すると認められるものに限る。)
(76) 先天性風しん症候群 (77) 梅毒 (78) 播種性クリプトコックス症 (79) 破傷風
(80) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (81) バンコマイシン耐性腸球菌感染症
(82) 風しん (83) 麻しん (84) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

6 新型インフルエンザ等感染症

- (110) 新型インフルエンザ (111) 再興型インフルエンザ

7 指定感染症

該当なし

二 定点把握の対象

1 五類感染症

- (85) R S ウイルス感染症 (86) 咽頭結膜熱 (87) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
(88) 感染性胃腸炎 (89) 水痘 (90) 手足口病 (91) 伝染性紅斑 (92) 突発性発しん
(93) 百日咳 (94) ヘルパンギーナ (95) 流行性耳下腺炎
(96) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
(97) 急性出血性結膜炎 (98) 流行性角結膜炎 (99) 性器クラミジア感染症
(100) 性器ヘルペスウイルス感染症 (101) 尖圭コンジローマ (102) 淋菌感染症
(103) クラミジア肺炎 (オウム病を除く。) (104) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
(105) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (106) マイコプラズマ肺炎 (107) 無菌性髄膜炎
(108) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (109) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2 疑似症

- (112) 摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)
(113) 発熱及び発しん又は水泡(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

三 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象二類感染症

- (13) 鳥インフルエンザ (H5N1)

第三 実施主体

実施主体は県とし、愛媛県医師会等関係機関の協力を得て事業を実施する。

第四 実施体制の整備

一 愛媛県感染症情報センター

愛媛県感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、愛媛県立衛生環境研究所（以下「衛生環境研究所」という。）に設置する。感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を全国情報等と併せて関係機関等へ提供・公開する。

二 指定届出機関（定点）

県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報を収集するため患者定点を、疑似症情報を収集するため疑似症定点を、病原体情報を収集するため病原体定点を選定する。

三 愛媛県感染症対策推進協議協議会

本事業に関する事項については、愛媛県感染症対策推進協議会において協議することとし、愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱第7条の規定に基づく解析評価担当委員（以下「解析評価委員」という。）が解析評価を行う。

第五 事業の実施

一 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第二の(73)及び(83)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

1 医師

(1) 医師は、一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第二の(73)及び(83)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（以下「届出基準等通知」という。）に基づき診断した場合は、届出基準等通知別記様式により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

(2) 保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあつては、協力可能な範囲において、保健所の協力を得て別記様式1の検査票を添付して衛生環境研究所に送付する。

2 保健所

(1) 医師から届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。

(2) 保健所は、当該患者（第二の(54)を除く）を診断した医師に対し、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生環境研究所への提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。

なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

3 衛生環境研究所

(1) 衛生環境研究所は、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所及び本庁健康増進課に送付する。

(2) 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(3) 集団発生があった場合等の緊急の場合において、検体を国立感染症研究所に送付する。

4 感染症情報センター

(1) 感染症情報センターは、患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(2) 別記様式1をもって衛生環境研究所から送付された検査情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

二 全数把握対象の五類感染症（第二の(73)及び(83)を除く。）

1 医師

(1) 医師は、第二の一の5に掲げる全数把握対象の五類感染症（第二の(73)及び(83)を除く。）を届出基準等通知に基づき診断した場合は、届出基準等通知別記様式を用いて診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

(2) 保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、保健所の協力を得て別記様式1の検査票を添付して衛生環境研究所に送付する。

2 保健所

(1) 医師から届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。

(2) 保健所は、第二の(63)、(65)、(66)、(68)から(70)まで、(76)、(78)から(82)又は(84)までの患者を診断した医師に対し、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生環境研究所への提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。

なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

3 衛生環境研究所

(1) 衛生環境研究所は、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所及び本庁健康増進課に送付する。

(2) 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(3) 集団発生があった場合等の緊急の場合において、国から依頼があれば、検体を国立感染症研究所に送付する。

4 感染症情報センター

(1) 感染症情報センターは、患者情報について、保健所が診断した医師から届出を受けてから7日以内に、登録情報の確認を行う。

(2) 別記様式1をもって衛生環境研究所から送付された検査情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

三 定点把握対象の五類感染症

1 定点の選定

(1) 患者定点

県は、第二の二の1に掲げる定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握す

るため、関係医師会等の協力を得て、対象疾病に応じ、次に掲げる医療機関のうちから可能な限り無作為に患者定点を選定する。患者定点数は、別に定める基準（国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱。以下「算定基準」という。）を準用し算定する。

ア 第二の(85)から(95)までに掲げるもの (小児科定点)	小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）
イ 第二の(96)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。） (インフルエンザ定点及び基幹定点) なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意する。	上記アで選定した小児科に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）
ウ 第二の(97)及び(98)に掲げるもの (眼科定点)	眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）
エ 第二の(99)から(102)までに掲げるもの (性感染症定点(STD定点))	産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及び二（2）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療所又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）
オ 第二の(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(103)から(109)までに掲げるもの (基幹定点)	原則患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

(2) 疑似症定点

県は、第二の二の2に掲げる定点把握対象の疑似症の発生状況を地域的に把握するため、関係医師会等の協力を得て、対象疾病に応じ、次に掲げる医療機関のうちから可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。疑似症定点数は、算定基準を準用し算定する。

ア 第二の(112)に掲げるもの (第一号疑似症定点)	小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）又は内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）
イ 第二の(113)に掲げるもの (第二号疑似症定点)	小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）又は皮膚科を標榜する医療機関（主として皮膚科医療を提供しているもの）

(3) 病原体定点

県は、病原体の分離等の検査情報を収集するため、患者定点として選定された医療機関のうちから病原体定点を選定する。病原体定点数は、算定基準を準用し算定する。

2 調査単位等

- (1) 患者情報の調査単位は、前記1の(1)のア、イ、ウ及びオ（第二の(105)、(108)及び(109)に関する患者情報を除く。）により選定された患者定点にあつては1週間（月曜

日から日曜日)とし、前記1の(1)のエ及びオ(第二の(105)、(108)及び(109)に関する患者情報のみ)により選定された患者定点にあつては各月とする。

(2) 疑似症情報については、速やかな情報提供を図る趣旨から、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。

(3) 病原体情報については、原則として結果がまとまり次第、報告することとする。

3 実施方法

(1) 患者定点

ア 患者定点として選定された医療機関は、調査単位の期間の診療時における報告基準により患者発生状況を把握するとともに、届出基準等通知別記様式により、管轄保健所に届出を行う。

イ 前記アの報告は、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に、郵送又はFAXその他地域の特性に応じた適切な方法により報告するものとする。

(2) 疑似症定点

ア 疑似症定点として選定された医療機関は、調査単位の期間の診療時における報告基準により疑似症発生状況を把握するとともに、届出基準等通知別記様式により、管轄保健所に届出を行う。

イ 前記アの報告は、直ちに、症候群サーベイランスシステムへの入力、電話又はFAXその他地域の特性に応じた適切な方法により報告するものとする。

(3) 病原体定点

病原体定点として選定された医療機関は、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領により微生物学的検査のための検体を採取するとともに、別記様式1の検査票を添えて、保健所との連携を図りながら速やかに衛生環境研究所へ送付する。

(4) 保健所

ア 保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

イ 保健所は、疑似症定点が症候群サーベイランスシステムへの入力以外の方法により報告を行う場合には、疑似症定点から得られた疑似症情報の入力を、直ちに症候群サーベイランスシステムに入力する。

ウ 対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、本庁健康増進課及び感染症情報センターへ報告する。なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

(5) 衛生環境研究所

ア 衛生環境研究所は、別記様式1の検査票及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として保健所を経由して病原体定点に通知するとともに保健所、本庁健康増進課及び感染症情報センターに送付する。

イ 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。なお、集団発生があつた場合等の緊急の場合において、国から依頼があれば、検体

を国立感染症研究所に送付する。

(6) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、患者情報及び疑似症情報について、保健所等から情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

イ 別記様式1をもって衛生環境研究所から送付された病原体情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

第六 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

一 保健所

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める国の基準に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力する。

二 衛生環境研究所

1 衛生環境研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所に通知する。通知を受けた保健所においては、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

2 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。

第七 感染症情報センターの情報の収集、分析及び提供

一 感染症情報センターは、収集した患者情報、疑似症情報、病原体情報並びに全国情報等と併せて、解析委員の意見を聴取し、県域全体としての総合的解析評価を行い、その結果を愛媛県感染症情報として、速やかに本庁健康増進課、県医師会、教育委員会その他の関係機関へ提供する。

二 感染症情報センター及び保健所は、本事業により収集した情報等を、地域医師会、市町等関係機関へ、適宜適切に提供する。

三 情報の提供を行うときは、個人情報の保護に十分留意する。

第八 その他

一 県は、効果的かつ円滑な感染症発生動向調査体制を構築するため、松山市と密接な連携を図る。

二 本事業に協力を得た医師、解析評価委員に対して予算の範囲内で謝金を支出する。

三 この要綱で定めるもののほか、感染症発生動向調査事業の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成13年1月1日から施行する。

2 愛媛県結核・感染症発生動向調査実施要綱（昭和62年1月1日）は、廃止する。

附 則

この実施要綱の改正は、平成14年11月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 15 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 9 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 18 年度に限り使用することができる。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 11 月 22 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 19 年度に限り使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 19 年度に限り使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、

改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱の一部改正は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則

(施行期日)

この実施要綱の一部改正は、平成 23 年 9 月 5 日から施行する。

ただし、第五の三の 1 の (1) の表中イの指定については、平成 23 年 8 月 17 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 25 年 3 月 4 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 25 年 5 月 6 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 27 年 5 月 21 日から施行する。

□□□□-□□□□-□□□□□

□ □ - □ □ □ □ □ □

1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症、4 類感染症、5 類感染症及び指定感染症検査票(病原体)

患者 コード	性別 (男・女)	住所	市 町	定点医療機関の場合は、該当するものに○ ・インフルエンザ定点 ・小児科定点 ・眼科定点 ・性感染症定点 ・基幹定点

[主治医等記載欄]

医療機関等名及び 主治等医師名(記載者)			
検体送付日		年 月 日	分離株(無・有・検査中)
診断名			
発病日		年 月 日	
検査 材料	採取日	年 月 日	
	材料の種類 [該当する1つを ○で囲んでください]	・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・尿 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・穿刺液(腹水、胸水、関節液、その他) ・咽頭ぬぐい液(うがい液、鼻汁) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道頸管擦過物 / 分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料(臓器) ・血液(全血、血清、血漿、抗凝固剤[]) ・その他()	
臨床 的 事 項	臨床症状・徴候等 [該当するものを全てを ○で囲んでください]	・無症状 ・胃腸炎(下痢、腹痛、嘔吐、嘔気、血便、膿球) ・頭痛 ・発熱(最高 °C) ・角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・熱性けいれん ・関節痛(関節炎)、筋肉痛 ・髄膜炎、意識障害、麻痺(部位)、 ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) 中枢神経系症状(脳炎、脳症、脊髄炎、 ・下気道炎(肺炎、気管支炎) その他() ・水泡 ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹) ・循環器障害(心筋炎、心膜炎、心不全) ・出血傾向(全身性・局所:部位) ・ショック症状(低血圧、循環不全) ・リンパ節腫脹(部位) ・黄疸 ・肝機能障害 ・唾液腺腫脹(耳下腺炎、顎下腺炎) ・腎機能障害(HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全) ・浮腫(部位) ・尿路生殖器症状(膀胱炎、尿道炎、外陰炎、頸管炎) ・その他の症状 (上記以外の症状や臨床徴候)	
	基礎疾患		
転 帰		経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)	
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項(関連の臨床検査結果等)			
インフルエンザ迅速キット使用(無・有 :メーカー・品名 陰性・陽性[型]・保留) 抗インフルエンザ薬投与(無・有 :薬剤名 投与開始日 年 月 日 予防・治療投与)			

[保健所等記載欄](主治医記載可)

発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生(無、有) ・集団発生(無、有) ・発生市町() 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舍・寮、病院、老人ホーム(介護施設を含む)、 福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他 [])		
最近の海外渡航歴	国名		
	期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
ワクチン接種歴	無、有、不明 [最終接種年月日 年 月 日] ワクチン名 (Lot No)		

[地方衛生研究所記載欄]

記載者名			
抗体検出	方法	(蛍光、IP、ELIZA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他 [])	
	結果	()	
病原 体 検 出	検出年月日	年 月 日	
	検出方法 [陽性となった方法を ○で囲んでください]	・分離培養 (培養細胞 : 細胞名 [] 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []) ・抗原検出 (蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、IC [イムノクロマト]、その他 []) ・遺伝子検出 1.非増幅(ハイブリ、PAGE、その他 []) 2.増幅(PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 []) ・電顕 ・鏡検	
	検出病原体 (群、型、亜型)		
その他特記事項			

注1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。

注2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載してください。

注3) 医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱

(設置)

第1条 愛媛県における感染症の発生動向の把握、感染拡大防止対策等の一元化を図り、健康危機管理に即した迅速で実践的な体制を構築するとともに、予防接種業務の円滑な推進及び知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に資することを目的として、愛媛県感染症対策推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 感染症発生の防止の施策に関する事項
- (2) 医療機関の確保、医療機関の連絡体制に関する事項
- (3) 感染症及び予防接種に関する知識の普及啓発に関する事項
- (4) 感染症患者の人権への配慮等に関する事項
- (5) 予防接種法(昭和23年法律第68号)に基づき、知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に関する事項
- (6) 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成13年1月1日制定)に基づく感染症発生動向調査に関する事項

(組織)

第3条 協議会は、委員16人以内で組織する。

(委員)

第4条 協議会は、次に掲げる者のうちから、知事が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社団法人愛媛県医師会の会員
- (2) 社団法人愛媛県獣医師会の会員
- (3) 感染症発生動向調査の専門家
- (4) 感染症対策の専門家
- (5) 第二種感染症指定医療機関の医師
- (6) 愛媛県予防接種センターの医師
- (7) 学識経験者
- (8) 感染症対策関係の行政担当者

2 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任させることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選によって定め、副会長は会長が指名した者をもって充てる。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第 6 条 協議会は、会長が必要に応じ招集し、会長が議長となる。

(部 会)

第 7 条 協議会に、麻しん排除に向けた活動の推進を図ることを目的に、麻しん対策部会を置く。

- 2 部会に、部会長及び部会員を置き、委員及び医療、学校、行政その他関係者のうちから会長が指名する。
- 3 部会は、部会長が必要に応じて招集し、部会長が議長となる。

(解析評価担当委員)

第 8 条 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成 13 年 1 月 1 日制定)に規定する感染症発生動向調査にかかる情報の解析評価を担当する解析評価担当委員をおく。

- 2 解析評価担当委員は、会長が協議会の委員のうちから指名する。

(関係者の出席)

第 9 条 会長が必要と認めた時は、協議会の会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶 務)

第 10 条 協議会の庶務は、保健福祉部健康衛生局健康増進課において処理する。

(雑 則)

第 11 条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が、協議会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成 15 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 16 年 1 月 13 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 20 年 7 月 30 日から施行する。

愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領

第一 趣旨

感染症の病原体に関する情報は、患者への良質かつ適切な医療の提供のために不可欠であり、かつ、感染症の発生の予防及びまん延の防止のために極めて重要な意義を有している。このことから、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領を定め、病原体の検査情報を収集するものとする。

第二 病原体検査の対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業において病原体検査の対象とする感染症は、次のとおりとする。

一 全数把握の対象

1 一類感染症

(1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱
(5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

2 二類感染症

(8) 急性灰白髄炎 (9) 結核 (10) ジフテリア (11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) (12) 鳥インフルエンザ(H5N1)

3 三類感染症

(13) コレラ (14) 細菌性赤痢 (15) 腸管出血性大腸菌感染症 (16) 腸チフス
(17) パラチフス

4 四類感染症

(18) E型肝炎 (19) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)
(20) A型肝炎 (21) エキノコックス症 (22) 黄熱 (23) オウム病
(24) オムスク出血熱 (25) 回帰熱 (26) キャサヌル森林病 (27) Q熱 (28) 狂犬病
(29) コクシジオイデス症 (30) サル痘 (31) 腎症候性出血熱 (32) 西部ウマ脳炎
(33) ダニ媒介脳炎 (34) 炭疽 (35) つつが虫病 (36) デング熱 (37) 東部ウマ脳炎
(38) 鳥インフルエンザ(H5N1を除く) (39) ニパウイルス感染症
(40) 日本紅斑熱 (41) 日本脳炎 (42) ハンタウイルス肺症候群 (43) Bウイルス病
(44) 鼻疽 (45) ブルセラ症 (46) ベネズエラウマ脳炎 (47) ヘンドラウイルス感染症
(48) 発しんチフス (49) ボツリヌス症 (50) マラリア (51) 野兎病 (52) ライム病
(53) リッサウイルス感染症 (54) リフトバレー熱 (55) 類鼻疽 (56) レジオネラ症
(57) レプトスピラ症 (58) ロッキー山紅斑熱

5 五類感染症

(59) アメーバ赤痢 (60) ウイルス性脳炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)
(61) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) (62) クリプトスポリジウム症 (63) クロイツフェルト・ヤコブ病 (64) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
(65) 後天性免疫不全症候群 (66) ジアルジア症 (67) 髄膜炎菌性髄膜炎 (68) 先天性風しん症候群 (69) 梅毒 (70) 破傷風 (71) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (72) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (73) 風しん (74) 麻しん

6 新型インフルエンザ等感染症

(100) 新型インフルエンザ (101) 再興型インフルエンザ

二 定点把握対象の五類感染症（病原体定点別）

1 小児科病原体定点

(76) 咽頭結膜熱 (77) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (78) 感染性胃腸炎
(80) 手足口病 (83) 百日咳 (84) ヘルパンギーナ (85) 流行性耳下腺炎

2 インフルエンザ病原体定点(内科病原体定点及び小児科病原体定点)

(86) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)

3 眼科病原体定点

(87) 急性出血性結膜炎 (88) 流行性角結膜炎

4 基幹病原体定点

(94) 細菌性髄膜炎 (97) 無菌性髄膜炎

上記2疾患以外に必要な応じて小児科病原体定点対象感染症の検体提供を依頼する。

三 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(12) 鳥インフルエンザ(H5N1)

第三 病原体別検査実施機関

一 病原体別検査実施機関の分担

病原体によっては、施設面又は技術的に衛生環境研究所又は保健所で検査の実施が困難な場合があるため、国立感染症研究所、衛生環境研究所及び保健所で病原体検査を分担する。検査実施機関別の検査対象疾病は、別表1のとおりとする。

二 医療機関・医師

第二の一に掲げる検査対象感染症の患者を診断あるいは感染疑いと判断した医師は、保健所から病原体検査のための検体提供の依頼を受けた場合にあっては、可能な範囲において検体採取に協力するものとする。採取された検体は、別記様式1（愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱第五の一の1の(2)に定める様式をいう。以下同じ。）の検査票を添えて、速やかに保健所へ提出する。

三 病原体定点に選定された医療機関

第二の二に掲げる病原体定点の検査対象感染症の患者を診断した医師は、概ね第四に示した検体数について、第五の別表2に掲げる検査材料を採取する。採取された検体は、別記様式1に掲げる検査票を添えて、速やかに保健所へ提出する。

四 保健所

保健所は、検査対象感染症の発生状況から、必要な応じて病原体検査のための検体提供を医療機関に依頼する。また、医療機関における検体の採取や搬送に協力し、第二の一に掲げる検査対象感染症のうち(13)、(14)、(15)、(16)及び(17)の検体の提供を受けた場合は、可能な範囲において検査を実施し、その結果を診断した医師に通知する。その他の検体の提供を受けた場合は、別記様式1の検査票を添えて、二次感染の防止に十分配慮し検体を衛生環境研究所へ搬送する。なお、特定病原体を衛生環境研究所へ搬送する場合は、省令第31条の36に規定された運搬基準を遵守すること。

五 衛生環境研究所

1 衛生環境研究所は、検体と別記様式1の検査票が搬入された場合は、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに本庁及び地方感染症情報センターに通知する。

2 衛生環境研究所において、検査の実施が困難な検体については、必要な応じて国立

感染症研究所に検査を依頼する。

- 3 衛生環境研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合(緊急の場合保健所から直接送付することもある。)、都道府県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

六 地方感染症情報センター

- 1 地方感染症情報センターは、医療機関、保健所、衛生環境研究所等から得た病原体検査情報を、病原体検出情報システムにより中央感染症情報センターへ送付する。
- 2 地方感染症情報センターは、病原体検査情報及び患者発生動向調査等の関連情報を収集、解析し、医療機関等関係機関へ還元する。

第四 定点把握の五類感染症の病原体検査検体数

定点把握の五類感染症の病原体検査検体数は、病原体定点の種別に応じて、年間1定点当たり概ね次のとおりとする。

一 小児科病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね12件以内の検体を採取する。

○12検体×7疾患=84件

二 インフルエンザ病原体定点

概ね月当たり10件以内で、インフルエンザ流行中の適当な時期に採取する

○10検体×3月=30件

三 眼科病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね20件以内の検体を確保する。

○20検体×2疾病=40件

四 基幹病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね20件以内の検体を採取する。

○20検体×2疾病=40件

上記2疾病以外に必要なに応じて小児科病原体定点対象感染症の検体を採取する。

第五 採取すべき検査材料種別

病原体検査のために採取すべき検査材料は、別表2のとおりとする。

第六 病原体検査検体の採取、保存、輸送等

一 細菌感染症

1 採取方法

(1) 糞便

ア 抗生物質投与前の糞便の一部を滅菌綿棒で取り、輸送用培地(キャリーブレイ培地等)の寒天部に深く差し込み密栓する。止むを得ない場合は、直腸スワブを採取し、前項と同様輸送用培地に綿棒を差し込み密栓する。

イ 検体採取後は、室温で保存し、速やかに検査に供する。遅くとも24時間以内に分離培養するのが望ましい。

(2) 鼻咽頭拭液

ア 滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、輸送用培地(キャリーブレイ培地等)中に綿棒を深く差し込み、直ちにキャップを確実に閉める。

イ 検体採取後は、室温で保存し、24時間以内に分離培養するのが望ましい。

(3) 脊髄液、血液

- ア 髄液は、1～5 ml を無菌的に採取し、滅菌容器に入れ密栓する。
- イ 血液は、2～5 ml を無菌的に採取し、直ちにカルチャーボトルに接種し、常温で輸送する。

2 保存及び輸送方法

- (1) 検査材料は、容器から内容物が漏れないようにビニールテープ等で密栓する。所定の搬送用ボックスに入れ、できるだけ速やかに室温で搬送する。
- (2) 検体は、冷凍での保存・搬送はしてはならない。

二 ウイルス感染症

1 採取方法

(1) 糞便

- ア できるだけ早期（急性期）に排泄直後の糞便を採取する。
- イ ウイルス分離培養検査用は糞便 2 g（2 ml）を採取するか、又は滅菌綿棒で少量（0.1-0.2 g）をウイルス分離用保存液中に取り、よく攪拌後綿棒を取り除いて密栓する。
- ウ 下痢症ウイルス検査用は、母指頭大（約 5 g）以上の糞便あるいは嘔吐物を容器に採取し密栓する。

(2) 鼻咽頭拭液

滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、ウイルス分離用保存液中でよく攪拌し、綿球部をよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(3) 咽頭うがい液

滅菌生理食塩水 8～10 ml を用い咽頭の奥でよくうがいをさせ、清浄なコップ等に吐き出されたうがい液を 5 ml のウイルス分離用保存液又は滅菌ブイヨン液に等量加え密栓する。

(4) 髄液

1～5 ml を無菌的に採取し、滅菌容器に入れ密栓する。

(5) 水疱内容液

水疱又は膿疱の表面をアルコール綿等で消毒し、毛細管、ツベルクリン注射器等で局所を突き刺して内容液を吸引し、ウイルス分離用保存液に入れ密栓する。

(6) 結膜擦過物

滅菌綿棒で下瞼結膜を強くこする。綿棒をウイルス分離用保存液中でよく振とうして擦過物を浮遊させた後、綿球部を管壁でよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(7) 血液、血清

ウイルス分離用の血液は、抗凝固剤（クエン酸又は EDTA）入り採血管に 5～10 ml を採取し、室温でできるだけ速やかに検査機関に搬送する。

血清免疫学的診断用の場合は、凝固剤入り採血管に 3～5 ml を採血する。30 分程度静置後 3000rpm で遠心分離し、血清を滅菌セラムチューブ等に採取し、搬送するまで冷凍庫（-25℃以下）に保存する。

血清免疫学的診断には、急性期（発病 3 日以内）と回復期（発病後 2～3 週間後）のペア血清が必要なことが多い。

2 保存及び搬送方法

- (1) 検体は、できるだけ速やかに検査実施機関に搬送する。
- (2) 検体採取当日又は翌日に検査が可能な場合は、氷冷して保存・搬送する。

- (3) 2日以上保存する場合は、密封しドライアイスアセトン又は液体窒素で急速凍結した後、 -25°C 以下（できれば -70°C 以下が望ましい）で冷凍保存する。
- (4) 冷凍して搬送する場合は、断熱性の搬送用ボックスに入れ、ドライアイス又は寒剤（例：氷75%＋食塩25%）等を使用し、搬送中に融解しないようにする。
- (5) 保存又は搬送にドライアイスを使用する場合は、 CO_2 ガスが容器に入り、pHが低下するのを防ぐため、検体容器をビニールテープでシールして密封する。

三 原虫感染症

1 採取方法

- (1) 母指頭大（約5g）以上の糞便を、保存培地の入っていない採便容器に採取し密栓する。
- (2) 連日あるいは1日おきに複数回採取するのが望ましい。

2 保存及び搬送方法

- (1) 検体は、できるだけ速やかに検査実施機関に搬送する。
- (2) 保存、輸送は冷蔵(4°C)でおこなう。
- (3) 長期間(3日以上)の保存が避けられない場合は -25°C 以下で冷凍保存し、溶解しないよう氷冷して搬送する。

第七 その他

一 県は、県内の病原体に関する情報を統一的に収集し、分析し、及び公表する体制を構築するため、松山市と緊密な連携を図る。

二 この要領に定めるもののほか、病原体検査の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成13年1月1日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成20年5月12日から施行する。

別表1 検査実施機関別検査対象感染症一覧表

検査実施機関	検査対象感染症				全数把握	対象	五類感染症	定点把握対象
	一類感染症	二類感染症	三類感染症	四類感染症				
国立感染症研究所	一類感染症 (1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱	二類感染症 (8) 急性灰白髄炎 (9) 結核 (10) ジフテリア (11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARS-CoV-2であるものに限る) (12) 鳥インフルエンザ(H5N1)	三類感染症 (13) コレラ (14) 細菌性赤痢 (15) 腸管出血性大腸菌感染症 (16) 腸チフス(17) パラチフス	四類感染症 (18) E型肝炎 (21) エキノコックス症 (22) 黄熱 (23) オウム病 (24) オムスク出血熱 (25) 回歸熱 (26) キヤサスル森林病 (28) 狂犬病 (29) コクシジオイデス症 (30) サル痘 (31) 腎症候性出血熱 (32) 西部ウマ脳炎 (33) ダニ媒介脳炎 (36) デング熱 (37) 東部ウマ脳炎 (38) 鳥インフルエンザ(H5N1を除く) (39) ニバウイルス感染症 (42) ハンタウイルス肺症候群 (43) Bウイルス病 (44) 鼻疽 (45) ブルセラ病 (46) ベネズエラウマ脳炎 (47) ヘンドラウイルス感染症 (48) 発しんチフス (50) マラリア (51) 野兔病 (52) ライム病 (53) リッサウイルス感染症 (54) リフトバレー熱 (55) 類鼻疽 (57) レプトスピラ症 (58) ロッキーマン山痘熱	五類感染症 (63) クロイツフェルト・ヤコブ病 (68) 先天性風しん症候群 (71) パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (72) パンコマイシン耐性腸球菌感染症	(59) アメーバ赤痢 (60) ウイルス性髄膜炎E、A肝炎を除く) (61) 急性髄膜炎 (フェスタリ) 脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) (62) クリプトスポリジウム症 (64) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (66) ジアルジア症 (67) 髄膜炎菌性髄膜炎 (70) 破傷風 (73) 風疹 (74) 麻疹 (65) 後天性免疫不全症候群 (69) 梅毒	(75) RSウイルス感染症 (76) 咽頭結核熱 (77) A群溶血性レンサ球菌髄膜炎 (78) 感染症胃腸炎 (80) 手足口病 (83) 百日咳 (84) ヘルパンギーナ (85) 流行性耳下腺炎 (86) インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く) (87) 急性出血性結膜炎 (88) 流行性角結膜炎 (94) 細菌性髄膜炎 (97) 無菌性髄膜炎	
衛生環境研究所								
保健所(西条保健所、松山保健所、宇和島保健所)								

別表2 感染症別の採取材料一覧表

検査対象感染症名	病原体	危険度	採取検査材料							検査方法				検査担当機関	
			血液・血清	咽頭拭液	糞便	髄液	結膜拭液	尿	水疱内容	剖検生検材料/その他	培養法	抗原検出法	抗体検出法		遺伝子検出
8 急性灰白髄炎	V	L2	S	○	○	○					○		○		衛環研
9 結核	B	L3								喀痰	○				衛環研
10 シフテリア	B	L2	S	○							○	○			衛環研
11 重症急性呼吸器症候群	V	L3	○	○	○					肺	○		○	○	衛環研
12 鳥インフルエンザ(H5N1)	V	L3	S	○						肺、気管吸引液	○			○	衛環研
13 コレラ	B	L2			○						○				保健所
14 細菌性赤痢	B	L2			○						○				保健所
15 腸管出血性大腸菌感染症	B	L2	○		○						○				保健所
16 腸チフス	B	L3	○		○	○		○			○				保健所
17 パラチフス	B	L3	○		○	○		○			○				保健所
18 E型肝炎	V	L2	S		○								○	○	感染研
19 ウエストナイル熱	V	L3	S		○					脳	○		○	○	衛環研
20 A型肝炎	V	L2	S		○									○	衛環研
21 エキノコックス症	条虫	L2	S							手術材料		○	○		感染研
22 黄熱	V	L3	○							肝臓	○	○		○	感染研
23 オウム病	クラミジア	L2	○	○						痰、気管吸引液	○	○	○	○	感染研
25 回帰熱	スピロヘータ	L2	○								○	○		○	感染研
27 Q熱	リケッチア	L3	○	○									○		衛環研
28 狂犬病	V	L3				○	○			脳、気管吸引液	○	○		○	感染研
29 コクシジオイデス症	真菌	L3								痰、膿、肺	○				感染研
30 サル痘	V L3 扱い	L2	S	○					○		○	○	○	○	感染研
31 腎症候性出血熱	V	L3	○								○		○	○	感染研
34 炭疽	B	L3	○		○				○	痰、腹水、胸水	○				衛環研
35 つつが虫病	リケッチア	L3	○										○		衛環研
36 デング熱	V	L2	○								○			○	感染研
38 鳥インフルエンザ(H5N1 を除く)	V	L3	S	○							○			○	感染研 (衛環研)
39 ニバウイルス感染症	V	L3	S	○				○			○		○	○	感染研
40 日本紅斑熱	リケッチア	L3	○										○		衛環研
41 日本脳炎	V	L2	○		○					脳			○		衛環研
42 ハンタウイルス肺症候群	V	L3	○										○	○	感染研
43 Bウイルス病	V	L3	S		○					皮膚病巣	○			○	感染研
45 フルセラ病	B	L3	○		○						○				感染研
48 癩しんチフス	リケッチア	L3	○							動物脾臓	○				感染研
49 ポツリヌス症	B	L2	S		○					摂取食品	○				衛環研
51 野兔病	B	L3	○										○	○	感染研
52 ライム病	スピロヘータ	L3	○			○				皮膚病巣	○				感染研
53 リッサウイルス感染症	V	L3	○			○				脳	○	○		○	感染研
56 レジオネラ症	B	L2	S	○	○		○			痰、気管吸引液	○		○		衛環研
57 レプトスピラ症	スピロヘータ	L2	○			○		○			○		○	○	感染研
59 アメーバ赤痢	原虫	L2	S		○					肝膿瘍液、腸、肝				△	衛環研
61 急性脳炎	V、B	—	○	○	○	○		○			○	△	△	△	衛環研
62 クリプトスポリジウム症	原虫	L2			○									○	衛環研
63 クロイツフェルト・ヤコブ病	プリオン	L2				○				膿、扁桃、脾臓等		○			感染研
64 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B	L2		○		○	○	○		皮膚、腹水、胸水	○	△			衛環研
65 後天性免疫不全症候群	V	L3	○									○	○	△	保健所
66 ジアルジア症	原虫	L2			○									○	衛環研
67 髄膜炎菌性髄膜炎	B	L2	○	○		○					○				衛環研
68 先天性風しん症候群	V	L2	○	○				○		白内障レンズ	○			○	感染研
69 梅毒	スピロヘータ	L2	○										○		保健所
70 破傷風	B	L2	S						○	皮膚病巣	○				衛環研
71 バンコマイシン耐性ブドウ球菌感染症	B	L2	○								○			○	感染研
72 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	B	L2	○								○			○	感染研
73 風疹	V	L2	S										○		衛環研
74 麻しん	V	L2	○	○		○		○		脳(SSPE)	○		○	△	衛環研

75	RSウイルス感染症	V	L2		○													△	衛環研
76	咽頭結膜熱	V	L2	S	○	○	○	○	○		痰、気管吸引液	○	○						衛環研
77	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	B	L2		○							○	△						衛環研
78	感染症胃腸炎	V、B、原虫	L2	S		○						○	○					○	衛環研
80	手足口病	V	L2	S	○	○	○			○		○							衛環研
83	百日咳	B	L2	S	○						痰、気管吸引液	○		△	○				衛環研
84	ヘルパンギーナ	V	L2	S	○	○						○							衛環研
85	流行性耳下腺炎	V	L2	S	○		○		○			○		○	△				衛環研
86	インフルエンザ	V	L2	S	○		○	○			肺、脳	○		○	○				衛環研
87	急性出血性結膜炎	V	L2	S	○	○		○				○							衛環研
88	流行性角結膜炎	V	L2	S	○	○		○				○						△	衛環研
94	細菌性髄膜炎	B	L2	○	○		○					○						△	衛環研
97	無菌性髄膜炎	V	L2	S	○	○	○					○						△	衛環研

(注) 病原体：B…細菌、V…ウイルス

血液・血清：S…血清、○…全血液

検査担当機関：感染研…国立感染症研究所、衛環研…衛生環境研究所、
保健所…西条保健所、松山保健所及び宇和島保健所

参考

感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律
第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について
(届出基準等通知、平成27年5月21日施行)

1 全数把握対象疾患

一類感染症	(1) エボラ出血熱
	(2) クリミア・コンゴ出血熱
	(3) 痘そう
	(4) 南米出血熱
	(5) ペスト
	(6) マールブルグ病
	(7) ラッサ熱
二類感染症	(8) 急性灰白髄炎
	(9) 結核
	(10) ジフテリア
	(11) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)
	(12) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)
	(13) 鳥インフルエンザ(H5N1)
	(14) 鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症	(15) コレラ
	(16) 細菌性赤痢
	(17) 腸管出血性大腸菌感染症
	(18) 腸チフス
	(19) パラチフス
四類感染症	(20) E型肝炎
	(21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)
	(22) A型肝炎
	(23) エキノコックス症
	(24) 黄熱
	(25) オウム病
	(26) オムスク出血熱
	(27) 回帰熱
	(28) キャサスル森林病
	(29) Q熱
	(30) 狂犬病
	(31) コクシジオイデス症
	(32) サル痘
	(33) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)
	(34) 腎症候性出血熱
	(35) 西部ウマ脳炎
	(36) ダニ媒介脳炎
	(37) 炭疽
	(38) チクングニア熱
	(39) つつが虫病
	(40) デング熱
	(41) 東部ウマ脳炎
	(42) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)
	(43) ニパウイルス感染症
	(44) 日本紅斑熱
	(45) 日本脳炎
	(46) ハンタウイルス肺症候群
	(47) Bウイルス病
	(48) 鼻疽
	(49) ブルセラ症
	(50) ベネズエラウマ脳炎
	(51) ヘンドラウイルス感染症
	(52) 発しんチフス
	(53) ボツリヌス症
(54) マラリア	
(55) 野兔病	
(56) ライム病	
(57) リッサウイルス感染症	
(58) リフトバレー熱	
(59) 類鼻疽	
(60) レジオネラ症	
(61) レプトスピラ症	
(62) ロッキー山紅斑熱	

1 全数把握対象疾患(つづき)

五類感染症	(63)	アメーバ赤痢
	(64)	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
	(65)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎
	(66)	(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)
	(67)	クリプトスポリジウム症
	(68)	クロイツフェルト・ヤコブ病
	(69)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	(70)	後天性免疫不全症候群
	(71)	ジアルジア症
	(72)	侵襲性インフルエンザ菌感染症
	(73)	侵襲性髄膜炎菌感染症
	(74)	侵襲性肺炎球菌感染症
	(75)	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)
	(76)	先天性風しん症候群
	(77)	梅毒
	(78)	播種性クリプトコックス症
	(79)	破傷風
	(80)	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
	(81)	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
	(82)	風しん
(83)	麻しん	
(84)	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
新型インフルエンザ等感染症	(110)	新型インフルエンザ
	(111)	再興型インフルエンザ

2 定点把握対象疾患

五類感染症	(85)	RSウイルス感染症
	(86)	咽頭結膜熱
	(87)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
	(88)	感染性胃腸炎
	(89)	水痘
	(90)	手足口病
	(91)	伝染性紅斑
	(92)	突発性発しん
	(93)	百日咳
	(94)	ヘルパンギーナ
	(95)	流行性耳下腺炎
	(96)	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
	(97)	急性出血性結膜炎
	(98)	流行性角結膜炎
	(99)	性器クラミジア感染症
	(100)	性器ヘルペスウイルス感染症
	(101)	尖圭コンジローマ
	(102)	淋菌感染症
	(103)	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)
	(104)	細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
(105)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	
(106)	マイコプラズマ肺炎	
(107)	無菌性髄膜炎	
(108)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
(109)	薬剤耐性緑膿菌感染症	
疑似症	(112)	摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)
	(113)	発熱及び発しん又は水痘(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象二類感染症

二類感染症	(13)	鳥インフルエンザ(H5N1)
-------	------	----------------

* 上記疾患の診断基準及び届出票は、愛媛県感染症情報センターホームページ(<http://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/index.html>)に掲載している。

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書
平成 27 年(2015 年)

平成 28 年 12 月発行

発 行 愛媛県感染症情報センター
(愛媛県立衛生環境研究所)
愛媛県松山市三番町 8 丁目 234 番地
電話(089)931-8757
